

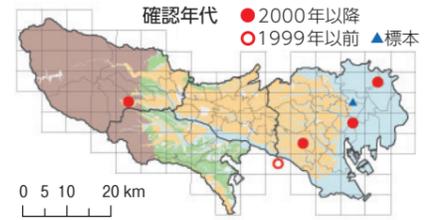
ヒシ *Trapa jeholensis* 被子植物 ミソハギ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の湖沼やため池、河川、水路などに生育する一年生の浮遊植物。茎は分枝して水面に卵状菱形の葉を展開、葉柄中央部は浮上となる。7～9月、水面に白色5弁花を開き、水中で熟す果実には2本の刺がある。都内では丘陵帯以下の水域に分布し、区部低地の池と皇居以外は散発的発生にとどまるか、消滅した状態にある。

■ **生存を脅かす要因**：池の改修等により衰退することがあり、溶存酸素量や化学物質、外来生物の存在などがその生育に影響しているものと推測される。

■ **特記事項**：富栄養水域を比較的好む植物で水質汚濁に強いとされ、爆発的に繁殖することがあるが、その盛衰要因はまだよく明らかにされていない。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 84, 270, 289, 294



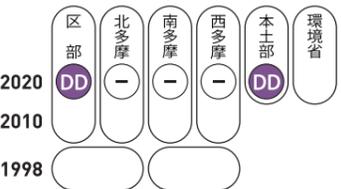
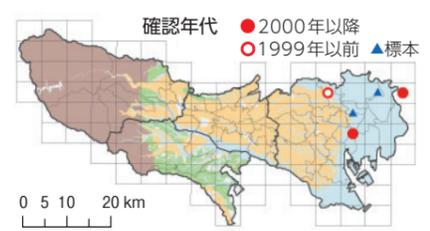
オニビシ *Trapa natans* var. *quadrispinosa* 被子植物 ミソハギ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の湖沼やため池に生育する一年生の浮葉植物。変異が大きく、葉形だけからヒシと区別することは難しい。7～9月に水面上に白色花を開き、果実は大形で4本の刺を持つ。区部、低地の水辺環境のみに確認されており、葛飾区や台東区、千代田区などに生育が見られ、散発的に記録があるが、発生は不安定で変動しやすい。

■ **生存を脅かす要因**：水質汚濁や外来生物の影響が考えられるが、衰退の要因は明らかでない。

■ **特記事項**：本種は地域的に偏在し、ヒシ同様、オニビシの実も食用となることから人為的な分布拡大の可能性がある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 84, 191, 270, 294, 295



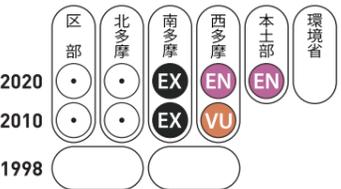
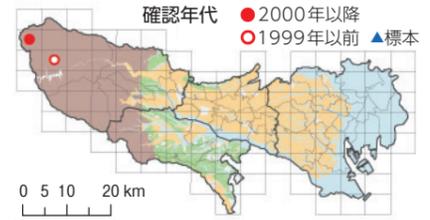
ヤナギラン *Chamaenerion angustifolium* 被子植物 アカバナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州中部以北、北海道に分布する多年草。亜高山帯周辺の草原に生育し、地下茎を伸ばして群生、茎は直立、披針形の葉を互生する。6～8月、総状花序に紅紫色の花をつける。果実は細長いさく果となり、種子は種髪を持つ。都内では奥多摩の雲取山、鷹ノ巣山などに分布していたが、近年はシカ食害によって壊滅的な被害を受けており、雲取山の鹿柵内のみで確認できる程度となっている。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩でも亜高山帯に類する草原環境はごくわずかであり、もともと自生地が限定的なうえ、植生遷移に加えて、シカによる食害が進み、激減した。

■ **特記事項**：すでに1990年代前半には雲取山直下の草原から姿を消していたようである（安原1994）。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 168, 320, 324



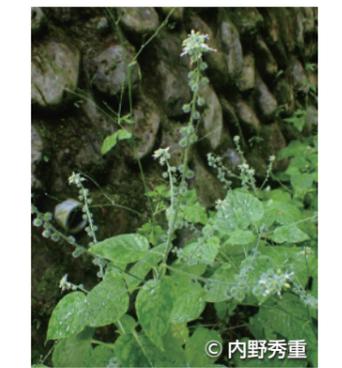
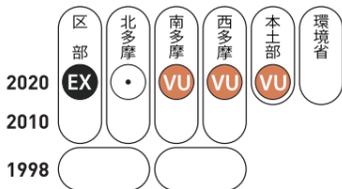
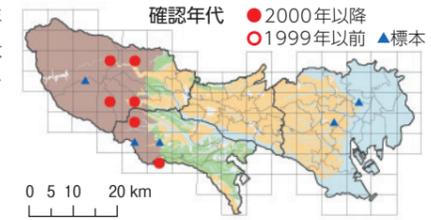
ウシタキソウ *Circaea cordata* 被子植物 アカバナ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の山地渓谷沿いの樹林下等に生育する多年草。ミズタマソウに似るが全草に白軟毛が多く、葉は卵心形。8～9月に開花し、果実には顕著な溝がある。区部では現在は消滅、北多摩北部にも分布記録があるが、近年の生育情報は明らかでない。現在、確実に生育が確認されているのは南多摩から西多摩にかけての丘陵帯上部から山地帯に限られる。

■ **生存を脅かす要因**：都市部においては土地造成等により消滅した。郊外及び山地では管理放棄や植生遷移の進行、気象災害による渓谷林の荒廃、シカによる食害等、複合的な要因が影響していると考えられる。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には1900年前後に荒川区西日暮里道灌山や渋谷区代々木で採集された牧野富太郎の標本が収められている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 145, 168, 243, 270, 290



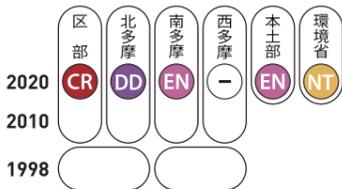
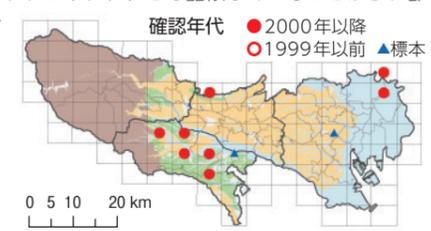
ウスゲショウジタデ *Ludwigia epilobioides* subsp. *greatrexii* 被子植物 アカバナ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西の水田や休耕田、水路等に生える一年生の湿生植物。植物体は緑色でショウジタデのように赤みを帯びず、必ずしも有毛であるとは限らない。花径は大きく8mmに達し、花盤は有毛。黄色で卵円形の花弁は通常5枚または4枚。南多摩丘陵部の湿地に点在するほか、区部江戸川・中川水系の湿地にもわずかに生育地が確認されている。北多摩にも未確認ながら生育情報がある。

■ **生存を脅かす要因**：水田環境に強く依存しており、作付けの減少や耕作停止、また除草剤の使用などにより、自生地はさらに減少する可能性がある。

■ **特記事項**：文献記載記録に乏しい植物であり、ショウジタデとも酷似していることから、都内における分布実態が十分に明らかにされていない植物の一つである。

執筆者 内野秀重
文献一覧 48, 214, 243



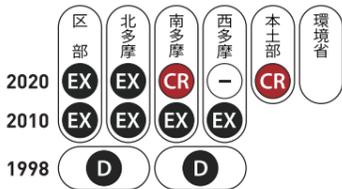
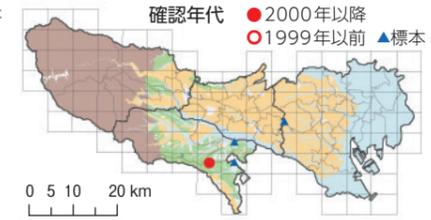
ミズユキノシタ *Ludwigia ovalis* 被子植物 アカバナ科

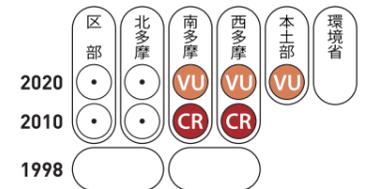
■ **種の特性と生育状況**：本州以西の湖沼やため池などの水湿地に生育する多年生の沈水～湿生植物。茎は地上を這い、広卵形の葉を互生する。6～8月頃に咲く花は4個の萼裂片だけを有し花弁はない。また水中では閉鎖花をつける。区部の水元、南多摩では多摩市岩ノ入池、八王子市別所長池などに産したが1960年頃に絶滅。しかし、八王子市長池では2020年のかいぼり実施後に、浅瀬や攪乱した泥土から埋土種子個体が多数発芽し、安定した生育が見られる。

■ **生存を脅かす要因**：水辺の植生遷移や湧水の枯渇などを伴う水質汚濁に加え、アメリカザリガニなど水生植物に危害を加える外来生物の侵入拡大により、生育環境が悪化したものと推測される。

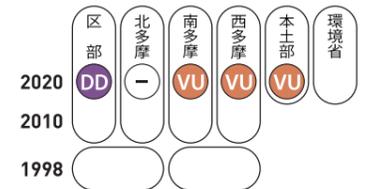
■ **特記事項**：都立大学牧野標本館には三鷹市井の頭池産の標本が収蔵されている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 184, 270, 288, 294

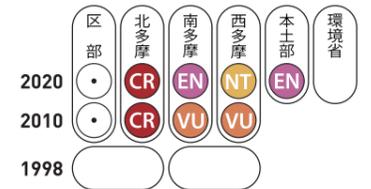




山梨県 2020年7月16日



八王子市 2018年10月24日



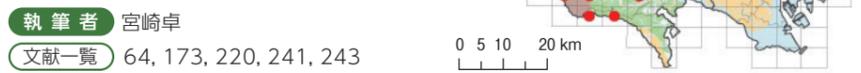
八王子市 2002年6月8日

オオバキハダ *Phellodendron amurense* var. *japonicum* 被子植物 ミカン科

■種の特性と生育状況：本州（関東、中部）に分布する落葉高木。キハダ（var. *amurense*）の種内変種。キハダと異なり、若枝や葉軸には全体に短毛が密に生え、小葉の裏面主脈上に軟毛が密生する。山地の斜面下部に生育する。南多摩や西多摩の山地に分布する。区部、北多摩では非分布となっている。

■生存を脅かす要因：山林の改変、土地造成。キハダ同様に巨木になることから、生育立地の改変に際して、移植が技術的に難しい。病気への耐性もキハダと同等なら、ある程度育った個体は、特定の土壌病原菌に弱い。

■特記事項：南多摩では、本変種が基準変種キハダよりもかなり多く、本変種が種内の低地型とも考えられる。この場合、本変種が非分布の区部、北多摩のキハダはもともと逸出品の可能性が考えられる。しかし、一方で区部などのキハダは、南多摩低地域への侵入とは別経路（例えば、河川沿い）で侵入した可能性も考えられる。今後解明すべき、地域フローラの課題である。



フユザンショウ *Zanthoxylum armatum* var. *subtrifoliatum* 被子植物 ミカン科

■種の特性と生育状況：本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球に分布する。高さ1.5～3mの刺を持つ常緑低木。刺は普通対生ときに単生。葉は小葉が3～7枚、長さ5～15cm。小葉はほとんど無柄、披針形～披針状楕円形。花期は5月。雌雄異株。果実は2～3個で、種子は楕円状球形で長さ約4mm。南多摩、西多摩の山地域下部（暖温帯域）の露岩地、土壌の薄い立地に生育する。西多摩では、特に石灰岩との結びつきが指摘されている。

■生存を脅かす要因：低標高域の露岩地に生えるため、これまで採石事業により自生地が失われた可能性がある。生育立地は不安定な場合も多く、自然崩落などにより消滅することも危惧される。

■特記事項：先駆性の強い、陽地生の種である。しかし、上述の様に生育立地は不安定で、その林冠も閉じないことが多い。このため、「生存を脅かす要因」から、林内が暗くなる遷移進行に関する要因は外した。

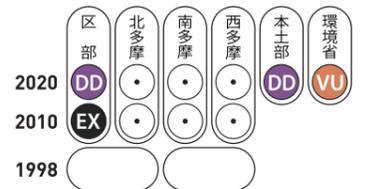


シナノキ *Tilia japonica* 被子植物 アオイ科

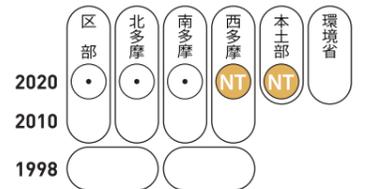
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木。葉身は非対称な円形で、先は尾状、基部は心形。長さ4～10cm、幅4～8cm、鋸歯縁で、表面無毛、裏面は時に白色をおびる。花期は6～7月、花序は長さ5～8cm。花を10数個つけ、苞は狭長楕円形で先は鈍い。果実は球形で径約5mm、灰色の短軟毛が密生する。北多摩では都市緑地に残存し、非常に少ない。南多摩でも山地から丘陵部まで見られるが少ない。西多摩では比較的多く残っており、石灰岩地との結びつきが示唆される。

■生存を脅かす要因：冷温帯に分布の中心があり、南多摩、北多摩ではもともと多くなかったと推測される。また、北多摩と南多摩の丘陵部では、山林伐採と土地造成が本要因に該当する。

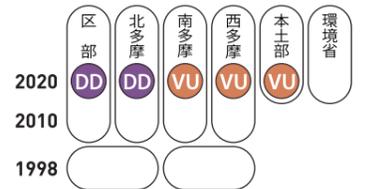
■特記事項：八王子市では、山地の尾根部に見られるという。一方で、隣接する神奈川県津久井地域では山裾や溪谷部で確認した。この生育立地の違いについては、土壌、微気候などいくつかの要因が考えられる。



神奈川県 2002年9月4日



奥多摩町 2010年6月11日



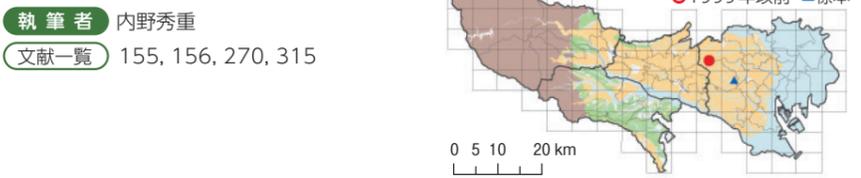
神奈川県 2018年8月21日

ミズキンバイ *Ludwigia peploides* subsp. *stipulacea* 被子植物 アカバナ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の湖沼やため池、河川などに生育する多年生の浮葉～抽水植物。6～9月、葉腋から花柄を伸ばし、花弁5または6枚の黄色の一日花を水面に開く。果実は木質で細長く、先端に萼片が残存する。区部の石神井川及び善福寺川水系に古い記録があるが現在は見られない。白子川水系に現存し、保全活動が行われているようであるが、よく似た栽培種の可能性もあり、詳細な現況調査が待たれるところである。

■生存を脅かす要因：もともと産地の限られた植物だが、水質悪化や河川改修により激減、競合する外来植物などの繁茂等により、生育条件を奪われたものと推測される。

■特記事項：都立大学牧野標本館には善福寺川水系産とみられる採集者不明の古い標本が収められている（MAK118001杉並区和田）。

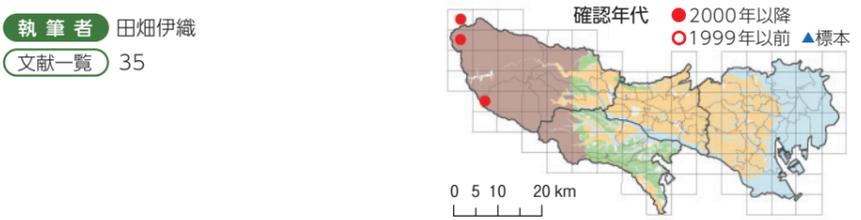


ナンゴクミネカエデ *Acer australe* 被子植物 ムクロジ科

■種の特性と生育状況：本州（岩手県～紀伊半島）、四国、九州に分布する高さ5mほどの落葉小高木。葉は対生で葉身は直径3～7cm、掌状に5～7深裂し、重鋸歯がある。裂片は羽状に切れ込み、先は全て尾状に長く尖る。裏面の脈状には赤褐色の縮毛が残る。雌雄異株。5～6月に8～11個の小さな花を総状につける。比較的標高の高い山地に生育する。都内では西多摩の山地帯上部から亜高山帯にかけて分布する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項：日本固有種



キハダ *Phellodendron amurense* 被子植物 ミカン科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する。高さ10～25mの落葉高木。樹皮の内皮は黄色。若枝は無毛。葉は対生し、小葉が5～11枚の奇数羽状複葉、長さ15～35cm。小葉は卵形～卵状長楕円形、縁に細かな鈍鋸歯があり、裏面はやや白みを帯び、無毛か、主脈の下部に開出毛がある。花期は6月、雌雄異株。果実は球形で黒色に熟す。区部、北多摩では情報不足。南多摩ではほとんどが変種オオバキハダである。西多摩では比較的良好に見られる。

■生存を脅かす要因：山林の改変、土地造成が考えられる。巨木になることから、移植が検討されても、技術的に難しい。なお、ある程度育った個体は、特定の土壌病原菌に弱いという報告もある。

■特記事項：種子の散布力は強く、目黒区の自然教育園内の野生品は、植栽木からの野生化であると判明している。今後、集団から隔離された個体が確認された場合、分布由来の判断は、慎重に行うことが望ましい。



チョウセンナニワズ

Daphne koreana

被子植物
ジンチョウゲ科

■種の特性と生育状況：北海道（峠山）、本州（関東、中部）、四国、九州（中部）に分布する落葉低木。全体無毛。枝は灰茶色。葉は長楕円形。葉は冬に落葉する。花は数個が葉腋に集まってつく。花は淡黄緑色、花弁は4～5個。液果は楕円形、長さ約8mm。花期は3～4月。石灰岩などの森林の発達しにくい場所に生育する。西多摩の石灰岩地に生育し、近年減少した。

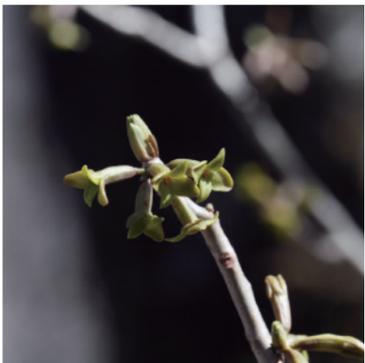
■生存を脅かす要因：生育立地がほぼ石灰岩地に限られるため、東京都での生育地は西多摩の狭い範囲に限られる。生育地での、登山道の管理整備、送電の鉄塔工事などの場合は保全や移植を行うことが望ましい。シカなどの動物の食害も危惧される。

■特記事項：現在は新規の大規模採石事業はないが、過去には生育地が石灰岩の採石により失われた可能性がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65, 168, 173



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
●	—	—	EN	EN	VU
●	●	●	CR		
			A		



奥多摩町

オニシバリ

Daphne pseudomezereum

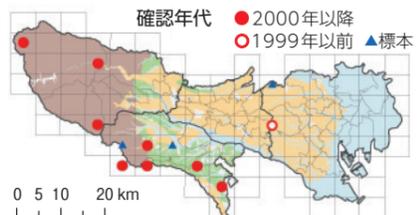
被子植物
ジンチョウゲ科

■種の特性と生育状況：本州（宮城県～中部地方の太平洋岸と近畿地方）、四国、九州に分布する落葉小低木。葉は互生して枝端では束生状、厚い草質、長楕円形で、長さ5～13cm、幅1～3cm。7～8月ごろ落葉し、8～9月枝端から翌春の花芽と新葉が出る。形態的な違いが判然としない雌雄異株。花期は12～4月。5～7月に楕円形で長さ約8mmの液果が赤く熟す。区部、南多摩、西多摩では明るい落葉樹林内に生育する。

■生存を脅かす要因：区部に関しては都市化による土地造成である。南多摩、西多摩では雑木林の管理放棄、山林伐採、宅地開発による土地造成などが本要因と考えられる。

■特記事項：檜山（1965）に、本種の武蔵野の記録はあるが、埼玉県側である。都立大学牧野標本館にも、北多摩に近い練馬区大泉の標本があるが、北多摩の確実な記録が確認できていない。今後の調査により、現存、あるいは過去の記録が確認される可能性はあるが、現時点では北多摩は「データ無し」である。品種ムラサキオニシバリ f. atropurpurea を含む。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65, 270, 366



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
NT	—	NT	VU	NT	



八王子市 2009年3月18日

コガンピ

Diplomorpha ganpi

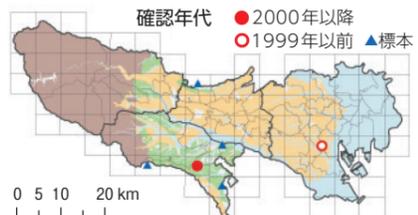
被子植物
ジンチョウゲ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島（奄美大島）に分布する落葉低木。葉は長楕円形、下面は淡色。上方で多数の枝を出し、数個の花を密につける。萼は淡紅色。長さ7～8mm。果実は乾果で紡錘状、長さ約4mm。花期は8月。山地の草原や林縁に生育する。北多摩ではわずかな個体が現存。南多摩では、谷戸奥の草地に生育するが非常に少ない。西多摩では、近年確認されていない。

■生存を脅かす要因：丘陵部の土地造成、谷戸の人為管理の放棄である。確認された生育地は、谷戸奥の赤土がむき出しになった、耕作地周辺の法面や痩せた斜面地である。草刈りなどの人為管理、谷戸の利用の継続が、これらの個体群の存続には必要である。

■特記事項：檜山（1965）には、区部（絶滅）の芝白金、北多摩の小平の産地があげられている。また、都立大学牧野標本館には1960年に東大和市狭山丘陵で採集された標本がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 224, 270, 366



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
EX	CR	CR	CR	CR	
EX	CR	CR	CR		
			A		



町田市 1994年7月23日

シコクハタザオ

Arabis serrata var. sikokiana

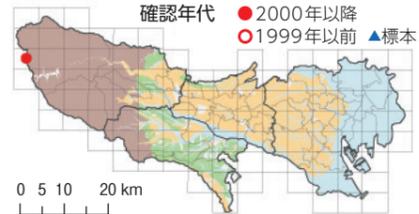
被子植物
アブラナ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。フジハタザオの変種。全体に大きく、茎は株状または横に広がり、高さ20～40cm。根出葉は柄が長く、葉縁に欠刻がある。茎葉の基部は矢じり状となって茎を抱く。花期は4～6月。花弁は白色、倒卵形、長さ6～10mm。長角果は弓なりに開出し、長さ7～10cmとなる。山地に生育する。西多摩の山地深部の湿った岩場に生育する。

■生存を脅かす要因：もともとの生育地が非常に少ない。また、シカなどの動物による食害も危惧される。生育地のほとんどは国立公園内と考えられるが、歩道管理等の工事に生育地がかかる可能性があり、その場合は保全策がとられる必要がある。

■特記事項：都立大学牧野標本館の本種の標本は、概ね石灰岩の分布地で採集されている。また、今回の調査でも、石灰岩の分布域と本種の確認地点が一致している。このため、本種の分布は石灰岩の分布に関連している可能性が高い。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 173, 205, 364, 366



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
●	●	●	VU	VU	
●	●	●	NT		



奥多摩町

タチタネツケバナ

Cardamine fallax

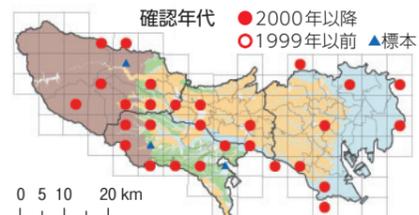
被子植物
アブラナ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する。秋咲きの個体を見ないので、一般に越年草と思われる。ジャニンジンに似て、小葉の切れ込みが深く、明らかな小葉柄がある。しかし、葉の基部は耳状にならず、小葉の柄が明瞭で、基部に線形の副片が出る。花期は5～6月。北多摩、南多摩、西多摩で、川辺、耕作地周囲、林道沿いなどタネツケバナと同様な生育立地に見られる。区部では檜山（1965）に北区赤羽、板橋区志村の記録があり、2000年以降も千代田区などで確認されている。

■生存を脅かす要因：耕作地の転用、谷戸などの土地造成による宅地化である。生態的な特徴として、川辺に生える個体群は、河川による生育立地への攪乱により、毎年大きく個体数を変動させていると考えられる。

■特記事項：小仏地域（八王子市、相模原市緑区）の神奈川県側では、「タネツケバナと置き換わっているのでは」と思うほど、本種の多い地域がある。東京都側では、これほど多い地域は今のところ見ていない。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65, 98, 201, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
DD	NT	NT	NT	NT	



町田市 2008年4月27日

コンロンソウ

Cardamine leucantha

被子植物
アブラナ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は直立して、高さ30～70cm。葉は羽状複葉。小葉は5個か7個、長楕円状披針形、先は鋭尖形。花期は4～7月。花弁は白色、倒卵形から長倒卵形、長さ5～10mm。長角果は線形、長さ18～25mm、幅約1.2mm。種子は長さ約2mm、幅約1mm。山地や川辺の湿地に生育する。南多摩、西多摩の山裾の湿地に少数の個体群が現存する。

■生存を脅かす要因：本来の分布が少ないことである。また、人里に生育しているため、土地造成、山林の改変などが生存を脅かし得る。

■特記事項：広くアジアの冷温帯に分布する本種は、本州中部以北の複数の都県で絶滅危惧植物に選ばれている。一方、温带的に生育に向かない西南日本では、本種が分布していても、東京都のように希少という訳ではなく、ほとんどの場合絶滅危惧種になっていない。この理由は分かっていないが、冷温帯に適合した植物として、特徴のある国内分布を示している。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 126, 232, 355



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
●	—	CR	CR	CR	
●	●	CR	CR		
		C			



八王子市 2017年4月26日

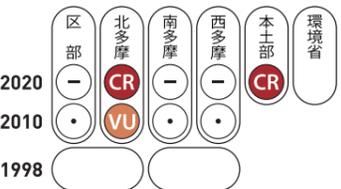
ミスタガラシ *Cardamine lyrata* 被子植物 アブラナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草。全草無毛で、高さ30～60cm。葉は頭大羽状複葉、長さ1～7cm。花期は4～6月。総状花序は10～30個の花をつける。花弁は白色。長角果は線状。種子は楕円形で、周囲に広い膜状翼がある。水田、水路や湿地に生育する。現在では、北多摩の河川調整池にのみ生育が知られている。

■ **生存を脅かす要因**：河川敷の開発、水湿地の造成、水質悪化、人為草地（湿性草地）の管理放棄である。現存地は調整池であり、個体の存続には適切な人為管理が必要である。

■ **特記事項**：檜山（1965）には練馬区石神井や中野区江古田の産地があがっており、この頃までは区部にも生育していたと考えられる。また、都立大学牧野標本館には1956年に調布市多摩川で採集された本種の標本がある。現在の生育地は多摩川とは別の水系であり、当時は北多摩に広く分布していたと推測される。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 76, 200, 270, 366



清瀬市 2006年5月19日

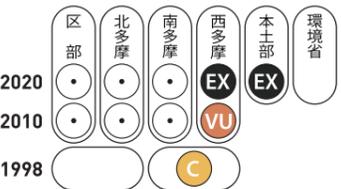
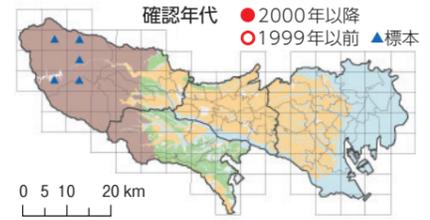
エゾハタザオ *Catolobus pendulus* 被子植物 アブラナ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）に分布する越年草。茎は直立し、高さ20～100cm。葉は長楕円状卵形から卵状披針形、長さ3～12cm、幅1～5cm、下部の葉は有柄。花期は6～8月。花弁は白色、長さ3～5mm。長角果は線形で細長く、垂れ下がり、長さ3～10cm。種子は平たく、卵形。山野に生育する。西多摩に記録があるが、最後の標本から40年以上確認例がないので、今回絶滅判定となった。

■ **生存を脅かす要因**：本来、産地が局限された種であった。西多摩では、石灰岩の山々に生育していたが、温暖化や動物の食害などにより絶滅したと考えられる。また、都立大学牧野標本館に標本のある、小河内岬沢（くさざわ）の自生地に関しては、小河内ダムに沈み消滅した。

■ **特記事項**：国外では、本来亜寒帯（都内の亜高山帯に相当）に分布し、石灰岩地の場合は冷温帯まで下降する。西多摩では、最高点が亜高山帯に達しない山々に分布したため、温暖化による温度の上昇に対し、より高所への避難ができなかった可能性もある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65, 172, 173, 366



神奈川県 2010年5月19日

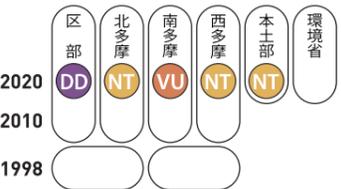
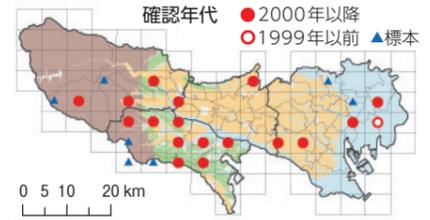
イヌナズナ *Draba nemorosa* 被子植物 アブラナ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する越年草。路傍や耕作地、河川敷などに生える。高さ5～60cmで、茎は単生する。根出葉は花期まで宿存する。楕円状倒卵形～倒披針形で、長さ1～3.5cm、幅5～15mm、無柄。花期は3～6月。花は黄色。短角果は長楕円形、平たい。区部、北多摩、南多摩、西多摩の河川敷や耕作地の周囲、人為管理された低茎草地などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：開発などの土地造成、河川敷の開発、耕作地の転用、人為管理された低茎草地の管理放棄である。また、1年で枯死する越年草のため、短期間で個体数を変動させ、正確な生育状況の把握が難しい。

■ **特記事項**：南多摩において、本種が「都市部では著しく減少している」との指摘もある。また、現在区部では情報不足であるが、都立大学牧野標本館には、1920年代以前の世田谷区、渋谷区、文京区、板橋区の標本がある。2000年以降の区部での確認記録も複数あるが、近年減っているのは確かなようである。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65, 201, 243, 270, 366



八王子市 2019年4月17日

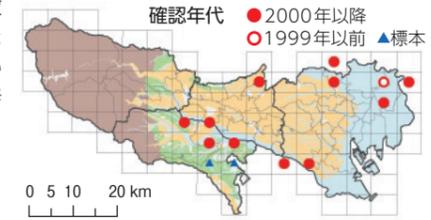
コイヌガラシ *Rorippa cantoniensis* 被子植物 アブラナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する、一年草または越年草。茎は直立し、高さ10～40cm。葉の基部は耳状となり、長さ2～5.5cm、幅0.8～2.5cm、羽状に深裂して、裂片は2～6対、長楕円形で鋸歯がある。花期は4～5月と9～10月の1年に2回。それぞれ開花、結実後は枯死する。花は葉状の苞に腋生し、黄色でごく短い柄がある。区部、北多摩、南多摩の水田（放棄水田、稲刈り後の水田）、水田畔、川辺の水際や減水湿地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成、耕地整理、ため池、水湿地の放棄、河川敷の開発、河川の護岸整備など。また、元來ため池などの減水湿地、河川の水際など不安定立地に生え、安定した個体数が存続しにくい種である。

■ **特記事項**：発芽後は開花結実まで半年足らずで枯死するが、埋土種子は数年間生き続ける。数年間隔で減水湿地のできる調整池では、数年間隔で本種が出現することがある。そのため、川辺など不安定立地に本種が生育している場合は、継続調査で数年間見なくても、辛抱強く調査を続ける必要がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65



日野市 2018年11月27日

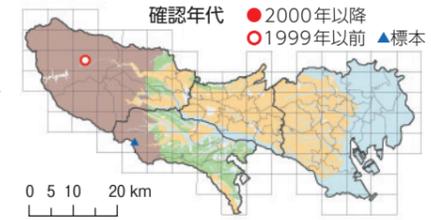
キバナハタザオ *Sisymbrium luteum* 被子植物 アブラナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、九州に分布する多年草。茎は直立し、高さ30～120cm。葉は卵形から卵状披針形、長さ6～16cm、先は鋭尖形。花期は6～7月。花弁は黄色で、倒卵形。長角果は開出し、線形で円柱状。種子は長楕円形、先に膜質の突起があり、褐色。山地に生育する。南多摩では唯一の生育地が消滅した（2016年時点）。西多摩でも近年の確認例はなく、現存していれば、個体数は極わずかと推測される。

■ **生存を脅かす要因**：もともと個体数が少ない。石灰岩地との結びつきが示唆されており、東京都本土部では生育範囲が限られていたと推測される。南多摩の生育地に関しては、山林の改変が指摘されている。西多摩に隣接する埼玉県側では、シカによる食害が本要因として上げられている。

■ **特記事項**：西多摩に隣接する埼玉県側では、今回の調査でも確認されており、東京都側にも残っている可能性はある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 65, 136, 232, 243, 258



八王子市 1987年5月26日

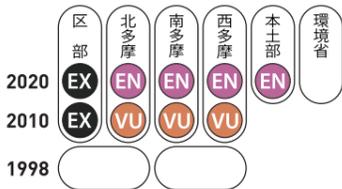
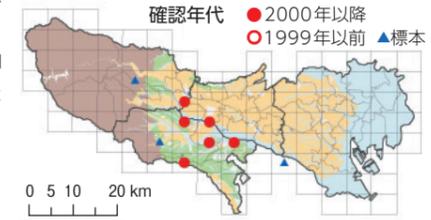
ハタザオ *Turritis glabra* 被子植物 アブラナ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する越年草。茎は直立し、高さ35～135cm。根出葉は倒披針形、先は鈍形、全縁か波状縁または低鋸歯縁、長さ3～14cm。花期は5～8月。花弁は倒卵形、長さ5～7.5mm。長角果は線形、平らな四稜形で、長さ4～8cm、幅1～1.5mm、無毛。種子は2列で、縁にごく狭い翼がある。多摩地域の河川中流域において、高水敷堤防などの草土手周辺に生育するが少ない。

■ **生存を脅かす要因**：元來は河原に生える植物である。河川改修、護岸工事、河川敷の開発、そして上流におけるダム建設などにより、河川環境が大きく変化したことが、減少の原因である。現在では、人為管理下の河川敷や土手に生育し、不適切な管理（草刈りの回数や時期が本種の生育に不適切）が本要因に該当する。生育立地への改変に際しては、保全策が必要である。

■ **特記事項**：区部では絶滅と判定される。檜山（1965）の時代には、区部でも生育していたと思われるが、産地があげられていない。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 17, 263, 270, 366



多摩市 1981年5月3日

ミヤマツチトリモチ

Balanophora nipponica

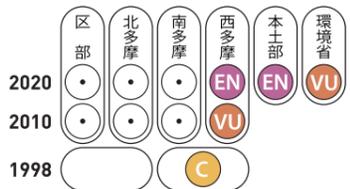
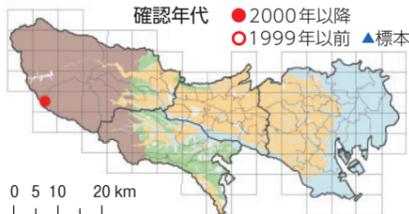
被子植物
ツチトリモチ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草。主に多雪地帯の落葉樹林帯に生育する。寄生植物。高さ8～14cm。根茎から花茎を出す。花穂は長楕円体から楕円体で橙赤色から橙黄色、色の変化が多い。小棍体の間に埋もれている。子房は大きく紡錘状で、オレンジ色。花柱は花の初期には短い、盛期になると長く伸びて小棍体の間から出て、細毛状に見える。西多摩の山地深部に局限され、ウリハダカエデなどのカエデ類を主体とした落葉広葉樹林内に生育する。

■生存を脅かす要因：元来個体数が少ない。寄生植物であり、宿主の分布に本種の分布も制限される。また、単為生殖を行い、個体間の遺伝的多様性が低く、環境条件への適応の幅が狭いと考えられる。

■特記事項：宿主は一般にカエデ類とされるが、その生育地の少なさから、低地に一般的なウリカエデやイロハモミジに寄生するとは思えない。本種が好んで寄生する樹種を特定し、宿主の生育地とともに、本種を保全する必要がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 136, 152



三頭山 1994年9月1日

マツグミ

Taxillus kaempferi

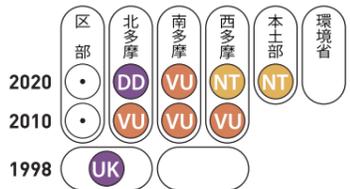
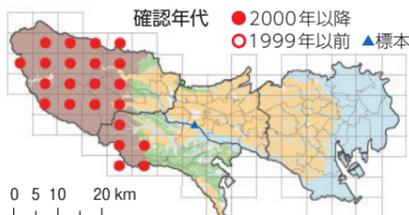
被子植物
ツチトリモチ科

■種の特性と生育状況：本州（関東、富山以西）、四国、九州に分布する。葉緑素を持った、半寄生の常緑低木。長さ20～50cm。葉は革質、倒披針形で長さ1.5～4cm、幅0.4～0.9cm、全縁、先は丸く、下部は次第に狭くなって葉柄に流れ、両面無毛。花期は7～8月。短い集散花序に数個の花をつける。花は赤色、花被片は筒形で先は4列し、外面無毛。果実は楕円状球形で、赤熟する。北多摩、南多摩、西多摩の主に山地に分布する。宿主はモミヤツガ、アカマツである。モミなどの大木が残っている西多摩では、比較的個体数も多い。北多摩ではごく稀であり、情報不足である。

■生存を脅かす要因：元来個体数が少ない寄生植物である。森林伐採などによる宿主に適した巨木の減少、松枯れによるアカマツの枯死も本種の減少に影響がある。

■特記事項：宿主であるモミ、ツガ、アカマツの大木は山地を除き、現在は非常に少ない。西多摩での調査結果（準絶滅危惧）は、宿主となる樹種の大木がまだある程度の個体数で残存しているためであろう。なお、本種は大木の高所に寄生するため、調査の際に装備や技術を要し、十分に個体数が把握できていない可能性も危惧されている。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 17, 258



奥多摩町 1998年7月25日

クリンユキフデ

Bistorta suffulta

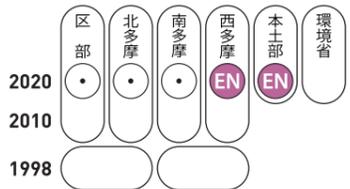
被子植物
タデ科

■種の特性と生育状況：岩手県以南、四国、九州にかけての太平洋側山地冷温帯から亜高山帯に生育する多年草。疎林内や林縁に生える。根茎は肥厚し地中を這い、根出葉の葉柄には翼がなく基部は心形。茎上部の葉は層をなしてつき、無柄で茎を抱く。托葉鞘は褐色で膜質無毛。4～6月、茎頂の頂生花序に白色花を多数つける。萼片は5裂し、葯は淡紅色。そう果は3稜があり卵形。西多摩、都県境の雲取山山域に生育が確認されているが、減少が著しく、シカ柵内でしか見られない状況となっている。

■生存を脅かす要因：自生環境が局限されているが、シカ食害による激減が深刻な状況となっている。

■特記事項：都立大学牧野標本館には1981年に大雲取谷で採集された標本が収められている（MAK281195大雲取谷19810620鈴木和雄）

執筆者 内野秀重
文献一覧 168



埼玉県 2022年7月24日

ハルトラノオ

Bistorta tenuicaulis

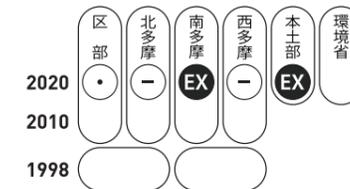
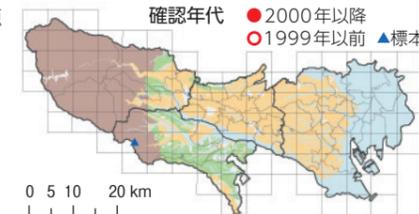
被子植物
タデ科

■種の特性と生育状況：本州（福島県以西の太平洋側及び山口県）、四国、九州に分布する多年草で日本固有種。沢沿いの樹林下に生育する。根茎は地中を這い、節は球状に膨れる。葉は長楕円形または卵形、根出葉は有柄で翼がある。4～5月、頂生花序に密な白色花をつけ、萼は5裂、葯は赤色。そう果は広楕円形で光沢がある。南多摩の八王子高尾山域に記録があることが明らかになったが、残念ながら現在は消滅している。

■生存を脅かす要因：現在の高尾山に本種が見られない理由は不明だが、極相林化など、植生の遷移が影響した可能性がある。

■特記事項：都立大学牧野標本館に1925年に八王子市高尾山で採集された標本が2点あり、檜山庫三が鑑定を行っている。このうち1点の採集者は牧野富太郎である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 92, 366



神奈川県 2012年4月20日

ナガバノヤノネグサ

Persicaria breviochreata

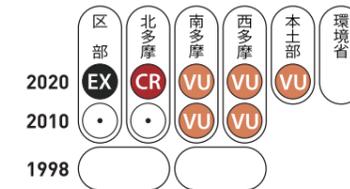
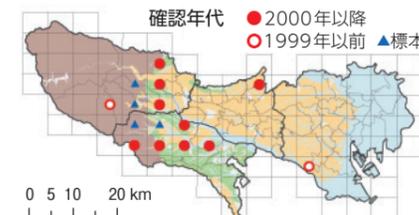
被子植物
タデ科

■種の特性と生育状況：関東地方以西の丘陵～低山地の湿った林縁、渓谷沿いの潤湿地などに生える一年草。茎は基部から分枝斜上し、葉は柄が短く、基部は矢じり形で長楕円状披針形、托葉鞘は短く縁毛がある。9～10月、総状花序に1～3個の花をつけ、花被は5深裂し、淡黄緑色～白色。区部では絶滅、北多摩のごく一部と、南多摩から西多摩の潤湿な樹林下に散見される状況である。

■生存を脅かす要因：各種開発や森林伐採により、自生地が失われているほか、林床植生の遷移、シカ等の野生動物による食害の影響も懸念される。

■特記事項：

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 243, 270, 290



羽村市 1999年9月28日

ヒメタデ

Persicaria erectominor

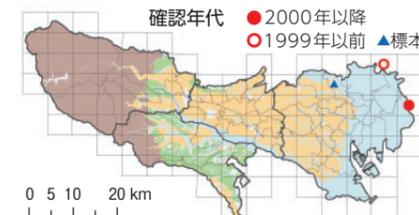
被子植物
タデ科

■種の特性と生育状況：全国の水湿地に生える一年草。葉は披針形～長線形、葉裏には細かい腺点が散在する。托葉鞘は伏毛が生え、縁に縁毛がある。開花は5～10月で、花被は淡紅色または緑白色、花被には盤状の腺点がある。都内では区部から標本が得られているが現状は明らかでない。また、北多摩にも記録があるが、近年の情報がなく消滅したものと考えられる。

■生存を脅かす要因：河川の護岸改修や池沼・湿地の埋め立て等により自生地の生育環境が失われ、農業使用や水田耕作地の減少なども大きな減少要因となっている。

■特記事項：本種はイヌタデの小形のものとして誤認されやすく、アオヒメタデやホソバイヌタデ等とも酷似しており、同定には注意を要する。

執筆者 内野秀重
文献一覧 270, 290



板橋区 1960年6月24日

ヤナギヌカバ

Persicaria foliosa var. *paludicola*

被子植物
タデ科

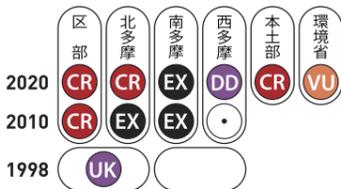
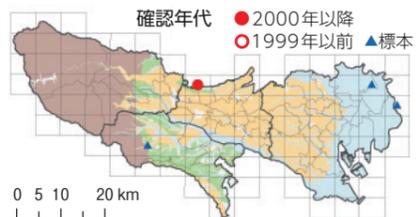
■ **種の特性と生育状況** : 全国の河川氾濫原、休耕田、ため池畔等に生育する一年生の湿生植物。茎は倒伏して斜上。葉は線形で両面有毛、葉裏には腺点がある。総状花序は細く、9～10月、頂生または腋生して密に花をつける。そう果はレンズ形、茶褐色で光沢がある。都内では丘陵帯以下の沖積地に広く分布していたが、南多摩では絶滅。近年、北多摩地域の未確認情報があるが、都内全域で実態が把握できない状況にある。

■ **生存を脅かす要因** : 水湿地の埋め立て、河川改修などによる生育環境の破壊により、自生地が失われた。河川敷の富栄養化と、それに伴う帰化植物の繁茂などの影響も大きいと考えられる。

■ **特記事項** :

執筆者 内野秀重

文献一覧 25, 28, 243, 291, 294, 295



狭山丘陵 1960年10月21日

ナガバノウナギツカミ

Persicaria hastatosagittata

被子植物
タデ科

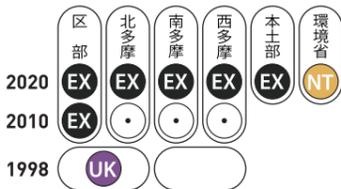
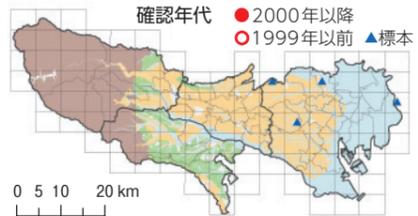
■ **種の特性と生育状況** : 本州以西の河畔や池畔、休耕田などの湿地に生える一年草。茎は地面を這って斜上、稜があって逆刺を持つ。葉は披針形または長楕円形、托葉鞘は無毛で先端には縁毛がある。花期は9～10月、総状花序に密に淡紅色の花をつける。花序の柄や小苞、小花柄には赤褐色の腺毛がある。都内では、区部をはじめ全てのエリアに記録があるが、現在では全く見ることができない。

■ **生存を脅かす要因** : 各種開発に伴う湿地の消滅、河川湿地の埋め立て、水田の減少、農業の使用などにより、消滅に追いやられたものと推測される。

■ **特記事項** : 都立大学牧野標本館には1900年代前半に採集された北区、江戸川区、世田谷区、板橋区、練馬区などの標本が残されている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 249, 270, 279, 291, 294



千葉県 1993年10月20日

シロバナサクラタデ

Persicaria japonica

被子植物
タデ科

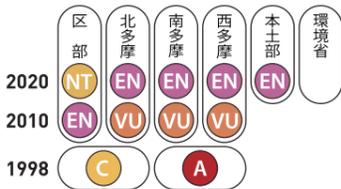
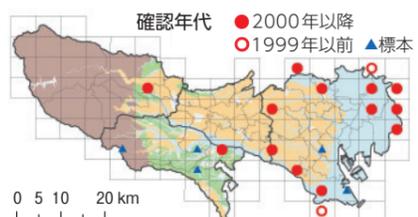
■ **種の特性と生育状況** : 全国の川岸の草地や休耕田等の湿地に生える多年草。地下茎から茎を直立して枝を分け、葉は長楕円状披針形で両面に腺点がある。8～11月に開花し、5深裂する裂片は白色、花柱は3または2。そう果は光沢がありレンズ形または3稜形、倒卵形のものがある。都内では、主に丘陵帯以下の沖積低地に分布しており、区部をはじめ各所に分布していたが、近年では沿岸低地部を除き、きわめて稀な植物となっている。

■ **生存を脅かす要因** : 河川開発や湿地開発による自生地の消滅、水田耕作の停止や湿地の植生遷移、農業の使用などが主要な減少要因と推測される。

■ **特記事項** : 異形花柱性を有する本種は、雌雄集団と送粉昆虫の適切な存在が満たされないことにより結実率が低下し、減少要因の一つとなっている可能性がある。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 151, 288, 290, 291, 294



町田市 2021年9月25日

サデクサ

Persicaria maackiana

被子植物
タデ科

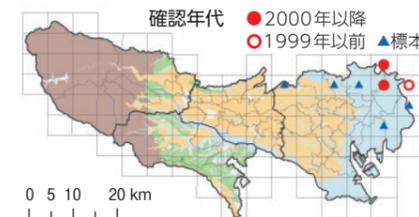
■ **種の特性と生育状況** : 全国の原野、河川敷の湿った草地等に生える一年生のつる植物。茎には鋭い下向きの刺があり、托葉鞘上部は葉状に広がる。葉身は披針状ほこ形で星状毛が多い。7～9月に開花し、5深裂した花被は白色、結実して紅色を帯びる。都内全域に記録があるが、分布の中心である区部低地を除き絶滅して久しい。また、区部においても自生地はごくわずかとなり、減少傾向がさらに進む恐れがある。

■ **生存を脅かす要因** : 河川や湿地の整備、埋め立てによる自生地の消滅で産地が激減した。植生遷移や富栄養化による帰化植物の繁茂等による生育環境悪化も進んでいる。

■ **特記事項** :

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 243, 288, 290, 295, 306



葛飾区 2020年8月31日

サクラタデ

Persicaria odorata subsp. *conspicua*

被子植物
タデ科

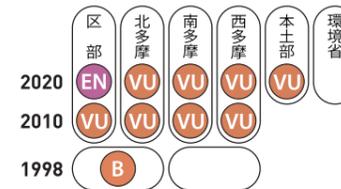
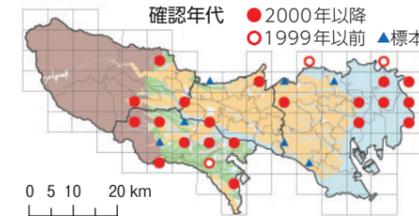
■ **種の特性と生育状況** : 本州以西の水田や湿地、川辺等に生育する多年草。地下茎を伸ばして増え、茎は直立する。葉は披針形で、托葉鞘は短く縁に長毛がある。8～10月、総状花序に花をつけ、萼は淡紅色で腺点がある。都内全域に分布するが、水田や周辺湿地の残る地域に限られ、区部ではきわめて局所的。丘陵部以下の川沿いや低湿地に自生地があるが、水田の減少とともに衰退しているのが現状である。

■ **生存を脅かす要因** : 河川や湿地開発による自生地の消滅、水田耕作の停止や湿地の乾燥化、農業の使用など、複合的な要因で減少している。

■ **特記事項** : 雌雄異株、異形花柱性を有する種で、シロバナサクラタデ同様、送粉昆虫の減少による結実率の悪化が疑われる。

執筆者 内野秀重

文献一覧 263, 279, 290, 291, 293, 294



八王子市 2013年9月23日

ヌカボタデ

Persicaria taquetii

被子植物
タデ科

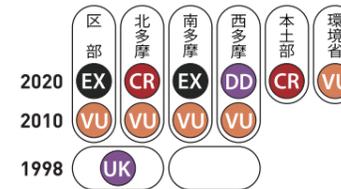
■ **種の特性と生育状況** : 本州以西の水湿地に生える一年草。茎は地を這い多くの枝を分ける。葉は長披針形で先端は鈍頭、葉裏に腺点はない。托葉鞘の縁には同長の縁毛がある。7～11月に開花し、花序にまばらに花をつける。花被は紅色または白色、そう果は3稜形またはレンズ形。西多摩から区部にかけての河川中流域の氾濫原や河口部湿地等に記録があり、区部と南多摩では絶滅、北多摩は未確認だが生育情報があり、西多摩においては現状が不明となっている。

■ **生存を脅かす要因** : 土地造成による河川湿地や原野の埋め立てにより自生地が失われ、その後も湿地の植生遷移、農業使用等により減少の一途をたどっている。

■ **特記事項** : コヌカボタデの別名がある。

執筆者 内野秀重

文献一覧 151, 290, 291, 293, 294, 322



茨城県 2002年10月17日

2020	EX	-	-	-	EX	VU
2010						
1998						



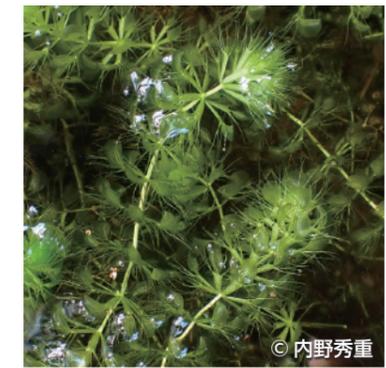
渡良瀬遊水地 2016年5月28日 © 中西由美子

2020	EX	DD	CR	CR	CR	
2010						
1998		UK				



あきる野市 2019年6月2日 © 内野秀重

2020	EX	•	•	•	EX	CR
2010	EW	•	•	•		
1998		D				



埼玉県産植栽 2021年7月31日 © 内野秀重

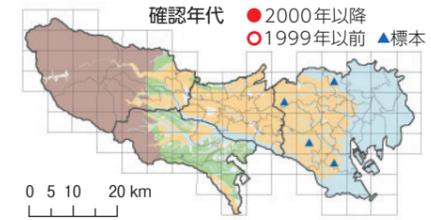
ノダイオウ *Rumex longifolius* 被子植物 タデ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の河川氾濫原、小河川沿いの過湿な湿地等に群生する大形の多年草。茎は100cm以上となり、葉は長卵状楕円形で、表裏ともほぼ無毛で光沢がある。花期は6～8月、花序は密着して棒状、果実は密生し節間は短い。内花被片は広倒心形で全縁、ときに微鋸歯縁で粒体は発達しない。都内では区部だけに分布し、品川区、練馬区、板橋区などの古い記録があるが、その後消滅した。

■ **生存を脅かす要因**：都市開発による氾濫原や湿地等の消滅により自生地が失われ、絶滅したものと考えられる。

■ **特記事項**：本種の生育環境には外来種エゾノギシギシが侵入拡大している場合が多く、競合や雑種化による遺伝的攪乱も受けやすい。

執筆者 内野秀重
文献一覧 151, 270, 275, 293



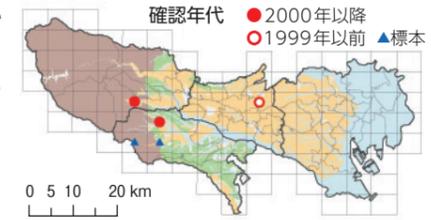
マダイオウ *Rumex madaio* 被子植物 タデ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の山間の小河川や谷筋の過湿半日陰地等に生育する大型の多年草。地中に肥厚した根を持ち、茎は150cmに達する。葉は長大で表面有毛、裏面脈状多毛。開花期は6～7月、花序は枝を分かち輪生する花序節間が長い。内花被片は広心形で縁には棘状鋸歯があり、粒体は発達しない。区部を除く都内各地に記録があるが生育実態がほとんど明らかにされていない。西多摩にわずかな現存が確認されているほか、南多摩の北浅川流域からも未確認ながら生育の報告がある。

■ **生存を脅かす要因**：観光開発に伴う河川や湿地改変のほか、エゾノギシギシ等の外来種との競合や異株交雑等による影響を受けている可能性が高い。

■ **特記事項**：日本固有種。マダイオウは何らかの理由で結実しにくい低稔性植物であることが知られており、衰退の要因に関与している可能性がある(藤井・牧2017)。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 243, 270, 275



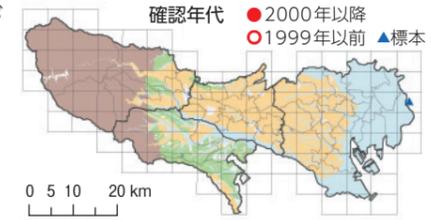
ムジナモ *Aldrovanda vesiculosa* 被子植物 モウセンゴケ科

■ **種の特性と生育状況**：本州の河川や池沼に生育する沈水性の多年生浮遊植物。葉は輪生し、葉身の先が二つ折となって水中の虫を捕らえる。7～8月、水面上に花茎を伸ばして5弁の白色花を咲かせ、晩秋には茎の先端に殖芽を形成して越冬する。1890年5月10日、牧野富太郎が小岩村伊与田(現江戸川区北小岩4丁目)の江戸川沿いにあった用水池において発見し、その後、洪水で流されて消滅したとされる。

■ **生存を脅かす要因**：出水による流出が消滅の要因とされるが、池沼の改変や水質の汚濁などによる影響もあったものと推測される。

■ **特記事項**：江戸川区での発見後、信濃川、淀川、利根川等でも確認されたが、国内の自生地は全て消滅し、愛好家により栽培下で系統が維持されているのみとなっている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 50, 106, 294



2020	EN	CR	•	•	EN	NT
2010						
1998						



江戸川区 1923年10月28日 牧野標本館所蔵

2020	EN	•	•	•	EN	
2010						
1998						



江東区 2012年11月14日

2020	VU	VU	CR	-	VU	VU
2010						
1998		A	A			



多摩市 2021年10月8日 © 内野秀重

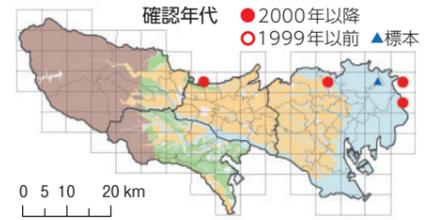
ホソバイヌタデ *Persicaria trigonocarpa* 被子植物 タデ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、及び本州の河川中流域以下の河川敷、河口部の水湿地等に見られる一年草。葉は線状披針形で葉裏に盤状の腺点が散在する。托葉鞘は有毛で縁に長毛が生える。9～10月、穂状花序に淡紅色の花穂をつけ、花被片にも盤状の腺点がある。都内では区部の低地を中心に、北多摩の一部からも記録があるが、近年の実態は明らかでない。西多摩や南多摩には分布していない。

■ **生存を脅かす要因**：河川改修や湿地の埋め立て等により生育地が奪われ、さらに河川湿地の富栄養化や帰化植物の繁茂等が、本種生育の条件を困難にしている。

■ **特記事項**：イヌタデの小形のをホソバイヌタデと誤認することが多く、同定には注意を要する。

執筆者 内野秀重
文献一覧 84, 270, 294, 295



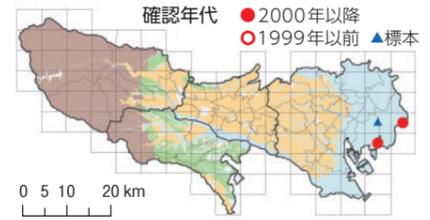
アキノミチヤナギ *Polygonum polyneuron* 被子植物 タデ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の海岸、河口周辺の砂質地に生える一年草。匍匐した基部から斜上する茎は50cmを超える。托葉鞘は赤色を帯び、葉は長楕円形で尖り上部で小さくなる。9～10月、穂状花序に淡紅色の花を開く。果実は3稜形で大型のものは花被から突出する。都内では沿岸部だけに生育し、記録や標本も古いものに限られる。近年も沿岸部にわずかに残存しているとの生育情報もあるが、ミチヤナギと形態が紛らわしいこともあり、分布実態は明らかでない。

■ **生存を脅かす要因**：湾岸開発及び河川開発による河口部の砂質地や自然海岸の消失により、自生地の大半が失われた。

■ **特記事項**：東京湾を指標する植物の一つであり、隅田川、荒川、旧江戸川等の河口部周辺の実態調査が必要である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 67, 270, 294



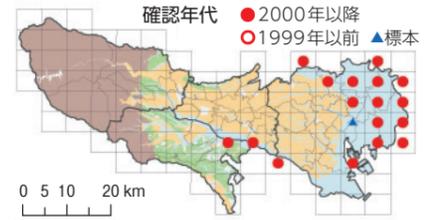
コギシギシ *Rumex dentatus* subsp. *klotzschianus* 被子植物 タデ科

■ **種の特性と生育状況**：関東以西の低地に分布し、湿り気のある畑や水田、塩性湿地などに生育する越年草。ギシギシよりやや小型で草丈は最大50cm、葉身は長楕円形で両面無毛。5～8月、総状花序に淡緑色の花を多数輪生、そう果を包む内花被片には顕著な突起があり、粒体は赤色を帯びない。都内では区部沿岸低地、河口周辺などに散在しているほか、多摩川中流域の水田環境にも自生地が見つかった。

■ **生存を脅かす要因**：沿岸開発や湿地開発により自生地が激減した。また、遷移の進行や耕作放棄、エゾノギシギシなど外来近縁種の競合によりさらなる減少が危惧される。

■ **特記事項**：本種学名はユーラシア分布種と区別できないとの見解に基づくが、独立種 *R. nipponicus* とする考え方もある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 67, 270, 294, 333



モウセンゴケ

Drosera rotundifolia

被子植物
モウセンゴケ科

種の特性と生育状況：全国の貧栄養の湿地、浸み出し水のある崖や露頭などの湿性裸地に生育する多年生の食虫植物。葉は放射状に根生し、葉柄の先に卵円形で腺毛を持った葉を広げ粘液を出して捕虫する。6～9月、巻散花序に5弁の白色花を開く。都内では多摩丘陵部の谷戸田の池周囲、露頭周辺の裾刈り草地などに生育が見られたが、現在は消滅している。

生存を脅かす要因：自生地が限られていたうえに、土地造成による埋め立て、園芸目的の採集などにより絶滅した。

特記事項：栽培品の流通が盛んであり、これらの逸出に注意が必要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 17, 184, 270, 291, 322



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	EX	
2010	EX	EX	EX	DD	
1998				A	



町田市 1994年7月23日

カワラナデシコ

Dianthus superbus var. *longicalycinus*

被子植物
ナデシコ科

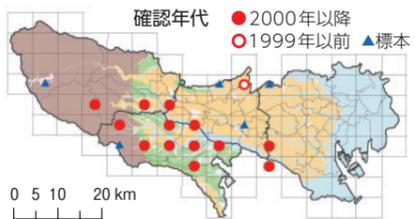
種の特性と生育状況：本州～九州の草原、河川敷、林縁などの向陽地に生える多年草。茎は叢生して分枝し、葉は粉白色を帯びる。7～10月、茎頂に淡紅紫色の花をまばらにつける。苞は3～4対あり、先端は芒状にとがる。都内全域に分布していたが、区部での現存状況は明らかでない。他のエリアでも減少の一途をたどっており、定期的な管理が実施される河川堤防などが残された主な自生地である。

生存を脅かす要因：管理の停止による植生遷移や、不適切な時期における草刈り等により著しく衰退する。河川敷においては立地の富栄養化、帰化植物との競合などによる影響も少なくない。

特記事項：ワイルドフラワー緑化などで植栽品が野生化していることがあり、自然分布と混同しないように注意が必要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 85, 265, 270, 289, 290, 292



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	EN	EN	EN	EN
2010	.	VU	VU	VU	.
1998					



日野市 2020年8月7日

ワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha

被子植物
ナデシコ科

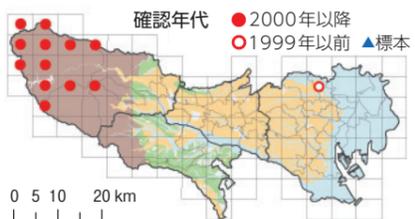
種の特性と生育状況：本州以西の、主に山地林下に生育する多年草。茎は直立またはやや分枝し、高さ15cm以下。卵形の葉が互いに離れてつく。4～6月、葉腋に白色花を単生し、花弁は通常5枚、倒卵形で先端は鋭頭で凹まない。花柄は有毛。都内では奥多摩の山域に広範囲に見られ、標高1500m以上の樹林下に限られる。

生存を脅かす要因：急激な減少傾向は免れているが、樹林植生や登山道の荒廃、シカ食害などによる衰退が懸念される。

特記事項：区部、北区赤羽にも古い記録があり、築堤などに伴う搬入土砂による移入の可能性もあるが、自然分布も否定できないことから記録としてとどめておきたい(本田ほか1971)。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 168, 270, 292, 295



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	.	.	CR	VU	VU
2010	.	.	CR	CR	.
1998			A	B	



長崎県 1984年5月17日

ヒナワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha var. *linearifolia*

被子植物
ナデシコ科

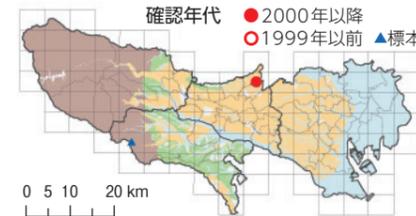
種の特性と生育状況：本州中部、及び四国に分布する多年草。落葉樹林内に生育し、草丈は10cm未満、葉は細く線形で幅0.2～0.5cm。3～4月、茎上部の葉腋から花柄を伸ばし白色5弁花を開くが、ワチガイソウに比べて花弁の幅は著しく細い。閉鎖花のさく果は4稜形。都内では北多摩の清瀬市だけに現存が知られる希産種であり、愛護団体により保全管理が行われ、生育環境が保たれている。

生存を脅かす要因：人の踏みつけによる直接的影響のほか、植生遷移の進行、樹林管理の放棄等による生育環境の悪化が衰退要因である。園芸目的の盗掘も懸念される。

特記事項：青梅市にも未確認ながら自生の記録があるが(飯泉・曾根1982)、実態は不明である。日本固有植物の一種。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 105, 270, 290



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	-	CR	DD	-	CR
2010	-	CR	-	-	-
1998		A			



清瀬市 1988年4月23日

ワダソウ

Pseudostellaria heterophylla

被子植物
ナデシコ科

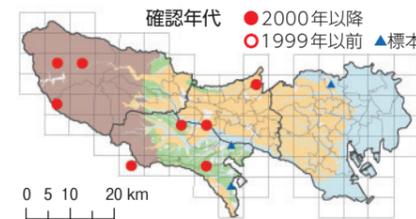
種の特性と生育状況：本州(岩手県以南)と九州に分布する多年草。台地、丘陵地から山地の疎林下や林縁に生育する。根は紡錘状で肉質。茎は単生して高さ10cm前後。茎上部の葉は卵形で輪生状、下部では線形となる。4～5月、軟毛が密生する花柄の先に白色5弁花を開く。花弁は倒卵形で先端はくぼむ。都内全域に分布するが、区部では絶滅、台地から丘陵地を中心に自生地が点在する。奥多摩や檜原村の山地高所にも点在する。

生存を脅かす要因：人の踏みつけ、植生遷移の進行や管理放棄による生育環境悪化が問題である。また、担保性のない自生地では開発による消滅の危険性もある。

特記事項：区部文献では見当たらないが、都立大牧野標本館には1891～1938年にかけて採集された板橋区志村、渋谷区、北区赤羽などの標本が残されている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 152, 243, 265, 290, 292



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	EN	CR	EN
2010	EX	CR	CR	.	.
1998		A		A	



八王子市 1999年4月10日

ヒゲネワチガイソウ

Pseudostellaria palibiniana

被子植物
ナデシコ科

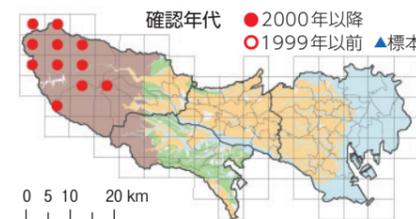
種の特性と生育状況：本州以西の丘陵地から山地の落葉樹林下に生育する多年草。高さは20cm以下、茎は単生またはまばらに束生。上部の葉は広線形で輪生状、下部では線状へら形となる。4～5月、葉腋から出た無毛の花柄に白色花を単生する。花弁は披針形で著しく細く、先端はくぼまない。都内では西多摩だけに分布が知られ、奥多摩の山地高所に自生するが、個体数、産地とも限られている。

生存を脅かす要因：本来、産地が限定されていたが、近年は、植生の遷移や林道の荒廃、また、シカ食害等が懸念される。

特記事項：本種の花弁は通常6枚だが、稀に5枚や7枚の場合がある。

執筆者 内野秀重

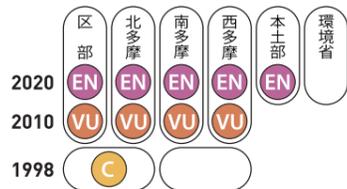
文献一覧 28, 168



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	.	-	-	EN	EN
2010	.	.	.	CR	.
1998					



長野県 1994年5月21日



ナンバンハコベ

Silene baccifera var. *japonica*

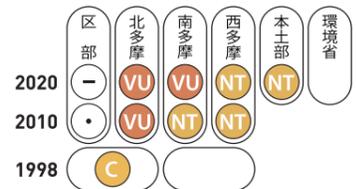
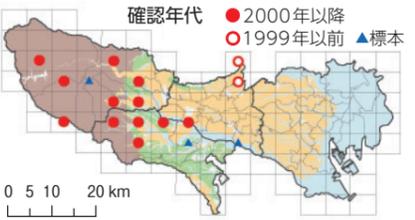
被子植物 ナデシコ科

種の特性と生育状況: 全国の丘陵から低山の林縁、河川敷の原野などに生育する多年草。草丈はつる状に絡んで1.5mに及び、葉は卵形で葉縁と葉裏は有毛。7～10月、枝先に花を横向きに単生し、半球状の萼から屈曲した5枚の花弁が開出する。さく果は液果で黒熟する。西多摩の山地帯が分布の中心だが、丘陵地や台地部では減少が著しく、目にする機会が減っている。

生存を脅かす要因: 林縁植生の遷移や樹林化による生育環境の悪化などが減少要因と考えられる。河川敷等の原野においては、帰化植物との競合により衰退しているものと推測される。

特記事項:

執筆者 内野秀重・小林健人
文献一覧 28, 168, 243, 289, 290, 292



あきる野市 1980年9月24日



目黒区 1982年10月29日

フシグロ

Silene firma

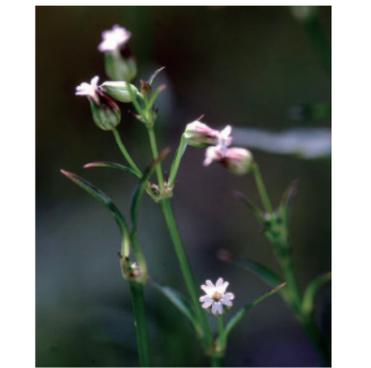
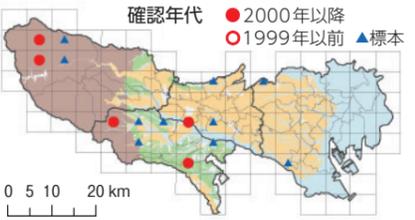
被子植物 ナデシコ科

種の特性と生育状況: 全国の平地から山地の路傍や林縁、草地、河川敷等に生育する越年草。茎は30～100cmで直立、節は暗紫色を帯びる。葉は卵状披針形。6～9月、茎頂や葉腋に白色～淡紅色花を横向きに咲かせる。花弁は5個で喉部には鱗片状の付属物があり、さく果は卵形、種子は腎円形で細突起に覆われる。都内では区部から山地まで広く分布していたが急速に衰退し、現在は河川敷や山麓に散見されるにすぎない危機的な状況となっている。

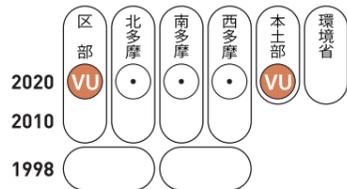
生存を脅かす要因: 急速な衰退要因は不明だが、茅葺的な草地の減少をはじめ、管理放棄による林縁植生の遷移、河川敷の富栄養化、帰化植物との競合等、複合的な要因が作用しているものと推測される。

特記事項: 花柄や萼に短毛が生えるものは品種ケフシグロに該当し、母種の分布域に混在する。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 270, 289, 290, 292, 295



日野市 1987年9月23日



江東区 2012年11月14日

フシグロセンノウ

Silene miqueliana

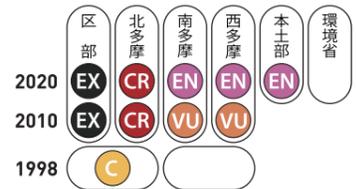
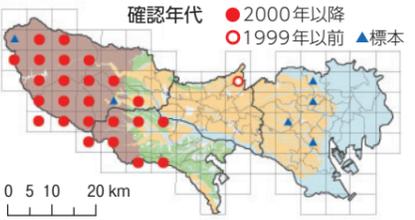
被子植物 ナデシコ科

種の特性と生育状況: 本州から九州にかけての林内、林縁に生育する多年草。茎は高さ最大で約80cm、直立して分枝し、節は黒褐色で膨出する。葉は卵形～披針形で先は尖る。7～10月、朱紅色の花を数個、頂生または腋生する。都内では、区部でも1900年代初頭に北区滝野川や杉並区大宮八幡などに自生していたが、現在は絶滅した。南多摩から西多摩の山地を中心に広く生育環境が残されているが、丘陵や台地における自生地はごく限られたものとなっている。

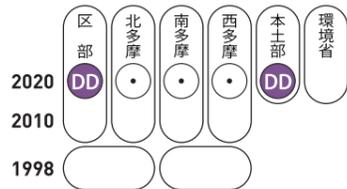
生存を脅かす要因: 樹林地の荒廃や植生遷移の進行、シカ等による食害、園芸目的の採取などが減少要因となっている

特記事項: 日本固有植物の一種である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 270, 289, 290, 292, 293



榎原村 2014年8月8日



福岡県 2018年7月29日

ヤナギイノコヅチ

Achyranthes longifolia

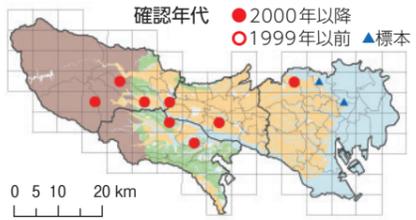
被子植物 ヒユ科

種の特性と生育状況: 関東以西に分布する多年草。山麓から丘陵や台地、段丘崖等の肥沃な半陰地に生える。葉は対生し、細く披針形で光沢があり、ほぼ無毛。8～9月、穂状花序にまばらに花をつけ、小苞基部の付属体は小さく卵状三角形。大陸系の遺存種とされ、以前から自生地は限定されていたものの、西多摩から区部まで広範囲に分布していた。しかし現在では退行し、緑地や公園などに自生地がわずかに残されているのみとなっている。

生存を脅かす要因: 各種開発による樹林地の伐採が直接的な消滅要因となるほか、樹林の荒廃や遷移進行などにより生育に適した環境が失われた。ヒカゲイノコヅチなど同属他種との混生による退行も懸念される。

特記事項: 赤羽、下赤塚、池袋、王子の林下に少(檜山1965)等の記録や20世紀前半の区部産の採集標本が残されている(都立大学 牧野標本館)。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 243, 289, 292, 293, 295



ホソバハマアカザ

Atriplex patens

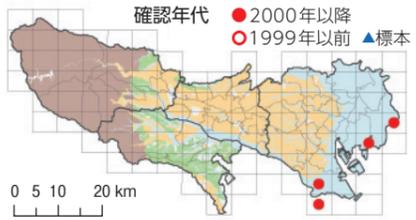
被子植物 ヒユ科

種の特性と生育状況: 北海道～本州の海岸砂地に生える一年草。茎は直立して分枝する。ハマアカザに似るが、茎下部の葉では基部がほこ形にならず披針形で、全縁か波状の鋸歯がある。花期は8～10月で、枝先に穂状の雄花、雌花をつける。雌花の小苞は菱状三角形。種子は円形黒色で光沢があり、ハマアカザより果期は遅い。都内では沿岸域だけに生育するが、都県境の多摩川河口部や荒川河口域に自生地が残されている。

生存を脅かす要因: 沿岸部の都市開発による海岸砂浜の消失により、自生地が縮小してきたものと考えられる。帰化種の進出による競合も懸念される。

特記事項: ハマアカザ同様、東京湾沿岸土着の植物の一種と考えられている(大場1997)。

執筆者 内野秀重
文献一覧 67, 128, 270



ハマアカザ

Atriplex subcordata

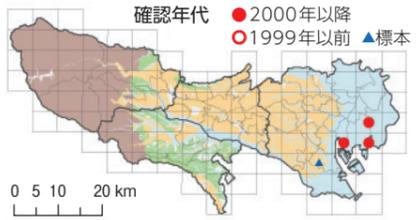
被子植物 ヒユ科

種の特性と生育状況: 北海道から本州にかけての海岸砂地に生える一年草。葉は互生し、三角状卵形で基部はほこ形となる。8～10月、枝先に穂状花序をつけ、雄花は花被のみで小苞を持たず、雌花には花被が無いが小苞に包まれる。種子は暗褐色で皺がある。都内では区部の沿岸部だけに産し、中央区や品川区での記録や採集標本(MAK41309 牧野富太郎 1947.10.13 品川区)が残されているが、現在では荒川や江戸川の河口域にわずかに散見されるに過ぎない。

生存を脅かす要因: 沿岸部の都市開発による海岸砂浜の消失により、大半の自生地が失われたものと推測される。残された自生地でもホコガタアカザやウラジロアカザ等の帰化種の侵入拡大による競合が懸念される。

特記事項: 本種はホソバハマアカザとともに東京湾沿岸土着の植物の一種とされる(大場1997)。

執筆者 内野秀重
文献一覧 67, 239, 270



カワラアカザ

Chenopodium acuminatum var. *vachelii*

被子植物 ヒユ科

種の特性と生育状況：本州以西の河川敷や海岸に生える一年草。草丈は30～50cm、葉は全て全縁で披針形。6～8月、茎頂や葉腋に花序を形成するが、マルバアカザと比較して総状の花穂は貧弱で再度枝を分けない。花序の軸に透明な円柱状の毛が生える。都内では、荒川や江戸川の河口域に近年の記録があるほかは情報が不足しており、実態は不明である。20世紀前半に多摩川中流域から得られた標本（都立大学牧野標本館）も残されているが別種ホソバアカザを含んでいる可能性がある。

生存を脅かす要因：河川環境の変化による河川敷の攪乱停止と富栄養化、沿岸部の開発整備による海岸植生の衰退などが本種衰退の要因である。沿岸部では外来種ホコガタアカザの進出などの影響も懸念される。

特記事項：カワラアカザと同様な環境に生育し、酷似するホソバアカザは、花序軸に粉状物があるだけで円柱状の毛を持たない。

執筆者 内野秀重
文献一覧 249, 270, 279, 287, 289

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	DD	DD	
2010					
1998					

牧野標本館所蔵
府中市 1960年10月15日

ミドリアカザ

Chenopodium bryoniifolium

被子植物 ヒユ科

種の特性と生育状況：北海道西南部と本州の石灰岩地帯を中心に希産する一年草で、山地林縁の岩隙地や路傍等に生える。茎は細く直立・分枝し、粉状毛が多い。葉は長い柄があり、菱状卵形で縁に1～2対の小裂片がある。8～10月、茎の頂部や葉腋から花穂を伸ばしてまばらに花をつける。花被は5深裂し裂片は卵形。種子は黒色で光沢がある。都内では奥多摩日原川流域から記録があるが、近年の生育情報が得られておらず、現状が懸念される。

生存を脅かす要因：本来、石灰岩地などに自生地が限られていたが、近年の減少要因はよくわかっていない。植生遷移や野生動物による獣害などの要因が考えられる。

特記事項：石灰岩地を好むとされるが、それ以外の立地環境での生育事例もある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 168

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	-	-	-	CR	CR
2010				CR	
1998			UK		

栃木県 2006年8月22日

ツルナ

Tetragonia tetragonoides

被子植物 ハマミズナ科

種の特性と生育状況：北海道西南部～琉球までの海岸砂地に生育する多年草。茎は分枝して高さ50cmほどになる。葉は卵状三角形で粒状の突起があり、ざらつく。5～9月、葉腋に1～2個の黄色花をつける。果実は木質で堅く、肩の部分に4～5個の突起を有し、1個の種子を包むが裂開しない。都内では区部の沿岸域に面した海岸部に記録があり、現在でも同様の分布域に散見されるが、減少傾向が続いている。

生存を脅かす要因：沿岸開発による砂浜の改変や消滅で自生地が減少するほか、海岸のゴミの集積等による影響も少なくない。

特記事項：食用になる海岸植物としても知られ、ハマジシャの名で栽培されることがある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 127, 270, 317

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT			NT	
2010					
1998					

©内野秀重
江戸川区 2019年5月20日

ウメウツギ

Deutzia uniflora

被子植物 アジサイ科

種の特性と生育状況：本州（関東西部、静岡、山梨）に分布する落葉低木。高さは1mになる。葉身は長楕円形から狭卵形、長さ4～6cm、棒状の鋸歯があり、両面とも星状毛が散生する。花期は4～5月。前年枝の葉腋に1～3個の白い漏斗形の花を下向きに付ける。径1.5～2.5cm。花弁は5枚。花柄や萼、若枝には柄のある星状毛がある。さく果は木質で椀形。石灰岩の岩場などに生育する。都内では西多摩の山地に生育する。

生存を脅かす要因：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、生育環境の変化や林道工事などによる生育地の破壊が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

特記事項：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 65, 132

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020				VU	VU
2010				CR	
1998			B		

奥多摩町 1998年4月25日

ゴゼンタチバナ

Cornus canadensis

被子植物 ミズキ科

種の特性と生育状況：北海道、本州（中部以北、奈良県）、四国（愛媛県の東赤石山）に分布する常緑多年草。茎は直立し、高さ5～20cm。葉は未開花の株では4枚、花のある株では6枚の葉が輪生状となり、倒広卵形ときに菱状楕円形、長さ2～8cm、幅1～2.5cm、側脈は2～3対あって上に向かう。花期は6～7月。茎の頂部に1個の頭状花序を出し、花柄は長さ1～3cm。総苞片は4枚、花弁状で広卵形、ふつう白色。核果は球形、赤色に熟し、径5～8mm。垂高山帯の針葉樹林下や林縁に生育し、都内では西多摩の垂高山帯に稀に生育する。

生存を脅かす要因：森林伐採。生育地の環境変化、特に樹林内の乾燥化などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

特記事項：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 65, 132

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020				EN	EN
2010					
1998					

奥多摩町 2019年7月3日

ノジトラノオ

Lysimachia barystachys

被子植物 サクラソウ科

種の特性と生育状況：本州（関東以西）、九州（北部）に分布する多年草。地下茎が横に這い、高さ70～100cm、白毛の密生した地上茎を群生する。葉は長楕円状披針形で鈍頭、葉柄との区別が不明瞭。6～7月、頂生する総状花序は下垂し、白色花をつける。低地の草原に生育する。都内本土部の低地から台地にかけての草地にごく稀に生育する。南多摩では絶滅したと考えられる。

生存を脅かす要因：河川開発、草地開発、不適切な環境管理、管理放棄、遷移進行・植生変化。

特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 105, 161, 233, 305

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EN	EX	EN	VU
2010	EW	VU	VU	VU	
1998	D	D			

立川市 1986年7月9日

ツマトリソウ

Lysimachia europaea

被子植物
サクラソウ科

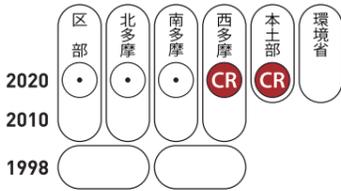
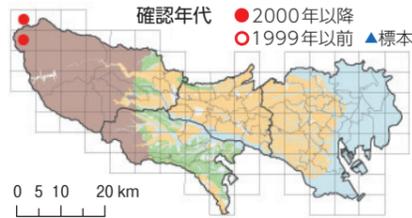
■種の特性と生育状況：北海道、本州（中部地方以北）、四国に分布する多年草。高さ10～20cm。5～10個の葉が茎の上部にやや輪生状につく。葉は薄く、広披針形で先がとがり、ほとんど柄がない。6～7月、上部の葉腋から花柄を伸ばし、上向に白色の花を普通1個開く。花冠は径1～2cmで普通7裂する。さく果は球形。亜高山帯の草地や林縁に生育する。都内では西多摩の亜高山帯に極めて稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、踏圧、シカの食害、局所分布。生育地の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 65



奥多摩町 2022年6月17日

ヌマトラノオ

Lysimachia fortunei

被子植物
サクラソウ科

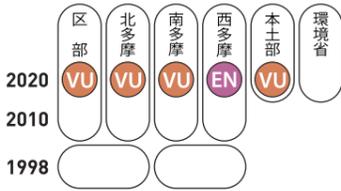
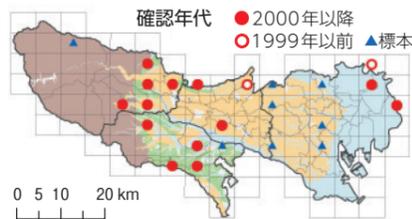
■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草。横に這う地下茎から地上茎が直立し、高さ40～70cmになる。葉は披針形または倒披針状長楕円形で全縁。花序は頂生して直立する。花は白色。花期は7～8月。都内本土部の低地から山地下部まで各地に点在し、河川や谷戸、沢沿いの湿り気のある草地や湿地に生育する。

■生存を脅かす要因：湿地開発、不適切な環境管理、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 4, 65, 105, 238, 243



町田市 2021年6月16日

サワトラノオ(ミズトラノオ)

Lysimachia leucantha

被子植物
サクラソウ科

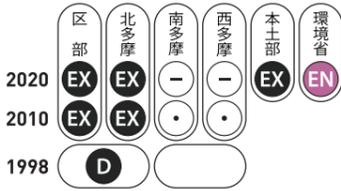
■種の特性と生育状況：本州、九州に分布する多年草。横に這う地下茎から地上茎が直立し、高さ40～60cm。葉は互生、広線形、長さ2～4cm、黒い腺点が密にある。総状花序を出して直立し、多数の花をつける。はじめ密につき、のちに伸長してまばらになる。花冠は白色、花期は4月。低地の湿地に生育する。区部の荒川沿いの低地、北多摩での記録があるが絶滅したものと考えられる。

■生存を脅かす要因：河川開発、湿地開発、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 25, 270



埼玉県 2008年5月19日

ヤナギトラノオ

Lysimachia thyrsoiflora

被子植物
サクラソウ科

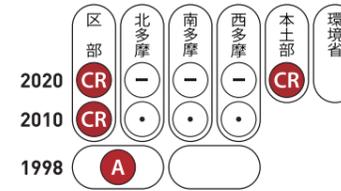
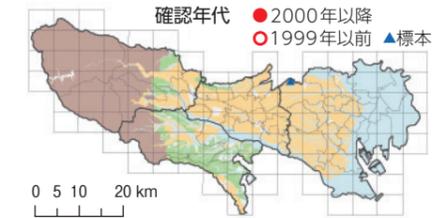
■種の特性と生育状況：北海道、本州（関東から福井）に分布する多年草。地下茎は長い。全体軟弱。茎は円柱形で高さ30～60cm。葉は披針形、無柄、黒い腺点がある。葉腋に長さ2～3cmの総状花序を出して多数穂花をつける。花冠は黄色。さく果は球形。花期は5～7月。区部の河川沿いの湿地に局所的に生育する。

■生存を脅かす要因：湿地開発、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 307



クサレダマ

Lysimachia vulgaris var. *davurica*

被子植物
サクラソウ科

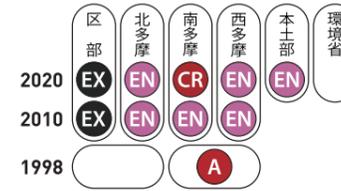
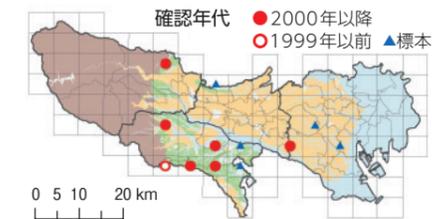
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。地下茎は長い。茎は高さ40～80cm。葉は対生または3輪生。葉の下面に微細な腺毛がある。茎の上部に円錐花序をつける。花冠は黄色で径12～15mm、深く5裂する。花期は7～8月。都内本土部の低地や台地脚部、丘陵の谷戸の湿地にごく稀に生育している。区部は野生絶滅と考えられる。

■生存を脅かす要因：湿地開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 28, 243



八王子市 2016年6月23日

コイワザクラ

Primula reinii

被子植物
サクラソウ科

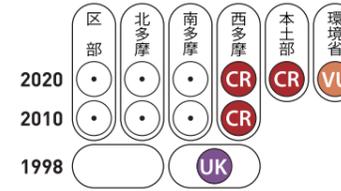
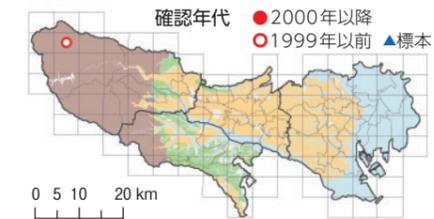
■種の特性と生育状況：本州（関東地方南西部・中部地方南部・紀伊半島）に分布する多年草。数枚の葉を束生する。葉は柄があり、花茎とともに白色で縮れた軟毛が生える。葉身は円形または腎円形で、浅く5裂する。花冠は紅紫色で高杯形、径1.8～2.5mm。筒部は長さ8～10mmである。花期は5月。山地の岩の隙間に生育する。

■生存を脅かす要因：現状不明。生育地が少ないうえ、情報が不足しており、生育分布調査による現状把握が必要である。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項：都内では1961年に奥多摩で採取された標本があるのみ。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 168, 204



神奈川県 1986年6月12日

サクラソウ

Primula sieboldii

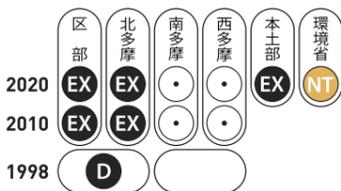
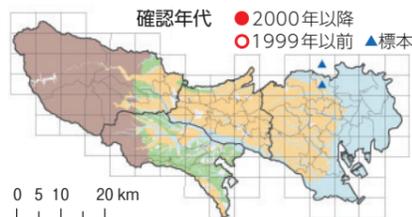
被子植物
サクラソウ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道（南部）、本州、九州に分布する多年草。根茎は太く短い。葉は長い柄があり、花茎とともに白色で縮れた軟毛が生える。葉身は長楕円形。花茎に10～20個の花を散形につける。花冠は紅紫色で喉の部分が白く、径2～3cm。さく果は扁球形。花期は4～5月。低地の河川敷の湿地に生育する。都内では、区部荒川沿いの低地に群生地があったが環境変化や河川改修により自生地が失われた。北多摩にも記録があるが絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発、草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 270



北区産植栽 2022年4月14日

アカバナヒメイワカガミ

Schizocodon ilicifolius var. *australis*

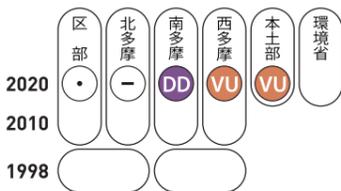
被子植物
イワウメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方・中部地方の主に太平洋側）に分布する常緑多年草。数枚の葉を束生する。葉は卵円形で、1～5対のとがった鋸歯がある。長さ1～5cm、幅0.7～4cm。4～5月、細長い花茎の先に2～7花をつける。花は淡紅紫色であることが多いが、まれに白色がある。花冠は径1.5～2cmで、横を向いて咲く。さく果は球形。山地の半日陰の岩場に生育する。都内では西多摩の山地の尾根部に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失。生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、山林の改変などによる生育環境の変化や、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：南多摩では過去の記録はあるが現状不明。日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 243



奥多摩町 2009年6月2日

コイワウチワ

Shortia uniflora var. *kantoensis*

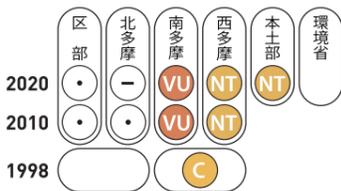
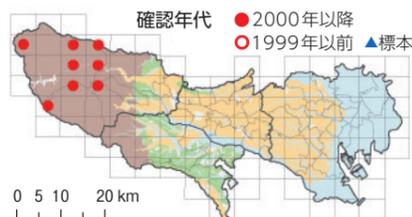
被子植物
イワウメ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北から関東の太平洋側）に分布する常緑多年草。イワウチワの変種。根茎は這い、数枚の葉を束生する。葉は柄が長く、葉身は先端がくぼむ扁円形で長さ1.8～3.5mm、幅2～4cm。長さよりも幅の方が広い。基部は心形。花は薄紅色で径2～3cm。裂片は5個で深く裂ける。さく果は円形。花期は4～5月。山地の半日陰の尾根や岩場に生育し、しばしば群生する。都内では南多摩及び西多摩の山地の尾根部に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、シカの食害。生育環境が表土の薄い尾根部などの脆弱な立地にあるため、山林の改変などによる生育環境の変化や、園芸目的の採取やカメラ撮影のための踏み込みが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 243



奥多摩町 1981年4月26日

ウラジロマタタビ

Actinidia arguta var. *hypoleuca*

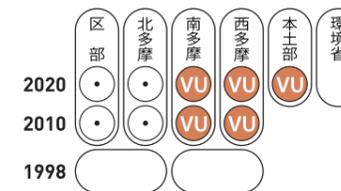
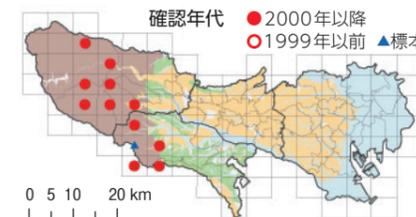
被子植物
マタタビ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する落葉性の木本性つる植物。サルナシの変種で、葉の裏面は粉白色を帯びる。葉はやや厚く、楕円形から広楕円形、基部は円形または浅心形、長さ6～10cm、縁に細鋸歯がある。葉柄は淡赤褐色を呈する。雌雄異株、または雑居性。花は白色、暗紫色の葯をつける。南多摩と西多摩の山地の林縁に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243



八王子市 2008年5月30日

ウメガサソウ

Chimaphila japonica

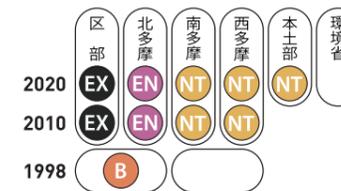
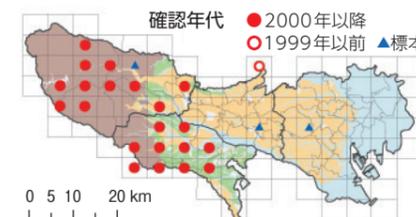
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する草本状の小低木。茎は単立し、高さ5～10cm。葉は数個つき、広披針形、濃い緑色で中脈の色は薄い。花は茎の先端に1個つき、點頭。花冠は白色で径1cmあり、半開する。さく果は扁球形。花期は6～7月。台地から丘陵、山地の乾いた二次林に生育する。多摩部では各地でみられるが、区部では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 105, 170, 243



八王子市 1986年6月20日

ベニドウダン(チチブドウダン)

Enkianthus cernuus f. *rubens*

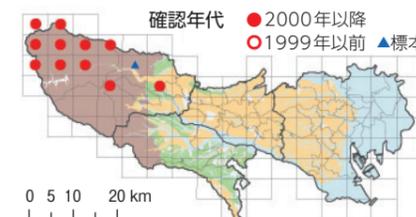
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する落葉低木。枝はよく分枝する。葉は互生し、倒卵形、下面脈上に褐色の毛がある。花は5～12個、下垂する。花冠は広い鐘形、紅色、浅く5裂し、先端は不整に細裂する。花期は5月。岩の多い山地に生育する。都内では西多摩の山地の岩がちな尾根部に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：シロドウダンの品種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



青梅市 2002年5月8日

ハナヒリノキ

Eubotryoides grayana

被子植物
ツツジ科

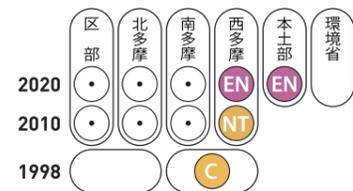
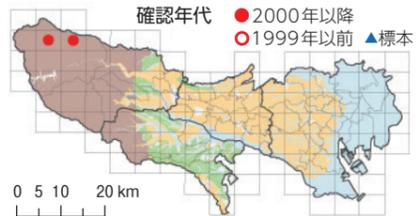
■種の特性と生育状況：北海道、本州（中部以北）に分布する落葉低木。葉は互生し、楕円形でやや硬く、縁に毛がある。表面は濃緑色で光沢があり、下面は白味を帯びる。花序は長さ5～15cm、多数の花を片側に付け、苞がある。花は下向き、淡緑色。花期は7～8月。山地の落葉樹林に生育する。西多摩の山地の露岩地などにごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：ニホンジカによる食害を受けにくい植物であるが、分布が局所的である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 170



埼玉県 1984年8月23日

シャクジョウソウ

Monotropa hypopithys

被子植物
ツツジ科

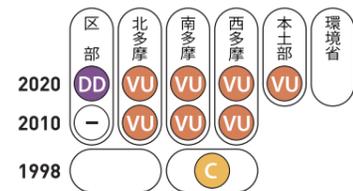
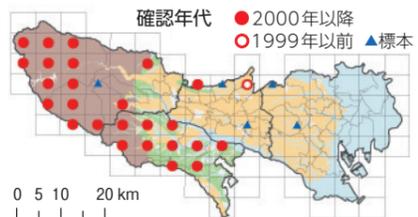
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する腐生植物。全草薄い黄褐色。茎の高さ10～20cm。葉は退化した鱗片葉が多数つく。花冠は下向きに数個つき、筒状の鐘形で、長さ1～1.5cm。さく果は楕円形、果時には直立する。花期は5～8月。林内のやや暗いところに生育する。都内では北多摩・南多摩・西多摩の丘陵地から山地にかけて生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項：区部では古い標本記録（1926年9月練馬区、1906年7月杉並区）があるが、現状不明。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 243



八王子市 1988年7月1日

ギンリョウソウモドキ(アキノギンリョウソウ)

Monotropa uniflora

被子植物
ツツジ科

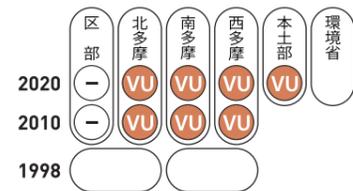
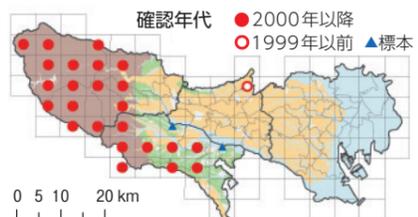
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する菌従属栄養植物。全草白色。高さ10～30cm。茎は直立し、肥厚して円柱状になる。花は1個頂生し、花期は8～10月。果時には円球球形のさく果が直立する。多摩部の台地から丘陵、山地にかけての二次林などに生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 105, 170, 243



町田市 2000年9月22日

コバノイチャクソウ

Pyrola alpina

被子植物
ツツジ科

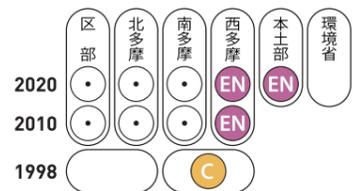
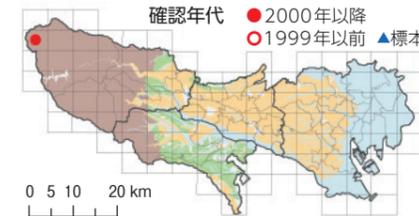
■種の特性と生育状況：北海道、本州に分布する多年草。根茎は細長く這い、長い匍匐枝をつける。葉は4～8個叢生し、楕円形で深い緑色を帯びる。花茎は高さ10～20cm。花は3～5個つき、白色、径12～15mm。花期は7～8月。西多摩の山地上部の二次林内にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243



山梨県 1989年7月27日

ベニバナイチャクソウ

Pyrola asarifolia subsp. *incarnata*

被子植物
ツツジ科

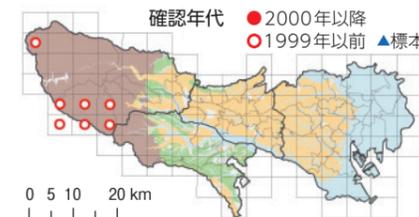
■種の特性と生育状況：北海道、本州（中部以北）に分布する多年草。根茎は這い、長い匍匐枝をつける。葉は3～5個叢生し、楕円形、深緑色で光沢がある。花茎は高さ15～20cm。花は7～15個つき、濃い桃色、径12～15cm。さく果は径7～8mm。花期は6～7月。山地の落葉樹林内に生育し、しばしば群生する。西多摩の山地上部にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170



富士山 2002年7月2日

マルバノイチャクソウ

Pyrola nephrophylla

被子植物
ツツジ科

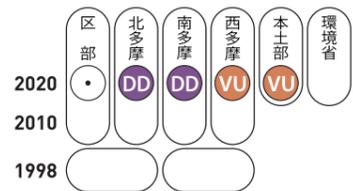
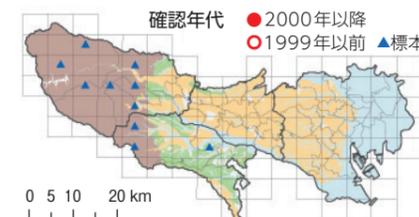
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。葉は扁円形、先は円いかややへこみ、基部は心形。脈に沿った白斑はない。花茎は高さ15～20cm。花は5～10個つき、白色。花期は6～7月。山地の林内やしばしば適湿の草地に生育する。北多摩や南多摩では記録があるが、現状が不明である。西多摩の山地にごく稀。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：北多摩・南多摩では少数の記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 4, 65, 170, 247, 270



山梨県 2018年7月24日

ツリガネツツジ(ウスギヨウラク)

Rhododendron benhallii

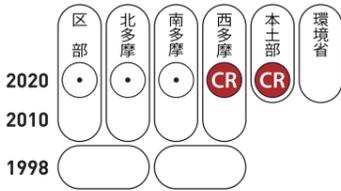
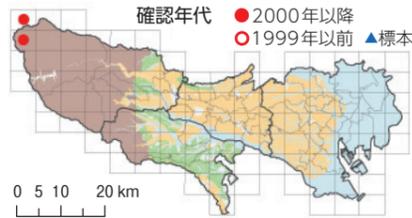
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（山梨・静岡以西）、四国（徳島県）に分布する落葉低木。高さ1～2m。葉は互生、楕円形、長さ2～5cmで、下面はやや白味を帯びる。花冠は筒形、長さ12～18mm、黄緑白色。雄しべは10個。花期は5～6月。山地の林縁や岩陰に生育する。都内では西多摩の高標高地の尾根沿いに極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：現状不明。生育地が少ないうえに情報が不足しているため不明である。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：生育分布調査による現状把握が必要。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 133, 334



奥多摩町 2016年6月10日

ハクサンシャクナゲ

Rhododendron brachycarpum

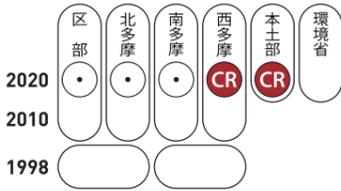
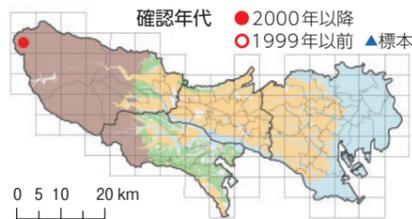
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北）、四国（石鎚山）に分布する常緑低木。高さ1～3m。葉は楕円状円形、長さ6～18cm、革質、深緑色で光沢があり、下面には淡褐色の軟毛が密生する。縁は裏面へ巻く。花はほぼ白色で上半分に淡黄緑色の斑点がある。花冠は径3～6cm、5裂する。雄しべは10個。花期は6～7月。山地から高山の林内に生育する。都内では西多摩の亜高山帯の岩場に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質及び基物の減少及び消失、局所分布。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 334



長野県 2011年7月24日

アズマシャクナゲ

Rhododendron degronianum

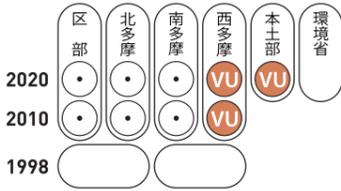
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・中部以北）に分布する常緑低木。高さ1～6m。葉は楕円状披針形、長さ5～15cm、革質、深緑色で光沢があり、下面には淡褐色の綿状毛が密生する。花序は枝の頂につく。花は淡紅色。花冠は径4～6cm、5裂する。雄しべは10個。花期は5～6月。山地の岩がちな林内や林縁に生育する。都内では西多摩の高標高地の岩がちな尾根部に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失、局所分布。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



奥多摩町 2018年5月13日

ウラジロヒカゲツツジ

Rhododendron keiskei var. *hypoglaucum*

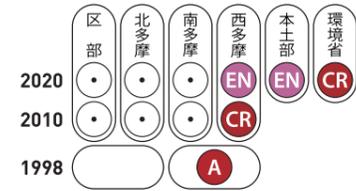
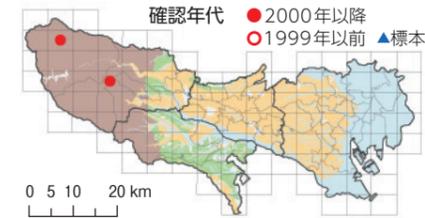
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：栃木・群馬・埼玉・東京の4都府県にのみ分布する常緑低木。高さ1m。葉は長楕円形、全縁で先がやや丸い。下面に腺状の鱗片を密生し、葉裏は白っぽく見える。花は淡白黄色。花期は4月。山地の岩場や急傾斜地に生育する。都内では西多摩に稀に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質・基物の減少および消失、局所分布。園芸目的の採取及び、生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、自生地の崩落や生育地の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：ヒカゲツツジの変種。種の保存法に基づき、環境省により国内希少野生動物植物種のひとつに指定されている。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 65, 152



奥多摩町 2020年3月25日

ヒカゲツツジ

Rhododendron keiskei

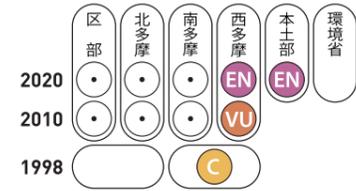
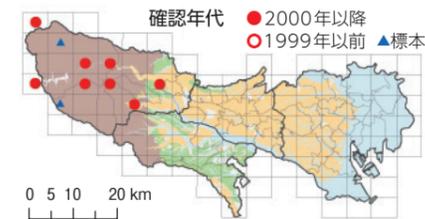
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する常緑低木。高さ1～2m。葉は互生し披針形、全縁で外曲する。裏面に鱗状毛を密生する。花は2～6個枝先につき、淡い黄色。花冠はろうと状、径3～4cm。雄しべは10個。さく果は筒形。花期は4月。川岸の岸壁や山地の岩尾根などに生育する。都内では西多摩に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質・基物の減少および消失。園芸目的の採取及び、生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、自生地の崩落や生育地の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 65, 132



青梅市 2002年5月8日

レンゲツツジ

Rhododendron molle subsp. *japonicum*

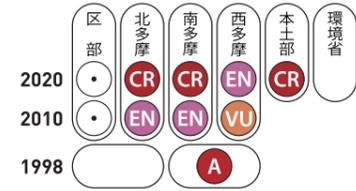
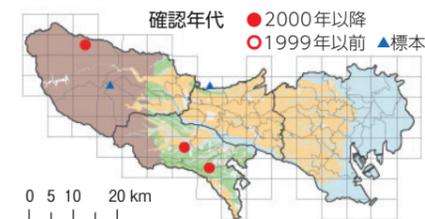
被子植物
ツツジ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する落葉低木。高さ1～2m。葉はやや薄い。花は枝の頂に2～5個つき、葉とともに開く。花冠は朱橙色、径5～6cm。花期は4～6月。多摩部の丘陵から山地の草地や明るい二次林にごく稀に生育する。区部では過去の情報があるが、植栽の可能性もある。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：西多摩ではニホンジカの食害の影響も大きいと考えられる。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243, 290, 322



町田市 2007年5月8日

アズマツリガネツツジ(ウラジロヨウラク)

Rhododendron multiflorum f. *brevicalyx*

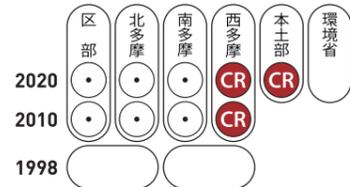
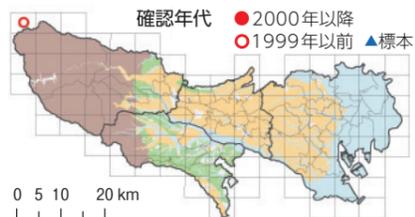
被子植物
ツツジ科

■種の特性と生育状況：本州（関東・中部地方）に分布する落葉低木。高さ0.5～2m。葉は互生、楕円形、長さ2～6cmで、表面に毛がある。下面はやや白味を帯びる。花冠は狭鐘形、長さ10.5～14mm、薄紫色であるが変異がある。雄しべは10個。花期は6月。山地の落葉樹林に生育する。都内では西多摩の高標高地の尾根部に極めて稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失、局所分布。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■特記事項：ウラジロヨウラクの品種。日本固有種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 131, 132, 133



山梨県 2012年6月14日

コヨウラクツツジ

Rhododendron pentandrum

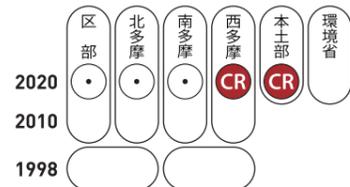
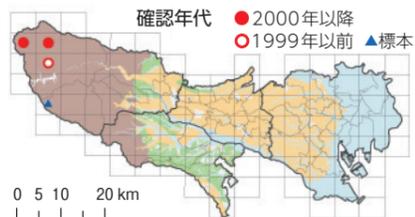
被子植物
ツツジ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する落葉低木。高さ0.5～3m。葉は2～5cmの楕円形、表面と縁には毛がある。5～7月に枝先に暗赤褐色の花が3～6個つく。花冠は長さ5～7mmの歪んだ壺型で先はごく浅く5裂する。花柄には腺毛が多い。冷温帯から亜寒帯の林内に生育する。都内では西多摩の高標高地の尾根部に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■特記事項：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



奥多摩町 2022年5月19日

アカヤシオ

Rhododendron pentaphyllum var. *nikoense*

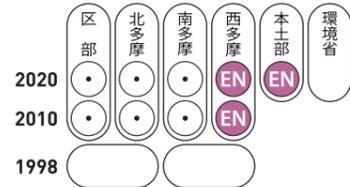
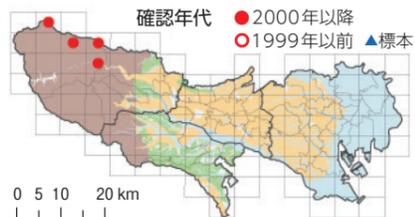
被子植物
ツツジ科

■種の特性と生育状況：本州（福島以西～三重県）の太平洋側に分布する落葉小高木。高さ2～6m。葉は枝先に5個集まる。葉先は短くとがり、縁に毛が生える。花は葉が展葉する前に開花し、花冠は淡紅紫色、雄しべは10個。花柄に腺毛がある。さく果は長さ15～25mm。花期は4～5月。山地の岩の多い斜面や尾根部の自然林に生育する。都内では主に多摩川より北側の西多摩の山地尾根部に分布する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失。植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■特記事項：アケボノツツジの変種。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



奥多摩町 2019年4月25日

シロヤシオ

Rhododendron quinquefolium

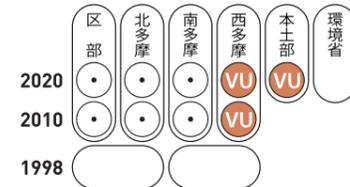
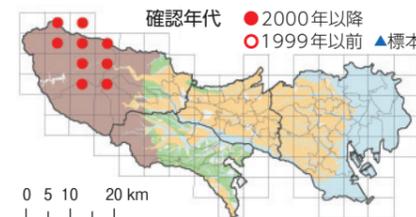
被子植物
ツツジ科

■種の特性と生育状況：本州（岩手県以南の太平洋側）、四国に分布する落葉小高木。高さ4～7m。樹皮はうろこ状、上方でよく分枝する。葉は枝先に5個集まってつく。葉の縁は紅色を帯び、細かい毛が密生する。花は展葉とほぼ同時。花冠は白色、径3～4cm、雄しべは10個。さく果は卵形。花期は5月。山地の岩場や急斜面に生育する。都内では西多摩の山地の尾根部に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失。植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■特記事項：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



青梅市 2002年5月8日

スノキ

Vaccinium smallii var. *glabrum*

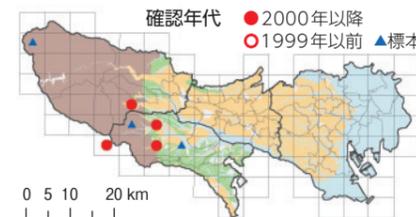
被子植物
ツツジ科

■種の特性と生育状況：関東地方、中部地方（山梨県・長野県南部・静岡県東部）に分布する落葉低木。高さ1mほど。若枝にはやや稜がある。葉は楕円形で、長さ1.3～3.5cm。前年の枝先についた花芽から伸びた総状花序に1～4個の花をつける。花期は6～7月。果実は球形で、黒熟する。南多摩と西多摩の丘陵から山地の林縁に点在する。北多摩では過去の記録はあるが、現状が不明である。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 4, 65, 243, 270, 290



八王子市 2015年4月22日

オオアリドオシ(ニセジュズネノキ)

Damnacanthus indicus subsp. *major*

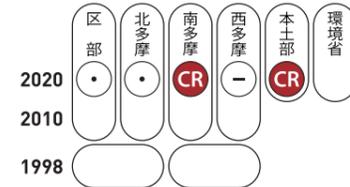
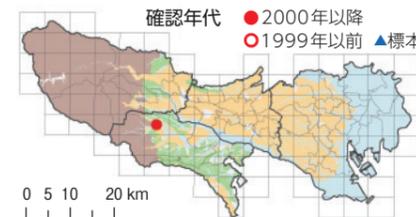
被子植物
アカネ科

■種の特性と生育状況：本州（関東地方以西）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑低木。高さ50～100cm、葉は革質、卵形で鋭頭または鋭尖頭。枝に刺があり、普通葉に十字対生するように出る。刺は葉の長さの半長以下で、葉の2/3より長いアリドオシと区別する。南多摩の丘陵で常緑樹林内にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 65, 243



八王子市 2020年11月29日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	EN	-	EN
2010	EX	CR	VU	-	-
1998	A	A			



日野市 1985年10月12日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	•	EX	VU
2010	EX	EX	•	•	•
1998	D				



群馬県 2001年5月26日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	CR	CR
2010	EX	CR	CR	EN	
1998	A	A			



八王子市 1984年6月14日

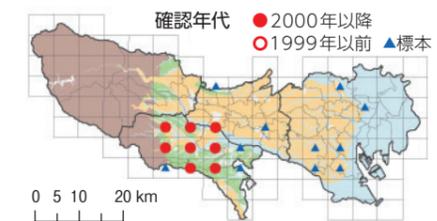
ヤブムグラ *Galium niewiczii* 被子植物 アカネ科

■種の特性と生育状況：本州（千葉、東京、神奈川）に分布する多年草。全草にクマリン臭がある。茎はつる状で長さ40～60cm。茎葉には刺状の毛はない。葉は4～5個輪生し、長さ1～1.5cm。花は細長い花序につき、白色で径1.5mm、花冠は4裂。果実は無毛。花期は8月。北多摩や南多摩の多湿な草地や林縁に、ごく稀に生育する。区部でも過去の記録があるが、絶滅したと考えられる。

■生存を脅かす要因：森林伐採、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 80, 243, 290



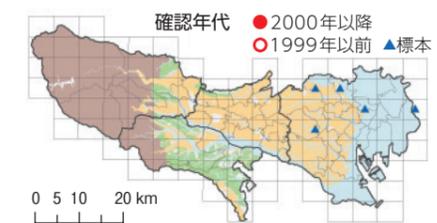
ハナムグラ *Galium tokyoense* 被子植物 アカネ科

■種の特性と生育状況：本州（関東、中部）に分布する多年草。茎は高さ30～50cm。葉は4～6個輪生し、長さ1～3cm。茎の上端に細い柄を出して、多数の花をつける。花冠は白色、4裂し、径2mm。果実は無毛。花期は6～7月。低地の湿原に群生するが、過去に記録のある区部や北多摩では絶滅したと考えられる。

■生存を脅かす要因：森林伐採、遷移進行・植生変化。

■特記事項：区部をはじめ、本来生育環境がない西多摩や南多摩からも未確認の生育情報があり、現状確認が必要である。形態が類似する外来種シラホシムグラの分布が広がっていることもあり、注意が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 270



ホソバノヨツバムグラ *Galium trifidum* var. *brevipedunculatum* 被子植物 アカネ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は斜上し、高さ30～50cm。葉は4個輪生。花はごく小型で径1mm、花冠は3裂。果実は無毛。花期は5～7月。山地の沢沿いの林内や湿地に生え、小群落を構成する。都内本土部の各地で記録があるが、区部・北多摩・南多摩は絶滅したと考えられる。西多摩はごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：湿地開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：西多摩では青梅市の記録があるが、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 28, 105, 243



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	-	EN	NT	NT
2010	EX	-	CR	VU	
1998			A		



岩手県 1998年5月30日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EN	-	EN	VU	EN
2010	VU	-	VU	VU	
1998			B		



八王子市 2002年4月18日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	EN	NT	EN
2010					
1998					



町田市 2009年7月3日

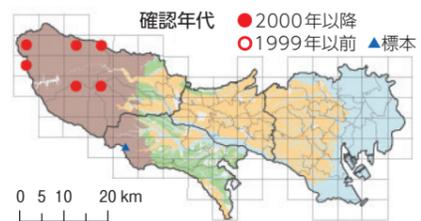
クマムグラ *Galium japonicum* 被子植物 アカネ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ20～50cm。葉は6個輪生、披針形で先はとがる。花は白色、花冠は4裂し、径2.5mm。果実はかぎ状の毛を密生する。花期は5～7月。山地の明るい林内から林縁に生育する。南多摩や西多摩の山地の樹林内にごく稀。区部に過去の記録があるが、絶滅したと考えられる。

■生存を脅かす要因：森林伐採、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243, 270



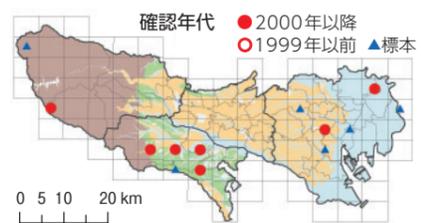
キクムグラ *Galium kikumugura* 被子植物 アカネ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は軟らかく、高さ約30cm。葉は4個輪生。花柄に1個の目立つ苞がある。花は枝先に1～3個つく。花冠は4裂し、径1mm。果実は上向きの曲がった毛が密に生える。花期は5～6月。区部や南多摩、西多摩の低地から丘陵、山地の草原、林縁に局所的に群生する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 202, 243



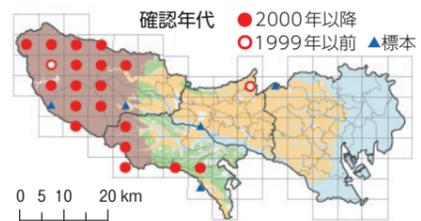
キヌタソウ *Galium kinuta* 被子植物 アカネ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草。茎は直立して30～60cm。葉は4枚輪生して、柄がなく、卵状披針形または卵形で、長さ2～8cm。3本の目立つ脈がある。茎上部に集散花序をつくり、まばらに多数の白色の花をつける。都内本土部の各地に分布するが、区部では絶滅したと考えられる。北多摩や南多摩では稀。西多摩は各地でみられ、特に石灰岩地が多い。

■生存を脅かす要因：森林伐採、遷移進行・植生変化。

■特記事項：ニホンジカが高密度に生息する地域でも、矮性化して存続している。

執筆者 御手洗望
文献一覧 4, 65, 105, 243



カワラマツバ *Galium verum*

被子植物
アカネ科

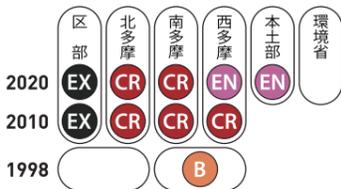
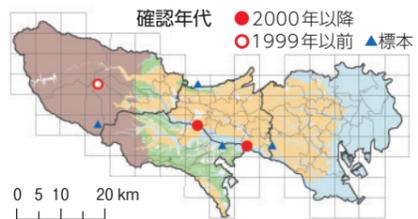
■種の特性と生育状況：キバナカワラマツバを含む。北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は直立し高さ50～80cm、軟毛がある。葉は8～10個輪生し、極めて細い。花は円錐状に多数つき、白色または黄色。花冠は4裂、径2mm。果実は無毛。花期は6～9月。低地から山地にかけての草原や芝草地、河川敷等に生育する。多摩部ではごく稀。区部では絶滅したと考えられる。

■生存を脅かす要因：河川開発、湿地開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 28, 243



奥多摩町 1990年9月19日

ツルアリドオシ *Mitchella undulata*

被子植物
アカネ科

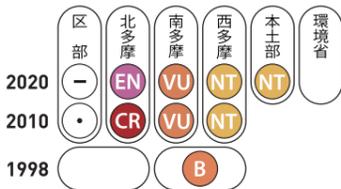
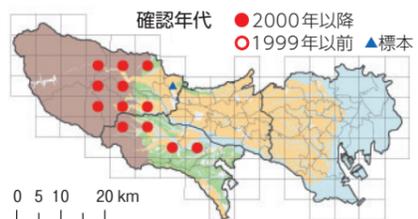
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は這い、長さ20～40cm。葉は対生、卵形、常緑で光沢がある。花は2個接してつく。花冠は白色、漏斗状で先端は4裂し、内面に毛がある。果実は石果で赤く熟す。花期は6月。丘陵地から山地にかけて、針葉樹植林地や二次林の林床に生育する。しばしばマット状になる。北多摩ではごく稀だが、南多摩や西多摩では各地に存続している。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、不適切な環境管理、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243



青梅市 2021年6月8日

フタバムグラ *Oldenlandia brachypoda*

被子植物
アカネ科

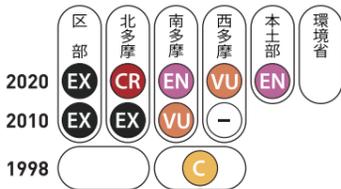
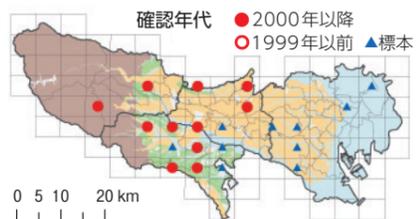
■種の特性と生育状況：本州、四国、九州、南西諸島に分布する一年草。茎は基部から枝分かれして長さ10～25cm。葉は対生し線形。花は茎頂に少数つき白色。花冠は筒状で4裂。果実はさく果で球形。花期は9～10月。主に湿地や水田周辺に生育する。都内本土部でごく稀にみられる。

■生存を脅かす要因：湿地開発、草地開発、管理放棄。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 203, 243, 309



八王子市 2019年8月12日

イナモリソウ *Pseudopyxis depressa*

被子植物
アカネ科

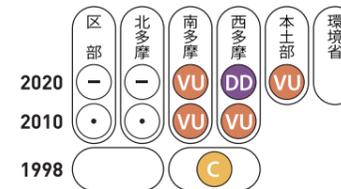
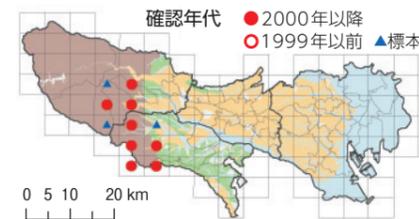
■種の特性と生育状況：本州（関東南部以西）、四国、九州に分布する多年草。高さ3～5cm。葉は対生、卵形で2対ほど地際に広げる。花は葉腋に1～2個つく。花冠は紅紫色、基部は筒状で先端は5裂する。さく果に萼片が残る。花期は5～6月。不安定な斜面地などに生育する。南多摩や西多摩の二次林林床などに生育する。西多摩ではごく稀。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ。

■特記事項：西多摩での近年の生育状況が不明のため、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 59, 243



八王子市 2006年6月9日

シロバナイナモリソウ *Pseudopyxis heterophylla*

被子植物
アカネ科

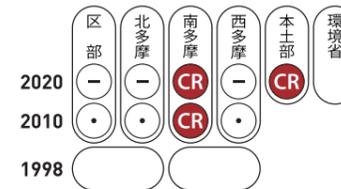
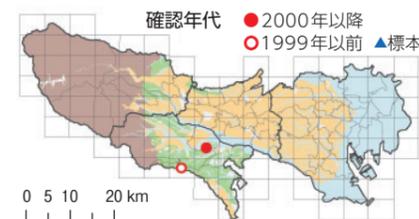
■種の特性と生育状況：本州（関東南部から近畿）に分布する多年草。高さ15～30cm。葉はまばらに対生する。花冠は白色、基部は筒状で先端は5裂。花糸は突き出る。さく果は萼に包まれ横を向く。花期は7～8月。不安定な斜面地などに生育する。南多摩の丘陵の陰湿な林縁等に、ごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 243, 265



八王子市 2012年7月3日

オオアカネ *Rubia hexaphylla*

被子植物
アカネ科

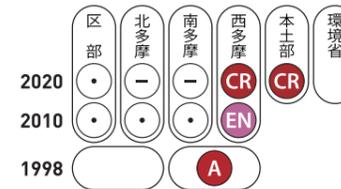
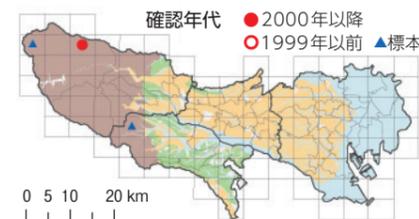
■種の特性と生育状況：本州（関東北部から中部）、九州（北部）に分布するつる性の多年草。葉は6～8個輪生、卵形で基部は心形、先は尾状にとがる。花は集散花序につき、黄緑色、径3mm。液果は黒熟する。花期は7～9月。西多摩の山地の二次林内や林縁にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：シカの食害。

■特記事項：現況を把握する必要があるが、アカネ R. argyi との区別が難しい個体もあり、留意が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 152, 170



リンドウ

Gentiana scabra var. *buergeri*

被子植物
リンドウ科

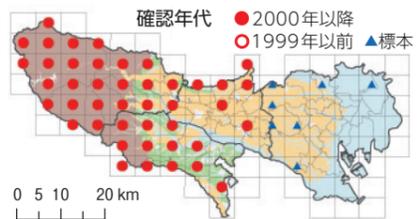
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、南西諸島に分布する多年草。茎は直立し、高さ20～100cm。葉は対生、卵状披針形で3脈が目立ち、先は長くとり、柄はない。花期は9～11月。花は莖頂および上部の葉腋につく。花冠は紫色、先は5裂し、副片は三角形で小歯がある。二次林の林縁や草地、がれ場に生育する。都内本土部の低地から山地まで広く分布するが、区部では近年の状況が不明である。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：区部での現状の把握が必要である。

執筆 御手洗望

文献一覧 4, 65, 105, 161, 243



町田市 2019年11月17日 © 内野秀重

コケリンドウ

Gentiana squarrosa

被子植物
リンドウ科

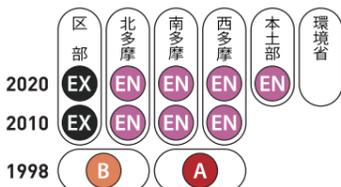
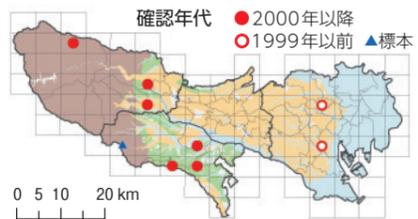
■ **種の特性と生育状況**：本州、九州に分布する二年草。高さ2～10cm。茎は基部から分枝して叢生する。ロゼット葉は厚い。莖葉は対生。花冠は長さ12～15mm、淡い青色を帯びる。萼裂片は卵形。さく果に長い柄がある。花期は3～5月。丘陵の草原や芝草に生育する。区部は過去に記録があるが、絶滅したと考えられる。多摩部は丘陵にごく稀。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 御手洗望

文献一覧 170, 243, 270



八王子市 1985年5月15日

ハルリンドウ

Gentiana thunbergii

被子植物
リンドウ科

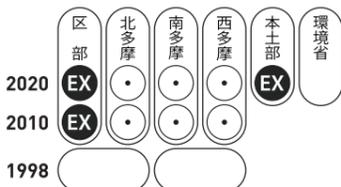
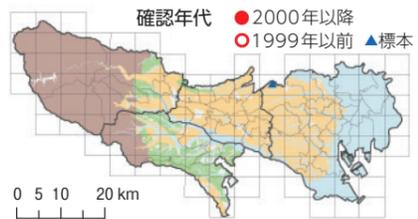
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する二年草。根葉はロゼット状。高さ5～15cm。莖葉は卵状披針形。花は莖の頂きに1個つく。萼裂片は菱形で反曲しない。花冠は淡青紫色で、長さ2～3cm。花期は3～5月。やや湿った芝草に生育する。区部で過去の記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 御手洗望

文献一覧 270



1980年5月4日

チチブリンドウ

Gentianopsis contorta

被子植物
リンドウ科

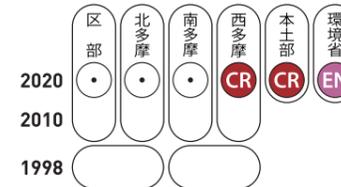
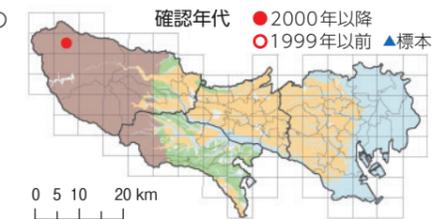
■ **種の特性と生育状況**：本州（秩父山地・南アルプスの一部・伊吹山）に希産する一年草または越年草。茎は高さ8～15cm、単一またはわずかに分枝し、円く、狭い膜質の翼がある。莖葉は対生し、卵状楕円形で長さ10～15cm。花冠は薄紫色で筒状、長さ2cm内外。深山の石灰岩地の湿った林床などに生育する。都内では西多摩の石灰岩地に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化や石灰採掘などによる生育地の破壊が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：年により出現する株数の増減の変動が大きい。現在確認されている都内の生育地は比較的人の手が入った場所であり、今後の生育地の改変による影響が懸念される。

執筆 田畑伊織

文献一覧 321



奥多摩町 2019年9月10日 © 田畑伊織

ハナイカリ

Halenia corniculata

被子植物
リンドウ科

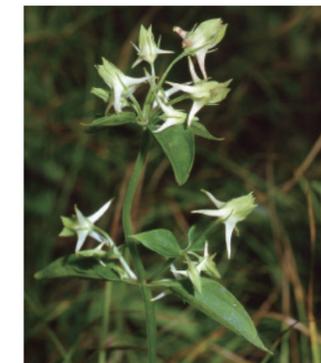
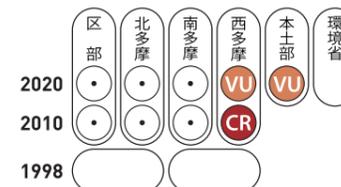
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草または二年草。茎は直立し、高さ10～60cm、やや分枝し、四稜がある。葉は対生し、長楕円形で先端が鋭くとがり3脈がある。花は薄黄色。4数性。花冠は狭い卵形。花期は9月。西多摩の山地上部の防火帯の草原にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害、局所分布。

■ **特記事項**：

執筆 御手洗望

文献一覧 152, 170



山梨県 1980年8月16日

ホソバナツルリンドウ

Pterygocalyx volubilis

被子植物
リンドウ科

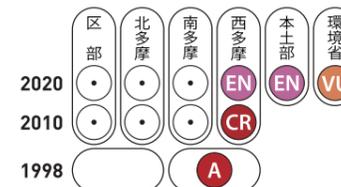
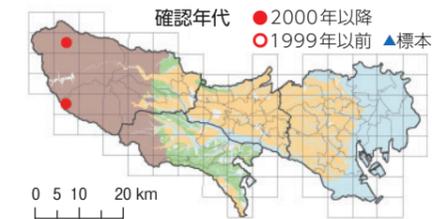
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国に分布する一年草。茎はつる性で繊細。他のものに巻きつきながら高さ1m内外になる。葉は対生し、扁平な線状。葉裏は紫色にならない。花冠は長さ3～3.5cm、先端は4裂する。花は白色～青紫色を帯びる。さく果は長さ約1cm。花期は9～10月。山地の林縁や藪に生育する。都内では西多摩の山地に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、森林伐採、遷移進行・植生変化。山林の改変などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

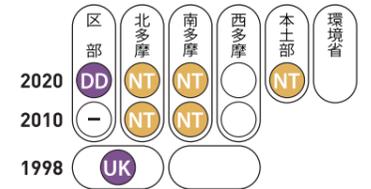
■ **特記事項**：

執筆 田畑伊織

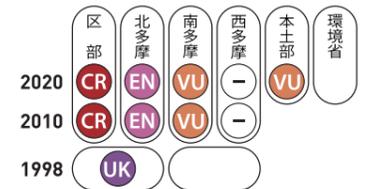
文献一覧 65



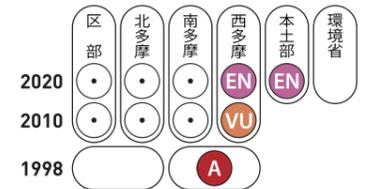
檜原村 2020年10月30日 © 田畑伊織



あきる野市 2018年10月31日 ©内野秀重



八王子市 2014年10月24日



三重県 1999年8月15日

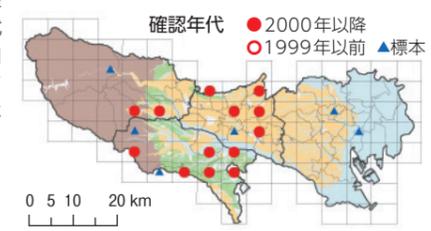
アズマザサ *Sasaella ramosa* 被子植物 イネ科

■種の特性と生育状況：本州および九州の主に太平洋側の平地～山地に分布する多年生常緑ササ類。林縁や林床、川岸などに生育する。根茎は地中を這い、毎年新しい茎を出す。茎は高さ1～2mで直立。節からは通常1本の枝が出て、枝先に3～7枚の葉を付ける。葉は長さ20～25cmで、裏面に軟毛が密生する。円錐花序には長い柄がある。花期は5月。都内では、多摩地域の山地林内や台地、丘陵地の疎林内、川岸などに群落が局在するが少ない。ただし、西多摩においては丘陵地から低山地に広く分布し、生育も安定している。一方で、区部の分布状況については情報が不足している。

■生存を脅かす要因：平地林や斜面林の伐採や改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項：東京都本土部全域での再確認が望まれる。加えて、本種の基準産地が北多摩の武蔵野地域であることから、特にこの地域での自生地の保全は急務である。なお、和名が混同されやすいアズマネザサ (*Pleiolobus chino*) は本種とは別属異種であり、注意を要する。

執筆者 小林健人
文献一覧 17, 25, 28, 105, 243, 270



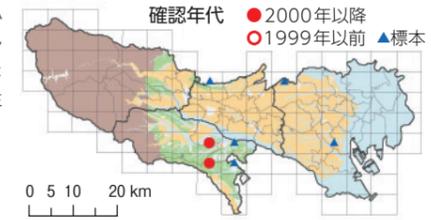
ヒゲシバ *Sporobolus japonicus* 被子植物 イネ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の丘陵地から低山地に分布する一年生草本。ローム層の露出した粘土質の湿性裸地や低草草地、湿った造成草地などに生育する。全草に微細な腺点が散生する。茎は高さ5～25cmで直立し、枝が無いが、まばらに枝を分ける。葉は狭披針形で長さ2～7cm、縁に腺点および基部の膨らんだ硬い長毛が疎生する。円錐花序の枝は短く直立し、1小花からなる小穂が密に並ぶことから、穂状花序のように見える。花期は8～10月。都内では、西多摩を除く地域の丘陵地から低山地にかけて分布するが、自生地は限られる。特に区部においては減少が著しく、近年は報告が途絶えていることから、絶滅した可能性がある。

■生存を脅かす要因：湿地や芝草草地の減少が生存を脅かす主な要因であると考えられるが、生活史や生態に不明な点が多い。

■特記事項：定期的な草刈りの実施など、湿性草草地を適切に維持することが望ましい。なお、植物体が小型で目に付きにくいので、同所的に生えることの多いウシクサやコブナグサの群落を手掛かりとするなど、丁寧な調査を行うことで、都市公園等でも自生地の再発見が期待できる。

執筆者 小林健人
文献一覧 17, 25, 196, 243, 249, 270



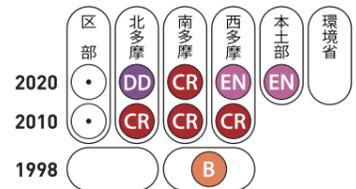
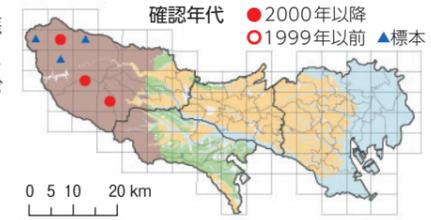
ヒロハノハネガヤ *Stipa coreana var. kengii* 被子植物 イネ科

■種の特性と生育状況：全国の山地に分布する日本固有の多年生草本。林縁草地や樹林下などに生育する。茎は高さ60～100cmで直立し、少数が束生する。葉は扁平で長さ10～30cm。円錐花序は直立し、少数の直立する枝を分けるが、小穂が軸に圧着して付くことから総状花序に見える。小穂は1小花からなる。護穎は有毛で3脈を持ち、先端部から長さ2～3cmの直立した太い芒が出る。花期は8～9月。同属のハネガヤとは、花序が閉じて穂状～総状に見えることにより容易に区別できる。都内では、主に西多摩の高標高地の林縁草地等に分布するが、産地は限られる。

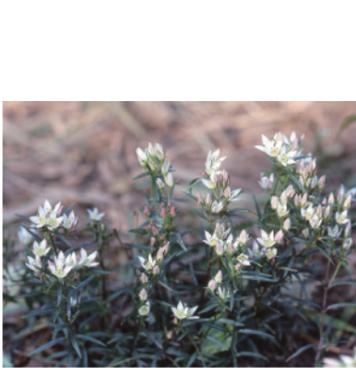
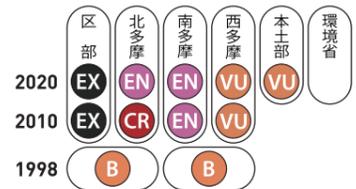
■生存を脅かす要因：森林の開発や草地の植生遷移の進行が生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項：植生遷移の進行や森林環境の荒廃が生じないよう、自生地のモニタリングおよび適切な管理を継続し、保全に努めることが望ましい。

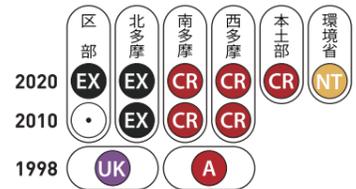
執筆者 小林健人
文献一覧 28, 152, 166, 168, 173, 218



奥多摩町 1990年9月19日



八王子市 1993年10月26日



八王子市 1996年10月24日

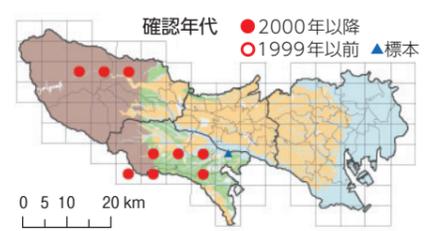
アケボノソウ *Swertia bimaculata* 被子植物 リンドウ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草または二年草。高さ50～80cm。ロゼット葉は大型、花時には枯れる。茎葉は対生。花冠は白色で上半に濃い緑色の斑点がある。腺体は2個で黄緑色。花期は9～10月。南多摩と西多摩の丘陵から山地の湿った岩場や草地にごく稀に生育する。北多摩では過去の記録があるが場所の記載がなく、現状が不明である。

■生存を脅かす要因：河川開発、湿地開発、採取。園芸目的の採取の対象となり、生存が脅かされている。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243



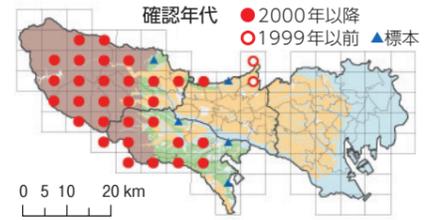
センブリ *Swertia japonica* 被子植物 リンドウ科

■種の特性と生育状況：北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する一年草または二年草。高さ5～20cm。全体紫色を帯びる。葉は対生し、線形。花は円錐花序に密につく。花冠は白色で紫色の脈がある。花期は8～10月。葉に強い苦味がある。多摩部の丘陵から山地の乾いた草地、伐採跡地などに生育する。区部では絶滅したと考えられる。

■生存を脅かす要因：採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。薬用植物として採取されることが生存を脅かす要因の一つと考えられる。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 105, 170, 243



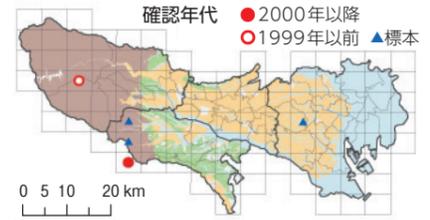
ムラサキセンブリ *Swertia pseudochinensis* 被子植物 リンドウ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州に分布する一年草または二年草。高さ50～70cm。茎は暗紫色を帯びる。葉は線形。花冠は青紫色、5数性。花冠の裂片に濃い色の脈がある。さく果は広披針形。花期は8～10月。南多摩と西多摩の山地の明るい二次林の林縁や草地にごく稀に生育する。区部と北多摩には過去の記録があるが、絶滅したと考えられる。

■生存を脅かす要因：採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 152, 170, 243, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	CR	CR	CR
2010	-	-	EN	-	-
1998	C				



奥多摩町 2020年9月10日 © 内野秀重

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	•	•	EN	EN
2010	•	•	•	VU	VU
1998			C		



奥多摩町 2018年5月29日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	EX	CR	CR	VU
2010	•	VU	EN	EN	
1998	B		B		



八王子市 2003年6月5日

コカモメヅル 被子植物 キョウチクトウ科

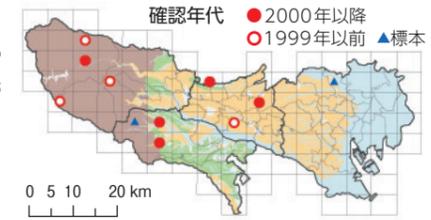
Tylophora floribunda

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布するつる性の多年草で、二次林の林縁や原野などに生育する。茎は細い。葉は対生し、卵状披針形で基部は著しく心形となる。花期は7～8月。花冠は径4～5mm、暗紫色で5裂する。袋果は2個、水平に開出する。都内では各地から記録があるが、区部では絶滅、多摩部でもごく限られた場所に残存するだけの危機的な状況となっている。

■生存を脅かす要因：東京都は本種の分布東限域に近く、都内の自生地はもとより限られていたものと推測される。それに加えて、明るい林縁草地や草原環境が失われ、自生地がさらに減少していったものと考えられる

■特記事項：本種はかつてコバノカモメヅルと混同されてきた経緯があり、記録や報告があるが実態不明な場所が少なくない。都内における分布実態を再調査する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 173, 290



クサタチバナ 被子植物 キョウチクトウ科

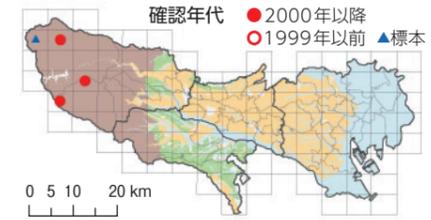
Vincetoxicum acuminatum

■種の特性と生育状況：関東地方から四国、九州に分布する多年草で、山地の落葉樹林内に生育する。茎は直立し、高さ30～60cm。葉は対生、卵形で先は尖る。花期は6月。花は茎頂に集まり白色。花冠は5裂径2cm。果実は袋果で長さ約5cm。都内では西部山地の自然林内に稀に見られる。

■生存を脅かす要因：生育環境が山地の落葉樹林の林間草地であり、さらに、樹林化による環境変化などにより自生地が局限まで減少したものと考えられる。植生遷移に留意して本種の生育環境を保全する必要がある

■特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 173



フナバラソウ 被子植物 キョウチクトウ科

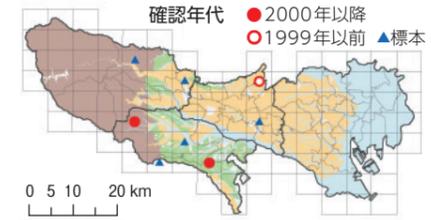
Vincetoxicum atratum

■種の特性と生育状況：広く、北海道から本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の落葉樹林内に生育する。全体密に軟毛がある。高さ40～80cm。葉は対生、裏面の脈が著しい。花期は5～6月。花は濃褐紫色。花冠は5裂。袋果は7～8cm。都内では西部山地の自然林内にきわめて稀に見られるだけで、北多摩では絶滅、南多摩の丘陵部では近年、確認できない状況となっている。

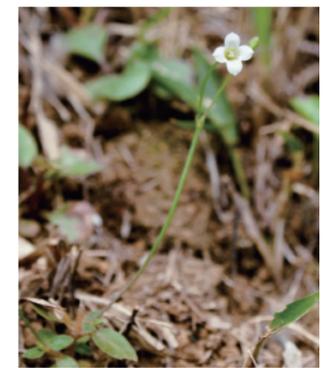
■生存を脅かす要因：生育環境が都市近郊の農村の林縁、低山地の草地などであり、こうした場所の開発、管理放棄による草地環境の変化が本種の生育基盤を悪化させたものと考えられる。

■特記事項：園芸目的の採取の可能性もある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 224, 259, 270



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	EN	EN	DD	EN
2010	EX	EN	EN	EN	
1998	A	A			



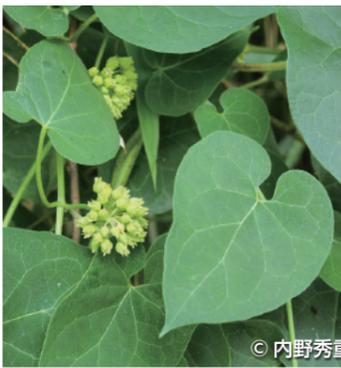
八王子市 2019年9月28日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	•	•	EX	NT
2010	EW	EX	•	•	
1998	D				



栃木県産植栽 2022年4月28日 © 内野秀重

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	EN	EN	VU	VU
2010	•	EX	VU	VU	
1998	B				



八王子市 2021年6月22日 © 内野秀重

アイナエ 被子植物 マチン科

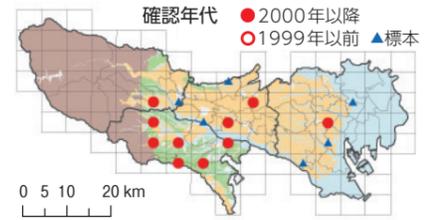
Mitrasacme pygmaea

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州および南西諸島に分布する一年草で、丘陵地の草原や芝地に生育する。高さ5～15cm。茎はごく繊細、下部に数対の葉が対生につく。葉身は卵形。花は枝先に数個、やや輪状に付く。花期は8～10月。花冠は白色。径約3mm。さく果は卵形。都内では区部、多摩部の丘陵地の日の当たる裸地や農道脇などに見られる。

■生存を脅かす要因：生育環境は都市近郊の公園等の芝地から郊外の耕作地周辺までに及ぶが、いずれも定期的な草刈りが維持された低草地であり、地域的開発による自生地の消滅だけでなく、管理の停止による植生遷移の進行も本種の自生地激滅の要因となったものと考えられる。

■特記事項：本種は、植物体が小さいことから自生地が見逃され、都内全域の生育状況が十分に把握されていない可能性が高い。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 203, 243



チョウジソウ 被子植物 キョウチクトウ科

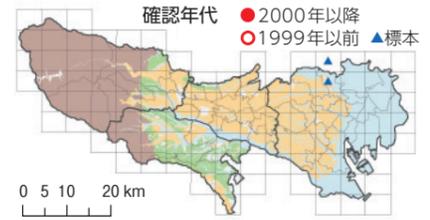
Amsonia elliptica

■種の特性と生育状況：広く、北海道から九州にかけて分布する多年草で、河畔の湿地に生育する。茎は直立し、高さ40～80cm。葉は披針形、花期は5～6月。花は茎の先端に集まる。花冠は青色、高杯形で5裂する。果実は細長い柱状で2個ずつ付く。都内では区部に記録があるものの絶滅と考えられる。

■生存を脅かす要因：生育環境が河畔の湿地のため、土地造成などで絶滅したものと考えられる。鑑賞用に栽培されることもあり、園芸目的の採取がされやすい。

■特記事項：再発見の場合には、生育地の管理（草刈り、外来種の除去など）を継続するなど、個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 270



コイケマ 被子植物 キョウチクトウ科

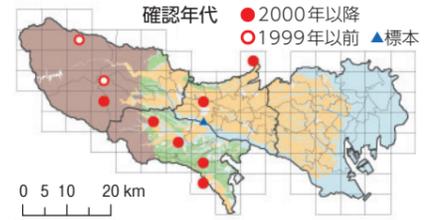
Cynanchum wilfordii

■種の特性と生育状況：関東地方から四国、九州に分布するつる性の多年草で、山地の二次林や林縁に生育する。葉は対生し、心円形。花期は7～8月。花は葉柄より短い柄の先に散形に集まり、淡黄緑色。花冠は5裂するがほとんど開かず、裂片は反曲しない。都内では多摩部の丘陵地から山地の明るい二次林の林縁に散生するが、近年、南多摩などで新たな生育地が見つかる事例も見られる。

■生存を脅かす要因：生育環境が林縁や草地のため、樹林の荒廃やのり面造成、外来種の繁茂など、複合的要因により減少することから、土地造成に際して保全対策が必要である。

■特記事項：つる植物のため、競合する植物の除去など個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 173



ツルガシワ

Vincetoxicum macrophyllum var. *nikoense*

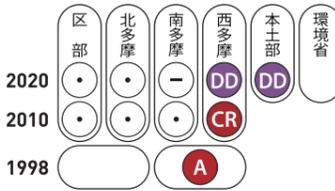
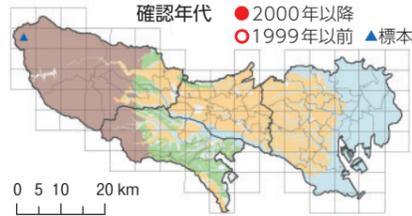
被子植物
キョウチクトウ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方より四国、九州に分布する多年草で、山地の落葉樹林内に生育する。高さ50～100cm、上部はつる状になる。葉は対生、数対まばらにつく。花期は5～6月。花は散形に多数付き、小形で径6～8mm。果実に毛が多い。ツクシガシワの変種である。都内では西多摩だけに分布が知られ、奥多摩は日原の山域から報告があるが、近年生育情報は得られず、現状不明である。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は奥多摩の日原地域に局限されており、山域の大規模な石灰岩開発などにより、現状が不明となっている。

■ **特記事項**：近年、南多摩でも未確認の情報があり、実態調査が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 173



群馬県 1984年7月22日

タチガシワ

Vincetoxicum magnificum

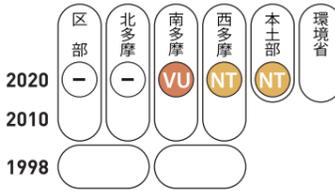
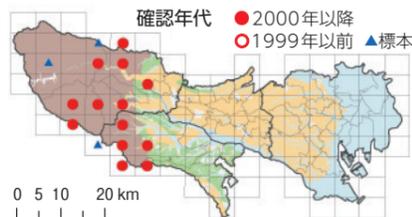
被子植物
キョウチクトウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する多年草で、山地の林内に生育する。茎は高さ30～60cm。葉は広卵形で茎頂に数対つく。花は茎の先端に集まって付く。花期は5～6月。花冠は深く5裂し、緑褐色。都内では南多摩以西で、低山地の谷筋などに分布する。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境が谷筋の自然林樹下であり、残土処理による埋立て、植生遷移の進行、伐採材や風倒木の積載等により、個体数を減じているものと考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 65, 270



八王子市 2007年5月4日

スズサイコ

Vincetoxicum pycnostelma

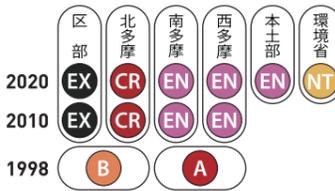
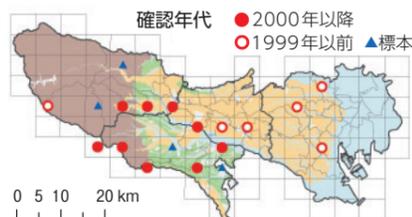
被子植物
キョウチクトウ科

■ **種の特性と生育状況**：広く北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で丘陵地の適湿な草地に生育する。茎は直立してきわめて細く、高さ40～100cm。葉は対生し細い。花は長い柄の先に、数個集まる。花期は7～8月で、夜間から早朝にかけて咲く。花冠は5裂し、黄褐色。果実は披針形。都内では区部では絶滅、低地の河川堤防や丘陵地の谷戸草地などに生育地が残されている。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成はもとより、草地の管理の停止、谷戸の耕作地放棄などにより、樹林化が進行し、生育に適した環境が短期間に失われることが明らかとなっている。生育地の管理（草刈り、火入れなど）を継続する必要がある。

■ **特記事項**：園芸目的の採取や、鑑賞目的とした草地環境の踏み荒らしも各地で問題となっている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 264, 289



日野市 2021年6月21日

ジョウシュウカモメヅル

Vincetoxicum sublanceolatum var. *auriculatum*

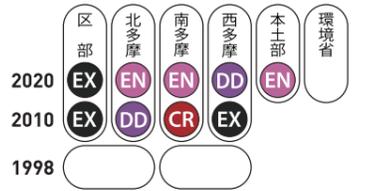
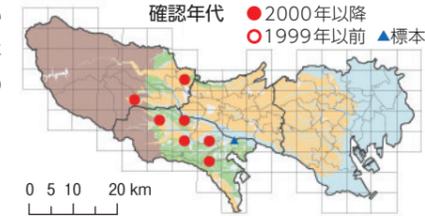
被子植物
キョウチクトウ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方から近畿地方に分布するつる性の多年草で山地の二次林などの林縁草地に生育する。葉は対生、楕円状披針形。花は花柄の先に散形状に付く。花期は5～6月。花色は暗紫色。コバノカモメヅルの変種で、基本種より花が大きい。都内では区部で絶滅、南多摩から西多摩にかけての丘陵地の林縁草地に点在している。また、北多摩での分布については不明な点が多い。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境が里山の二次林縁や草地、河川堤防などである。開発されやすい場所のため、土地造成に際して保全対策が必要であるとともに、定期的な草地の管理などを継続する必要がある。

■ **特記事項**：コバノカモメヅルと誤認しやすいが、本種の花冠裂片は細く伸長して花径は20mm以上となり、葉も長大となる。花冠の緑黄色品もある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 65, 194, 247



町田市 2009年9月1日

シロバナカモメヅル

Vincetoxicum sublanceolatum var. *macranthum*

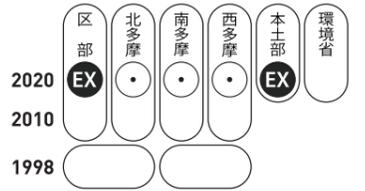
被子植物
キョウチクトウ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道から近畿地方に分布する多年草で、山麓の林縁に生育する。茎はつるになって長くのびる。葉は対生し、大型で長さ約10cm、幅2～3cmある。花期は6月。花は緑黄白色、直径2～3cm。袋果は披針形。コバノカモメヅルの変種である。都内では区部、豊島区の目白に記録があるが、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：従来から稀産な植物であったうえに開発により消滅したものと考えられる。

■ **特記事項**：都市化したエリアだが、断片的に緑地等の残るエリアであり、再発見の可能性は残されている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 65, 270



福島県 2012年7月28日

サワルリソウ

Ancistrocarya japonica

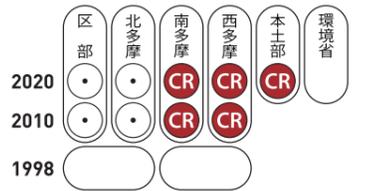
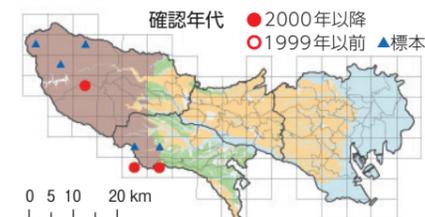
被子植物
ムラサキ科

■ **種の特性と生育状況**：関東以西、四国、九州に分布する多年草で、山地の二次林や林縁に生育する。高さ50～80cm。葉は長楕円形、先端は尖り、基部は細くなる。花は茎の先端に数個つく。花期は5～6月。花冠は青紫色、筒状で長さ約1cm、先端は5裂する。分果は灰白色。都内では西部山地を中心に分布する。

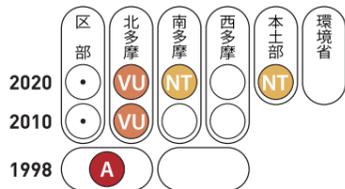
■ **生存を脅かす要因**：生育環境が渓谷沿いの湿潤地であるため、土地造成や森林伐採に際して保全対策が必要である。生育地の管理（草刈りなど）を継続する必要がある。

■ **特記事項**：個体数が少ないため、競合する雑草の除去など個別的な管理が必要である。本種はシカ不嗜好性植物として知られている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 220, 243, 247



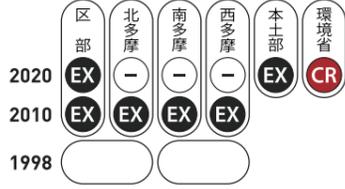
八王子市 1979年6月1日



八王子市 1997年4月9日



長野県 1992年6月13日



ヤマドリソウ

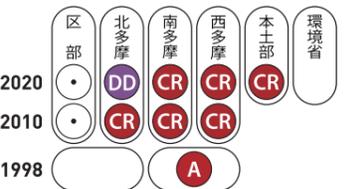
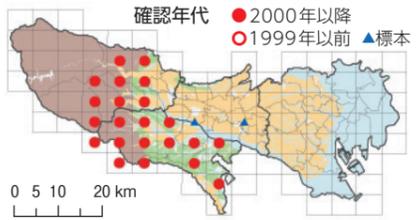
Nihon japonica

■種の特性と生育状況：福島県以南、四国、九州に分布する多年草で、山地から丘陵地の二次林林縁などに生育する。根出葉はロゼット状。茎は斜上し高さ10～15cm。花期は4～5月。花冠は淡青紫色、径約1cm。花後、萼が伸びる。分果は平滑。都内では山地においては普通にみられるが、丘陵部や台地においては、市街化とともに見る機会が失われつつある

■生存を脅かす要因：生育環境が二次林など開発されやすい場所のため、土地造成や森林伐採、また、管理放棄による植生の変化等により、生育地が失われてきたものと考えられる。

■特記事項：園芸目的の採取のおそれがある。

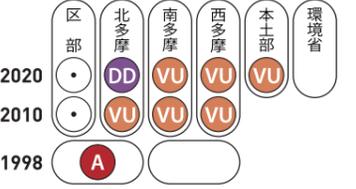
執筆者 奥田重俊
文献一覧 243, 280, 289, 316



奥多摩町



八王子市 2002年5月22日



八王子市 2022年4月12日

ルリソウ

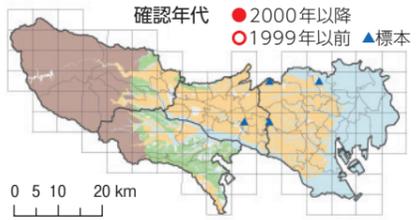
Nihon krameri

■種の特性と生育状況：北海道から本州中部地方に分布する多年草で、山地の落葉樹林内に生育する。茎は高さ20～40cm、開出毛がある。葉は互生。花序は茎の先端で2分する。花期は4～6月。花冠は濃い藍色。分果にかぎ状のとげがある。都内では区部から北多摩を中心とした採集記録が残されており、水湿地に近い樹林下などに分布していたものと考えられるが、現在は各所で絶滅している。

■生存を脅かす要因：生育環境は比較的湿潤な二次林林床であり、区部から西多摩まで広がっていたが、都市部では開発により自生地が失われ、その他の地域では、二次林の林相の変化が影響したものと考えられる。しかし、早い段階で一斉に消滅した理由はよくわかっていない。観賞・園芸目的の採取圧も影響したものと推測される。

■特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 139, 270, 290



オオルリソウ

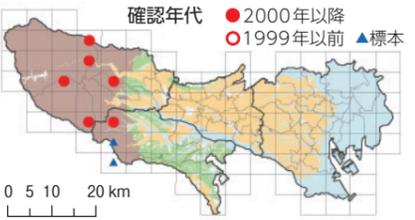
Cynoglossum furcatum var. villosulum

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の二次林林縁や路傍に生育する。茎は高さ約100cm、圧毛がある。葉は両端が尖る、花序は開出して長さ10～20cmになり多数の花をつける。花期は7～8月。花冠は青紫色、径約4mm。分果にかぎ状のとげがある。都内では西部山地を中心に分布し、採石場などにも見られる。

■生存を脅かす要因：生育環境が二次林の林縁部など、環境が改変されやすい場所のため、土地造成に際して保全対策が必要である。生育地の管理（草刈りなど）に注意する必要がある。

■特記事項：個体数が少ないため、競合する雑草の除去など個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 219, 243, 270



ムラサキ

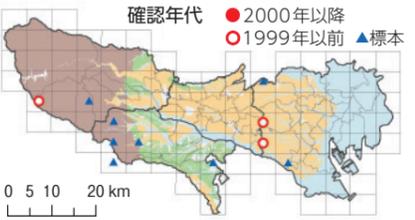
Lithospermum erythrorhizon

■種の特性と生育状況：広く、北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の乾いた草地に生育する。根は太く、色素を含む。高さ40～70cm。葉は互生し無柄、粗い毛がある。花は茎の先端の葉腋に付く。花期は6～7月。花冠は白色、高杯状で径約4mm。分果は灰白色。染料植物。都内では主に多摩丘陵以西に見られたが、現在は絶滅か野生絶滅、あるいは現状不明となっており、危機的な状況にある。

■生存を脅かす要因：生育環境が明るい草地のため、草地の開発などに際して保全対策が必要である。個体数が少ないため、生育地の管理（草刈り、選択的な除草など）個別的な管理が必要である。

■特記事項：檜原村では自生種に基づく栽培普及が取り組まれている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 25, 168, 196, 219, 269



ホタルカズラ

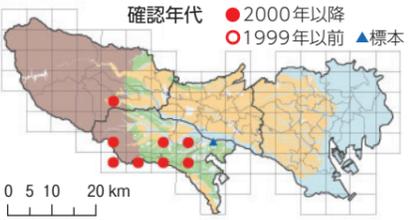
Lithospermum zollingeri

■種の特性と生育状況：広く、北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、丘陵地の乾いた草地に生育する。茎は地上を這う。葉は互生し、長さ2～6cm、表面に粗い毛がある。花は茎の先端に付く。花期は4～5月。花冠は青紫色、径15～18mm、高杯状で5裂する。都内では多摩部の丘陵地から山地の二次林林縁に見られる。

■生存を脅かす要因：生育環境が谷戸斜面の草地や林道露頭などのため、道路整備やのり面緑化などにより生育基盤が失われてきた。さらに、他の植物による被圧にも弱く、定期的な草刈りの継続が必要である。

■特記事項：園芸目的の採取も考えられる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 48, 194, 219, 270



ヤマホオズキ

Physalisstrum chamaesarachoides

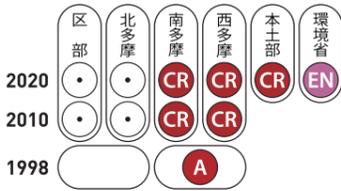
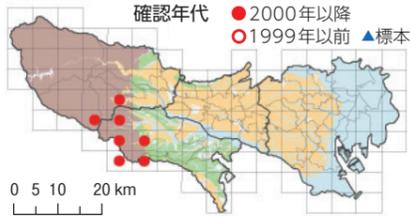
被子植物
ナス科

■種の特性と生育状況：千葉県以西の本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の斜面下部に生育する。高さ30～50cm、上部で枝分かれする。葉は卵形で薄質。花期は8～10月。花は白色、杯状で浅く5裂する。果実は突起のある萼に包まれ、黄熟する。都内では南多摩及び西多摩の低山に点在して分布する。

■生存を脅かす要因：生育環境が低山地の林間や伐採跡地などであり、樹林のギャップの出現にともなって発生する先駆種としての性格が強い。そのため、森林環境の放置や樹林管理の停滞にともなって、個体群が消失するものと考えられる。

■特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 89, 247



八王子市 2004年9月18日

イガホオズキ

Physalisstrum echinatum

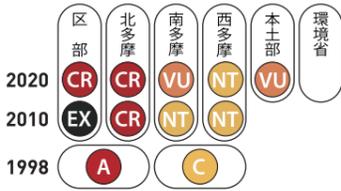
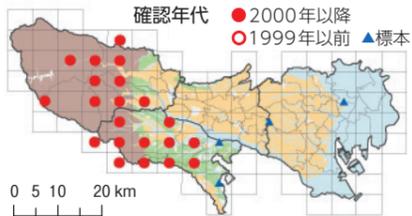
被子植物
ナス科

■種の特性と生育状況：広く北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、樹林地の伐採跡地や湿り気のある林縁草地などに生育する。高さ50～70cm。葉は卵形、まばらに軟毛がある。花期は7～10月、花冠は黄白色で広い鐘状。果実は液果で白色に熟し、突起のある萼に包まれる。都内では全域に分布するが、都市近郊では少ない。

■生存を脅かす要因：生育環境は郊外の林縁草地や伐採跡地などであり、樹林伐採などに伴って発生する先駆種の傾向が強い。二次林の放置、管理の停滞に伴って、個体群が失われたものと考えられる。

■特記事項：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 160, 243, 270, 290



八王子市 2021年9月25日

アオホオズキ

Physalisstrum japonicum

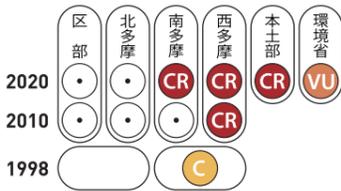
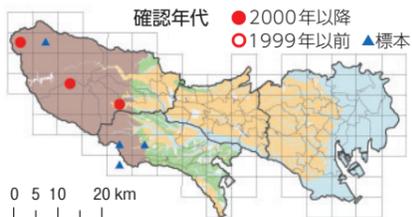
被子植物
ナス科

■種の特性と生育状況：本州の関東地方南部から四国にかけて分布する多年草で、山地に生育する。高さ30～60cm。葉は長楕円形で軟質。花は葉腋に1～2個つき、淡緑色。花期は6～7月。花冠は径1.5cm。果実は楕円形でつぼ状の萼に包まれる。都内では南多摩から西多摩にかけての低山地を中心に分布し、やや湿った林縁に生育する。

■生存を脅かす要因：生育環境が低山地の林間や伐採跡地などであり、ナス科の近似種同様、樹林のギャップの出現にともなって発生する先駆種の性格を有する。森林環境の放置、樹林管理の停滞に伴って、個体群が失われたものと考えられる。野生動物による食害の可能性もある。

■特記事項：日本固有種である。品種タカオホオズキ f. kimurae を含む。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 166, 168, 218



神奈川県 1987年5月30日

ヤマホロシ

Solanum japonense

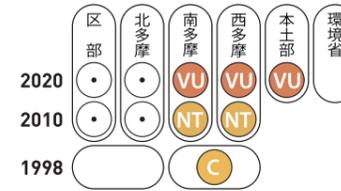
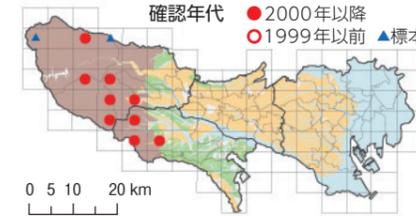
被子植物
ナス科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の林縁に生育する。茎はつる状で長さ3m程になる。葉は互生、下部の葉は3～5裂し、波状の鋸歯がある。花は淡紫色。花期は7～10月。花冠は径1cm、深く5裂する。液果は球形で赤く熟す。都内では南多摩から西多摩の山地渓谷沿いなどに稀に見いだされる。

■生存を脅かす要因：生育環境は低山地の渓谷林下などであり、谷の埋立て、管理放棄による樹林の鬱閉などにより生育環境が失われてきたものと考えられる。土地造成や森林伐採に際して保全対策が必要である。つる植物のため、競合する植物の除去など個別的な管理が必要である。

■特記事項：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 4, 168, 219, 243



山梨県 1999年9月5日

タカオホロシ

Solanum japonense var. *takaoyamense*

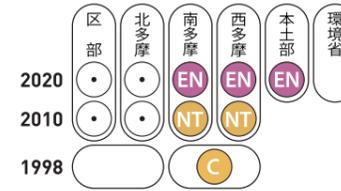
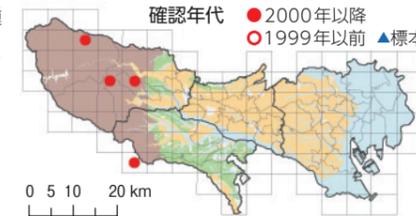
被子植物
ナス科

■種の特性と生育状況：関東地方から紀伊半島に分布する多年草で、山地の林縁に生育する。つる性で長さ3mになる。葉はヤマホロシよりさらに切れ込みが多い。花期は7～10月。花は淡紫色、花冠は5裂する。果実は広楕円形。ヤマホロシの変種。高尾山がタイプロカリティで、都内では南多摩から西多摩の山地渓谷沿いなどに稀に見いだされる。

■生存を脅かす要因：生育環境は低山地の渓谷林下などであり、ヤマホロシ同様、谷の埋立て、管理放棄による樹林の鬱閉などにより、生育環境が損なわれてきたものと推測される。土地造成や森林伐採などに際して保全対策が必要である。つる植物のため、競合する植物の除去など個別的な管理が必要である。

■特記事項：タカオホロシはヤマホロシの変種で、葉に歯牙があり果実が広楕円形となることが特徴である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 243, 247, 287



ミスハコベ

Callitriche palustris

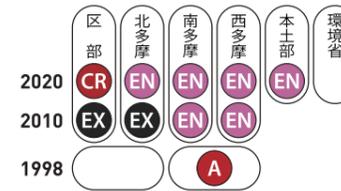
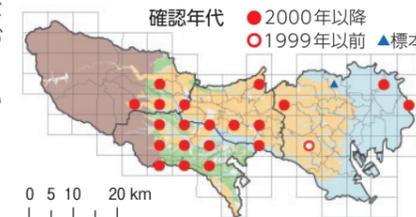
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：広く日本全域に分布する一年生の水草で、低地の湿地やため池のふちなどに生育する。全体軟弱。茎は分枝を繰り返す。水中葉は線形、水上葉はへら形。花期は5～11月。花は黄緑色、葉腋に1個つき、ごく小形で2個の苞に包まれる。都内では河川の水の緩やかな場所や用水路、水田、湿地に分布するが、水田耕作の停止などにより、自生地が失われている。

■生存を脅かす要因：生育環境は河川や水湿地のため、湿地開発、土地造成などに際して保全対策が必要である。生育地の管理(草刈りなど)を継続する必要がある。個体数が少ないため、外来種除去などの個別的な管理が必要である。水田管理においては、農薬の使用が生育に大きく影響する。

■特記事項：酷似する外来種イケノミズハコベが各地で増えているため、本種の減少に気づかないことが多く、注意を要する。イケノミズハコベは、水中葉が顕著な線形にならない点で区別できる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 14, 28, 108, 243



町田市 2022年5月25日

サウトウガラシ

Deinostema violaceum

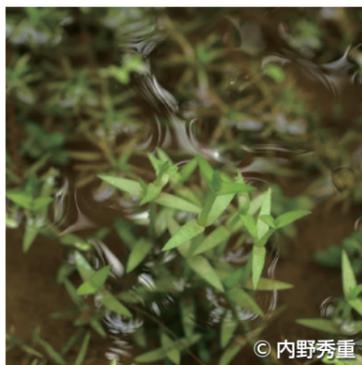
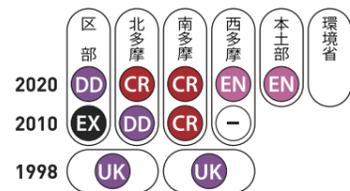
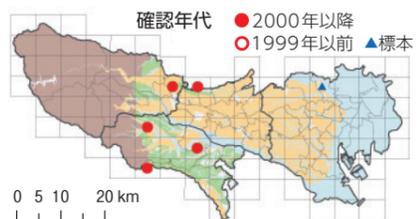
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する一年草で低地のため池や湿地、水田に生育する。高さ5～20cm。葉は対生し披針形。閉鎖花は茎の下部に、正常花は上部につく。花期は8～10月。花冠は紅紫色、筒状で先端唇状になる。果実は長さ3mm。都内全域から記録があるが、現在では多摩部の丘陵地の谷戸田にわずかな自生地が残されているにすぎない。

■生存を脅かす要因：生育環境は伝統的な耕作方法が維持された水田や湿地に限られ、耕作の停止、除草剤の使用等により、容易にその生育環境が消失する。

■特記事項：農業の汚染に留意する。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 223, 243



八王子市 2011年8月28日

アブノメ

Dopatrium junceum

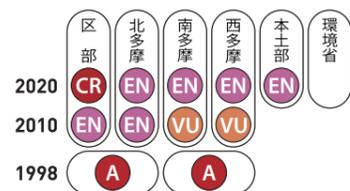
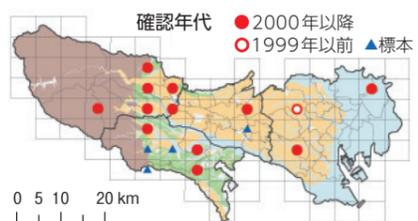
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州、および南西諸島に分布する一年草で、低地の水田、ため池や湿地に生育する。高さ10～25cm。葉は対生、上部のものは次第に小さくなる。花は茎の上部の葉腋に1個ずつつく。花期は8～10月。花冠は淡紫色、筒形で先は唇形。果実は球形。都内では主に丘陵帯以下の水田に生育しているが、区部ではきわめて稀である。

■生存を脅かす要因：生育場所は主に水田内に限られ、水田耕作の停止とともに本種の生育場所が失われるとともに、除草剤の使用等によっても大きな影響を受ける。

■特記事項：保全が困難な場合は、人為的な系統保存を検討する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 196, 243, 245, 270



八王子市 2014年9月18日

オオアブノメ

Gratiola japonica

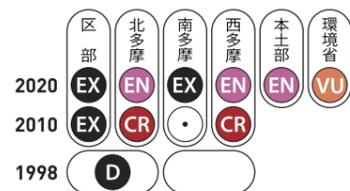
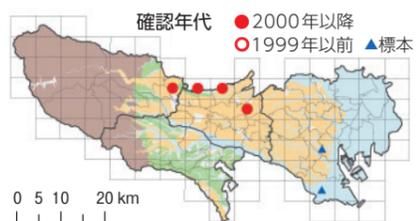
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草で、水田やその周辺湿地に生育する。高さ10～20cm。肉質で軟らかい。葉は対生し線形。花は葉腋に1個ずつつく。萼の基部に2個の小苞がある。花期は5～7月。花冠は白色で筒形。果実は球形。都内では各地に記録があるが、北多摩以外では現状確認ができない状況である

■生存を脅かす要因：生育場所は主に水田内であり、耕作停止や農業の使用などが本種生存の直接的な脅威となる

■特記事項：本種が北多摩に集中して、他地域ではほとんど見られない要因は不明である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 270, 291



東村山市 1999年5月30日

シソクサ

Limnophila chinensis subsp. *aromatica*

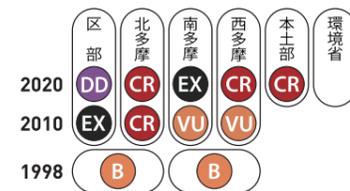
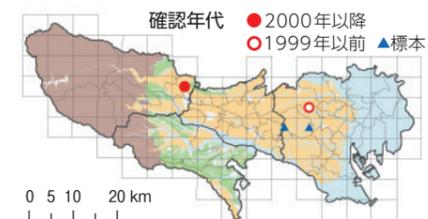
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：本州の関東地方以西、四国、九州、および南西諸島に分布する一年草で、低地の湿地に生育する。高さ10～30cm。葉は対生し長楕円形、油点がある。花は上部の葉腋から出る。花期は9～10月。花冠は白色、筒形で先は唇形、長さ約1cm。さく果は卵形で萼に包まれる。都内では区部や南多摩では絶滅や現状不明、北多摩と西多摩境界部の谷戸水田のみに産する。

■生存を脅かす要因：生育場所は水田内に限られ、耕作の停止や農業の使用が生育に関する最大の脅威と考えられる。

■特記事項：現在の自生地はきわめて限られており、保全が困難な場合は、人為的な系統保存を検討する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 28, 159, 196, 270



武蔵村山市 2020年10月1日

キクモ

Limnophila sessiliflora

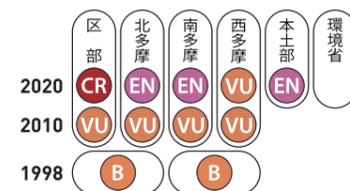
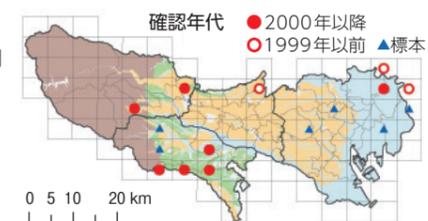
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：本州の宮城県以西、四国、九州、および南西諸島に分布する多年草で、水田や休耕田などに生育する。地下茎は泥中をはい、上部は水面に伸長し、長さ20～60cm。葉は4～8個輪生し深く裂ける。花は葉腋に1個つく。花期は8～10月。花冠は紅紫色、筒形で先は唇形。さく果は卵円形。都内では各地の水田中に見られるがきわめて稀である。

■生存を脅かす要因：生育環境が水田や池沼の湿地などであり、水田耕作の停止で一時的に増加する可能性があるが、水田耕作の放棄により生育基盤が失われる。農業や除草剤の使用により大きなダメージを受ける。

■特記事項：本種の沈水葉と気中葉では大きく形態が異なっている。また、水中の個体は閉鎖花を生じる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 84, 105, 243



八王子市 2022年8月30日

トウオオバコ

Plantago japonica

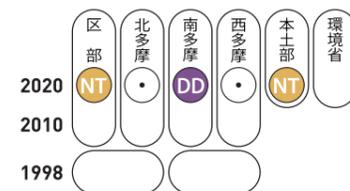
被子植物
オオバコ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、海岸礫地の波打ち際に生育する。全体オオバコに似て壮大。葉は根際に10数个叢生し、厚くて無毛。花茎は高さ40～80cmに達する。花期は7～8月。花茎に多数の花を穂状に付ける。花冠は4裂。果実はさく果。種子は7～14個ある。都内では区部の東京湾沿いに分布し、また、一部内陸の河川中流域からも記録がある。別名テリハオオバコ。

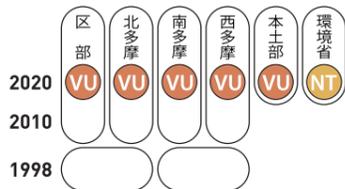
■生存を脅かす要因：海岸地帯では、護岸形成や埋め立て地などの土地造成が広範囲に広がったことで湿地が失われ、新たに定着する生育環境を確保できないことが減少要因である。

■特記事項：東京湾岸土着の植物とされる。普通種のオオバコは高次倍数性のため多型であり、稀に大型化したものはトウオオバコと誤認されやすいので同定の際は注意したい。

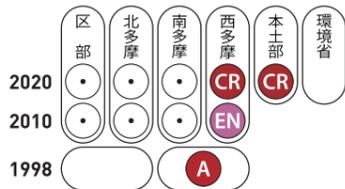
執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 67, 249, 270



神奈川県 2010年8月10日



立川市 2018年6月3日



長野県 2019年7月30日

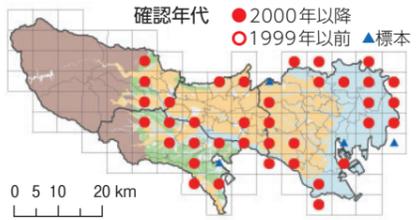


あきる野市 2010年6月20日

カワヂシャ *Veronica undulata* 被子植物 オオバコ科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州および南西諸島に分布する越年草で、低地の川沿いに生育する。全草軟らかい。茎は高さ30cmほど。葉は対生して少し茎を抱き無毛。花期は4～5月、上方に細い花序を出して白色の小花をつける。花冠は4個。果実はさく果で球形。都内では各水系に沿って主に丘陵帯以下の水辺に分布する。
生存を脅かす要因：生育環境である川沿いの水際や湿地に、近年、大型のオオカワヂシャをはじめとする外来種が繁茂し、各地で本種の生育を脅かしている。
特記事項：オオカワヂシャとの間に雑種ホナガワヂシャが報告されており、カワヂシャの生育にも大きな影響を及ぼしている。

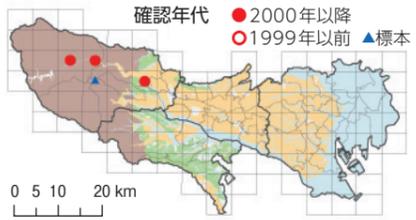
執筆者 奥田重俊
 文献一覧 4, 105, 238, 243, 245



クガイソウ *Veronicastrum japonicum* 被子植物 オオバコ科

種の特性と生育状況：本州に分布する多年草で、山地に生育する。高さ0.8～1.2m。葉は8段ほど輪生し、楕円状で先端は尖る。花は茎の先端に総状に多数つける。花期は7～9月。花冠は淡紫色、筒状で先端は浅く4裂し、雄しべが突き出る。さく果は卵形。都内での生育は西部山地に限られるが、生育に適した草原が少なく、渓谷沿いの露岩等にわずかな自生地があるにすぎない。
生存を脅かす要因：西多摩の山地には生育に適した山地草原は少ないうえ、草原植生の遷移の進行やシカ食害などにより、個体数を減らしてきたものと考えられる。
特記事項：姿が美しく、園芸目的の採取の危険性がある。

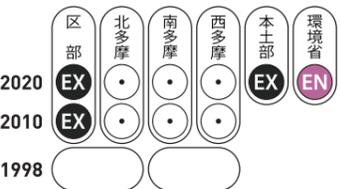
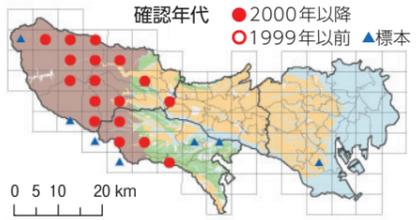
執筆者 奥田重俊
 文献一覧 28, 152, 168



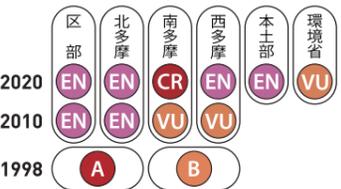
フジウツギ *Buddleja japonica* 被子植物 ゴマノハグサ科

種の特性と生育状況：本州の東北地方から西の太平洋側、および四国に分布する落葉低木で、崩壊地や河岸の礫地に生育する。高さ1～1.5m、茎に稜がある。葉は対生し先がとがる。花期は7～8月、枝先に円錐花序を出して多数の花をつける。花冠は紅紫色、筒状で少し湾曲し、外面に軟毛がある。果実はさく果で卵形。都内では各所から記録があるが、現在では分布が退行し、南多摩から西多摩の山地に散在している状況である。
生存を脅かす要因：生育環境は二次林などの林縁部や崩壊する斜面などである。林道のり面の工事や管理の放棄、シカ食害など、複合的な要因で減少が続いているものと考えられる。林道の維持管理では、生育地の選択的な草刈りなど、個別的管理をする必要がある。
特記事項：河川敷などでは植栽種のフサフジウツギが広く逸出しているため、本種の同定に注意する。

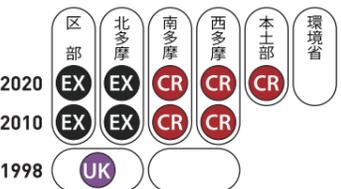
執筆者 奥田重俊
 文献一覧 4, 243, 245, 270



八王子市 (植栽) 2006年6月7日



八王子市 1988年3月14日



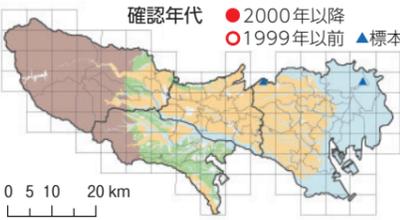
奥多摩町 1990年9月19日

ヒシモドキ *Trapella sinensis* 被子植物 オオバコ科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する一年草で、低地の浅い池沼、水田跡などに生育する。茎は水中を這い、節から根と葉を出す。葉は対生し、広い心臓形で水面に浮かぶ。花柄は長さ2cmで水上に伸び、淡紅色の花を1個つける。花期は7～9月。花冠は筒状で半開し、長さ2～2.5cm。堅果は萼片が伸長した3～5個の刺状の突起となる。都内では葛飾区の小合溜（現在の水元公園内）に生育していたが、現在では絶滅している。
生存を脅かす要因：生育環境が湿地帯の池沼であり、水辺の開発整備に加え、水質の富栄養化や外来生物の侵入により絶滅に至ったものと考えられる。

特記事項：小合溜には近年も生育の報告があるが、新たに移入されたものであるという。また、南多摩の緑地にも移入された個体が記録されているが、近年は確認できていない。

執筆者 奥田重俊
 文献一覧 77, 94, 142, 294

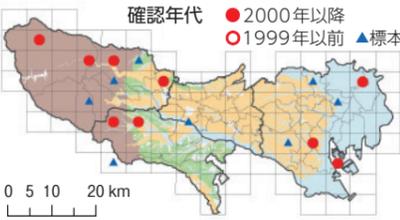


イヌノフグリ *Veronica polita* var. *lilacina* 被子植物 オオバコ科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州、および南西諸島に分布する二年草で、耕作地、路傍などに生育する。茎は下部で分枝し、長さ10～25cm。葉は対生、上部で互生し、卵円形で毛がある。花期は3～5月。花冠は径2～3mm、淡紅白色で紅紫色の条がある。さく果は球形で中央がくびれる。都内では各地に記録があるが現在ではきわめて稀な草本となり、旧集落や民家の石垣などにわずかに残存しているだけとなっている。
生存を脅かす要因：生育環境を同じくする同属の外来種であるオオイヌノフグリなどの爆発的な拡大で激減した。土地造成、農業使用、除草管理等、複数の要因が本種への脅威となっている。

特記事項：生育環境は伝統的な管理の農耕地や旧集落の路傍・石垣などであり、土地造成に際して保全対策が必要である。また、生育地の除草管理などには注意を払う必要がある。

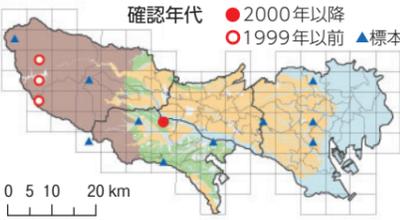
執筆者 奥田重俊
 文献一覧 28, 84, 152, 243, 270



ヒメトラノオ *Veronica rotunda* var. *petiolata* 被子植物 オオバコ科

種の特性と生育状況：本州の関東と中部、四国および九州に分布する多年草で、丘陵帯から亜高山帯にかけての明るい草地に生育する。高さ50～90cm。葉は狭い披針形で、基部が短い葉柄状となる。花は穂状に多数付く。花期は8～10月。花冠は青紫色。さく果は扁球形。都内では多摩丘陵から西部山地にかけてごく稀に分布する。
生存を脅かす要因：生育環境は二次林の林縁草地などであり、山林の開発造成、樹林管理の停止などにより、自生地が失われてきた。残された生育地では管理（草刈りなど）を継続する必要がある。園芸目的の採取や、山地ではシカ食害の影響も懸念される
特記事項：別変種ヤマトラノオ var. *subintegra* を含む。

執筆者 奥田重俊
 文献一覧 152, 243, 270



ゴマノハグサ

Scrophularia buergeriana

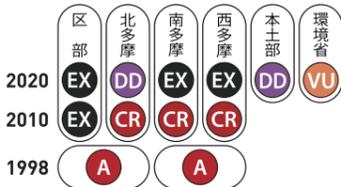
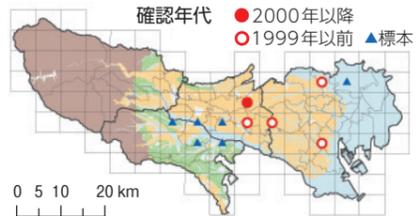
被子植物
ゴマノハグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州の福島県以西、四国、九州に分布する多年草で、草地に生育する。高さ1～1.5m。葉は対生し卵形。花は総状に多数つく。花期は7～8月。花冠は黄緑色、唇形で長さ5～6mm、仮雄ずいはへら状。さく果は卵形。都内ではほぼ絶滅状態にあり、近年、武蔵野台地で記録があるが、その後の継続的な発生は見られない。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は原野や林縁草地などであり、二次草原の減少が本種衰退の最大の要因と考えられる。さらに、草地開発、外来種の繁茂や農業の使用などにより、本種が衰退したものと推測される。

■ **特記事項**：神奈川県などの分布を参考にすると、本種の都内分布も局所的だった可能性がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 196, 270, 291



多摩市 1983年9月19日

オオヒナノウスツボ

Scrophularia kakudensis

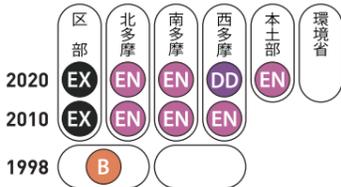
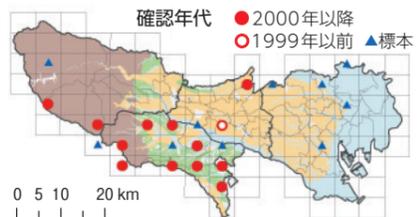
被子植物
ゴマノハグサ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、丘陵地の二次林林縁や草地に生育する。高さ約1m。葉は対生し、卵形でとがった鋸歯がある。花は円錐花序に多数つく。花期は8～10月。花冠は暗紅紫色、唇形で雄しべは扇状。さく果は卵状。都内では区部で絶滅、台地から山地にかけての草原に分布しているが、近年急速な減少傾向が認められる。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境が都市近郊から山地にかけての二次林の林縁や草地であり、開発による生育地の消滅、草地や林縁の管理放棄により、自生地の減少が続いている。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 243, 270, 280



八王子市 2019年8月31日

サツキヒナノウスツボ

Scrophularia musashiensis

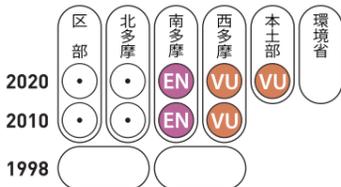
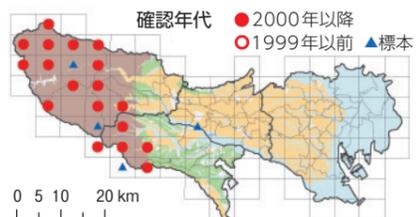
被子植物
ゴマノハグサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州の関東から中部、近畿にかけて分布する多年草で、山地の川沿いの草地に生育する。高さ40～50cm。葉は対生、卵形で粗い鋸歯がある。花序は葉腋から出て数個の花をつける。花期は4～5月。花冠は暗赤紫色、唇形で長さ約1cm。さく果は卵状球形。都内では南多摩から西多摩の山地渓谷沿いに見られる。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は限られた低山地の渓谷林下であり、本来自生地や個体数が局限されていたうえ、群落構成種の変化や、シカ食害などで個体数を減らしているものと推測される。

■ **特記事項**：野生生物による食害を防ぐ必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 169



八王子市 1989年4月23日

スズメノトウガラシ

Bonnaya antiopoda

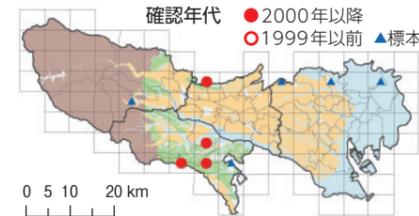
被子植物
アゼナ科

■ **種の特性と生育状況**：本州の福島以西、四国、九州および南西諸島に分布する一年草で、水田及び湿地に生育する。高さ5～20cm。茎は根際で分枝する。葉は対生し鋸歯がある。花は葉腋に1個ずつつき、柄がある。花期は8～10月。花冠は淡紅紫色、唇形、雄しべ2個。さく果は披針形。都内では区部で絶滅、北多摩及び南多摩の水田にわずかに現存するのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：生育場所は主に水田内の畦側の泥地であり、耕作停止や農業の使用などが本種生存の直接的な脅威となる。

■ **特記事項**：本分類群はヒロハスズメノトウガラシ *B. verbenifolia* とエダウチスズメノトウガラシ *B. veronicifolia* とに分ける見解があり、形態による区別が可能である。都内ではエダウチスズメノトウガラシの分布が多いものと思われる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 98, 249, 270, 343



ハグロソウ

Peristrophe japonica var. *subrotunda*

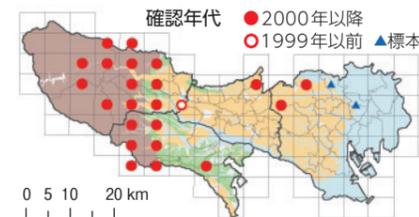
被子植物
キツネノマゴ科

■ **種の特性と生育状況**：本州の関東地方以西、四国および九州に分布する多年草で、山麓の陰湿地に生育する。茎は高さ20～50cm。葉は対生、狭い卵形で長く尖る。枝先に5～15mmの花枝を出し、葉状の2個の苞の中に花を付ける。花期は9～10月。花は淡紫色。花冠は唇形で上唇は反り返り、基部に濃い色の紋がある。さく果は長さ1cm。都内では全地域に分布し、二次林、植林、緑地などの林床に生え、所によって群生するが、区部や北多摩地域での減少が著しい。

■ **生存を脅かす要因**：生育する樹林地の乾燥化や開発による樹林伐採、外来種の侵入などにより、生育環境が失われているものと推測される。林縁管理などに際し選択的な保全対策が必要である。

■ **特記事項**：野生生物による食害を防ぐ必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 105, 159, 243



イヌタヌキモ

Utricularia australis

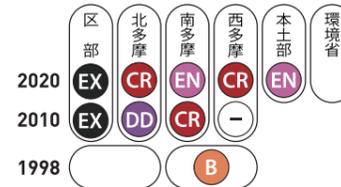
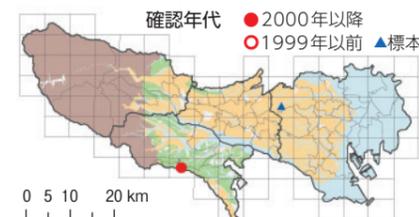
被子植物
タヌキモ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の貧栄養、腐植栄養の池沼等に生育する多年生の浮遊植物。葉は糸状で二又してさらに分枝し、捕虫口をつける。花期は7～9月で、水面に花径を伸ばして黄色花を開き、距は下唇より短く鈍頭。殖芽は長楕円形。都内でタヌキモとされた植物の多くは本種イヌタヌキモである可能性が高いが、近縁種を含めた生育実態が十分に把握されておらず、きわめて危機的な状態にある。

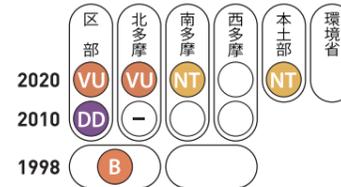
■ **生存を脅かす要因**：湖沼や湿地の埋め立てと水質汚濁により、自生地の大半が消滅している。近年は異常気象による出水や外来生物の影響も懸念される。

■ **特記事項**：タヌキモはイヌタヌキモとオオタヌキモの雑種起源植物であることが解明され (Y.Kameyama et al.2005) オオタヌキモが三宝寺池を除いて記録がないことから、イヌタヌキモが都内に分布する主要なタヌキモ科植物であると考えられる。

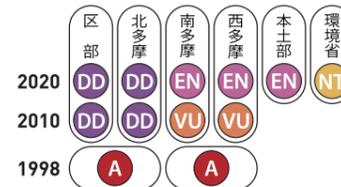
執筆者 内野秀重
文献一覧 243, 341



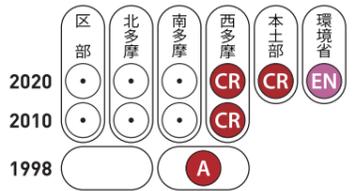
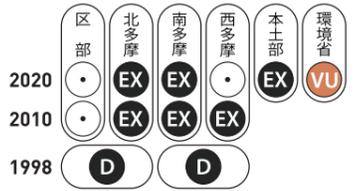
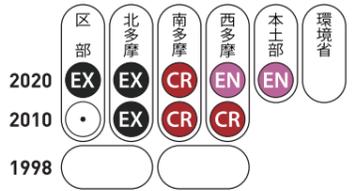
八王子市 2019年8月19日



八王子市 2000年8月



八王子市 2005年8月27日



カワミドリ

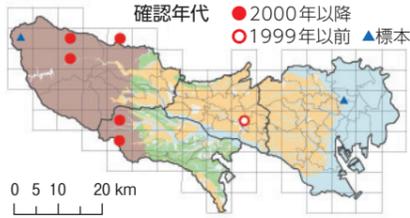
Agastache rugosa 被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の斜面下部に生育する。高さ50～100cm。葉は対生し広卵形。花は茎頂に集まり、長さ約10cmの穂となる。花期は8～10月。花冠は紅紫色、唇形で長さ約1cm。雄しべは花外に突き出る。都内では区部や北多摩では絶滅、南多摩でも近年の生育情報が得られず、西多摩の山地の谷沿いに点在するのみとなっている。

生存を脅かす要因：生育環境は山間の谷間の林縁草地などであり、管理放棄による林縁の変化、護岸工事、シカ食害などが、自生地の減少をもたらしたものと考えられる。

特記事項：園芸目的の採取に注意する。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 152, 168, 270



カイジンドウ

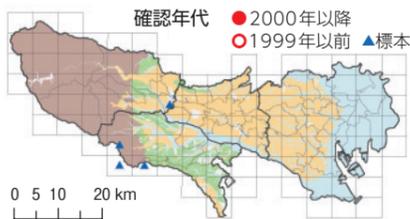
Ajuga ciliata var. *villosior* 被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、九州に分布する多年草で、山地の林内に生育する。高さ30～40cm。全体に毛がある。葉は対生、卵形で柄が短く、上部ほど大きくなる。花は茎頂に集まる。花期は5～6月。花冠は青紫色または紅紫色で唇形。都内では台地部を中心に記録があるが、都市開発の著しい地域であり、早期に絶滅したものと考えられる。

生存を脅かす要因：生育環境は都市部近郊の二次林など開発されやすい環境のため、造成により生育地が失われたものと推測される。

特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 247, 270



ヒイラギソウ

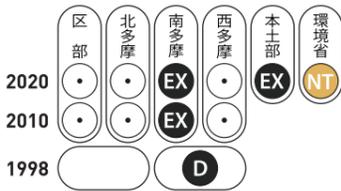
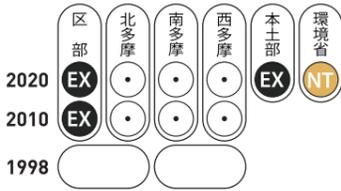
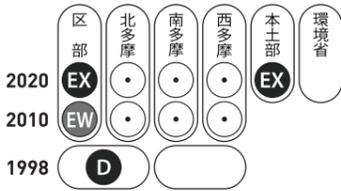
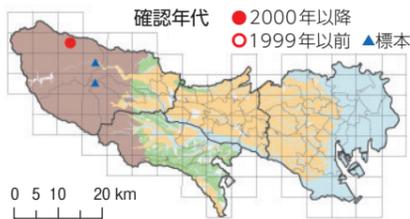
Ajuga incisa 被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：本州の関東、中部に分布する多年草で、山地の斜面部の林縁などに生育する。高さ30～50cm。葉は対生、卵形で粗い鋸歯が目立つ。花は茎頂に集まり3～5段つく。花期は5～6月。花冠は青紫色、唇形で長さ2cm。都内では西部の山地に分布する。

生存を脅かす要因：都内の生育地は西多摩に限られた山地に局限されているうえ、植生の遷移による生育環境の変化、園芸目的の盗掘などにより、危機的な状況まで衰退している

特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168



オオタヌキモ

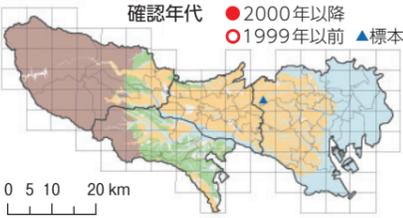
Utricularia macrorrhiza 被子植物 タヌキモ科

種の特性と生育状況：北海道、及び本州北部の湖沼やため池に生育する多年生の浮遊植物。日本産タヌキモ類最大で長さ1mを超える。開花は7～9月、花弁は黄色で長い距があり、花茎は中空。中島定雄（東京府1934）が練馬区三宝寺池産の固有植物シャクジイタヌキモとして発表したが、近年、標本の再検討により、本種であることが明らかとなっている（角野・田中2015）。昭和10年代まで当地で生育していた記録が残されているが、その後消滅している。

生存を脅かす要因：周辺の都市化による湧水の減少や水質汚濁を直接的な原因とするほか、湿原遷移による湿地の陸化などで生育環境が失われた。

特記事項：本来、北日本にしか分布しないオオタヌキモが東京都の区部に産した理由は、湧水由来の低温環境で遺存的に生き残ってきたものと考えられている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 96, 151, 222, 223



ヒメタヌキモ

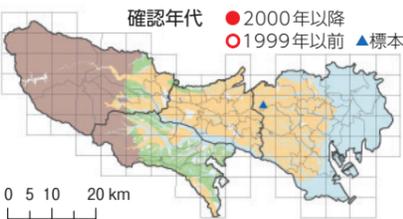
Utricularia minor 被子植物 タヌキモ科

種の特性と生育状況：全国の貧栄養な湖沼やため池、湿原などに生育する多年生浮遊植物。茎は最大で30cm、葉はまばらで裂片は二叉状に分岐する。8～9月、花茎をのばして淡黄色～淡桃色の花をつける。都内での確実な自生の記録は、練馬区石神井公園三宝寺池沼沢植物群落だけであり、池内にオオタヌキモ（シャクジイタヌキモ）などと同所的に生育していたと考えられるが、昭和30年代以降は見られなくなっている。

生存を脅かす要因：オオタヌキモ同様、湧水の減少や水質の富栄養化に加え、湿原の遷移による湿地の陸化、樹林化などで消滅に追いやられたものと推測される。

特記事項：牧野富太郎、檜山庫三らの採集した1900年代前半の標本が都立大学牧野標本館に収められている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 222, 223, 270, 293



ムラサキミミカキグサ

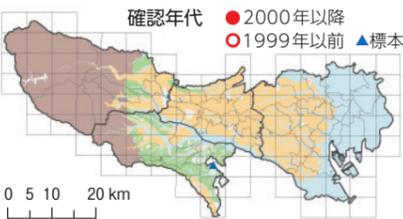
Utricularia uliginosa 被子植物 タヌキモ科

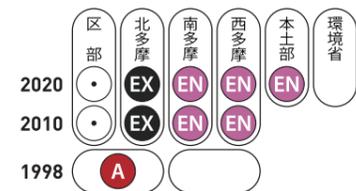
種の特性と生育状況：全国の貧栄養な湿地に生育する食虫植物の湿生多年草。地下茎は糸状で捕虫_をつけ、不定根とへら形の気中葉、線形の沈水葉を生じる。夏から秋、鱗片葉のある花茎を伸ばして小さな紫色の花を咲かせ、花後、耳かき状のさく果を形成する。多摩市乞田にあった岩ノ入池の縁にモウセンゴケなどと同所的に生育が見られたが、多摩ニュータウン造成により消滅した。

生存を脅かす要因：都内の確実な自生地が岩ノ入池唯一であったが、土地造成により残念ながら消滅した。

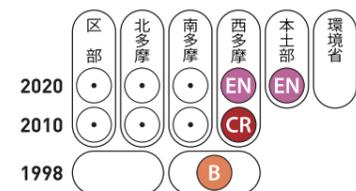
特記事項：岩ノ入池は、周辺域の植生と外観的に変わらないヨシを主体とした植生でありながら多数の希少植物を産し、その消滅はあまりにも残念である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 17, 184, 195, 331

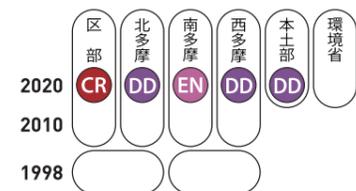




町田市 2005年4月17日



檜原村 2022年7月19日



練馬区 2021年9月21日

ツクバキンモンソウ

Ajuga yezoensis var. *tsukubana*

被子植物 シソ科

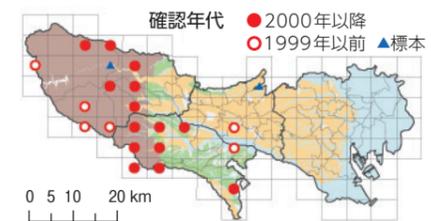
■ **種の特性と生育状況**：本州の太平洋側から四国に分布する多年草で、丘陵地から山地の林縁などに生育する。高さ8～15cm。葉は地に接して対生し、紫色を帯びる。花期は4～6月。花は淡紫色。花冠は唇形で、上唇が短い。ニシキゴロモの変種。都内では北多摩では絶滅、南多摩及び西多摩の丘陵谷戸や山地尾根に点在する。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は二次林などの明るい樹林下や林縁であり、山林の管理放棄などにより樹林化が進み、生育環境が失われてきたものと考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 28, 168, 243, 270



ヤマジオウ

Ajugoides humilis

被子植物 シソ科

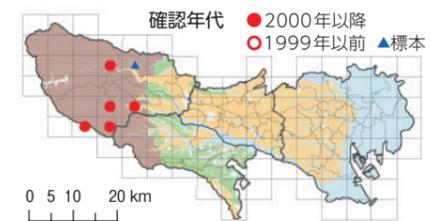
■ **種の特性と生育状況**：本州の関東地方南部以西、四国、九州に分布する多年草で、山地の湿った林内に生育する。細い地下茎で群生する。葉は対生、地際にて2～3対つき、倒卵形。花は葉腋に数個つく。花期は8月。花冠は淡紅色、唇形で長さ15～18mm。都内では西多摩地域の渓谷沿いの樹林下に稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は、もともと西多摩の限られた場所に局限されていたが、樹林の鬱閉やシカ食害などによる林床の変化により、減少が進んだものと考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種かつ、中央構造線に関連した不連続な分布を示すソハヤキ要素の1種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 10



コムラサキ

Callicarpa dichotoma

被子植物 シソ科

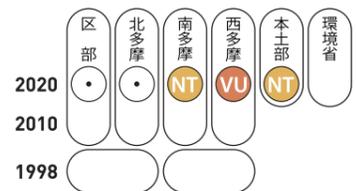
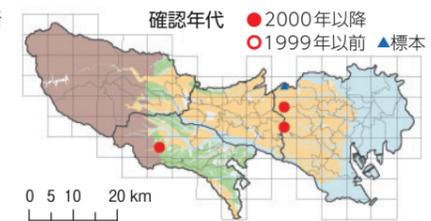
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州から南西諸島に分布する落葉低木で、湿地林に生育する。高さ2m内外、枝は広がり先端下垂する。葉は対生。花期は7～8月、伸張した枝に薄紫色の小花を左右に多数付ける。花冠は筒状、雄しべ4個。果実は径3mm。都内では各地に記録があるものの、逸出品が多く、自生地は稀である。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境が湿地帯の林である。そのため開発に際し、地域的な保全対策が必要である。園芸目的の採取の恐れがある。個体数が少ないため、個別的な管理が必要である。

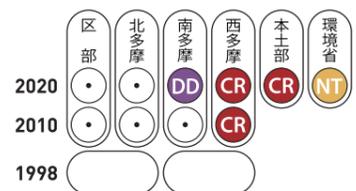
■ **特記事項**：本種はムラサキシキブの名前で栽培・流通しており、それらが二次的にも逸出しているため、真の自生かどうか、慎重な判断が必要である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 222, 270, 290



八王子市 2011年5月18日



奥多摩町 2007年5月14日



立川市 1992年5月1日

オウギカズラ

Ajuga japonica

被子植物 シソ科

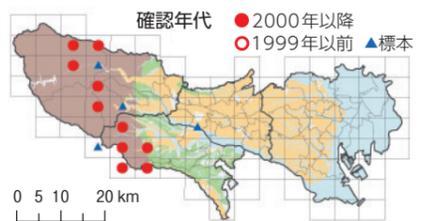
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の湿った二次林の林縁などに生育する。全草に縮れた毛がある。茎は高さ10～20cm、叢生し、長い匍枝を出す。葉は対生。花期は4～5月、上部の枝に数個の花を付ける。花冠は基部が筒状の唇形で薄紫色、下唇3個が目立つ。都内では南多摩から西多摩にかけて、谷筋の林道沿いなどに見られる。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は林道沿いの草地などであり、林道や林縁の整備による消失、管理放棄による植生の退行やシカの食害、さらに、園芸目的の採取などにより、自生地や個体数の減少が引き起こされたものと考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 4, 152, 168



タチキランソウ

Ajuga makinoi

被子植物 シソ科

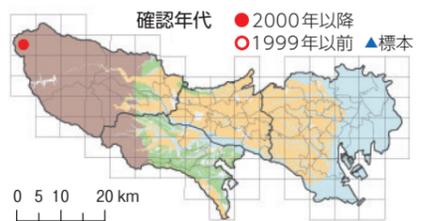
■ **種の特性と生育状況**：本州の関東西南部から東海地方にかけて分布する多年草で、山地に生育する。茎は斜上し、長さ5～20cm 葉は粗い鋸歯がある。夏に出る葉は大きい。花期は4～6月。花は青紫または紅紫色、花冠は唇形で、長さ約15mm。都内では西多摩の都県境尾根などに限定して分布している。

■ **生存を脅かす要因**：生育地や個体数が局限されており、登山道沿いの草本植生の管理や、シカ食害などにより、個体群の減少が進んだものと考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 98



ツルカコソウ

Ajuga shikotanensis

被子植物 シソ科

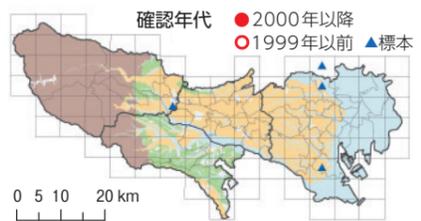
■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する多年草で、乾いた草地に生育する。茎は高さ10～30cmで毛がある。葉は対生、上部のものは苞になる。花は淡紫色、茎の上部に数段離れてつく。花期は5～6月。花冠は唇形。都内では区部や南多摩では絶滅、西多摩においても近年の報告がなく、絶滅が懸念される。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は草刈りが継続されてきた草地や原野であり、こうした場所が都市開発により消滅、また管理が停止されたことで自生地が激減したものと考えられる。再発見された場合には個体数が少ないため、生育地の草刈りや早春の光条件を考慮するなど個別的な管理が必要である。

■ **特記事項**：区部（志村）に古い記録がある。品種ケバツルカコソウ f. *hirsuta* を含む。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 14, 196, 270, 322



タニジャコウソウ

Chelonopsis longipes

被子植物 シソ科

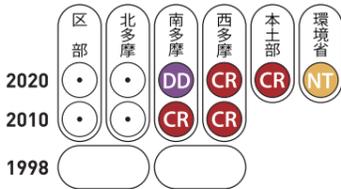
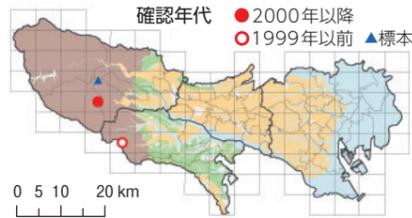
■種の特性と生育状況：本州の関東地方以西、四国、九州に分布する多年草で、山地河岸や渓谷沿いなどに生育する。茎は斜上し高さ50～100cm。葉は対生、広披針形で基部耳状となる。花柄は葉柄より著しく長い。花期は9～10月。花冠は紅紫色、筒状で開口部は唇形。都内では西多摩の山地にきわめて稀となっている。

■生存を脅かす要因：渓谷林において、もともと自生地や個体数が少ないうえに、植生遷移の進行、風倒木や野生動物による林床の荒廃などにより、減少が進んだものと考えられる。

■特記事項：日本固有種である。現地での保全が困難な場合は、人為的な系統保存を検討する必要がある。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 28, 243, 247



高知県 2003年10月2日

アシタカジャコウソウ

Chelonopsis yagiharana

被子植物 シソ科

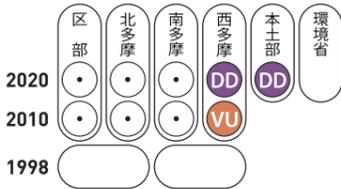
■種の特性と生育状況：静岡、山梨、および東京に分布する多年草で、山地の谷間、渓谷林等に生育する。高さ25～40cm。葉の基部はくさび形。葉柄に開出する毛がある。花期は9～10月。花は茎頂付近の葉腋に1個つく。花冠は紅紫色。萼筒は果時にも残り有毛。都内では奥多摩西部に記録があるものの現状は不明となっている。

■生存を脅かす要因：タニジャコウソウと同様、もともと個体数や産地が限られているうえに、渓谷林の遷移の進行や林床の荒廃などにより、自生地や個体数の縮小が進んだものと考えられる。また、園芸目的の採取も懸念される。

■特記事項：日本固有種である。本種はタニジャコウソウとの区別の難しい分類群である。八王子市産の標本（牧野標本館 MAK16484 八王子市大垂水）によれば、本種と判断することが困難なものであることから、南多摩における分布には反映されていない。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 26, 28, 243, 287



1986年7月23日

フトボナギナタコウジュ

Elsholtzia nipponica

被子植物 シソ科

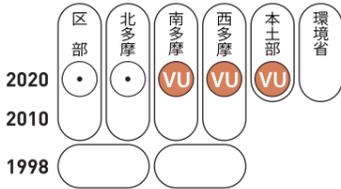
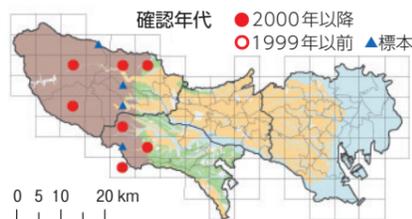
■種の特性と生育状況：本州の宮城県以西、四国、九州に分布する一年草で、山地の草地に生育する。茎は高さ1m内外で分枝する。葉は菱形で対生。花期は9～10月、小枝の先端に紫色の多数の花を付ける。花穂はナギナタコウジュに似てやや太く、枝の末端に分散して付く。苞は中央上部が広い。花冠4裂。都内では南多摩及び西多摩の山地に分布し、林道などに見られるが自生地の減少が著しい。

■生存を脅かす要因：生育環境が林道沿いの路傍などのため、除草対象にされやすいこと、外来雑草などの繁茂により生育場所が狭められていることなどが減少の要因と考えられる。

■特記事項：特有な香りがある。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 4, 243



青梅市 2020年11月13日

ヒキオコシ

Isodon japonicus

被子植物 シソ科

■種の特性と生育状況：北海道西南部、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の日当たりの良い林縁や草地に生育する。高さ50～100cm。葉は対生、広卵形で鋸歯がある。花は大きな円錐花序に多数つく。花期は9～10月。花冠は淡青紫色、唇形で長さ5～7mm。雄しべは突き出る。葉用植物。都内区部及び北多摩では絶滅し、多くは西多摩から南多摩にかけての林縁部に見られる。

■生存を脅かす要因：生育環境は日当たりの良い山地林の林縁であり、森林伐採や林道整備、植生遷移の進行およびシカ食害などにより減少・退行が進んだものと考えられる。

■特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 152, 168, 243, 270



メハジキ

Leonurus japonicus

被子植物 シソ科

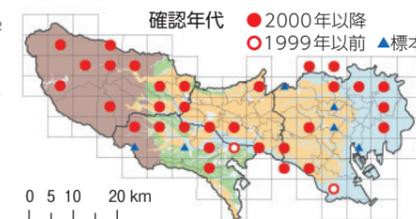
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州および南西諸島に分布する二年草で、山野の路傍、草地などに生育する。茎は直立し、高さ1～1.5m。葉は対生し3裂～全裂する。花期は7～9月、葉腋に小形の唇形花を付ける。花は長さ1cmで紅紫色。果実は3稜形。都内では各地の緑道や河川敷、林道路傍等に散見されるが、丘陵部などではきわめて稀となっている。

■生存を脅かす要因：生育環境が市街地の路傍や草地のため、除草時の生物多様性への配慮の不足等で失われてしまうことが多い。外来植物の繁茂により生育地が奪われている点も生存を脅かす大きな要因となっている。道路管理等における周知等、個別的な管理が必要である。

■特記事項：本種は、古くから、産前産後の処方薬として利用されてきた経緯があり、そのこと、人里周辺や都市部の緑地環境に現在でも散発的に出現することの関連性が示唆される。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 4, 243, 245, 263, 270



キセワタ

Leonurus macranthus

被子植物 シソ科

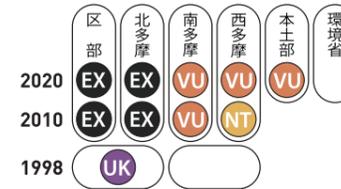
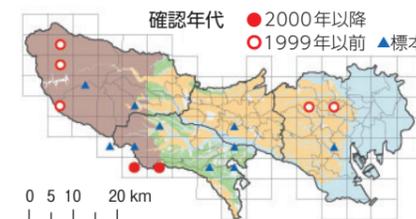
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の二次草原に生育する。高さ60～100cm。茎は四角。葉は対生、卵形で粗い鋸歯がある。花は茎の上部の葉腋につく。花期は8～9月。花冠は紅紫色、唇形で長さ25～30mm。上面に白毛がある。都内では、区部や北多摩で絶滅し、南多摩から西多摩の深山にかけて、わずかに現存するだけの危機的な状況にある。

■生存を脅かす要因：生育環境は山地林の林縁や草地であり、草地の遷移による樹林化やシカの食害による荒廃、園芸目的の採取等により、生育地が退行、激減に至ったものと考えられる。

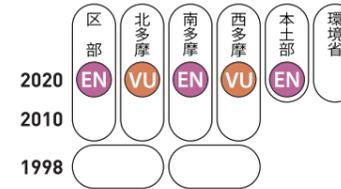
■特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 173, 243, 270



八王子市 2011年10月6日



調布市 2014年6月24日



八王子市(南高尾産植栽) 2021年8月12日

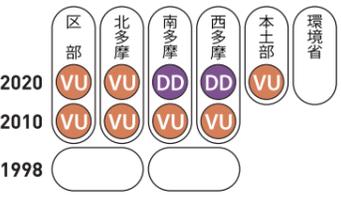
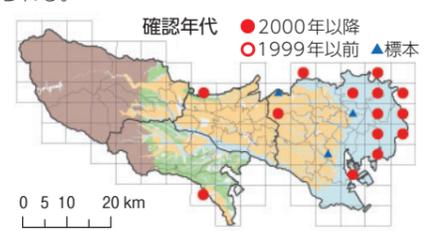
シロネ *Lycopus lucidus* 被子植物 シン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、低地の湿地や川岸等に生育する。太くて白い地下茎がある。茎は四角で高さ80～120cm。葉は対生、広い披針形で縁に鋸歯があり、光沢がある。花は腋生。花期は8～10月。花冠は白色、鐘形、長さ約5mm。都内では区部や北多摩の河川中流域以下の川岸や湿地に見られる。南多摩や西多摩においても記録があるが、近縁種との誤認の可能性もあり、生育実態が正しく把握されていない可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は湿地であり、都市部における水湿地の埋立てや護岸整備などにより、自生地が狭められていったものと考えられる。

■ **特記事項**：湿地の開発を伴う土地造成に際しては、湿地植生を残存させるなどの特別な保全対策が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 270, 322



三鷹市 (植栽) 1999年8月9日

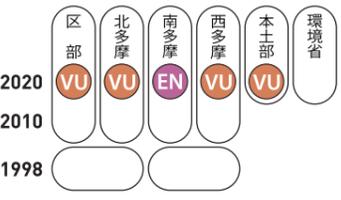
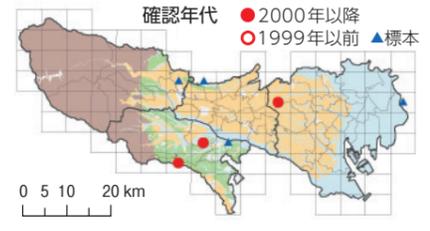
ヒメシロネ *Lycopus maackianus* 被子植物 シン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、低湿地に生育する。白い地下茎がある。茎は四角で高さ30～70cm。葉は対生、披針形で縁に鋸歯があり、基部は円形で短い葉柄がある。花は腋生。花期は8～10月。花冠は白色、鐘形、長さ約4mm。都内では各地から記録はあるが、現在では台地や丘陵部の谷戸湿地などにわずかな自生地が残されているにすぎない状況である。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は湿地であり、宅地開発などによる湿地の埋立てで多くの自生地が失われたほか、管理放棄による他種の繁茂などの生育環境の悪化が本種の衰退をもたらしたのと考えられる。

■ **特記事項**：富栄養な環境に適応したシロネに対し、本種はより貧栄養な湿地を好む傾向がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 105, 243, 270



八王子市 2008年9月14日

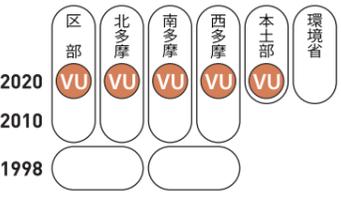
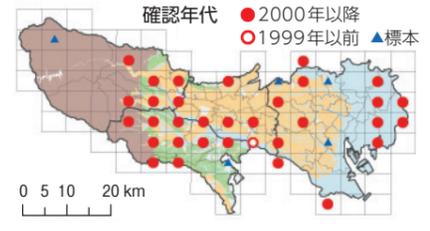
ハッカ *Mentha canadensis* 被子植物 シン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、低湿地に生育するほか、薬用にも栽培される。全草に芳香がある。茎は高さ20～50cm。葉は対生、広い披針形で縁に鋸歯がある。花期は8～10月。花は腋生、上部の葉腋に球状に集まる。花冠は白色または淡紫色、鐘形、長さ約4～5mm。都内では低山以下に生育し、水路や川岸、谷戸湿地などに見られるが、減少が顕著となっている。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は湿地であり、開発されやすい場所のため、湿地を含む土地造成などに際して保全対策が必要である。外来種のヨウシュハッカの拡大で生育場所が奪われているケースも少なくない。

■ **特記事項**：酷似するヨウシュハッカとは萼片の形状を比較し、確実に同定を行う必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 14, 196, 243, 245



八王子市 2005年9月28日

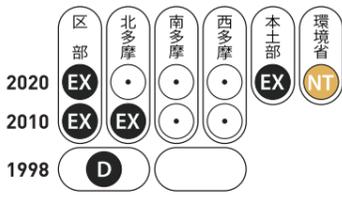
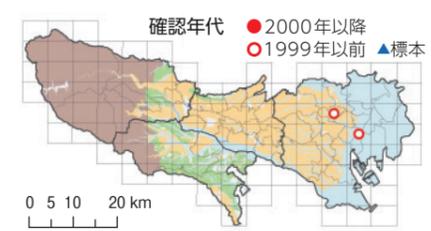
ヒメハッカ *Mentha japonica* 被子植物 シン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州に分布する多年草で、低湿地や河畔等に生育する。高さ20～40cm。葉は対生、細い。花は枝先に十数個集まる。花期は8～10月。花冠は淡紅紫色、鐘形で4裂。雄しべは4個あり花外に突き出る。都内では区部に記録があるが絶滅した。

■ **生存を脅かす要因**：都内ではもとより自生地の局限される植物であったと推測されるが、生育地のあった区部の湿地は都市部のため、都市開発に伴う土地造成により生育地が失われ、絶滅したものと考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 270



茨城県 1987年9月3日

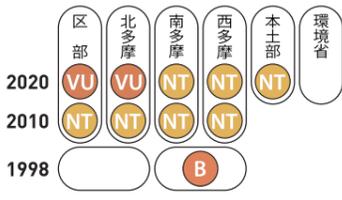
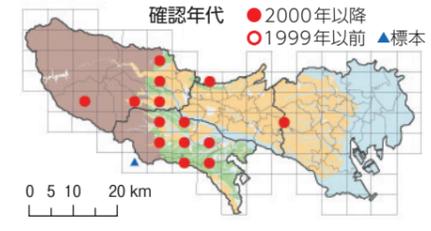
シラゲヒメジソ *Mosla hirta* 被子植物 シン科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草で、池沼周囲や水湿地に生育する。高さ20～50cm。茎には下向き、及び開出する毛が目立つ。葉は対生、卵形で6～10個の鋸歯があり、表面に軟毛がある。萼は有毛。花期は9～10月。花冠は淡紅紫色、唇形。都内では西多摩から南多摩にかけての丘陵地に多く、谷戸や沖積地に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は二次林や谷沿いの湿地であり、開発による埋立て、下草刈りの停止による樹林化などにより、生育に適した生育条件が失われてきた。

■ **特記事項**：イヌコウジュ属のヒメジソに似るが、毛の有無だけでなく鋸歯の数など、形態もかなり異なり、両種が混生することはあまりない。本種はヒメジソより、半陰地で多湿な場所に生育する。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 8, 243



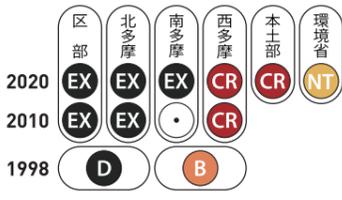
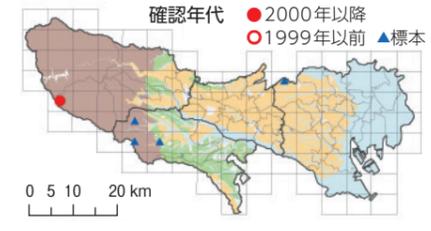
八王子市 2021年9月16日

ヤマジソ *Mosla japonica* 被子植物 シン科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草で、貧栄養な山地草原や岩礫地などに生育する。高さ10～40cm、分枝して紫色を帯びる。葉は対生。花穂は1～4cm。卵形の苞を持つ。花期は9～10月。花冠は淡紅紫色、長さ約3mm。都内では区部及び北多摩、南多摩では絶滅し、西多摩の限られた山域に点在するのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：森林経営の変化などにより生育に適した草地環境が失われ、シカの食害、さらに、登山者による踏みつけなどによっても個体数を減じてきたものと推測される。

■ **特記事項**：
執筆者 奥田重俊
文献一覧 270



三頭山 1994年9月1日

トラノオジソ

Perilla hirtella

被子植物 シソ科

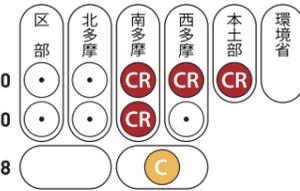
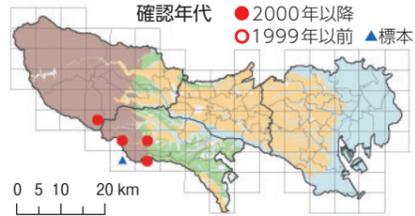
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草で、山地谷筋に生え、稀に海岸部にも生育する。高さ50～90cm。葉は広楕円形で、鋸歯は葉の基部に達している。花期は9～10月。花冠は紅色、唇形で雄しべが突出する。苞は卵円形で先は急に尖り、縁に長毛が密に生える。分果は球形。都内では南多摩から西多摩にかけての山地に稀産する。

■ **生存を脅かす要因**：生育範囲は南多摩から西多摩の山地の限られた場所であり、もともと稀産である。森林の遷移が進み、林間の草地在失われたことや、登山道整備における管理手法の影響なども疑われる。

■ **特記事項**：日本固有種。全草にレモンの香りがある点でレモンエゴマに酷似するが、本種は、葉に短毛とともに特徴的な長毛が生える点や、若い花穂が細長く、緑色である点に注意して同定を行うと良い。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 219, 243, 247, 296



八王子市 1991年9月25日

ミズネコノオ

Pogostemon stellatus

被子植物 シソ科

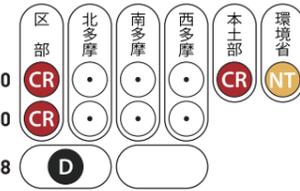
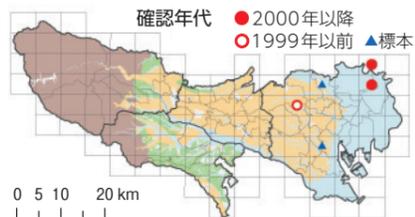
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州および、奄美大島に分布する一年草で、休耕田や湿地に生育する。全草軟弱。高さ15～50cm。葉は線形、3～6個輪生する。花穂は茎頂と枝先につき、長さ2～5cm。花期は8～10月。花冠は白または淡紅色、長さ約3mm。都内では区部の限られた場所に自生地が残されているにすぎない。

■ **生存を脅かす要因**：自生地はもともと局限されており、湿地の開発により、公園内に唯一の自生地が残されているにすぎない。残された生育地では競合する植物の調節や外来種除去など適切な管理を継続する必要がある。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 84, 270



葛飾区 2020年8月31日

ミストラノオ

Pogostemon yatabeanus

被子植物 シソ科

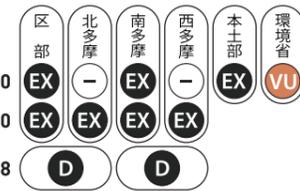
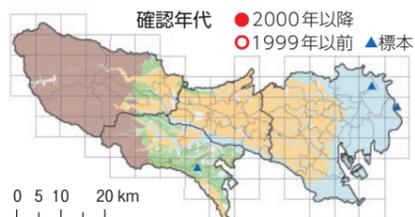
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、池沼の周囲等に生育する。高さ30～50cm。葉は線形で3～4個輪生する。花は茎頂に集まり、長さ3～6cmの穂になる。花期は8～10月。花冠は淡紅色、4裂し、突き出た雄しべとともに長さ約8mm。都内では区部及び南多摩の池沼に産していたが絶滅した。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は池沼とその周辺の湿地に限られ、水質の悪化や埋立て、外来生物の進出拡大などにより、絶滅に至ったものと考えられる。

■ **特記事項**：再発見の場合は、個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 243, 270



福岡県 2011年9月21日

ケナツノタムラソウ(ミヤマタムラソウ)

Salvia lutescens var. *crenata*

被子植物 シソ科

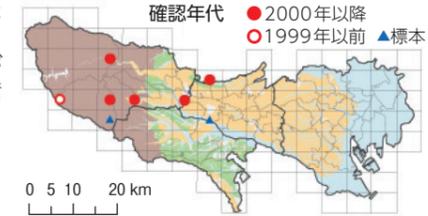
■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北）に分布する多年草。山地の沢沿いに生育し、小群落を構成する。高さ30～70cm。葉は対生で3出または羽状複葉、頂小葉は卵形や広卵形となるが変異が大きい。花期は6～8月、花穂軸や萼には白軟毛が密生し、花冠は淡い紫色で長さ1cm、雄しべは外に突き出る。都内では区部や北多摩では絶滅が現状不明、南多摩から西多摩の丘陵帯上部から山地の深谷沿いに残存するだけとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：都市部では開発により自生地が失われ、多摩西部に退行したが、残された場所でも、植生の変動や山林管理の放置、シカ食害など、複合的な要因から減少傾向が続いている。

■ **特記事項**：日本固有種である。本分類群は、しばしば別変種ナツノタムラソウ var. *intermedia* と混同されており、東京都における実態は十分に明らかとなっていない。先の東京都 RL2020 版では、ナツノタムラソウとして取り扱ったが、本書では都内に確実に分布するケナツノタムラソウとその学名を用い、記録はあるが実態の不明なナツノタムラソウについても暫定的に含むものとする。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 4, 28, 168, 223, 243



青梅市 2019年6月5日

ミゾコウジュ

Salvia plebeia

被子植物 シソ科

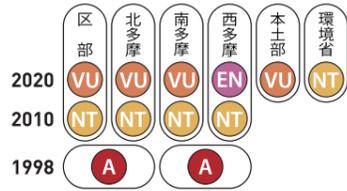
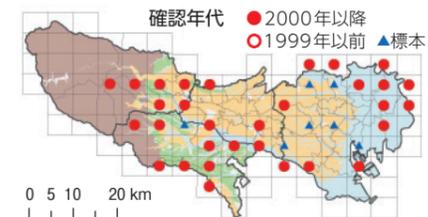
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州および、南西諸島に分布する二年草で、低地の河畔湿地に生育する。ロゼット葉で越冬する。茎は高さ30～70cm。葉は長楕円形で葉面にしわがある。花は円錐花序に多数付く。花期は5～6月。花冠は淡紫色、長さ約5mm。都内では、各地の河川沿いに見られる。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は川沿いの氾濫原や低地、丘陵地の谷戸の湿地などに限られており、しかも本来二年生植物であることから個体数が不安定である。とくに、河川の増水や谷戸湿地の埋立てなどにより、自生地や個体数が激減する要素を常に抱えている。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 8, 243



町田市 2020年5月12日

ヤマジノタツナミソウ

Scutellaria amabilis

被子植物 シソ科

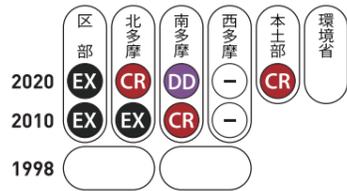
■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する多年草で、山地の沢沿いの林下に生育し、小群落を構成する。高さ15～25cm。茎は四角で上向きに細毛がある。葉は広卵形、粗い鋸歯がある。花は茎の上部にまばらにつく。花期は5～6月。花冠は青紫色、直角に立ち上がる。都内では区部で絶滅、南多摩では現状不明、北多摩地域の武蔵野台地丘陵樹林地1箇所に残存するのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：従来、武蔵野台地の一角に特異的に生育していたもので、自生地は局限されていた。生育する二次林の林床の適切な管理が必要である。

■ **特記事項**：日本固有種である。保全が困難な場合は、人為的な系統保存を検討する必要がある。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 270, 290



清瀬市 2014年5月25日

オカタツナミソウ

Scutellaria brachyspica

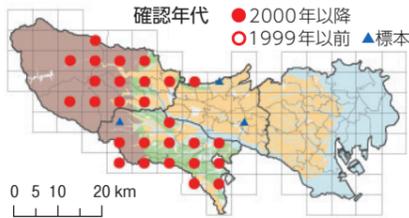
被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：本州、四国に分布する多年草で、丘陵から山地にかけての谷地形、沢沿いの林下に生育する。高さ10～50cm。茎に下向きの毛が密生する。葉は対生、上部の方が大きい。花序は短い。花冠は淡紫色、唇形長さ2cm。花期は5～6月。都内では各地に見られるが、区部で減少が著しく、多摩部でも都市化、乾燥化した地域では激減している。

生存を脅かす要因：生育環境は農村地帯であり、開発による山林の消滅や管理放棄などにより、自生地や個体数の減少が進行している。都市部においては送粉昆虫の減少などによる影響も懸念される。

特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 243, 269



八王子市 2018年5月10日

ヒメナミキ

Scutellaria dependens

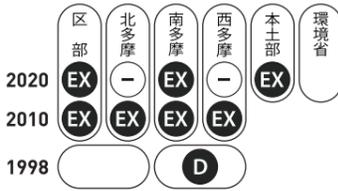
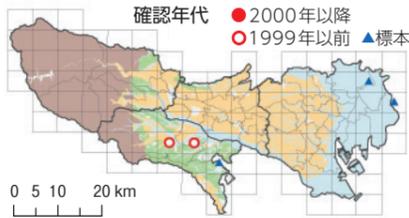
被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、九州に分布する多年草で、低地を中心とした湿地や水田畔に生育する。全体繊細で無毛。高さ20～40cm。細い地下茎を出す。葉は対生、やや三角形。花は葉腋に1個ずつつく。花期は6～8月。花冠は唇形で白色。都内では区部や南多摩に記録があるが絶滅した。標本は残されていないが、南多摩では多摩丘陵域の谷戸湿地に生育していた。

生存を脅かす要因：自生地は当初から比較的限られていたと推測されるが、湿地の開発により生育地が失われた。また、残された場所でも植生の変化により、生育環境が適さなくなったものと推測される。

特記事項：再発見のときには移植などを含め、個別的管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 12, 17, 270



日野市 1985年6月23日

トウゴクシソバツナミ

Scutellaria laeteviolacea var. *abbreviata*

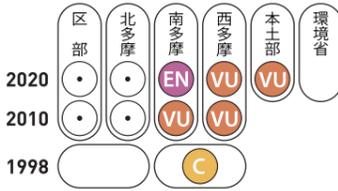
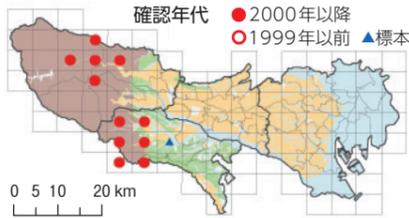
被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：本州の東北部から中部に分布する多年草で、山地の二次林内に生育する。高さ10～15cm。茎はやや叢生し、開出する毛が密生する。葉は対生、心臓形で表面は紫色を帯びる。花期は6～7月。花は茎の上部に集まり、唇形の花冠は紫色で直立し、長さ2.2cm。都内では南多摩の丘陵部から西多摩山地にかけての、尾根部の林床に生育する。シソバツナミの変種でより丈が低く、葉は両面にピロード状の毛が密生して光沢がない。

生存を脅かす要因：生育環境は自然林や二次林の林床、林縁部であり、山林の開発や、樹林地の管理停止による林床の変化、さらにシカ食害などにより、生育地や個体数が失われてきたものと考えられる。

特記事項：日本固有種である。園芸目的の採取のおそれがある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 219, 243



青梅市 2018年5月10日

シソバツナミ

Scutellaria laeteviolacea

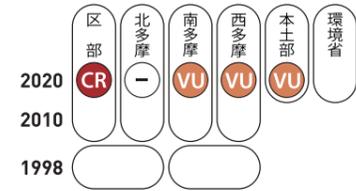
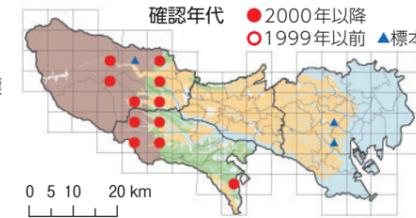
被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：本州の東南部から四国、九州に分布する多年草で、山地の二次林内に生育する。高さ10～40cm。茎に開出または上向する毛が密生する。葉は対生、心臓形、裏面は紫色を帯びる。花期は5～6月。花は茎の上部に集まり、花穂は2～8cm。唇形の花冠は紫色で直立し、長さ2cm。都内では、南多摩の丘陵域から西多摩山地林床に稀に見られる。区部においては現状が明らかではない。トウゴクシソバツナミの基本変種であり、葉は伏毛がまばらにあるのみで表面はやや光沢を帯びる。

生存を脅かす要因：生育環境は二次林の林床、林縁部であり、開発による山林の破壊、樹林地の管理停止による林床の変化などにより、自生地や個体数が失われてきたものと考えられる。園芸目的の採取のおそれもある。

特記事項：日本固有種である。酷似するトウゴクシソバツナミに比べ、本種はより低標高に分布する傾向がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 243, 270



八王子市 2010年5月31日

ミヤマナミキ

Scutellaria shikokiana

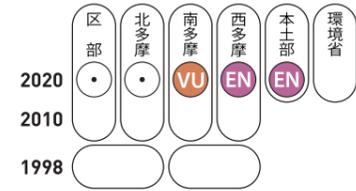
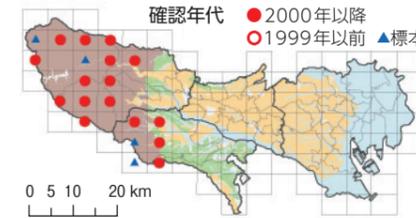
被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：本州の東南部から四国、九州に分布する多年草で、山地の林内に生育する。全体小形で軟らかい。高さ5～10cm。葉は数個対生し卵円形で柄がやや長い。花期は7～8月。花は茎の上部にまばらに付く。花冠は白色で、長さ7～8mm。都内では南多摩から西多摩にかけての湿潤な林床に稀に見られる。

生存を脅かす要因：生育環境は低山の沢筋の斜面や渓谷林下などであり、植物個体が小型なので、大雨による土砂流出や森林荒廃の影響を受けやすい。流域全体の森林保全などの対策が必要である。

特記事項：日本固有種であり、西南日本から不連続に分布するソハヤキ要素の植物でもある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 6, 243



町田市 2009年6月21日

カリガネソウ

Tripura divaricata

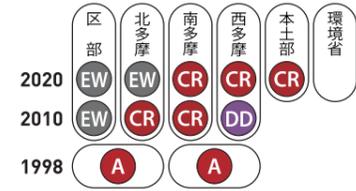
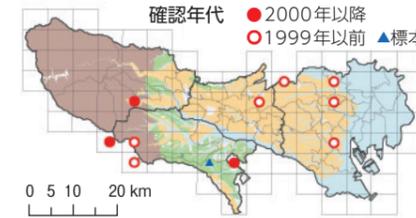
被子植物 シソ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、主として低山の二次林内や林縁に生育する。高さ100cm。葉は対生、広卵形で鋸歯がある。花序はまばらな集散状。花期は8～9月。花冠は青紫色、筒状で5裂し、下側1個は大きく、反転する。雄しべは長く突き出る。全体に強い臭気がある。都内では広範囲に記録があるが、区部や北多摩での近年の実態は不明、南多摩と西多摩の丘陵地から低山地にわずかに自生するのみとなっている。

生存を脅かす要因：生育環境は二次林や草地など開発されやすい場所のため、土地造成や都市開発、また、園芸目的の採取により、自生地が失われてきたものと考えられる。残存する自生地では、生育地の管理（草刈りなど）を継続する必要がある。

特記事項：観賞用に栽培されることもあり、自生か植栽起源か判断がつかない場合がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 247, 270, 290



町田市 2022年10月2日

ミゾホオズキ 被子植物 ハエドクソウ科

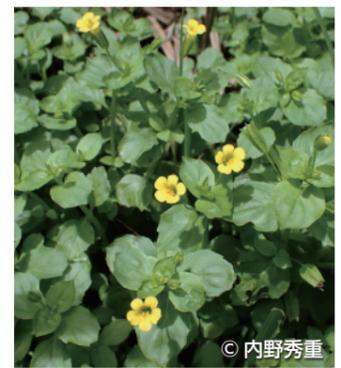
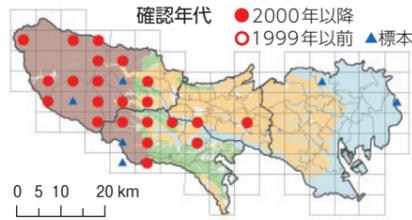
Mimulus nepalensis

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、九州に分布する多年草で、山地の河畔湿地や流水辺に生育する。茎は高さ10～30cmで分枝する。茎葉は軟らかく無毛。葉は対生、柄が長く、楕円形で少数の鋸歯がある。花期は6～8月。花は葉腋に1個ずつつき、黄色。さく果は大きな萼に包まれる。都内では低地から山地にかけての湧水や伏流水などの流水辺に見られるが、低地では稀となっている。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は水湿地のため、湿地を含む土地の開発や造成、湧水の停止、さらに、外来植物の繁茂などにより生育立地が悪化したものと考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 243, 270



町田市 2022年7月7日

オオナンバンギセル 被子植物 ハマウツボ科

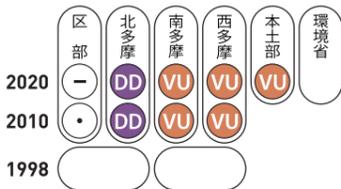
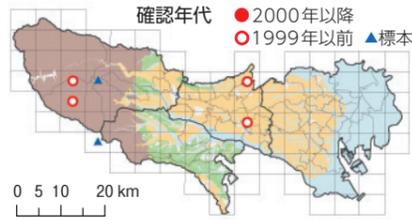
Aeginetia sinensis

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草で、丘陵地から山地の日の当たる草地に生育する。ススキやノガリヤスなどのイネ科植物の根に寄生する。茎はごく短い。花柄は鱗片葉から立ち上がり、高さ20～30cm。萼は長さ3～5cmで先端は鈍い。花期は7～9月。花は横を向き、紅紫色。花冠は筒状で、先は5裂し、裂片には鋸歯がある。さく果は卵形で微少な種子が多数ある。都内では北多摩では情報不足、南多摩から西多摩の低山以上の地域に散見されるが、稀となっている。

■ **生存を脅かす要因**：かつて低地に存在していた草刈り地や林間の開放地などに自生していたが、管理の停止や樹林化などによる草地の減少により、山地に局所的に退行したものと考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 243, 270



八王子市 1990年7月8日

タチコゴメグサ 被子植物 ハマウツボ科

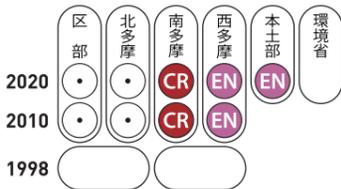
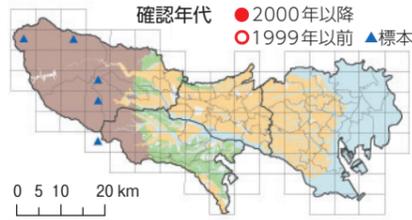
Euphrasia maximowiczii

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草で、山地の日の当たる草原に生育する。高さ15～30cm。全体有毛。葉は対生し、卵形で尖った鋸歯がある。花は葉腋に1個ずつつく。花期は8～10月。花冠は白色、唇形で下唇は3裂。さく果は長楕円形。都内では西部山地の亜高山性の草原に産するが、近年、確実な生育状況が得られていない。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は山地高所の亜高山帯草原であり、産地が従来局限されていた。草地管理の停止による植生の変化、気候の温暖化、シカ食害などの複合的要因により激減したものと推測される。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 257



山梨県 1980年8月16日

ヤマウツボ 被子植物 ハマウツボ科

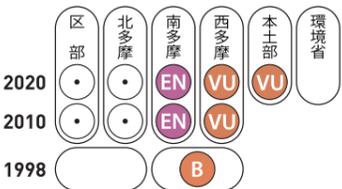
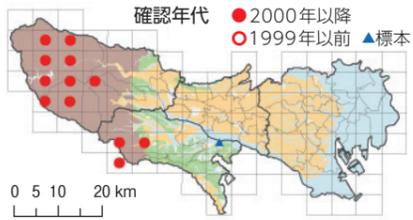
Lathraea japonica

■ **種の特性と生育状況**：本州の関東地方以西、四国、九州に分布する寄生植物で、山地の落葉自然林に生育する。高さ15～30cm。葉緑素を欠き全体白色。葉は小形。花期は4～6月。花は多数つき、花冠は白色、やや赤紫色を帯び、筒形で先は唇形。さく果は倒卵形。都内では南多摩及び西多摩の山地林内に稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：特定の樹種との関係性があり、従来から限られた自然林に発生していた。既存の自生地については、森林植生の適切な維持管理、登山者による踏みつけなどに配慮しながら、保全する必要がある。

■ **特記事項**：ブナ科、カバノキ科、ヤナギ科などの樹木に寄生する。寄生植物のため、寄主を含む群落全体で保存するなど特別な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 166, 218, 220



八王子市 1986年5月9日

クチナシグサ 被子植物 ハマウツボ科

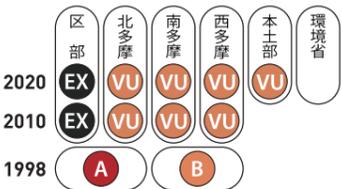
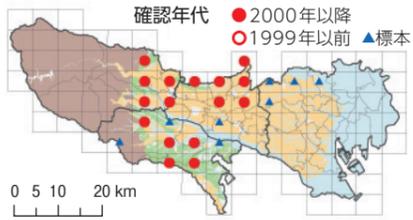
Monochasma sheareri

■ **種の特性と生育状況**：本州の関東地方以西、四国、九州に分布する半寄生の二年草で、丘陵地の乾いた草地に生育する。茎は地を這い、長さ20～50cm。葉は対生し線形。花は茎の上部の葉腋につく。花期は5～6月。花冠は淡紅紫色、唇形。萼は果期に長く伸びる。都内では各地に分布するが、区部では絶滅。その他の地域でも、生育に適した明るい疎林下や草地などが失われ、全体的な減少傾向が止まらない。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は明るい疎林下や林縁であり、樹林管理や下草刈りの停止などにより、生育は困難となる。保全にあたっては越冬株の保存に留意して、自生地の定期的な草刈りを行う必要がある。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 196, 243, 270



八王子市 2005年4月11日

ハマウツボ 被子植物 ハマウツボ科

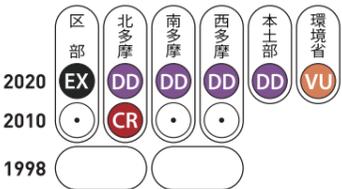
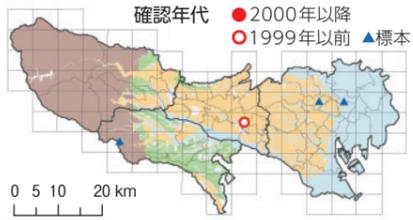
Orobanche coerulescens

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州、および南西諸島に分布する一年草で、海岸や河口の砂地に生育し、主としてカワラヨモギの根に寄生する。茎は黄褐色、毛が少なく、多肉質で高さ10～25cm。葉は鱗片状。花期は5～7月。花は茎の上部に集まり、淡紫色。花冠は唇形で上唇は浅く2裂、下唇は3裂する。さく果は楕円形。海岸の砂丘や乾いた河原に生育する。都内では区部で絶滅、内陸性でオトコヨモギに寄生するオカウツボが北多摩（小金井、稲城）に産した記録があるが、近年、生育情報は得られていない。

■ **生存を脅かす要因**：区部、沿岸部の開発とともに生育環境が失われて絶滅したものと考えられる。寄生植物のため、広く宿主を含む生育地を保全する必要がある。

■ **特記事項**：オトコヨモギに寄生し、内陸に分布するものをオカウツボとする見解があるが、現在は同じ分類群に含める場合が多い。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 270, 280, 290



多摩川 1975年5月29日

ハンカイシオガマ

Pedicularis gloriosa

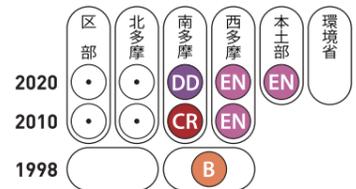
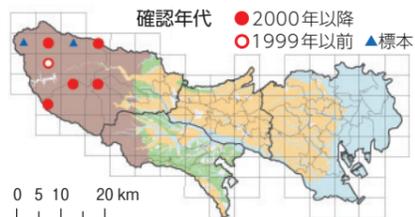
被子植物
ハマウツボ科

種の特性と生育状況：本州の関東、東海地方に分布する多年草で、山地の落葉自然林に生育する。高さ30～90cm。葉は下部に集まり卵形で羽状に全裂する。花は枝先に花穂を作り、密に花をつける。花期は8～10月。花冠は紅紫色、唇形で上唇は湾曲する。さく実は卵円形。都内では南多摩で情報不足、西多摩の山地にきわめて稀に分布するのみとなっている。

生存を脅かす要因：生育地は深山の林縁部であり、本来稀産な植物であるが、植生遷移の進行に伴う競合する植物の増加やシカの食害など、複合的な要因により本種の生育状況が退行したものと推測される。

特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 287



神奈川県 2008年9月8日

シオガマギク

Pedicularis resupinata subsp. *oppositifolia*

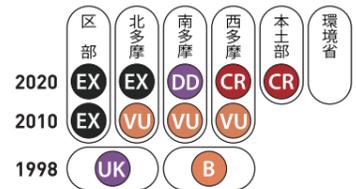
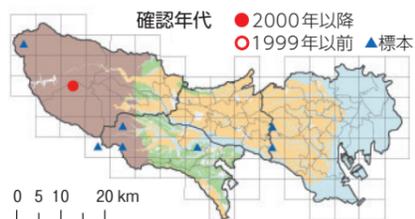
被子植物
ハマウツボ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の明るい草地に生育する。茎は基部で分枝し、高さ25～60cm。葉は狭い卵形で重鋸歯がある。花は茎の上部に集まる。花期は8～10月。花冠は紅紫色、唇形で上唇は鎌形に曲がる。さく実は卵形。都内では各地から報告があるが、区部及び北多摩では絶滅、西多摩の山地草原にわずかに残存するのみとなっている。

生存を脅かす要因：生育環境は原野や林縁草地などであり、都市部においては宅地や道路開発、また、山地においては植生遷移に伴う種組成の変化、林道の改変、シカの食害など、複合的な要因により本種の生育条件が悪化しているものと考えられる。

特記事項：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 168, 270



北海道 1995年8月3日

トモエシオガマ

Pedicularis resupinata subsp. *teucrifolia* var. *caespitosa*

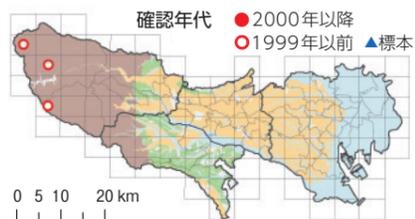
被子植物
ハマウツボ科

種の特性と生育状況：本州の関東、中部地方に分布する多年草で、山地の明るい草地に生育する。高さ30～50cm。葉は互生、重鋸歯がある。花序は茎の上部に短くつまり、花は旋回状に付く。花期は8～10月。花冠は紅紫色。シオガマギクの変種。都内では西多摩の山地草原に記録があるが、近年の生育確認はできていない。

生存を脅かす要因：生育環境は山地の林縁や草原であり、本来稀産な植物であるが、植生遷移の進行による種組成の変化、林道の改変、シカの食害など、複合的な要因により生育条件がさらに悪化したものと推測される。

特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 168



富士山 1983年8月19日

キヨスミウツボ

Phacellanthus tubiflorus

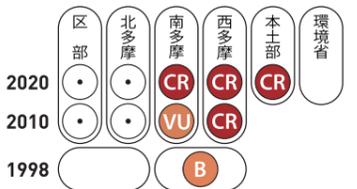
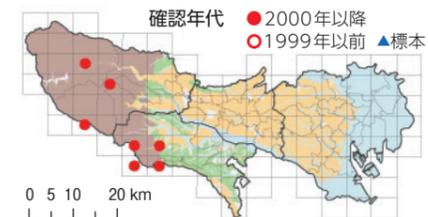
被子植物
ハマウツボ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の自然林内や林縁に生育する。木の根に寄生する。全体が多肉質で白色。高さ10cm。葉は鱗片状で基部に密につく。花期は5～7月。花は茎の先に5～10個束状につき、白色でのちに黄色に変わる。花冠は筒形で先は唇形となり、長さ2.5～3cm。やや斜めに立つ。さく実は卵形。都内では南多摩（八王子市）から西多摩にかけての山地に見られるがきわめて稀である。

生存を脅かす要因：発生地は従来限られており、その減少要因には、寄主植物との関係性、気候要因を含めた植生の変化など、さまざまな要因が考えられる。宿主を含む生育地を広く保全する必要がある。

特記事項：寄主とする植物が多岐にわたり、生態にはまだ不明な点が多い植物である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 20, 168, 243



八王子市 1988年6月14日

コシオガマ

Phtheirospermum japonicum

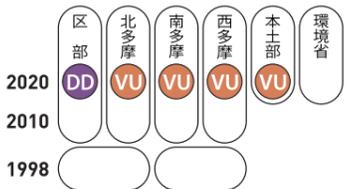
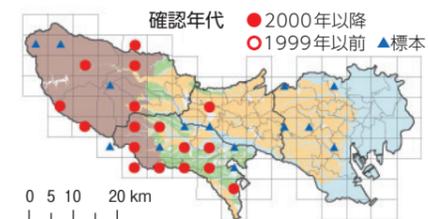
被子植物
ハマウツボ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する半寄生の一年草で、広く山野に生育する。茎は直立し高さ20～70cm。葉とともに腺毛が密に生える。葉は対生し、羽状に分裂する。花期は9～10月。花は上部の葉腋に1個ずつ付く。萼裂片には密に腺毛がある。花冠は長さ2cm、唇形で上唇が広く、薄紫色。都内では河川敷から丘陵帯の草地、山地林縁などに見られるが、自生地の減少が続く、区部や北多摩の実態は不明となっている。

生存を脅かす要因：生育場所は二次林などの林縁部や斜面の草地のため、開発はもとより、除草時の生物多様性への配慮不足などによっても、生育地が失われる場合が多い。競合植物の繁茂や外来種などの影響も無視できない。

特記事項：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 196, 243, 245, 316



日野市 2018年10月16日

ヒキヨモギ

Siphonostegia chinensis

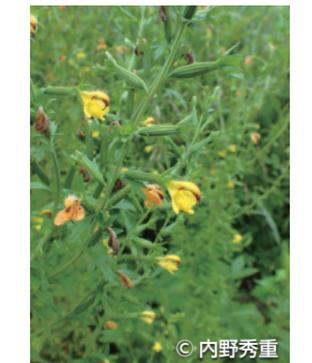
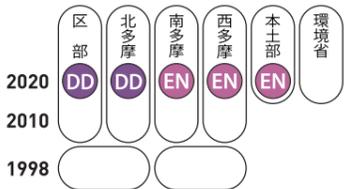
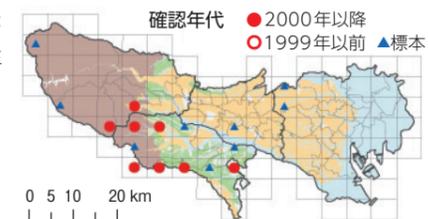
被子植物
ハマウツボ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州および南西諸島に分布する半寄生の一年草で、各地の山野に生育する。高さ30～70cm。全体に曲がった短毛が密生する。葉は対生し深裂。花期は8～9月。長い花茎を出して、葉腋に1個ずつ花を付ける。花冠は鮮やかな黄色、唇形で上唇の先は切形。花後さく果をつける。都内では都市部では不明、丘陵から西部の山地草地に散在する。

生存を脅かす要因：生育環境は二次林などの林縁部や草地であり、地域の開発はもとより、林縁部の伐採や除草時の生物多様性への配慮不足などによっても、生育地が失われる場合が多い。大型の外来種繁茂の影響も無視できない。

特記事項：生育環境が大きく改変されていなくても発生が見られなくなる場合があり、生活史や生態の解明が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 4, 196, 243, 270



町田市 2020年8月8日

オオヒキヨモギ

Siphonostegia laeta

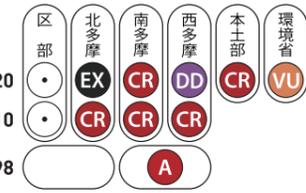
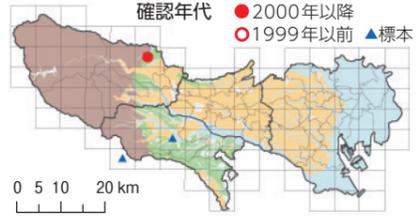
被子植物
ハマウツボ科

■種の特性と生育状況: 本州の関東地方以西、四国に分布する半寄生の一年草で、山地の自然林に生育する。高さ30〜70cm。葉とともに腺毛が密に生える。葉は対生し深裂。花期は8〜9月。花は上部の葉腋に1個付く。萼裂片は長さ5〜7mm。花冠は灰黄色、唇形で上唇の先は切形。都内では、北多摩では絶滅、南多摩、西多摩の低山地にきわめて稀に産するのみである。

■生存を脅かす要因: 生育地は丘陵から山地の林縁部にあり、本来稀産な植物であったが、都市部では開発によりさらに山地へと退行した。山地でも、森林の更新が停滞したため、生育に適した林間ギャップや林縁、草地などが失われたことが、本種減少の要因と考えられる。

■特記事項:

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 270



愛知県 2005年8月8日

フクシマシャジン

Adenophora divaricata

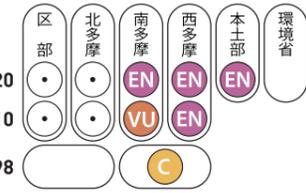
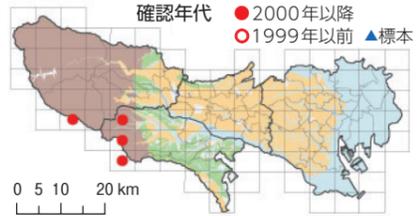
被子植物
キキョウ科

■種の特性と生育状況: 本州の中部以北および四国に分布する多年草で、山地の明るい二次林内に生育する。茎は高さ60〜100cm。茎葉は輪生、または対生、ときに互生し、卵状楕円形。花序は枝が横に長く張り出し、まばらな円錐状になる。花期は8〜9月。花冠は鐘形、淡紫色で長さ1.5〜2cm、先はやや広がり、浅く5裂する。花柱は花冠と同長か、少し長い。都内では、南多摩と西多摩の一部に稀に分布する。

■生存を脅かす要因: 生育環境は山地帯の二次林の林縁や草地であり、林縁植生の適正な管理を怠ったことやシカの食害、さらに、園芸目的の採取など、複合的な要因による衰退の可能性が高い。

■特記事項:

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 152, 168, 219, 243



八王子市 2003年8月30日

ミウギシャジン

Adenophora nikoensis var. *petrophila*

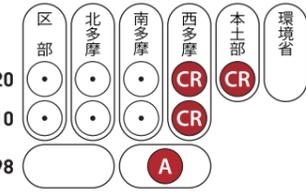
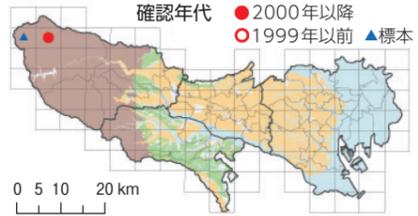
被子植物
キキョウ科

■種の特性と生育状況: 関東地方に分布する多年草で、山地の岩壁に生育する。高さ20〜40cm。葉は披針形で先が鎌形に湾曲し、一部または全部が輪生する。花は茎頂に1〜数個が円錐花序につく。花期は8〜9月。花冠は淡紫色、鐘形。花柱は花冠より長い。萼裂片は全縁のもの小歯があるものがある。ヒメシャジンの変種。都内では西多摩地域の高標高地に分布するが稀である。

■生存を脅かす要因: 生育環境は特殊立地であり、個体数も産地も従来局限されていた。個体数が少ないため、生育地の適切な保護管理を継続する必要がある。園芸目的の採取のおそれもある。

■特記事項: 日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 292



奥多摩町 1981年7月12日

ソバナ

Adenophora remotiflora

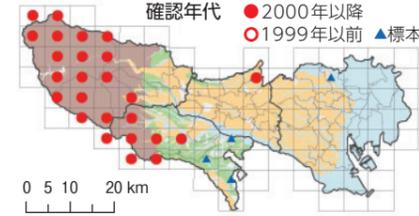
被子植物
キキョウ科

■種の特性と生育状況: 本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の明るい二次林内に生育する。茎は高さ50〜100cmで直立するが、上方は傾く。茎葉は常に互生し、卵形または広披針形。上部の葉は小型で柄がない。花は円錐花序につき、垂れ下がる。萼裂片は披針形で全縁。花期は8月。花冠は青紫色、漏斗状鐘形で裂片はやや反り返る。花柱は突き出ない。有毛品をケソバナという。都内では区部と北多摩はほぼ絶滅。また、南多摩の丘陵部でも壊滅的ごく稀となっており、西多摩の山地に分布が退行したように見える。

■生存を脅かす要因: 多摩部の丘陵地などでは開発により、自生地が失われた事例が多く、山地では森林の鬱閉やシカ食害などにより、生育環境が悪化したものと考えられる。

■特記事項:

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 105, 152, 243, 270



八王子市 2005年7月30日

ツルギキョウ

Codonopsis javanica subsp. *japonica*

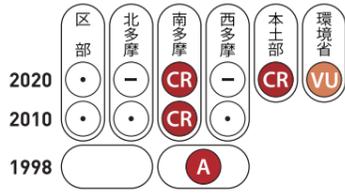
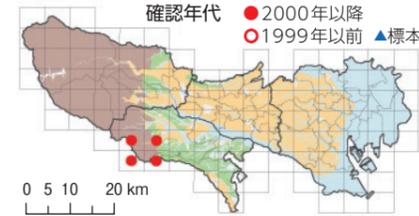
被子植物
キキョウ科

■種の特性と生育状況: 本州の関東地方以西、四国、九州に分布する多年草で、山地の林縁に生育する。白色で多肉質の太い根茎がある。茎は細く長く伸びる。葉は互生または対生し、葉身は卵心形で先は鈍く、薄くて、粉白色を帯びる。花期は8〜10月。花は葉腋に単生し、長い柄で下垂する。花冠は広い鐘形、白色で内側は淡紫色、先は5裂し、反り返る。雄しべは5個。液果は扁球形。種子は多数。都内では南多摩地域の低山地にごく稀である。

■生存を脅かす要因: 本来、都内では、南多摩の局所的な分布が知られていたのみである。園芸的な採取圧や、生物多様性への配慮が不足した山林管理などが生存を脅かす要因となっている。つる植物という本種の特性に基づく適切な管理を行うことによって自生地が失われないように注意が必要である。

■特記事項:

執筆者 奥田重俊
文献一覧 243, 287



八王子市 1989年10月9日

バアソブ

Codonopsis ussuriensis

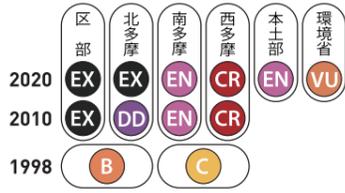
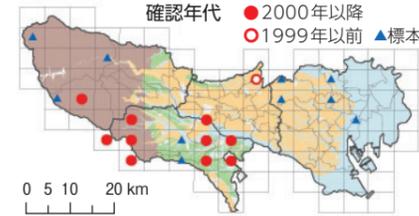
被子植物
キキョウ科

■種の特性と生育状況: 北海道、本州、四国、九州に分布する多年生つる草で、山地の林縁に生育する。全体に白毛を散生する。塊根は小型で短く、球形。葉の裏面に白毛が密生する。花期は8〜9月。花冠は小さく、鐘形、内面は紫色で濃紫色の斑点がある。萼裂片は長さ1〜1.5cm。種子には翼がない。都内では各地に記録があるが区部及び北多摩では絶滅、南多摩や西多摩の丘陵から山地にかけて点在するのみとなっている。

■生存を脅かす要因: 生育地は二次林などの林縁部であり、土地造成や森林伐採などにより、生育環境が失われたものと考えられる。林縁部の鬱閉などでも急速に生育状況が悪化することが知られており、自生地において、つる植物という本種の特性に基づく適切な保全管理が必要である。

■特記事項:

執筆者 奥田重俊
文献一覧 13, 105, 196, 243, 270



八王子市 1998年8月21日

サワギキョウ

Lobelia sessilifolia

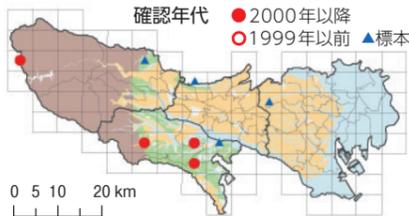
被子植物
キキョウ科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、低地から山地にかけての湿地に生育する。根茎は短く、太く、横に這い、莖は中空で高さ50～100cm、低鋸歯があり柄がない。上部の葉はしだいに小型になり、ついは苞となりその腋に花をつけ、密な総状花序となる。花期は8～9月。花冠は濃紫色、長さ2.5～3cm、唇形で、上唇は2深裂。さく果は球形。都内では各地に記録があるが、南多摩の丘陵地にわずかな自生地が残されているだけで、北多摩では絶滅、区部や西多摩でも近年の生育情報が得られなくなっている。

■**生存を脅かす要因**：南多摩や西多摩の山地には生育に適した湿地環境が少なく、丘陵地の限られた自生地も開発による埋立て、湿地の管理放棄による植生の改変等により、ほとんどの生育地が失われてきた。残された自生地では、草刈り等の管理を継続するなど個別的な管理が必要である。

■**特記事項**：園芸的な乱獲を防止する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 222, 243, 316



八王子市 2005年9月3日

タニギキョウ

Peracarpha carnosa

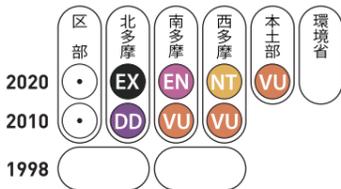
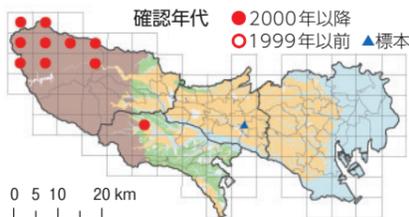
被子植物
キキョウ科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する軟弱な多年草で、山地の二次林内のやや湿った所に生育する。莖は高さ5～15cm。葉は互生し、卵形で先は鈍く、基部は円く、表面は緑色で裏面は白緑色。花期は6～8月。花は莖の頂または上部の葉腋に上向きに1個つき、果時には下垂する。花冠は漏斗形、白色またはわずかに淡紫色を帯び、5深裂する。都内では西多摩の山地に散生するが、北多摩では絶滅、南多摩地域にもわずかな産地があるのみとなっている。

■**生存を脅かす要因**：生育環境は山地渓谷林下や河川沿いの肥沃な適湿地等であり、都市部では開発によって失われ、土地造成や管理放棄による植生の改変、地下水の低下など、多くの減少要因が認められる。残存する自生地においては、競合する雑草の除去など個別的な管理が必要である。

■**特記事項**：武蔵野台地の深大寺に産したタイリンタニギキョウは花のやや大きな品種として報告されたものであるが、現在は消滅している。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 168, 243, 270



八王子市 1983年4月13日

キキョウ

Platycodon grandiflorus

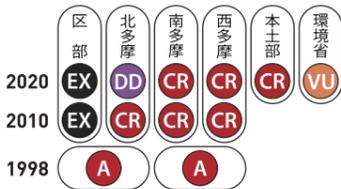
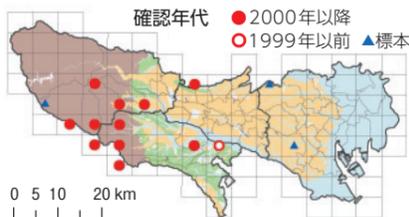
被子植物
キキョウ科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州および南西諸島に分布する多年草で、山地の二次林で日当たり良く水はけの良い所に生育する。根茎は太く、深く地中に入る。莖は高さ50～100cm。葉は狭卵形で先はとがり、無柄かまたはごく短い柄があり、縁に鋭鋸歯がある。裏面は短毛があって粉白色を帯びる。花期は7～8月。花は莖頂近くに数個つき、花冠は径4～5cm、柄があり、青紫色であるが、淡紫色や白色のものもある。都内では全地域に記録があるが、区部では絶滅し、多摩部にわずかに残存しているだけとなっている。

■**生存を脅かす要因**：開発による農村環境の破壊に加え、樹林管理の放棄などにより植生の遷移が進行し、生育に適した林縁や草地が失われた。さらに、外来植物の繁茂などの影響も激減した要因として無視できない。

■**特記事項**：薬草目的の採取のおそれが高い。また、植栽されるため、自生の個体かどうか判断に迷う場合が多い。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 243, 270



あきる野市 2006年7月25日

ミツガシワ

Menyanthes trifoliata

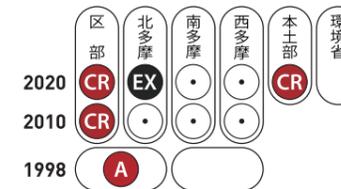
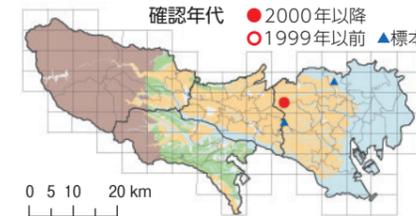
被子植物
ミツガシワ科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、九州に分布する多年草で、低地の湿地に生育する。根茎は長い。高さ20～40cm。水面上に3裂する葉を広げる。花期は4～8月。花は白色、ろうと状で5中裂し、内面に毛がある。さく果は球形で2裂。都内では北多摩で絶滅し、現在では練馬区石神井川流域に自生と見られる個体群が現存するだけとなっている。

■**生存を脅かす要因**：もともと、生育地は河川流域とその周辺の池沼に限られており、こうした自生地の開発による埋立て整備、水質悪化、外来生物の侵入などにより、危機的な状況に陥った。

■**特記事項**：再発見の場合には生育地の水質の管理を継続するなど、人為的な系統保存を含めた個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 222, 269, 270



練馬区 2022年4月12日

ガガバタ

Nymphoides indica

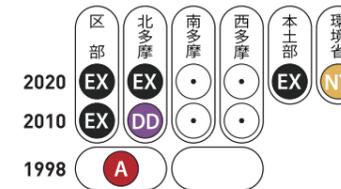
被子植物
ミツガシワ科

■**種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、池沼に生育する。根茎は泥の中を這い、水面上に卵状円形の葉を広げる。花期は7～9月。花は白色、花冠裂片の内面に毛がある。都内では区部から北多摩に記録があるものの、1960年以降報告が得られず、絶滅したものと判断される。

■**生存を脅かす要因**：生育場所は池沼であり、都市開発による護岸整備、水質悪化、外来生物の侵入などの複合的要因により、絶滅に至ったと推測される。再発見の場合には生育地の水質の管理を継続するなど個別的な管理が必要である。

■**特記事項**：保全が困難な場合は、人為的な系統保存を検討する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 197, 270



葛飾区 (植栽) 2020年8月31日

アサザ

Nymphoides peltata

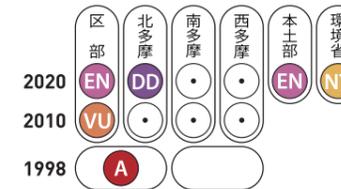
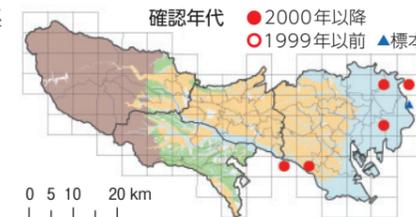
被子植物
ミツガシワ科

■**種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、池沼に生育する。根茎は泥の中を這う。葉は卵形で縁は波状の歯牙がある。花期は6～8月。花は黄色、花冠は5裂し、径3～4cm。都内では区部、葛飾区にのみ自生地が残されている。なお、現存する区部以外で目にすることがあるが、かつて自生していた北多摩を含め、植栽または逸出の場合が大半と見られる。また、それらが、区部在来系統の個体であるかどうかの判断は困難である。

■**生存を脅かす要因**：生育場所は池沼であり、都市開発による池沼の埋立てや整備をはじめ、水質悪化、外来生物の拡大など、複合的な要因で衰退したものと考えられる。再発見の場合には生育地の水質の管理を継続するなど個別的な管理が必要である。

■**特記事項**：保全が困難な場合は、人為的な系統保存を検討する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 83, 197, 270



青梅市 (植栽) 2005年6月8日

ノコギリソウ

Achillea alpina var. *longiligulata*

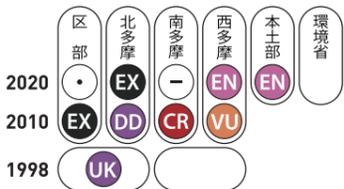
被子植物
キク科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州に分布する多年草で、草地に生育する。茎はそう生し、高さ50～100cm、葉は無柄で、裂片は茎を抱き、くしの歯状に中～深裂する。花期は7～9月。頭花は茎頂に密な散房花序をつくる。舌状花は5～7個、白色で長さ3.5～4.5mm。総苞片は2列に並び、外片は長楕円形で内片の半長。果実は扁平で毛はない。都内では北多摩に記録(絶滅)があるほか、西多摩の山地高所でシカの防護柵内にわずかに残存するのみとなっている。

■**生存を脅かす要因**：都心部では各種の開発により消滅。また、西多摩の山地では、生育に適した草原が限られており、遷移の進行やシカ食害などにより、危機的な状況に至ったと考えられる。残存する個体数が少ないため、生育地の継続的な管理(草刈りなど)が必要である。

■**特記事項**：日本固有種である。変種のヤマノコギリソウ var. *discoidea* を含む。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 207



岩手県 1998年7月30日

ヤマハハコ

Anaphalis margaritacea

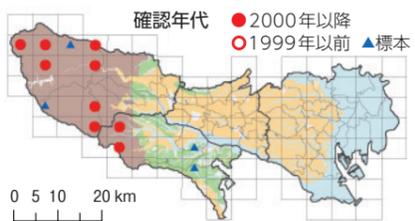
被子植物
キク科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州中部以北に分布する多年草で、低地から山地の明るい林縁や草地に生育する。雌雄異株。茎は高さ30～70cmとなり、地下茎が伸びて増える。葉は狭披針形、長さ6～9cm、やや厚く、3脈があり、裏面は灰白色または淡褐色の長い綿毛を密生する。枝の先に多数の頭花を散房状につける。花期は8～9月。総苞片は乾膜質で上半は白色。都内では区部や北多摩では絶滅か現状不明、南多摩から西多摩にかけては分布域が丘陵部から山地部に退行し、点在する状況である。

■**生存を脅かす要因**：生育地は山地の斜面や林道のり面など、土壌が露出し不安定で植生のまばらな場所に多い。こうした立地は、外来種の吹きつけやコンクリート化など、都市基盤整備がきっかけとなり、衰退が進行したものと考えられる。

■**特記事項**：残された生育地においては草刈りなどの管理を継続する必要がある。園芸目的の採取も考えられる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 152, 168, 196, 270



青梅市 1994年8月10日

カワラハハコ

Anaphalis margaritacea var. *yedoensis*

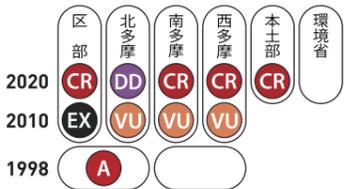
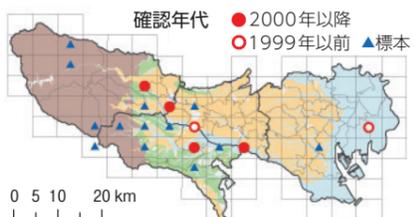
被子植物
キク科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、河原の砂礫地に生育し、ときに群生する。茎は叢生し、中部でもよく分枝し、高さ30～50cmとなる。葉は線形、幅は1.5mm内外で縁は裏に巻く。花期は8～9月。都内では多摩川の上流から中流部にかけて分布しているが、散発的に発生するのみとなっており、危機的な状況にある。

■**生存を脅かす要因**：生育地は河原の礫地であり、異常な増水による河川氾濫の頻発により、個体群の多くが消滅し、さらに、流域の富栄養化が生育に影響を及ぼした結果、現在のような衰退をもたらしたと考えられる。

■**特記事項**：多摩川流域全体の流量調節や浚渫など、根本的な保全対策が求められる。個体群が残存する場所があれば、競合する植物の除去作業などが必要である。なお、亜種(または変種)関係にあるヤマハハコとは葉の幅が狭いこと、ホンパノヤマハハコとは茎が多く分枝すること、川原に生えることで区別できる。日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 17, 196, 243, 249



日野市 1987年10月25日

ヤハズハハコ

Anaphalis sinica

被子植物
キク科

■**種の特性と生育状況**：本州の関東地方以西、四国、九州に分布する多年草で、山地の乾燥する礫地や斜面に生育する。茎は高さ20～35cmとなる。根出葉は開花時に枯れる。茎葉は倒披針形で鈍頭、基部は茎に沿って翼状に流れる。表裏に綿毛が密生する。頭花は散房状にややまばらにつく。雌株の頭花は多数の雌花と、少数の雄花からなり、総苞片は白色で下半は帯褐色。雄株の頭花は、雄花しか持たない。総苞は球鐘形。花期は8～9月。都内では西多摩地域の石灰岩地などに見られる。

■**生存を脅かす要因**：生育環境は山地の露岩上の草地などであり、周辺植生の退行や維持管理の放棄、シカ食害の拡大などにより、減少している可能性がある。特殊岩地の保全対策が必要である。

■**特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 292



奥多摩町 1989年8月13日

クリヤマハハコ

Anaphalis sinica var. *viscosissima*

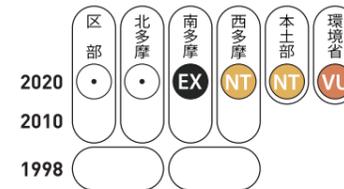
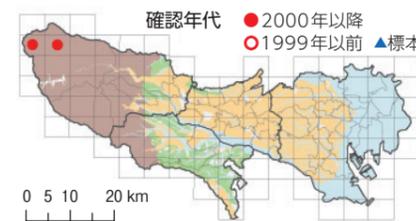
被子植物
キク科

■**種の特性と生育状況**：本州の関東地方に分布する多年草で、山地の乾燥する礫地や斜面に生育する。ヤハズハハコの変種で全体がヤハズハハコに似るが、葉に白い綿毛が少なく黄緑色を呈する。茎は高さ20～35cm。根出葉は開花時に枯れる。茎葉はややまばらにつき、倒披針形で鈍頭、基部は茎に沿って翼状に流れる。表裏に綿毛がほとんど無く、黄褐色の微細な腺毛が密生する。頭花は10個ほどが散房状につく。花期は8～9月。雌株の頭花は多数の雌花の中心に少数の雄花があり、総苞片は白色で下半は帯褐色。雄株の頭花は雄花のみ。総苞は球鐘形。都内では西多摩地域の石灰岩地などに見られる。

■**生存を脅かす要因**：生育環境は石灰岩の岩場や崩壊地の場合が多く、森林管理上の保全対策が必要である。生育地の管理(草刈りなど)に関しては、特殊な立地条件を考慮した個別的な管理が必要である。

■**特記事項**：葉を揉むと甘い香りがするのにも本変種の特徴である。日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 66



奥多摩町 2022年7月23日

カワラヨモギ

Artemisia capillaris

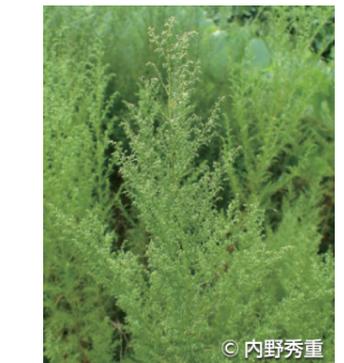
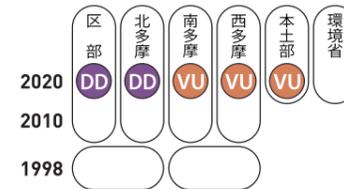
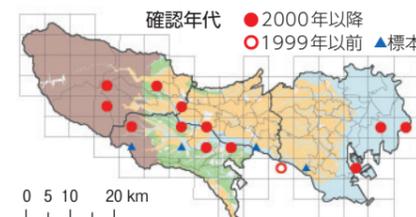
被子植物
キク科

■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州および南西諸島に分布する多年草で、河原の礫地や砂地に生育する。茎は叢生し、花をつけない茎はロゼット状に葉をつけ、細かく裂け、白色の絹毛がある。花茎は高さ30～80cm、下部の葉は花時に枯れ、中部の葉は倒卵形で鋸歯がある。花期は9～10月。総状の円錐花序に多数の頭花をつける。頭花は球形で、幅1.5～2mm。そう果は扁平で毛はない。都内では多摩川水系の上流域から河口部にかけて点在する。

■**生存を脅かす要因**：生育地がカワラハハコと同様に河原の礫地であり、異常な流量による河川氾濫の頻発により、個体群の多くが消滅し、さらに、流水の富栄養化により生育に影響を及ぼし、現在のような衰退をもたらしたと考えられる。流域全体を通じての流量調節や水質汚濁の防止など、生物多様性に配慮した抜本的河川管理対策が求められる。

■**特記事項**：河川高水敷では洪水による攪乱により、群落が再生することがある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 196, 243, 245, 264



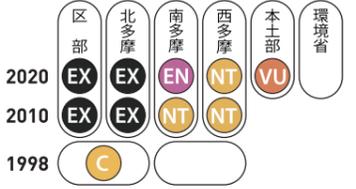
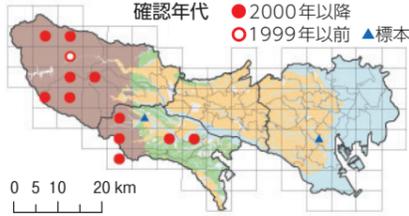
日野市 2020年8月8日

イヌヨモギ *Artemisia keiskeana* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、主として山地林縁や草地に生育する。茎は叢生し、花をつけない茎はロゼット状に葉をつけ、広いさじ状で円頭、基部はくさび状で柄となる。花茎は高さ30～80cm、下部の葉は花時に枯れ、中部の葉は倒卵形で鋸歯がある。総状円錐花序に多数の下向きの頭花をつける。花期は8～10月。頭花は球形で、幅3～3.5mm。そう果は扁平で毛はない。都内では広く分布の記録があるが、区部や北多摩では絶滅し、南多摩から西多摩にかけての山林樹林下に点在して生育が見られる状況である。

生存を脅かす要因：生育環境は二次林や植林地の林縁部であり、森林開発などにより自生地が失われたほか、植生遷移の進行や林縁管理の停止などにより、生育地の減少が進行したと思われる。

特記事項：
執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 243, 292



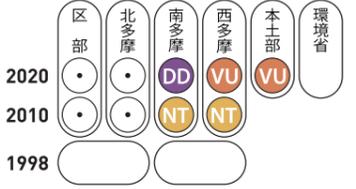
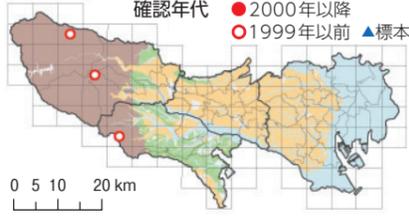
奥多摩町 2019年10月7日 © 内野秀重

サガミギク *Aster leiophyllus* var. *harae* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州の関東西南部に分布する多年草で、山地の二次林内や林縁に生育する。茎は高さ70cm内外、紫色を帯びる。葉は茎の下側に付く傾向がある。葉形は線状披針形～披針形、鋭尖頭、短柄があり、両面はときに紫色を帯び、やや硬い。花期は9～10月。舌状花は紫色または白色。シロヨメナの変種。都内では南多摩から西多摩にかけての山地に局地的に分布する。

生存を脅かす要因：もとより自生地は限定されていたが、その後、森林環境の変化や気象災害などにより主要産地の状況が変化し、きわめて稀な植物へと衰退した。西多摩も含め、現状の確認が急務となっている。

特記事項：
執筆者 奥田重俊
文献一覧 167, 168, 219



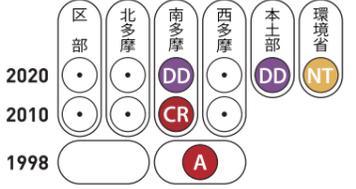
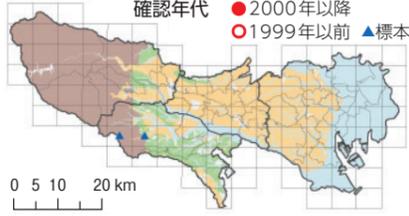
八王子市 1996年10月24日

タテヤマギク *Aster dimorphophyllus* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州の東京、神奈川、静岡に分布する多年草で、山地の自然林や二次林内に生育する。地下茎をひく。茎は高さ30～55cm、細くて屈曲し、上部はわずかに分枝する。根出葉は花時に枯れる。葉身は三角状卵心形で切れ込みの深さに変異がある。花期は8～9月。頭花は数個散房状につき、長柄がある。筒状花の花冠は長さ5～6mm。そう果は5肋があり、有毛。冠毛は長さ4mm。都内では南多摩の高尾山域において記録があるが、近年は生育情報が得られず、実態が不明となっている。

生存を脅かす要因：生育環境は自然林などの保全地域にあり、広域的な保全対策が必要である。個体数が少ないため、再発見の場合には競合する植物の抑制など個別的な管理が必要である。

特記事項：フォッサマグナ要素の植物である。
執筆者 奥田重俊
文献一覧 167, 243



八王子市 1978年8月7日

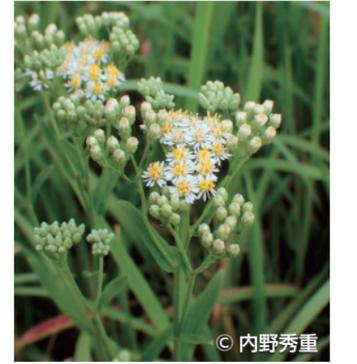
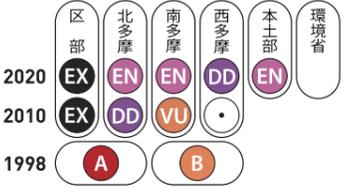
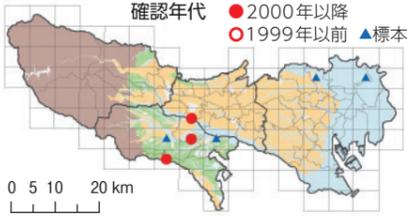
ヒメシオン *Aster fastigiatus* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草で、低地の湿った草地に生育する。茎は高さ30～100cmで直立する。葉は線状披針形、下部の葉は両端がしだいに狭くなる。中部と上部の葉は線状披針形。花序は散房状で密に短毛がある。花期は8～10月。頭花は小さく径7～9mm、花柄は細い。総苞片は密に短毛がある。舌状花は1列、筒状花は長さ4.5mm。そう果は扁平で、短毛と腺毛がある。都内では区部では絶滅、北多摩や南多摩の谷戸湿地や河川堤防などに自生地が残されているが少ない。西多摩も情報不足となっている。

生存を脅かす要因：定期的な草刈りにより自生地が維持されているため、草地管理の停止により、容易に生育に適した立地が失われる。さらに、堤防上などでは、本種の生活史を考慮した草地管理が欠かせない。

特記事項：自生地の保全には競合植物の除去など個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 167, 196, 243, 270



日野市 2020年8月8日 © 内野秀重

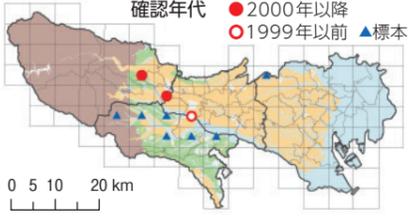
カワラノギク *Aster kantoensis* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州の関東、静岡東部に分布する日本固有の多年草で、河原の礫地に生育する。茎は叢生し、高さ50cm内外。上部で分枝する。根出葉や下部の葉は花時に枯れ、中部の葉は線形、全縁で短毛を散生する。花期は10～11月。頭花は径3.5～4cm、散房状または円錐状につく。総苞片は2列で背に微毛がある。舌状花は青紫色、筒状花の花冠は長さ6mm。そう果は扁平で有毛。冠毛は帯赤色。都内では、かつては青梅市多摩川橋から府中市の是政橋あたりまでの多摩川礫河原が主要な生育地だったが、現在では著しく衰退し、西多摩地域にほぼ生育が限定されている。

生存を脅かす要因：礫河原の富栄養化により植生遷移の進行が進んだ一方で、大規模な河川の氾濫頻度が高まるなどして、個体群の衰退や消失が進行した。

特記事項：本種の保全には、自生地を含む流域全体の流量調節や水質保護などが大きく関与しており、生物多様性の保全に配慮した総合治水対策の確立が求められている。なお、多摩川では人工的な種子散布による繁殖活動や、競合する他の草類の抜き取り作業などが継続されている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 12, 167, 243, 255, 264



羽村市 1994年11月11日

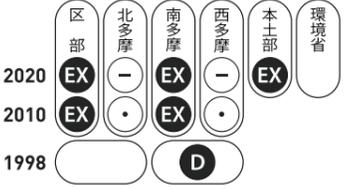
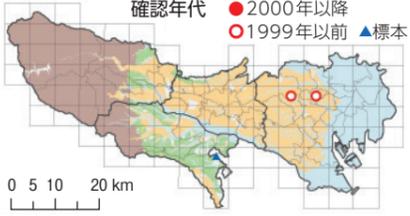
サワシロギク *Aster rugulosus* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草で、日のよく当たる、栄養の乏しい湿地に生育する。茎はやせて直立し、高さ50～60cm、無毛。葉は線状披針形、下部の葉は長柄があって柄とともにほぼ全縁。中部の葉は披針形。花期は8～10月。頭花は少なく、長柄があり、径27mm、舌状花は1列、白色のちに紅紫色を帯びる。筒状花の花冠は長さ6～7.5mm。そう果はやや円く、縁どりがある。冠毛は汚白色。都内では、区部と南多摩地域に記録があるが、絶滅と判定される。

生存を脅かす要因：自生地は貧栄養な湿地や溜池の岸、谷戸田の周辺などのごく限られた場所であり、湿地開発により生育地が失われたと考えられる。

特記事項：都立大学牧野標本館には1941年に採集された日野市産の標本 MAK433237 (採集者不明) が収められている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 12, 167, 270



福島県 1990年9月28日

ウラギク

Tripolium pannonicum

被子植物
キク科

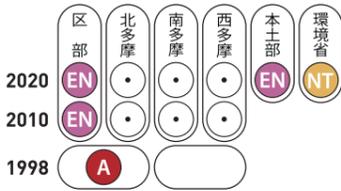
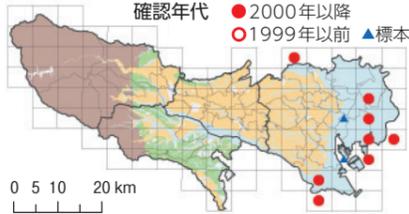
種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する越年草で、海岸の塩性湿地に生育する。茎は高さ25～55cmで、無毛。葉は披針形、肉質で無毛、基部はわずかに茎を抱く。花期は10～11月。頭花はゆるい散房状につき、およそ2cm。総苞片は3列、外片は披針形で鈍頭、筒状花は長さ8～9mm。そう果は狭長楕円形で、扁平有毛。冠毛の毛は花時には長さ5mm、果時には14～16mmに伸びる。都内の自生地は区部の旧中川、荒川や多摩川河口、江戸川臨海部などに限られている。

生存を脅かす要因：海岸や河口部の広範囲な開発による塩性湿地の埋立て、護岸工事などにより自生地が失われてきた。

特記事項：海域と陸域の移行帯に生育する植物として、発芽や成長に十分な塩分耐性を有することが知られているが、近年の研究では、シルトなどの基質が波の影響等を受けずに堆積していることが生育環境として重要であることが明らかとなっており、今後の自生地の再生などが期待される。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 167, 270, 303



荒川区 1996年10月3日

ハコネギク

Aster viscidulus

被子植物
キク科

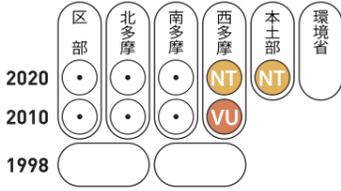
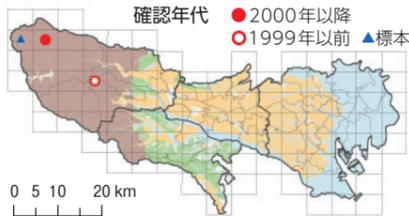
種の特性と生育状況：本州の関東、中部に分布する多年草で、山地の林縁や風の強く当たる草地などに生育する。茎は叢生し、高さ35～65cm、密に短毛がある。根出葉は花時には枯れる。中部の葉は多数で、節間は短く、卵状長楕円形から披針状長楕円形で鈍頭。両面に密に短毛がある。花期は8～10月。頭花は径23～25mm。総苞片は1～3個の苞があり、楕円形。総苞片は4列、すべて紫色。そう果は扁平で有毛。都内では西多摩地域の高海拔地に分布する。

生存を脅かす要因：山地草原の岩場に生育し、稜線付近の木本植生の遷移の進行などが衰退要因と考えられる。シカ食害の被害の可能性は不明。個体数が少ないため、共存する植物の個別的な管理が必要である。

特記事項：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 152, 168



神奈川県 1996年8月22日

オケラ

Arctylodes ovata

被子植物
キク科

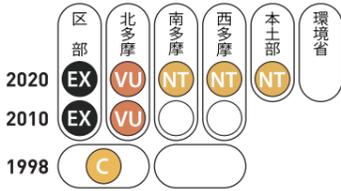
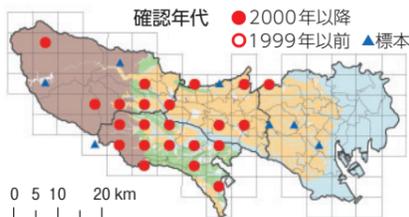
種の特性と生育状況：本州、四国、九州に分布する多年草で、明るい林床や林縁草地などに生育する。茎は高さ30～100cmになり、堅くて上部で分枝し、枝の先に頭花をつける。葉は長柄があり、葉身は3～5深裂し、やや堅い。花期は9～10月。頭花の径は2～2.5cm、総苞直下に魚骨状の苞がある。総苞は鐘形。小花は雄花では長さ10～12mm、雌花では9～11mm。花は白色または淡紅色。都内では区部では絶滅、多摩部の台地から山地まで広範囲に分布しているが、生育条件が悪化した場所も少なくない。

生存を脅かす要因：生育地の多くが近郊の丘陵地の二次林などにあり、地域の開発や樹林の管理停止、薬用目的の採取などにより、自生地や個体数が減少したものと考えられる。自生地においては、選択的な草刈りを継続する必要がある。

特記事項：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 4, 105, 196, 243



八王子市 1986年10月6日

タウコギ

Bidens tripartita

被子植物
キク科

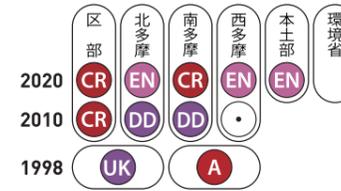
種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する一年草で、水田や周辺湿地、水路等に生育する。茎は高さ20～150cm。葉は対生し、やや翼のある柄があり、3～5裂する。花期は8～10月。頭花は最初、径7～8mm、花柄に上向きに咲き、のちに径25～35mmとなる。外側の花床の鱗片は長楕円形。舌状花はない。両性花の花冠は長さ4～4.5mm。そう果は下向きの刺があり、芒は2個、まれに3～4個。都内では各地に記録があるが、現在の生育地はさきわめて少なく、確認されている生育地はほぼ水田耕作地に限られている。

生存を脅かす要因：都内に残存する生育地の多くは水田であり、耕作停止や農薬、除草剤の使用により、個体群ごと消滅する可能性がある。また、外来種のアメリカセンダングサの拡大も、生育立地の競合による減少要因の一つと考えられる。

特記事項：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 28, 243, 293



八王子市 2012年10月9日

ノッコロガンクビソウ

Carpesium divaricatum var. *matsuei*

被子植物
キク科

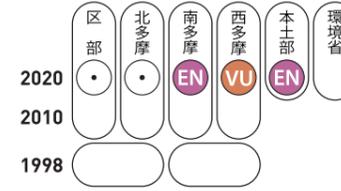
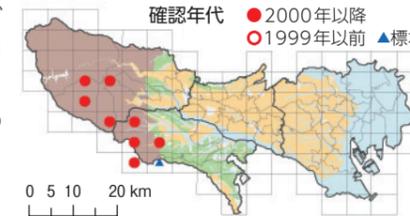
種の特性と生育状況：北海道、本州の滋賀県以北に分布する多年草で、山地の谷筋の明るい林縁や草地に生育する。根出葉は花時には枯れる。全体大型。茎は高さ60～180cm、上方でまばらに枝を出す。葉は互生し卵形で長さ10cm内外、下方の葉が最大となる。花期は8～10月、花は葉腋から出た短い枝先に1～2個つき、筒状で下向き。総苞片はすべて同長。都内では南多摩と西多摩の山地深谷沿いの草地や、湿った林道路傍に分布する。

生存を脅かす要因：生育地は谷筋の林道路傍草地などであり、樹林の鬱閉による林床照度の低下、生物多様性への配慮を欠いた林道整備や除草作業、野生動物による食害などにより、本種の生存が脅かされてきたものと推測される。

特記事項：日本固有種である。母種ガンクビソウとは混生することもあり、よく似ており紛らわしい。ノッコロガンクビソウは明るく湿った林縁に生え、全体が大きく、茎下部の広卵形の葉が特徴的である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 243



八王子市 2022年9月4日

オオガンクビソウ

Carpesium macrocephalum

被子植物
キク科

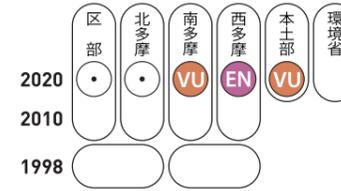
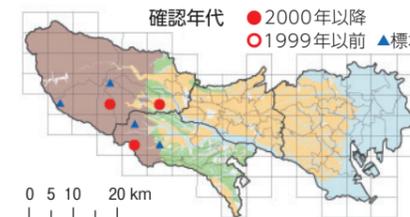
種の特性と生育状況：北海道、本州の中部以北に分布する多年草で、山地の林縁の湿った場所に生育する。ロゼット状の葉は大きく、卵形で、花期には枯れる。茎はやや斜めに立ち、高さ30～50cm。花期は8～9月、頭花は枝先に点頭し、大きくて径2～3cm。基部に葉状の苞を付ける。都内では南多摩から西多摩の山地にやや稀に分布する。

生存を脅かす要因：樹林管理の停滞、登山道や林道沿いの植生の繁茂、シカ食害などが減少の主要な要因と考えられる。林道整備や除草にあたっては、個別的な管理が必要である。

特記事項：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 4, 28, 168, 243



八王子市 2007年9月28日

キクタニギク(アワコガネギク)

Chrysanthemum lavandulifolium

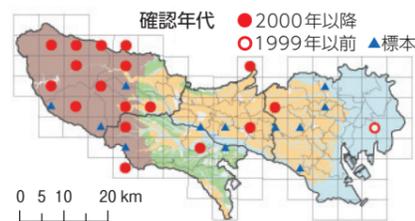
被子植物
キク科

■種の特性と生育状況: 本州、九州北部に分布する多年草で、主に山地の崖や林縁、低地の河川敷に生育する。茎は叢生し、高さ1~1.5mで、多くは分枝する。葉は有柄で、葉身は羽状に深裂し、裂片の先はとがり、基部は切形またはやや心形。花期は10~11月。頭花は黄色で、やや散状に多数つき、径1.5cm、開花が終わると點頭する。総苞片は3~4列で覆瓦状、外片は線形または狭長楕円形。そう果は長さ1mm。都内では全地域に生育の記録がある。現在、西多摩の山地にはある程度の分布量があるが、南多摩の山地から北多摩の低地にかけては散発的で、個体数も非常に限られている。

■生存を脅かす要因: 生育地である山地の露岩地の崩壊や草地の植生遷移、さらに、林道のり面のコンクリート化、人工草地化などが主要な減少要因である。低地の河川敷においては、洪水発生が増加も衰退に大きく影響しているものと考えられる。

■特記事項: 園芸目的の採取防止も重要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 105, 196, 243



日野市 2020年11月6日

モリアザミ

Cirsium dipsacolepis

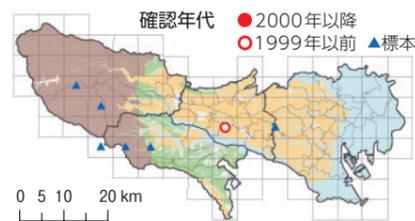
被子植物
キク科

■種の特性と生育状況: 本州、四国、九州に分布する多年草で、日の当たる草地に生育する。直根がある。茎は高さ1.5~2m。根出葉は花時には枯れる。茎葉は薄く、深く羽状に中裂し、基部はやや茎を抱く。花期は8~10月。頭花は長い柄の先に點頭して咲く。総苞は幅1cm内外で、くも毛があり、外片は短く鈍頭で、短い刺針がある。都内では区部や北多摩では絶滅、南多摩の低山でも近年の生育情報が得られず、西多摩においても、きわめて稀な状況にある。

■生存を脅かす要因: 生育環境は林間の草地であり、こうした場所の管理の停止や樹林化、シカ食害などが衰退要因であり、また、都市部においては地域開発による自生地の破壊等が大きな脅威となった。

■特記事項: 日本固有種。産地や個体数が少ないため、保全に際しては株分けによる増殖など、個別的な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 247, 253, 270



檜原村 1986年10月12日

タカアザミ

Cirsium pendulum

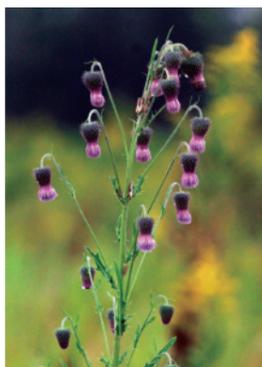
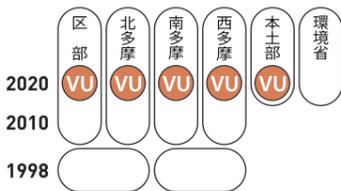
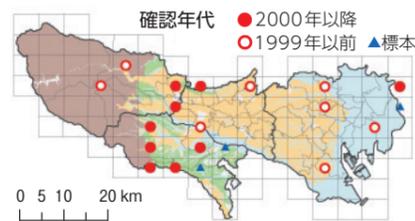
被子植物
キク科

■種の特性と生育状況: 北海道、本州の長野県以北に分布する二年草で、湿り気のある肥沃な草地に生育する。1年目は長い根出葉を出してロゼットで越冬するが、当年に開花することもある。茎は高さ2~3m。茎葉は草質、深く羽状に中裂する。花期は6~10月。頭花は多数つき、長い柄の先に點頭して咲く。総苞は幅1~2cm内外で、くも毛がある。花冠は長さ17~22mmで、狭筒部は長さ12~16mm。都内では区部低湿地、武蔵野台地北縁部の川辺、南多摩及び西多摩の丘陵谷戸湿地などに点在するが発生量は安定せず、減少傾向にある。

■生存を脅かす要因: 生育環境は農村の草地、川岸の草地などであり、都市開発はもとより、草地管理の停止による樹林化、外来植物の繁茂、河川氾濫などにより、本種の生育に適した立地環境の悪化が進んでいる。

■特記事項: 残存する生育地については、草刈りなどの管理を継続し、また、二年草のため、ロゼット(幼苗)を保護するなどの対策も必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 105, 196, 243, 359



八王子市 2019年10月11日

フジアザミ

Cirsium purpuratum

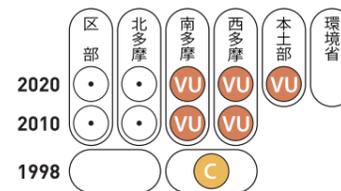
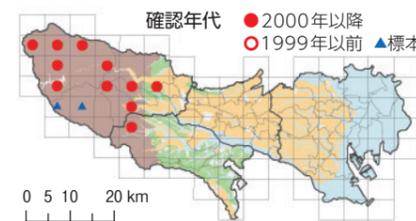
被子植物
キク科

■種の特性と生育状況: 本州の関東、中部地方に分布する多年草で、山中のがれ地や河原に生育する。全体が剛直状で高さ50~100cm。葉は基部に集まって、根出葉は花時にもあり、白いくも毛をかぶって長さ50~70cmに達する。花期は8~10月。頭花は下向きに開き、扁球形で径6.5~8.5cm、総苞片は紫色。縁に鋭い刺があって反り返る。花冠は長さ17~22mm。ときに白花のものもある。都内では西多摩の山地の川沿いの不安定地に分布し、南多摩でも散見される。また、多摩川の中流に流れ着く個体も稀に見られる。

■生存を脅かす要因: 生育環境が礫地や草地のため、もとより自生地は散発的で、こうした場所での植生遷移の進行等により生育適地が失われているものと推測される。個体数が少ないため、不安定地を維持し、播種による増殖など個別的な保全対策が必要である。

■特記事項: フォッサマグナ要素で、日本固有植物である。シカに採食されてもよく耐える植物(採食耐性植物)として知られている。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 173, 243



奥多摩町 2018年9月2日

キセルアザミ(マアザミ)

Cirsium sieboldii

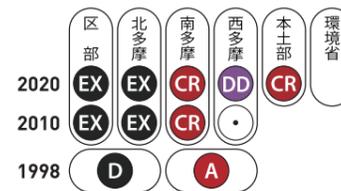
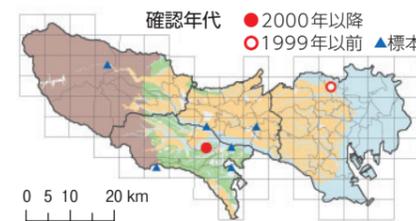
被子植物
キク科

■種の特性と生育状況: 本州、四国、九州に分布する多年草で、比較的貧栄養な湧水性の湿地に生育する。茎はやや花茎状で、高さ50~100cm。茎葉は少なく小さい。根出葉は長さ15~50cmで多数あり、羽裂して両面無毛。花期は9~10月。頭花は茎の先に點頭して咲き、花が終わると上向く。都内では区部及び北多摩では絶滅、南多摩の段丘崖に自生地がわずかに残されている。西多摩では、近年生育に関する情報は得られていない。

■生存を脅かす要因: 生育地は湧水による貧栄養な湿地のため、本来自生地が少ないうえに、土地開発や植生管理の放棄など、生育地の悪化が進んで大半の自生地が失われた。

■特記事項: 残された生育地については植生や湧水の適切な管理が必要である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 243, 270



日野市 2021年10月23日

ハチオウジアザミ

Cirsium tamastoloniferum

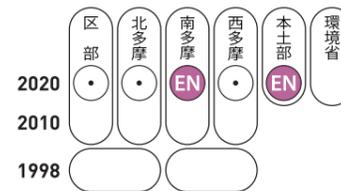
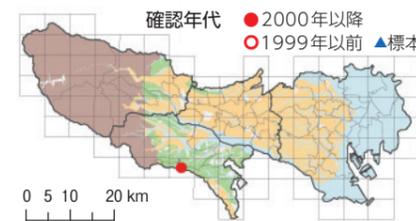
被子植物
キク科

■種の特性と生育状況: 本州、関東地方(多摩丘陵、相模原台地南部)に分布する雌雄異株の多年草で、丘陵谷戸や段丘崖の湿地に生育する。茎は高さ100~200cmに達し、鋭角に枝を出す。根出葉は花期には枯れる。茎葉はやや肉質で長さ30~40cm、卵形で羽裂する。花期は9~11月。頭花は茎の先に多数點頭し、時に横を向いて咲く。総苞は筒形、総苞片は斜上から開出する。花冠は鮮やかな紅紫色。都内では南多摩だけに産し、八王子市と日野市の多摩丘陵の2~3箇所に自生が確認されている。

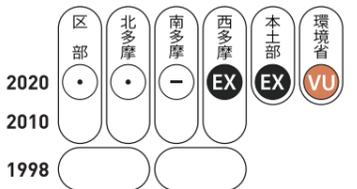
■生存を脅かす要因: 生育環境は都市部周辺の湿地であり、開発により自生地が限定されてしまったものと推測される。保全に際しては、定期的な草刈りによる湿性草地の維持が欠かせない。

■特記事項: 本種は八王子市宇津貫町で発見され、2012年に新種として発表された。

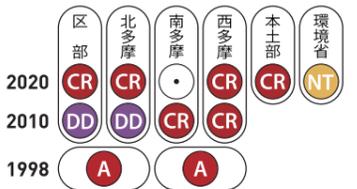
執筆者 奥田重俊
文献一覧 45, 93, 243, 340



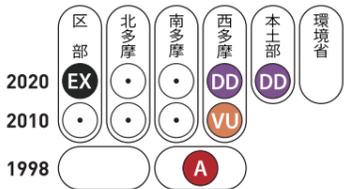
八王子市 2021年10月26日



静岡県 2018年4月27日



利根川産 2006年9月16日



長野県 1995年9月10日

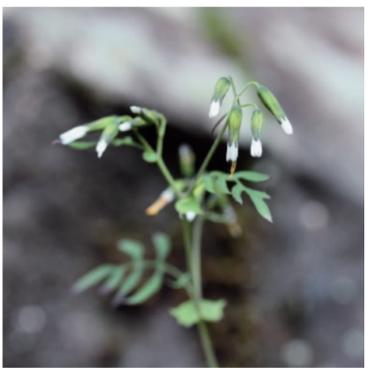
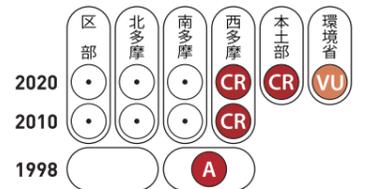
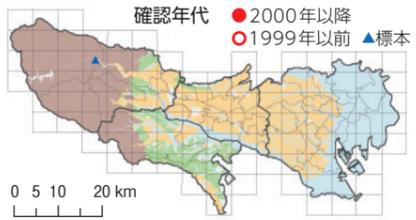
イズハハコ *Eschenbachia japonica* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州の関東地方、四国、九州および南西諸島に分布する一年草で、日の当たる崖地に生育する。全体に灰白色の軟毛が多い。茎は高さ25～50cm、葉はまばらに互生しへら形。花期は3～10月、頭花は茎の先に密に集まり、径8mm。冠毛はわた状。別名ワタナ。都内では西多摩だけに記録され、奥多摩の渓谷沿いに自生していたが、絶滅したものと考えられる。

生存を脅かす要因：生育地は渓谷沿いの崖地であり、個体数も多くなかったため、林道整備を伴う植生改変等により失われたものと考えられる。再発見の場合には生育地の管理(草刈り、除草など)など個別的な管理が必要である。

特記事項：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 66



奥多摩町

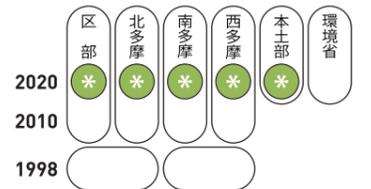
フジバカマ *Eupatorium japonicum* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州の関東地方以西から四国、九州に分布する多年草で、河原の湿った場所に生育する。茎は高さ1～1.5m、下部は無毛。葉はふつう3深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形、表面は光沢があり、裏面は腺点がなく、やや硬い。花期は8～9月。頭花は枝の先に散房状に多数つく。総苞片は約10個、5個の小花がある。そう果は長さ3mm。都内の確実な自生地は区部に限られ、葛飾区小合溜、板橋区志村、江戸川区伊与田などが知られているが、葛飾区を除き、実態が不明な状況にある。北多摩や西多摩の現状調査が必要である。

生存を脅かす要因：生育環境は平野部の湿地帯であり、区部の都市開発により大半の自生地が失われた。確実な自生系統については、個別的な管理により、保全が図られる必要がある。

特記事項：類似の園芸種があり自生品と混乱しているため、保護指定に注意する。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 223, 269, 270



八王子市 2007年10月3日

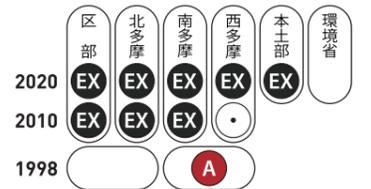
ヤナギタンポポ *Hieracium umbellatum* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国に分布する多年草で、明るい草地に生育する。茎は高さ30～120cm、上部は短い毛と星状毛が密生する。根出葉は開花時には枯れる。茎葉は多数で互生し、長楕円状披針形、先はとがり基部は円いくさび形。花期は8～9月。頭花は径2.5～3.5cmで、散房状または円錐状につく。総苞片は外側のものほど短く、ときに開出し反り返る。そう果は黒褐色。都内では、区部は絶滅し、西多摩地域においても確かな生育情報が得られない状況である。

生存を脅かす要因：生育環境は定期的な草刈りが実施される半自然草原であり、草原の遷移による樹林化に加え、踏みつけ、シカ被害等により、衰退したものと考えられる。再発見の場合には、競合する植物の除去などの個別的な管理が必要である。

特記事項：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 168, 295



町田市 1995年5月4日

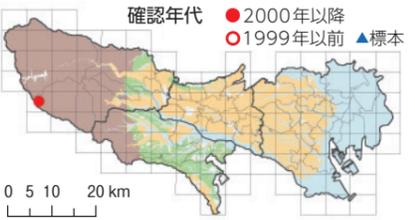
クサノオウバノギク *Crepidiastrum chelidoniifolium* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州、四国に分布する越年草で、山地の礫地や岩隙などに生育する。茎は高さ15～45cm。茎葉は長さ3.5～11cm、幅1～5cm、薄く、羽状に全裂し、クサノオウ(ケシ科)の葉に似ている。花期は8～11月。花の総苞は狭い円柱形で、内片は5個。小花も5個ある。そう果は紡錘形で長さ3.5～4mm、先は0.5mmの嘴となり、すこし扁平で10肋がある。冠毛は白く、長さ4.5mm。都内では西多摩地域(檜原村)にごく稀に分布するが、近年は生育に関する情報が得られなくなっている。

生存を脅かす要因：もともと産地や個体数の少ない種であったが、生育環境が林道脇の斜面などの場合が多く、草刈りの停止や吹きつけによる草地化などによって生育立地が失われていったものと考えられる。

特記事項：シカ食害の影響も疑われる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 152, 168



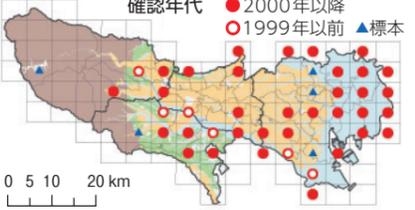
タカサブロウ(モトタカサブロウ) *Eclipta thermalis* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州および南西諸島に分布する一年草で、水田や溝などに生育する。高さ20～50cm。葉は対生し、披針形、剛毛があつてざらつく。花期は7～9月。頭花は茎の先端にまばらに付く。舌状花は白色で径6mm、花後には9mmになる。そう果は長さ2～3mm、厚みがあつて縁に翼がある。近年、外来種のアメリカタカサブロウに置き換わって、減少しており、南多摩では丘陵谷戸や川辺の湿地などに見られるのみとなっており、西多摩では近年の生育情報がさわめて少ない。

生存を脅かす要因：生育地は湧水由来の水田に多く、除草剤の使用などで衰退し、水田耕作の放棄による減少が本種の自生地をさらに狭めている。

特記事項：留意種として今後の推移に注意する必要がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 243



アズマギク *Erigeron thunbergii* 被子植物 キク科

種の特性と生育状況：本州の中部地方以北に分布する多年草で、日当たりの良い草地に生育する日本固有種。茎は高さ10～37cm、密に毛がある。根出葉はロゼット状でへら形、全縁でやや厚い。花をつける茎の根出葉は、開花時に生きている。花期は4～6月。花は径3～3.5cm、舌状花は多数で3列、花冠は長さ15mm。そう果は有毛。冠毛は帯赤色。かつては都内全域に産し、町田市が多摩丘陵域を最後に2000年頃絶滅した。

生存を脅かす要因：自生地は都市近郊で、定期的な草刈りによって維持された丈の低い草地であり、こうした場所の開発、管理の停止、採集などにより衰退し、絶滅に至ったものと考えられる。

特記事項：牧野富太郎は、明治20年頃、大井駅付近(現港区白金台5丁目付近)に自生していた様子を自身の植物記に記録している。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 25, 141, 243, 270, 322



オグルマ *Inula britannica* subsp. *japonica*

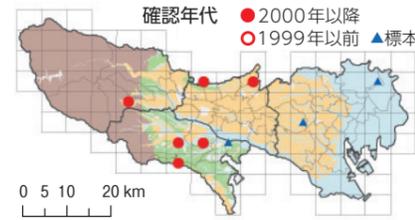
被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、湿地や田の縁、川岸などに生育する。茎は高さ20～60cm、根出葉は花時に枯れている。茎葉は広披針形から長楕円形で鋭頭、基部は茎を抱く。茎の先に数個の頭花を開く。花期は7～10月。頭花は黄色、径3～4cm、総苞片は5列でやや同長、外片は披針形で縁に短毛がある。そう果は10肋があり有毛。冠毛は細くてややざらつく。都内では全域に生育していたが、現在では、北多摩や南多摩、西多摩の丘陵部の田の畔、河畔湿地などにわずかに残存するだけとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は耕作地周辺の湿性草地であり、地域の開発や草地管理の停止、農業の使用などにより、自生地が減少した。

■ **特記事項**：花が美しく、鑑賞・園芸目的で採取されることがある。

● 確認年代 ● 2000年以降 ○ 1999年以前 ▲ 標本



0 5 10 20 km

執筆 奥田重俊
文献一覧 105, 243, 270, 290

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	CR	CR	EN	CR
2010	-	VU	CR	CR	
1998	A	A			



© 内野秀重
武蔵村山市 2020年10月1日

ホソバオグルマ *Inula linariifolia*

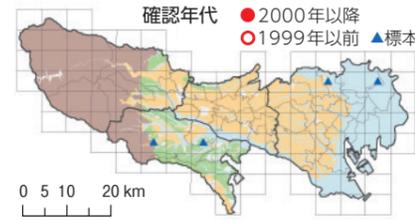
被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州、九州に分布する多年草で、低地の日当たりの良い湿地に生育する。高さ20～60cm。葉は線形または線状披針形で、幅6～10mmと細い。花期は8～10月。頭花は黄色、小さくて径18～25mm、総苞は長さ4～6mm。そう果は長さ1mm、冠毛は長さ3mm。都内では区部の河畔湿地や南多摩西部などに自生したが、近年確かな生育情報は得られない。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は湿地であり、土地造成や草地の開発、耕作停止、除草剤の使用等により、自生地が失われたものと考えられる。再発見の場合、生育地の草刈りや競合する外来種を除去するなど個別的な管理が必要である。

■ **特記事項**：オグルマとの推定雑種にサクラオグルマがあり、ホソバオグルマ、オグルマ両者の中間的な姿をしており、南多摩で生育が確認されている。

● 確認年代 ● 2000年以降 ○ 1999年以前 ▲ 標本



0 5 10 20 km

執筆 奥田重俊
文献一覧 270, 359

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	CR	DD	CR
2010	EX	-	-	-	
1998					



熊本県

カセンソウ *Inula salicina* var. *asiatica*

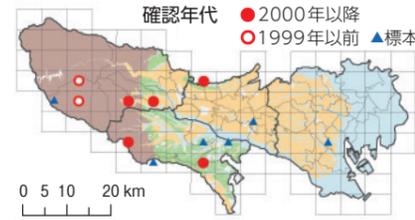
被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、日当たりのよい湿った草地に生育する。茎は縮毛が密生し、高さ60～80cm、硬くて細い。葉は長楕円状披針形で、長さ5～8cm、基部は茎を抱き、洋紙質で薄い硬く、縁には凸状の小歯牙があり、脈は目立つ。茎の上部に数個の頭花を上向きに開く。花期は7～9月。頭花は径3.5～4cm、基部に苞葉がある。総苞片は草質で縁に密に短毛がある。都内では各地に記録があるが激減し、多摩部の丘陵地の谷戸草地、山地草原などにわずかに現存するだけとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は定期的な草刈りが行われる草地であり、都市部においては土地の開発や造成、農村地域では草地管理の停止や樹林化などによる生育環境悪化が要因となり、衰退したものと考えられる。

■ **特記事項**：ホソバオグルマ等と誤認されることが多く、同定には注意を要する。

● 確認年代 ● 2000年以降 ○ 1999年以前 ▲ 標本



0 5 10 20 km

執筆 奥田重俊
文献一覧 168, 243, 263

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	CR	CR	EN	EN	EN
2010	CR	CR	VU	VU	
1998	A	C			



奥多摩町 1990年9月19日

タカネニガナ *Ixeridium alpicola*

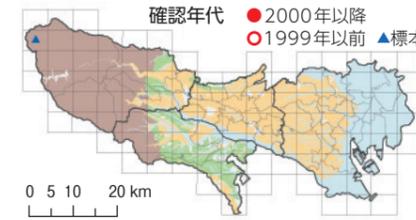
被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州の奈良県以北、および四国に分布する多年草で、高山の岩場に生育する日本固有種。茎は高さ7～17cm。葉は薄く、切れ込み、茎を抱かない。花期は6～7月。頭花は黄色、径約2cm。小花は9～10個ある。そう果は長さ5～5.5mm。有性生殖を行う。ニガナの変種とする場合がある。都内では奥多摩の天祖山など、山地高所に記録があるが、近年の報告がなく、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：もとより自生地が局所的であり、山地草原の植生変化、石灰岩の採掘による山域の破壊などにより消滅したものと考えられる。

■ **特記事項**：再発見された場合には、草原の維持やシカ食害対策などの積極的な保護対策が必要である。

● 確認年代 ● 2000年以降 ○ 1999年以前 ▲ 標本



0 5 10 20 km

執筆 奥田重俊
文献一覧 26, 292

タカサゴソウ *Ixeris chinensis* subsp. *strigosa*

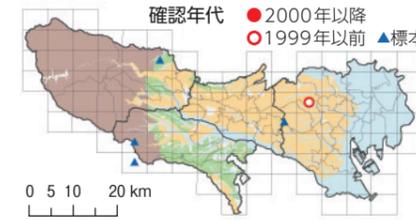
被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、山地から丘陵地の乾いた草地に生育する。茎は高さ20～50cm。根出葉は長さ8～24cm。葉は披針形で歯牙または切れ込みがある。花期は4～7月。頭花は径2cm、帯紫白色、小花は23～27個ある。総苞は太く、外片は卵形。冠毛は白色。都内では各地で記録があるものの、絶滅して久しい。

■ **生存を脅かす要因**：生育地はシバ草原であり、放牧や採草利用の衰退とともに草原の減少が要因となり、低地から山地まで同時多発的に本種は衰退したのではないかと推測される。

■ **特記事項**：

● 確認年代 ● 2000年以降 ○ 1999年以前 ▲ 標本



0 5 10 20 km

執筆 奥田重俊
文献一覧 17, 28, 270, 290

ノニガナ *Ixeris polycephala*

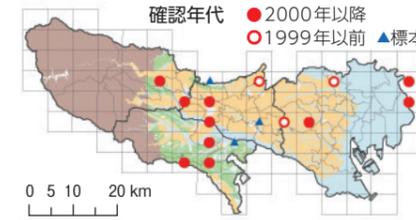
被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草または越年草で、日の当たる草地に生育する。茎は高さ20～50cm。葉はやじり形で基部は茎を抱き、緑白色を帯びる。花期は4～5月。頭花は茎の上方にまばらに付き、径8mmで黄色。小花は10～25個ある。冠毛は白色。都内では各地から記録があるが減少が著しく、河川敷や河畔湿地、水田周辺などに散発的に発生するだけとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：河川の氾濫原の湿地や草地の減少、草地の樹林化などが、生育地の減少要因であるとされる。

■ **特記事項**：

● 確認年代 ● 2000年以降 ○ 1999年以前 ▲ 標本



0 5 10 20 km

執筆 奥田重俊
文献一覧 105, 243, 263, 270, 293

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	•	•	•	EX	EX
2010	•	•	•	EX	
1998					



長野県 1984年7月22日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	EX	EX	VU
2010	EX	EX	EX	•	
1998	D	D			



福岡県

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	NT	NT	NT	NT	
2010					
1998					



© 内野秀重
八王子市 2011年5月12日

カワラニガナ

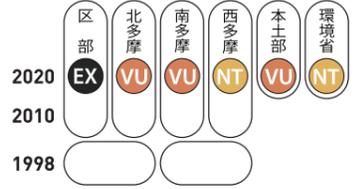
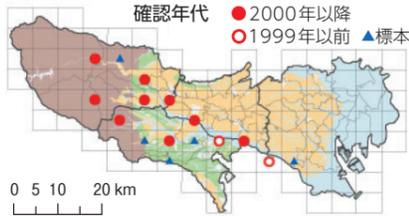
Ixeris tamagawaensis 被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州の中部以北に分布する多年草で、河原の乾いた礫地に生育する。茎は高さ20～50cm。根出葉は叢生し、ときに大きな株になる。葉は披針形で歯牙がある。花期は7～9月。茎の上部にまばらに花をつける。頭花は径2cm、黄色、小花は28～40個ある。冠毛は白色。都内では多摩川の上流から中流部を中心に分布し、ところによって広範囲に群落が形成されている。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境はほぼ河川敷の礫地に限られており、異常出水による河川敷内の生育立地の減少、流水の富栄養化、外来種の繁茂などにより個体群の消滅が進んだものと推測される。

■ **特記事項**：学名（種小名）は分布地の多摩川にちなむ。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 4, 196, 243, 270, 280



日野市 2019年5月3日

ウスユキソウ

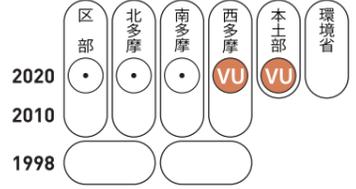
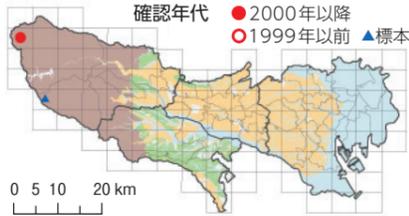
Leontopodium japonicum 被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：北海道の道南部から本州近畿地方に分布する多年草で、山地の岩場などの草原に生育する。茎は叢生し、高さ25～50cm。葉は互生、披針形で茎を抱かず、下面に綿毛を密生する。開花期は7～9月。頭花は数個が茎の先端に集まり、頭花の周囲には葉状苞がある。冠毛は長さ3.5mm。都内では奥多摩地方に分布するが、現在ではシカ柵内でしか発生を見ることができない。

■ **生存を脅かす要因**：本種は亜高山帯に分布域をもち、その生育立地は西多摩でもわずかであり、自生地の植生遷移の進行やシカ被害等により、危機的な状況に陥ったものと考えられる。

■ **特記事項**：形態に変化に富む分類群でいくつかの変種がある。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168



奥多摩町 2018年9月6日

カイトカラコウ

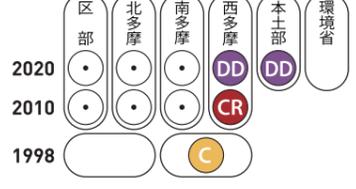
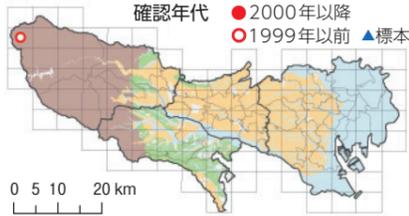
Ligularia kaialpina 被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州の東北南部、関東、中部にかけて分布する多年草で、亜高山帯の溪流の縁などに生育し、しばしば群生する。茎は高さ30～50cm、やや無毛。根出葉はほこ状心形、または心形など変異があり、先は尾状となる。茎葉の柄は茎を抱く。花序の頭花は6～8個、散房状につき、花柄が長い。花期は7～8月。総苞は筒状。舌状花は5個あって、花冠は長さ25～28mm、筒状花は14～16個。そう果は円柱形。都内では奥多摩地方（雲取山）などに記録があるが、現状は不明である。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は亜高山帯の沢沿いであるが、西多摩地域ではこうした立地環境がわずかであり、斜面崩壊、植生の変化などにより衰退したのと考えられる。

■ **特記事項**：フォッサマグナ要素の植物の一種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168



山梨県 1991年7月29日

オオモミジガサ

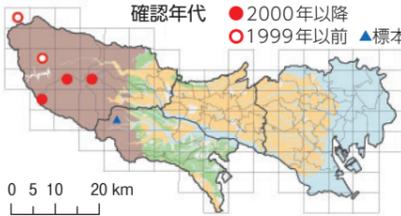
Miricacalia makinoana 被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州の福島県以南から、四国、九州に分布する多年草で、山地の落葉樹林の下に生育する。茎は高さ55～80cm。茎の下部の葉は最も大きく、葉柄は盾状につく。葉身は円形で幅25～33cm、基部は深く心形。総苞の基部に苞葉がつく。花期は7～9月。小花は20個内外で花色は黄色。そう果は長さ7～8mm。冠毛は10mm。都内では西多摩の1000m以上の山域に分布し、ブナ林などの、やや湿った林床に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：自然林内において、とくに、シカの食害により減少している。野生動物の影響に対する保全対策が特に重要である。

■ **特記事項**：日本固有種で、西南日本のソハヤキ要素を特徴づける植物である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 217, 243



オオニガナ

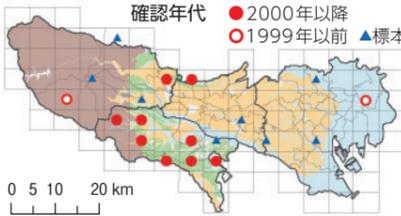
Nabalus tanakae 被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州の近畿地方以北に分布する多年草で、湿地に生育する。茎は高さ60～90cm。葉は有翼の長柄があり頭大、羽状中裂または深裂する。花は黄色で、総苞は太く、長さ12～14mm、内片は12～13個、外片は2列で披針形をなし、鈍頭、長さ3.5～7mm。花期は9～11月。小花は26～39個つく。都内では区部で現状不明、多摩部および狭山丘陵域にわずかに自生地が残されているにすぎない。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は比較的都市部に近い谷戸湿地に限られ、地域開発目的の土地造成や埋立て、湿地の管理放棄などにより、生育環境が失われてきたものと考えられる。現存する自生地においては草刈りを継続するなど、個別的な管理が必要である。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 152, 196, 243, 270



カニコウモリ

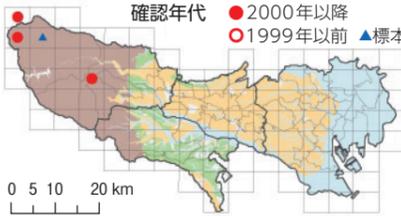
Parasenecio adenostyloides 被子植物 キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国に分布する多年草で、夏緑樹林から亜高山帯針葉樹林内に生育する。茎は高さ60～100cm。葉身は腎臓形で粗い鋸歯がある。花期は8～9月。茎の上方はまばらな円錐花序となり、多数の頭花を付ける。頭花は下垂し、3～5個の小花がある。花冠は白く、長さ8mm。都内では奥多摩地方に分布し、ブナなどの広葉樹林内に生育する。

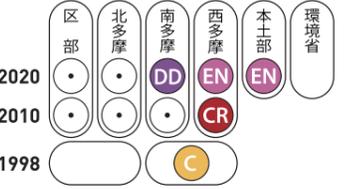
■ **生存を脅かす要因**：自然林内において、特にシカに被食されやすい植物であり、近年、激減した植物の一つである。残存する個体群には、個別的な保全管理が必要である。

■ **特記事項**：

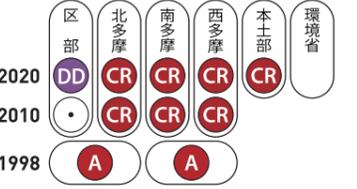
執筆者 奥田重俊
文献一覧 168



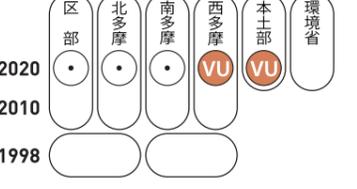
奥多摩町 2010年9月4日



奥多摩町 1995年8月9日



八王子市 1998年10月11日



奥多摩町 2010年9月4日

オクヤマコウモリ

Parasenecio maximowiczianus var. *alatus*

被子植物
キク科

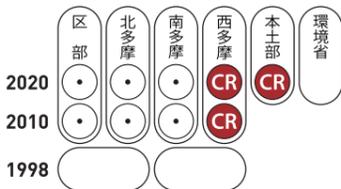
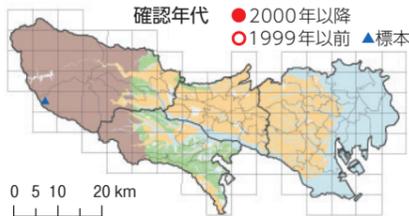
■ **種の特性と生育状況**：本州中部の太平洋側に分布する多年草で、山地の落葉樹林の下に生育する。高さ50cm。葉身は三角状ほこ形で5浅裂する。茎の中部の葉は翼があって、基部は茎を抱く。頭花はまばらな円錐花序につく。花期は8～10月。花冠は白く長さ7cm。コウモリソウの変種。都内では奥多摩地方に分布し、ブナ林の林床などに稀にみられる。

■ **生存を脅かす要因**：カニコウモリ同様、シカの食害により減少しているものと考えられる。残存する個体群には、個別的な保全管理が必要である。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 168



長野県 2007年8月27日

ヤマタイミンガサ

Parasenecio yatabei

被子植物
キク科

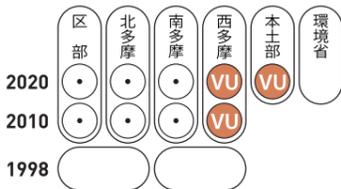
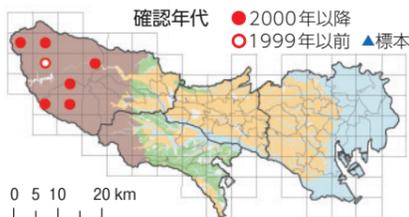
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国に分布する多年草で、山地の落葉樹林の下に生育する。長い地下茎をひいて先に新苗をつける。茎は高さ60～90cm。葉はふつう3枚、下部の葉は長柄があり、基部は短く鞘となる。葉身の基部は深く心形となり、掌状に9～10中裂する。花期は7～9月。頭花は円錐花序に多数つく。総苞片は5個。小花は5～6個あって、花冠は長さ8.5～10mm。そう果の冠毛は汚白色。都内では奥多摩の深山に産し、ブナ林などの湿潤な林床に群生するが、近年は減少が著しい。

■ **生存を脅かす要因**：樹林の発達に伴う構成種の変化、シカの食害による林床植物の減少が進んでいるものと推測される。野生動物の食害などにより減少する場所では、個体群の保護管理が必要である。

■ **特記事項**：日本固有種であり、西南日本の分布域を特徴づけるソハヤキ要素の植物である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 168, 292



三頭山 2013年8月3日

アカシコウゾリナ

Picris hieracioides subsp. *japonica* var. *akaishiensis*

被子植物
キク科

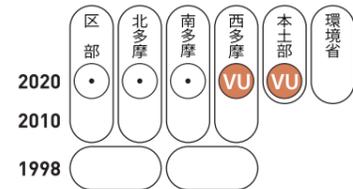
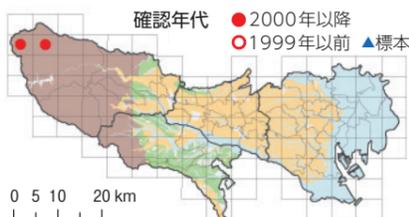
■ **種の特性と生育状況**：本州中部（長野、山梨、静岡、神奈川）に分布する多年草で、山地帯上部から亜高山帯の岩場に生育する。コウゾリナの変種で、茎は高さ50～80cm。葉は線状披針形。総苞に短い剛毛がある。花期は7～8月。都内では奥多摩地方の岩礫地にのみ見られる。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は山地帯上部の岩礫地や草地であり、自生地が局限されているうえに、植生の変化、シカの食害などにより衰退が進んでいるものと考えられる。残存する生育地では、防護柵など、個別的な管理が必要である。

■ **特記事項**：フォッサマグナ要素の植物であり、コウゾリナに似るが、葉が著しく細い点の特徴である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 66



奥多摩町 2018年8月26日

アキノハハコグサ

Pseudognaphalium hypoleucum

被子植物
キク科

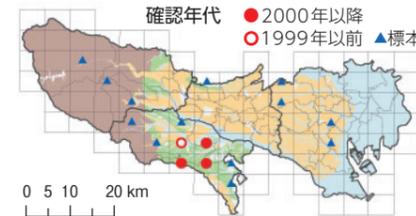
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する一年草または越年草で、シバ草原やローム層の露頭などに生育する。茎は高さ30～60cmとなり、上部で分枝し、白い綿毛がある。葉は披針形で、長さ4～5cm、基部は半ば茎を抱いている。裏面に密に白い綿毛があるが表面が緑色。花期は9～11月。花は散房状に多くの頭花をつける。総苞片は5列で淡黄色、花後に開く。都内では全域に記録があるが、2000年代を境に急速に減少し、近年は絶滅した区部以外でも生育に関する情報がまったく得られない状態にあり、絶滅が懸念される。

■ **生存を脅かす要因**：生育立地は不安定であることから減少しやすい。自生地が都内全域において一斉に激減した理由は明らかではない。

■ **特記事項**：本種減少と同時期に、近縁の複数の外来種の分布が拡大しており、これらによる競合の可能性もある。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 168, 243, 270



八王子市 1995年10月3日

コウシュウヒゴタイ

Saussurea amabilis

被子植物
キク科

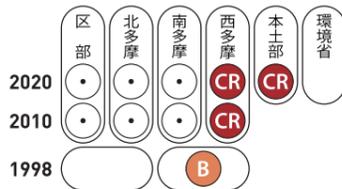
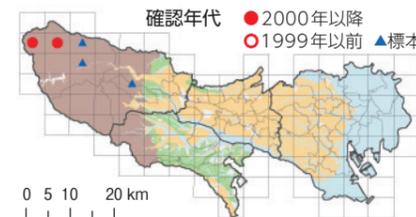
■ **種の特性と生育状況**：本州の関東西部、山梨県および、四国に分布する多年草で、海拔1500m以上の山地の岩場に生育する。茎は高さ40～60cm。根出葉は開花時にも生き残り、長柄があり、葉身は長楕円形から卵形、鋭尖頭で基部はほこ形、長さ8～21cm、表面は緑色で、裏面は青白色。花期は8～10月。花は1～4個の頭花をつける。総苞は鐘形で長さ17mm、総苞片は6列、草質で先は鋭尖形、中ほどから開出する。都内では奥多摩地方の石灰岩地にのみ見られる。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩においては本来、自生地が局限されていた。加えて、森林植生の組成の変化やシカ食害、園芸目的による採取などにより、個体数を減じているものと考えられる。自生地においては、シカ対策などを検討する必要がある。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 171, 218, 292



奥多摩町 1989年9月

ミヤコアザミ

Saussurea maximowiczii

被子植物
キク科

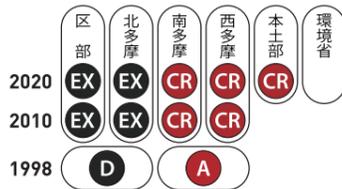
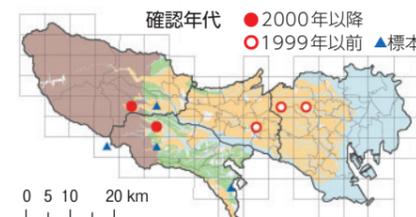
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、日当たりのよい草原や明るい林内に生育する。茎は高さ50～150cm。根出葉は花時にもあり、長柄がある。葉身は長楕円形で長さ11～30cm、羽状に深裂し、側裂片は4～6対。花期は9～10月。頭花は多数が散房状につき、径10mm。総苞は帯紫色でくも毛がある。総苞片は8列で、最外片は卵形。都内では区部及び北多摩では絶滅、南多摩の八王子市、西多摩のあきる野市などにわずかに現存している。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は山麓や丘陵地の二次林内や林縁部の草地など局所的であり、土地造成により失われやすく、林縁管理の方法やシカ食害によっても容易に衰退しやすいものと考えられる。

■ **特記事項**：残存する自生地では、園芸目的の採取からの保護の検討が必要である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 28, 171, 243, 270



八王子市 2013年10月8日

ヒメヒゴタイ

*Saussurea pulchella*被子植物
キク科

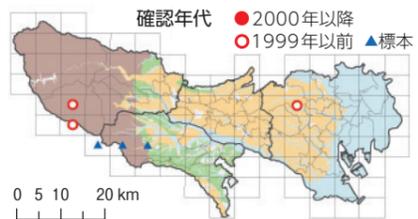
■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、岩場や日当たりのよい草原に生育する。茎は直立し、高さ30～150cm、上部でよく分枝し多数の頭花をつける。葉は羽状深裂または全縁で、基部は茎に沿下する。葉の両面に細毛と腺点がある。花期は8～10月。頭花は径12～16mm。総苞片には淡紅色の付属体があり、つぼみの段階から美しい。花冠は長さ11～13mm。冠毛は長さ7～8.5mm。都内では区部や南多摩では絶滅、西多摩の山地において自生地がわずかに残されている状況である。

■**生存を脅かす要因**：生育環境は安定した二次草原であり、平野部においては地域開発や土地造成、また、山地においては持続的な草地管理の停止、岩礫地の荒廃などにより生育地が失われたものと考えられる。近年ではシカ食害の影響も大きいと推測される。

■**特記事項**：園芸目的の採取からの保護が必要である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 28, 171, 243, 253, 270



タカオヒゴタイ

*Saussurea sinuatooides*被子植物
キク科

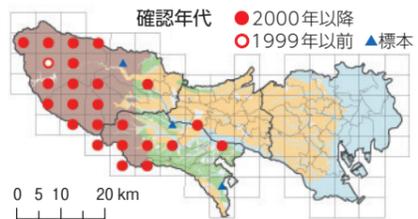
■**種の特性と生育状況**：本州西部、山梨県に分布する多年草で、落葉樹林や各種二次林の縁に生育する。茎は高さ35～60cm。根出葉は開花時にあるが、ときに枯れる。葉は卵形で急に鋭尖頭、基部は心形で、縁は大きく深く湾入し、薄い。花期は9～10月。頭花は総状またはゆるい散房状につき、径2cmほどで、基部に線形の苞がつく。総苞は鐘形で密に毛がある。総苞の外片は披針形で長く、中片とともに反り返る。都内では南多摩の丘陵地から西多摩の山地に分布する。都内に見られるトウヒレン類の中では比較的生育地が多い。

■**生存を脅かす要因**：都市近郊の自生地の多くは地域開発により失われ、保全緑地や自然保護地域等では、二次林の管理の放棄などにより、生育条件が不適となり、衰退した。

■**特記事項**：日本固有種。フォッサマグナ要素の植物である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 28, 168, 171, 196, 243



セイタカトウヒレン

*Saussurea tanakae*被子植物
キク科

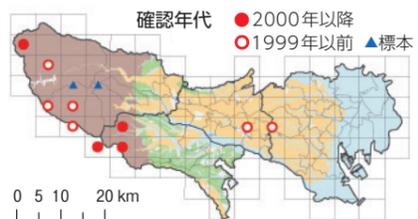
■**種の特性と生育状況**：本州の関東地方から中部および岡山県に分布する多年草で、山地の草原に生育する。茎は高さ70～100cmで、つねに著しい翼がつく。根出葉は開花時に枯れて無い。茎葉は有柄で、葉身は心形または広卵形、長さ8～15cm、先は短く鋭尖となり、縁に不規則な歯牙がある。花期は9～10月。頭花は径15mm、しばしば総状につく。総苞は黒紫色で絹毛がある。総苞片は9列で、最外片は広卵形、鈍形で微凸端。都内では北多摩では絶滅、南多摩から西多摩の山地にごく稀に見られる。

■**生存を脅かす要因**：生育環境はほぼ山地草原に限られ、本来分布域や個体数も多くない。二次草原の遷移の進行、シカ食害などにより、個体数を減らしたものと推測される。残存する自生地では防護柵などの設置を検討する必要がある。園芸目的の採取の危険がある。

■**特記事項**：日本固有種であり、タカオヒゴタイとの雑種がオンガタヒゴタイである。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 152, 168, 171, 243, 270



2020	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2010	EX	EX	CR	CR	CR	VU
1998			C			



福岡県

2020	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2010			VU	NT	NT	
1998			VU	VU		



八王子市 2012年10月24日

2020	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2010		EX	CR	CR	CR	
1998		EX	CR	CR		



奥多摩町 1983年9月12日

ヤハズヒゴタイ

*Saussurea triptera*被子植物
キク科

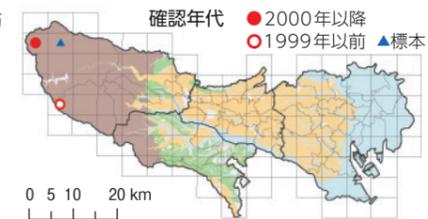
■**種の特性と生育状況**：本州の関東、中部地方に分布する多年草で、高山の草原や林の縁に生育する。茎は高さ30～55cm、葉の基部から沿下した翼がある。根出葉や下部の葉は長柄があり、葉身は薄く、卵形または卵状長楕円形、鋸歯縁のものもあるが、しばしば中部以下の葉は羽状中裂する。花期は8～9月。頭花は径10mmで、7～24個が散房状につく。総苞片は5列、外片は内片の半長で、広卵形、先はとがって線形、黒紫色、花冠は長さ10mm。都内では西多摩地域の高海拔地に稀に分布する。

■**生存を脅かす要因**：生育地はほぼ亜高山帯の自然草原に限られ、個体数も限られていた。草原の種組成の変化やシカ食害などの影響、さらに園芸目的の採取などが加わり個体数を減らしたものと推測される。残存する自生地では防護柵などの設置を検討する必要がある。

■**特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊

文献一覧 26, 152, 168, 171



2020	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2010				VU	VU	
1998				C		



富士山 1991年8月12日

キクアザミ

*Saussurea ussuriensis*被子植物
キク科

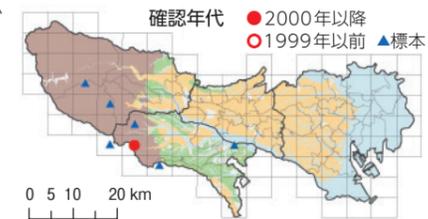
■**種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、日当たりのよい草原に生育する。茎は高さ30～120cmになる。根出葉や茎の下部の葉は長柄があり、葉柄は長さ5～20cm、葉身は卵形で長さ7～18cm、羽状浅～中裂し、堅い。茎葉は、上部では葉身は狭く小さく、無柄で、茎に翼はない。花期は9～10月。頭花は散房状につく。花冠は長さ11～13mm。総苞片は5～7列で、最外片は長楕円形または卵形で、短くとがる。都内では西多摩の山地に残存するが、北多摩では絶滅、南多摩でも近年の生育情報が得られない状況となっている。

■**生存を脅かす要因**：丘陵部では地域開発や園芸目的の採取などにより自生地が失われ、山地帯の草原では、樹林化の進行やシカ食害などにより、個体数が減じたものと考えられる。

■**特記事項**：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 171, 243, 270, 292, 299



2020	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2010		EX	EN	EN	EN	
1998		EX	VU	VU		



檜原村 1986年10月12日

タムラソウ

Serratula coronata subsp. *insularis*被子植物
キク科

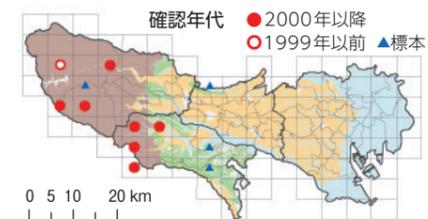
■**種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、丘陵から山地の日当たりの良い草地に生育する。茎は高さ30～140cmになる。茎葉は羽状に全裂するが、下部の葉には長柄がある。葉はやや薄く、両面に細毛がある。花期は9～10月。頭花は紅紫色で上向きに咲き、径3～4cm。総苞片は7列で、外片と中片は淡黄褐色、鋭尖頭。縁の小花は長さ25～28mm。中の小花は両性で、長さ22～26mm。都内では北多摩では絶滅、南多摩から西多摩の山地に残存しているが、さらなる衰退が懸念される。

■**生存を脅かす要因**：生育環境は林間の草地であり、都市近郊では土地造成や草地の開発により消滅し、山地部では草地管理の停止による樹林化や植生の変化により、生育に適した環境が失われたものと考えられる。

■**特記事項**：

執筆者 奥田重俊

文献一覧 168, 243, 270



2020	区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2010		EX	CR	EN	EN	
1998		EX	CR	VU		



奥多摩町 1983年9月12日

ハチジョウナ

Sonchus brachyotus

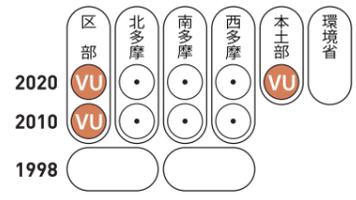
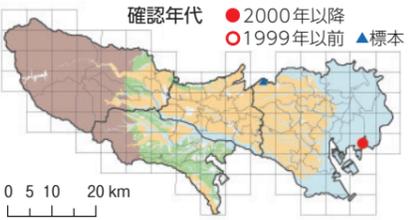
被子植物
キク科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で海岸付近の荒れ地に生育する。茎は高さ30～100cm、葉とともに無毛。葉は裏面粉白色。基部は茎を抱く。花期は8～10月。頭花は黄色、径3～3.5cm。総苞は長さ1.6～2cm、密に綿毛をかぶる。総苞片は4～5列、外片は卵形。そう果は長さ3.5mm。冠毛は長さ1.3mmで、純白。都内では東京湾に面した河川河口部や海岸付近に分布するが、少ない。

■ **生存を脅かす要因**：東京湾岸の自生植物であるが、沿岸部の開発や護岸改修で生育地が減少したのと考えられる。外来植物の繁茂の影響も懸念される。海岸付近のため、浚渫工事などに際しては、保全対策が必要である。

■ **特記事項**：同定に際しては酷似する外来種タイワンハチジョウナと間違えないよう、注意を要する。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 67, 270



神奈川県 2010年8月10日

コウリンカ

Tephrosieris flammea subsp. *glabrifolia*

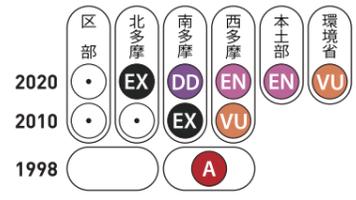
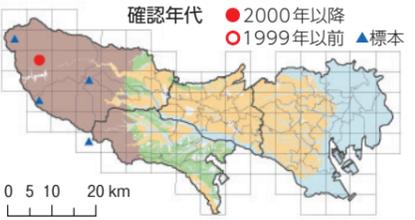
被子植物
キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州に分布する多年草で、日当たりの良い草地に生育する。茎は直立し、高さ50～60cmで、上部にくも毛がある。根出葉は開花時に枯れる。下部の葉は広倒披針形、中部の葉は披針形で、基部は茎を抱く。花期は7～9月。頭花は6～13個、やや散状につき、長い舌状花があり、反り返って咲く。花柄は長さ5～16cm。舌状花冠は長さ17～22mm。そう果は密に毛があり、冠毛は汚白色。都内ではかつて北多摩にも産したが絶滅、南多摩も情報不足、西多摩の山地高所の草地に自生地が残されている。

■ **生存を脅かす要因**：山地草原の植生変化、園芸目的の採取などにより減少していると考えられる。

■ **特記事項**：奥多摩での生育状況から、野生動物による食害は比較的受けにくく、シカ不嗜好性植物と考えられる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 152, 168



奥多摩町 2019年7月30日

オカオグルマ

Tephrosieris integrifolia subsp. *kirilowii*

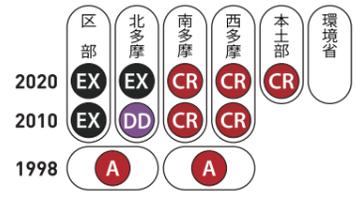
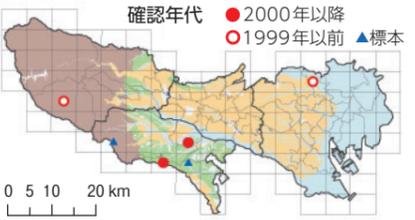
被子植物
キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、日当たりのよい草地に生育する。茎は高さ20～65cm。根出葉は多数でロゼット状をなし、長楕円形で鈍頭、両面にくも毛がある。茎葉は基部やや茎を抱き、短く沿下する。花期は5～6月。頭花は3～9個、散房状につく。総苞は筒状。舌状花冠は長さ12～16mm。そう果は密毛がある。冠毛は白色、花後、筒状花冠を超えて伸びる。都内では区部や北多摩では絶滅、南多摩から西多摩にかけての谷戸草地などにわずかに自生地が残されているのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：生育環境は谷戸の耕作地に接した斜面など、定期的な草刈りがくり返される場所であり、土地開発による造成で自生地が消滅しやすいほか、管理の停止によっても、容易に個体群が衰退する危険性がある。

■ **特記事項**：本種の保全に際しては、種の生活史を考慮しつつ、年2回以上の草刈り頻度を保つ必要があると考えられる。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 28, 168, 196, 243, 270



八王子市 2002年4月20日

サワオグルマ

Tephrosieris pierotii

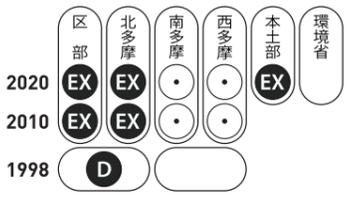
被子植物
キク科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、および南西諸島に分布する多年草で、日当たりのよい湿地に生育し、ときに群生する。茎は中空で直立し、高さ50～80cmとなり、葉とともに白いくも毛がある。根出葉はロゼット状。茎葉は卵状披針形、基部は広く茎を抱く。花期は4～6月。頭花は径3.5～5cm、6～30個が散房状またはやや散状につく。総苞片は広披針形。舌状花冠は長さ11～16mm。そう果は無毛。冠毛は白色、花後長く伸びる。都内では区部の湿地に自生していたが、北多摩地域とともに絶滅している。

■ **生存を脅かす要因**：自生地は都市近郊の湿地であり、地域開発の激しい時期に大部分の生育地が失われ、消滅したのと考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種である。

執筆者 奥田重俊
文献一覧 270



山形県 1994年5月24日

オナモミ

Xanthium strumarium subsp. *sibiricum*

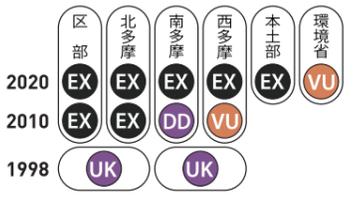
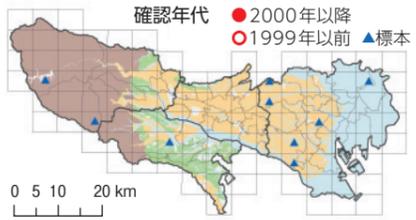
被子植物
キク科

■ **種の特性と生育状況**：全国に分布する一年草で、人里周辺の富栄養な立地や水湿地、海岸等に生育する。茎は高さ20～100cm、短毛がある。葉は互生し、3.5～10cmの長柄があり、葉身は卵状三角形で長さ6～15cm、3～5浅裂し、不ぞろいな鋸歯があり、やや厚く基部は心形、両面に剛毛があつてざらつく。花期は8～10月。筒状花は白色。日本には古くから生育しているが、アジア大陸から帰化したものと推定されている。かつては荒れ地に普通であったという。都内でも各地から記録があるが、全域で絶滅している。

■ **生存を脅かす要因**：各地で同時多発的に絶滅に向かったことを考慮すると、生活型が類似するオオオナモミをはじめとする外来植物が侵入拡大し、オナモミの衰退につながった可能性が否定できない。

■ **特記事項**：

執筆者 奥田重俊
文献一覧 168, 270, 288



群馬県 2001年10月31日

レンプクソウ

Adoxa moschatellina

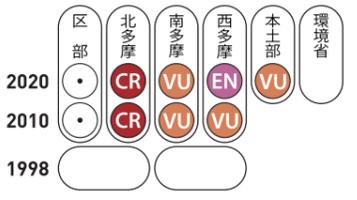
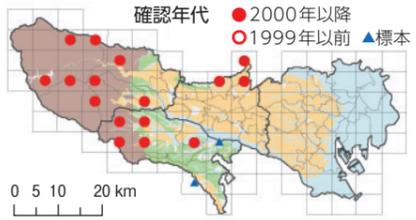
被子植物
ガマズミ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以北）に分布する多年草。細い地下茎がある。全体は軟弱で高さ10cm内外。根生葉は2回3回複葉。花は黄緑色、5個が茎の先端につく。頂上の花は花冠が4裂。花期は4月。果実は石果。夏には地上部は枯れる。山地の湿った林内に生育し、しばしば群生する。北多摩では分布が限られ、ごく稀。南多摩と西多摩では、河川沿いの低地、丘陵や山地の下部に点在する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 105, 170, 243



八王子市 2022年4月1日

ゴマギ(ゴマキ)

Viburnum sieboldii

被子植物
ガマズミ科

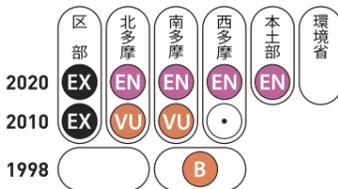
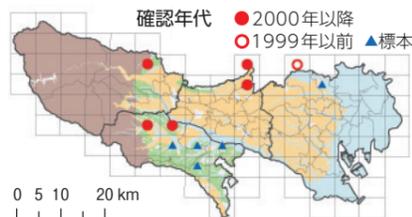
種の特性と生育状況: 本州(関東以西の太平洋側)、四国、九州に分布する落葉高木。高さ5~7m。葉は対生、楕円形。傷つけるとゴマの香りがする。花は散房花序につき、白色。花期は5~6月。核果は楕円体、8~10月に赤く熟し、のちに黒くなる。低地の河川沿い、台地脚部、丘陵の谷戸などの湿地に生育する。多摩部では各地に稀、区部では過去の記録はあるが、絶滅したと考えられる。

生存を脅かす要因: 河川開発、湿地開発。

特記事項:

執筆者 御手洗望

文献一覧 28, 105, 243



1993年5月18日

ミヤマシグレ

Viburnum urceolatum f. procumbens

被子植物
スイカズラ科

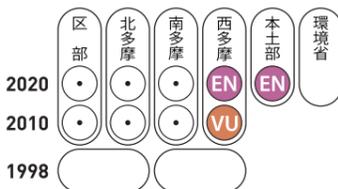
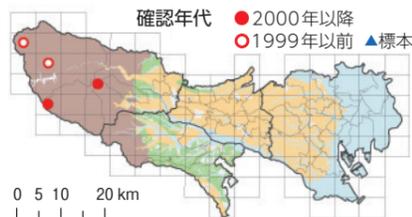
種の特性と生育状況: 本州(福島以西)、四国、九州に分布する。落葉低木。ヤマシグレの一品種。高さ50cm以下。下部の枝は地を這い、根を出す。葉は対生、卵形で先はとがる。花は散房花序につき、花冠は白色、花期は6~7月。核果は球形、9~10月に赤く熟す。西多摩の山地上部にごく稀に生育する。

生存を脅かす要因: シカの食害、局所分布。現存する生育地はニホンジカが入り込みにくい露岩の混じる尾根沿いのみであることから、ニホンジカの食害の影響が大きいと考えられる。

特記事項: 現存する個体は矮小化しており、ヤマシグレとの区別が困難である。ここでは過去の記録に準じてミヤマシグレとした。

執筆者 御手洗望

文献一覧 152, 170



長野県 1990年7月31日

オオツクバネウツギ

Abelia tetrasepala

被子植物
スイカズラ科

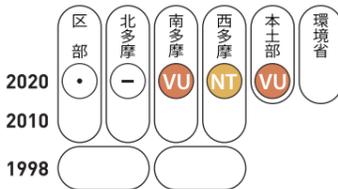
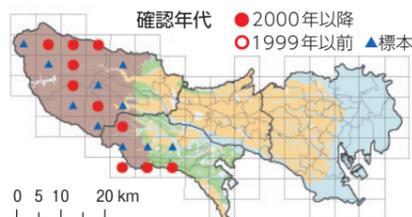
種の特性と生育状況: 本州(関東・中部以西)、四国、九州に分布する落葉低木。高さ2~3mで、密に分枝する。葉は広卵形から披針状卵形で、対生。花冠は黄白色、花筒下部は狭い管状で、上部は鐘状に膨らむ。萼片は5個であるが、背側の1個は他より小さいか、稀にない。丘陵にも分布するが主に山地の明るく開けた樹林内に生育する。南多摩と西多摩の各地に点在する。

生存を脅かす要因: 森林伐採、シカの食害。

特記事項:

執筆者 御手洗望

文献一覧 4, 66, 243



八王子市 2008年4月30日

ナベナ

Dipsacus japonicus

被子植物
スイカズラ科

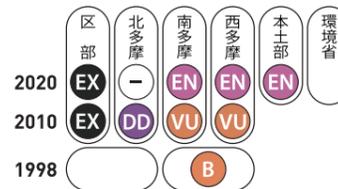
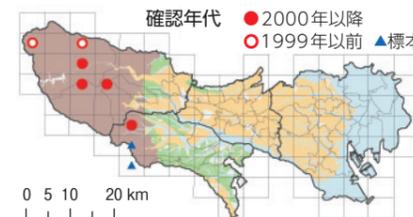
種の特性と生育状況: 本州、四国、九州に分布する越年草。高さ1mを超え、直立してよく分枝し、全体に刺状の剛毛がある。葉は薄く、頭大羽状に全裂し、裂片は鋸歯縁。頭花は径2cm。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠上部は4裂。花期は8~9月。南多摩と西多摩の山地の林縁や林道路傍の草地、伐採跡地にごく稀に生育する。区部では過去の記録はあるが、絶滅したと考えられる。

生存を脅かす要因: 草地開発。

特記事項:

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243



奥多摩町 2019年9月5日

ニッコウヒョウタンボク

Lonicera mochidzukiana

被子植物
スイカズラ科

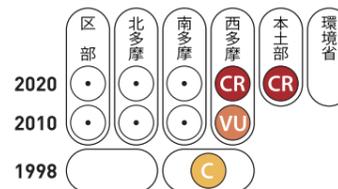
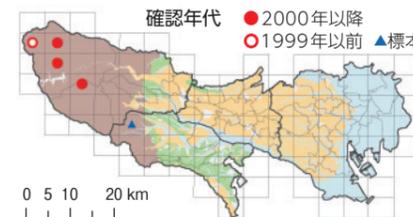
種の特性と生育状況: 本州(関東~近畿地方北部)に分布する落葉低木。高さ1~2m。葉は対生し、幅広く、裏面は粉白色を帯びる。花ははじめ白色のちに淡黄色。花冠は二唇形。上唇は4裂する。裂片は反曲し、雄しべが突き出る。花期は5~6月。液果は7~8月に赤く熟し、2個が合着する。山地の落葉樹林の林縁に育成する。都内では西多摩の山地、特に石灰岩地に極めて稀に生育する。

生存を脅かす要因: 森林伐採、石灰採掘、シカの食害、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、山林の改変による生育環境の変化や生育地の破壊が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

特記事項:

執筆者 田畑伊織

文献一覧 205



ハヤザキヒョウタンボク

Lonicera praeflorens var. japonica

被子植物
スイカズラ科

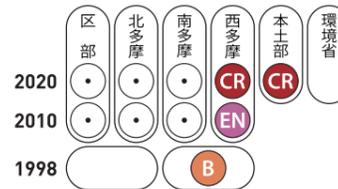
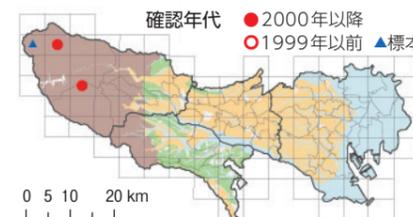
種の特性と生育状況: 宮城県と関東地方に分布する落葉低木。高さ1~2m。葉は対生、裏面や葉の縁には開出する軟毛が多い。花は下垂し、展葉に先立って開き、白色。花冠はろうと形で長さ1.2cm、先端が5深裂する。雄しべは花外に出る。花期は4月。果実は液果で5~6月に紅色に熟し、合着しない。山地の落葉樹林の林縁や石灰岩地に生育する。都内では西多摩の山地の石灰岩性の岩崖地に極めて稀に生育する。

生存を脅かす要因: 森林伐採、石灰採掘、シカの食害、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、山林の改変による生育環境の変化や生育地の破壊が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

特記事項: 日本固有種。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 205



ダイセンヒョウタンボク

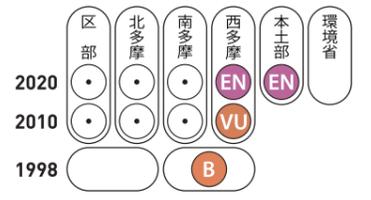
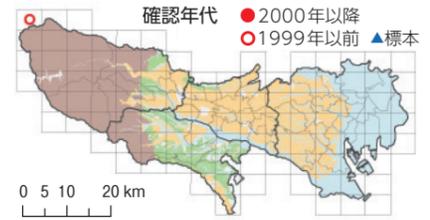
Lonicera strophiphora var. *glabra*

被子植物 スイカズラ科

■種の特性と生育状況：本州（関東、近畿、中国）、四国に分布する落葉低木。高さ1～2m。葉は対生。花は下垂し、白色。花冠はろうと形。液果は6～7月に紅色に熟す。アラゲヒョウタンボクの変種で、基本変種からは子房と花柱が無毛なことで区別される。花期は4～6月。西多摩の山地上部において石灰岩地の落葉樹林の林縁にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：基質・基物の減少及び消失、局所分布。
■特記事項：同じ山域でアラゲヒョウタンボクも記録されており、分類学上の相違に留意しながら、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 79, 170, 205



鳥取県 2002年5月6日

オミナエシ

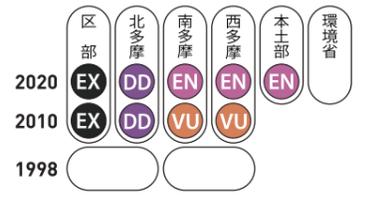
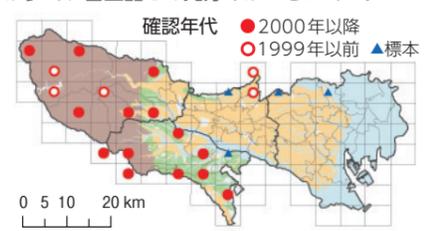
Patrinia scabiosifolia

被子植物 スイカズラ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する多年草。茎は高さ60～100cm、地下茎は横に這い、新苗は下部の側につく。葉は対生し、頭大羽状に深裂する。花は黄色の小花で花序の上部にほぼ平らに多数つく。花期は8～10月。南多摩と西多摩の丘陵から山地にかけての草地に生育する。区部には過去の記録があるが絶滅したと考えられ、北多摩では現状が不明である。

■生存を脅かす要因：草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。園芸目的の採取の対象となり、生存が脅かされている。
■特記事項：「秋の七草」として植栽されることが多く、自生品との見分けがつきにくい。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243, 290, 293



八王子市 (植栽) 2020年8月10日

キンレイカ

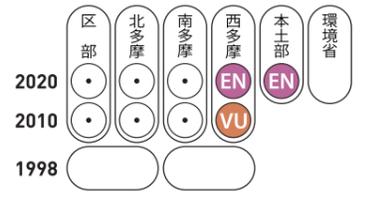
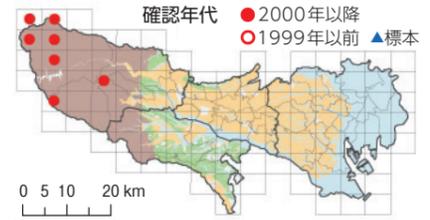
Patrinia triloba var. *palmata*

被子植物 スイカズラ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西の太平洋側）、九州に分布する多年草。ハクサンオミナエシの変種。茎は高さ20～60cm。葉は対生し、掌状に3～5中裂する。花冠は黄色。径7mm、長さ2～3mmの明らかな距がある。花期は7～8月。山地の岩場に生育する。都内では西多摩の山地の尾根部などに稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、シカの食害。生育環境の変化やシカの食圧が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。
■特記事項：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 132



奥多摩町 2022年7月25日

マツムシソウ

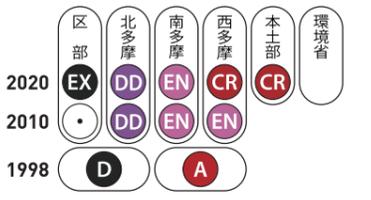
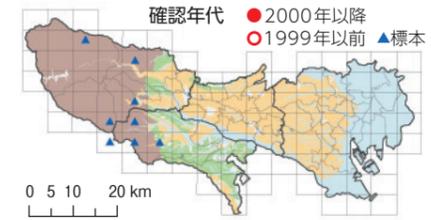
Scabiosa japonica

被子植物 スイカズラ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する越年草。高さ60～90cm、葉は対生し、有毛、下部や中部の葉は羽裂し、裂片はさらに分かれる。頭花は長柄の先に上向きにつき、径4cm。花期は8～10月。山地の明るい草原に生育する。都内本土部各地に過去の記録があるが、区部では絶滅したと考えられ、北多摩では現状が不明である。南多摩と西多摩ではごく稀に生育しているが、近年の現状は不明である。

■生存を脅かす要因：草地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。園芸目的の採取の対象となり、生存が脅かされている。
■特記事項：山中でも植栽と考えられる株がみられる。自生株について現状を把握する必要がある。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243, 270, 290



長野県 1982年8月29日

キバナウツギ

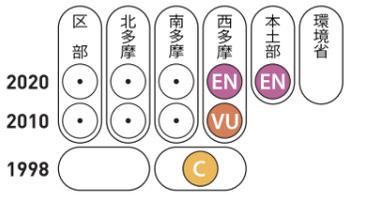
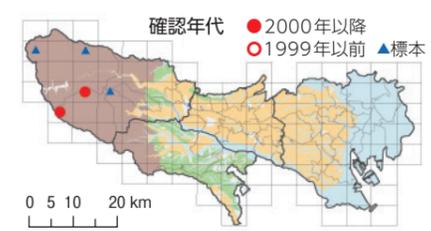
Weigela maximowiczii

被子植物 スイカズラ科

■種の特性と生育状況：本州（中部以北）に分布する落葉低木。高さ2～3m。葉は対生し、柄がない。萼は早落。花は2個ずつつく。花冠は淡黄色、長さ約4cm。先端が5裂し、背腹性がある。下側中央部に橙色の網目がある。花期は4～6月。西多摩の山地上部の落葉樹林内にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、遷移進行・植生変化、シカの食害。
■特記事項：

執筆者 御手洗望
文献一覧 170



山形県 1980年6月22日

カリヨセウツギ(ニシキビロードウツギ)

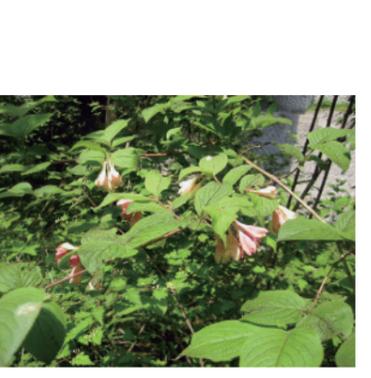
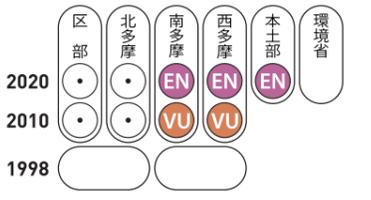
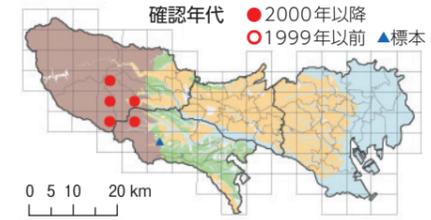
Weigela kariyosensis

被子植物 スイカズラ科

■種の特性と生育状況：本州（関東西部）に分布する落葉低木。高さ約2m。葉は対生し、両面有毛、裏面脈上に開出毛が多い。葉柄は短い。花冠は長さ約3cmで先端が5裂し、はじめ白色で、のちに紅色に変わる。花期は5～6月。山地の二次林の林縁や溪畔などに生育する。あきる野市西部、八王子市西部に局所的に分布する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。
■特記事項：ヤブウツギの1変種 (*W. floribunda* var. *versicolor*) あるいは1品種 (*f. kariyosensis*) とする見解もあり、今後の分類学上の検討が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 4, 59, 229, 243



ミヤマウド

Aralia glabra

被子植物
ウコギ科

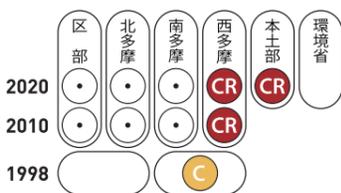
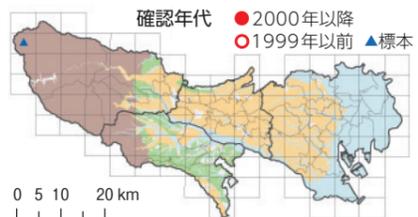
■種の特性と生育状況：本州（関東、中部）に分布する多年草。茎は細長く無毛で、高さ80～100cmになる。葉は有柄、3出2～3回羽状。小葉は卵心形、質薄く、下面脈上に短い縮れた毛がある。枝は紫色を帯びる。花は散形花序につく。花弁は緑紫色。液果は球形で紫緑色。花期は6～8月。西多摩の山地のやや湿った林縁にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170



新潟県 1992年8月12日

ウラジロウコギ

Eleutherococcus hypoleucus

被子植物
ウコギ科

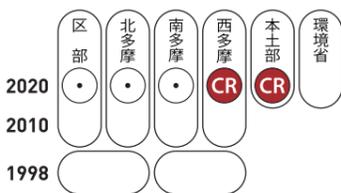
■種の特性と生育状況：本州（福島県尾瀬沼以南）、四国、九州（熊本県五家荘以北）に分布する落葉低木。高さ1.5～3m。枝に針状の刺がある。葉は互生、掌状複葉で小葉は5個、長さ7～15cm、幅2.5～5cmの倒卵状長楕円形で、縁に鋭鋸歯がある。表面は無毛、裏面は粉白色。花期は7～8月、枝先に散形花序を2～3個出し、緑白色の小さな花をつける。液果は直径約6mm、扁平な球形、10～11月に黒熟する。山地の林内、とくに石灰岩地に多い。都内では西多摩の石灰岩地に極めて稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地であり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■特記事項：日本固有種。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 326



奥多摩町 2019年9月1日

イブキボウフウ

Libanotis ugoensis var. japonica

被子植物
セリ科

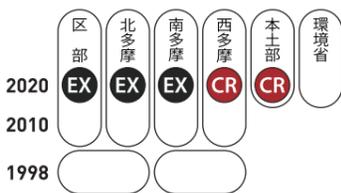
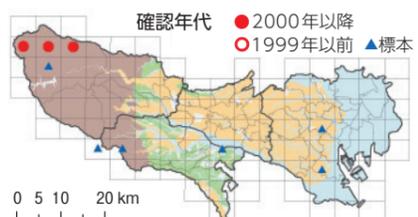
■種の特性と生育状況：北海道、本州（近畿以東）に分布する多年草。茎は直立し、多くの枝を分け、高さ30～120cm。葉は2～3回羽状複葉で、長さ5～30cm。複散形花序で、白色の花をつける。花期は8～9月。日当たりの良い草原に生育する。区部と北多摩、南多摩では過去の記録があるのみで、絶滅したと考えられる。西多摩では主に石灰岩の明るい露岩地に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：基質・基物の減少及び消失、局所分布。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 66, 170, 253, 270



奥多摩町 2022年8月25日

イワニンジン

Angelica hakonensis

被子植物
セリ科

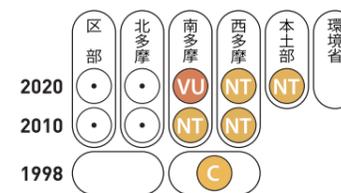
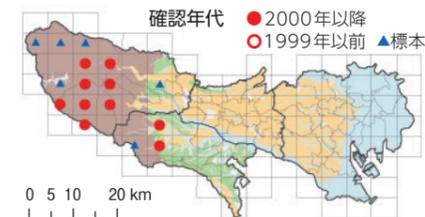
■種の特性と生育状況：本州（関東、中部）に分布する多年草。高さ60～120cm。葉は長さ3～10cmの柄がある。2回3出の複葉で、小葉の幅は狭い。花は緑白色。果実は楕円形、長さ約6mm。花期は8～9月。小葉がまばらにつく型であるノダケモドキも含める。北多摩や西多摩の山地の二次林や林縁に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243



神奈川県 1996年11月7日

ハナビゼリ

Angelica inaequalis

被子植物
セリ科

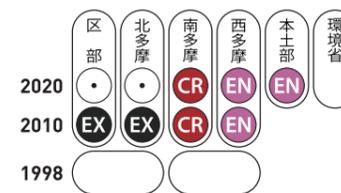
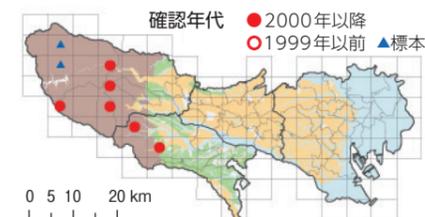
■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州に分布する多年草。高さ60～80cm。葉身は円形または腎円形、粗い鋸歯があり、小葉の先端はとがる。花序の枝は長さ不同。花は白色。果実は広楕円形で広い翼がある。花期は5月。南多摩と西多摩の山地の湿った樹林内に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採。

■特記事項：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243



山梨県 1985年8月8日

ハマウド

Angelica japonica

被子植物
セリ科

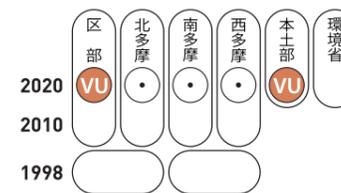
■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島に分布する多年草。茎は高さ1～1.5m。上部で枝を分け、暗紫色を帯びる。葉は1～2回3出羽状複葉で、光沢がある。複散形花序に白い花をつける。花期は4～6月。海岸の風衝草原・海岸低木林に生育する。東京湾最奥部に造成された人工干潟の砂浜の後背地に局所的に生育する

■生存を脅かす要因：海岸開発。

■特記事項：東京湾土着の植物の一種と考えられている。

執筆者 御手洗望

文献一覧 52, 66, 67, 107, 149



江戸川区 2019年5月20日

エキサイゼリ

*Apodicarpum ikenoi*被子植物
セリ科

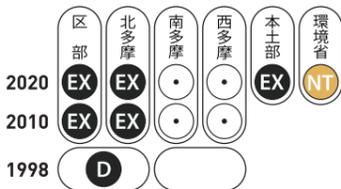
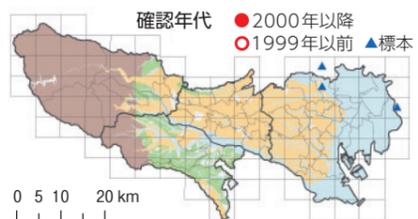
■**種の特性と生育状況**：本州（関東、愛知）に分布する多年草。高さ30cm。根葉は有柄、茎葉は3～5個の卵形の小葉からなる。花序は小さく、茎の上部に散形の花序を出す。花は4～8個の柄につき白色。果実は楕円形、長さ2～3mm。花期は5～6月。低地の河川敷の湿地に生育する。区部の荒川沿いの低地に過去の記録があるが、90年代にすでに現状不明とされており、絶滅したと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発。

■**特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 79, 270



茨城県 2013年5月13日

ホタルサイコ

Bupleurum longiradiatum var. *elatius*被子植物
セリ科

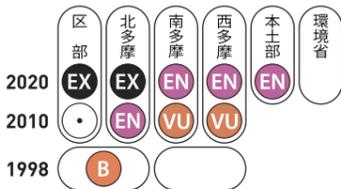
■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。高さ40～100cm。葉は広い披針形で、基部は円く茎を抱く。下面は粉白色。小散形花序に10～15花をつける。花は黄色。果実は長さ3～4cm。花期は8～10月。山地の草原や岩の隙間に生育する。南多摩ではごく稀で、西多摩では主に石灰岩地に点在する。

■**生存を脅かす要因**：基質・基物の減少及び消失、局所分布。

■**特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243, 270



長野県 2008年9月5日

ミシマサイコ

*Bupleurum stenophyllum*被子植物
セリ科

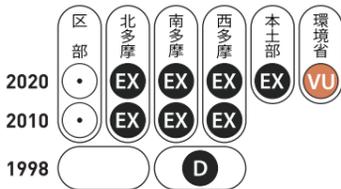
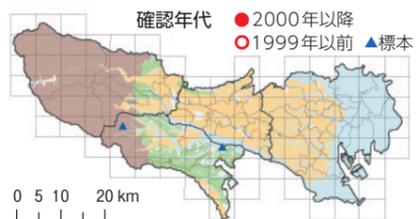
■**種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に生育する多年草。高さ40～70cm。茎につく葉は広線形で、平行脈がある。散形花序は大形で多数の花をつける。花は黄色。果実は卵球形。花期は8～10月。山地の乾いた草地に生育する。多摩部の各地で過去の記録があるが、90年代にすでに絶滅の可能性が指摘されており、現在は絶滅したと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。薬用植物として採取されることが生存を脅かす要因の一つと考えられる。

■**特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 28, 79, 243, 270



ドクゼリ

*Cicuta virosa*被子植物
セリ科

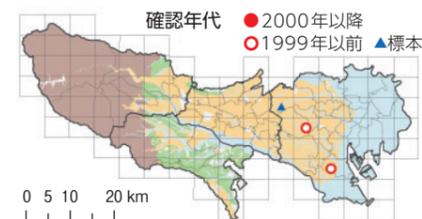
■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。有毒植物。高さ60～100cm。根茎は太く、緑色で節がある。全体無毛。葉は羽状。花は白色。果実は長さ2.5mmで縦に筋がある。花期は6～8月。山地の河川の岸や流路に生育する。都内本土部各地に過去の記録はあり、主に低地から台地部にかけての流水辺、池沼の岸辺等に産したが、現在では絶滅している。

■**生存を脅かす要因**：湿地開発。

■**特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 28, 270, 322



長野県 1987年8月31日

ハマゼリ

*Cnidium japonicum*被子植物
セリ科

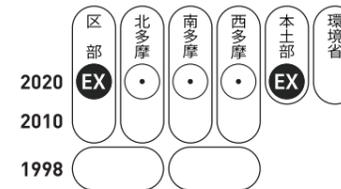
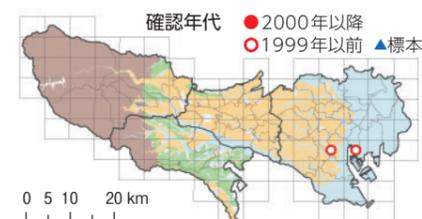
■**種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。茎は高さ10～50cm。小葉は柄がなく、羽状に切れ込み、長さ3～6cm、裂片は短く、先は鈍形。複散形花序に白い花をつける。花期は8～10月。海岸の砂浜・砂丘・礫浜に生育する。区部では東京湾沿いに過去の記録があるが、近年の確認はなく、絶滅したと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：海岸開発。

■**特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 66, 149, 270



神奈川県 2017年10月6日

シムラニンジン

*Pterygopleurum neurophyllum*被子植物
セリ科

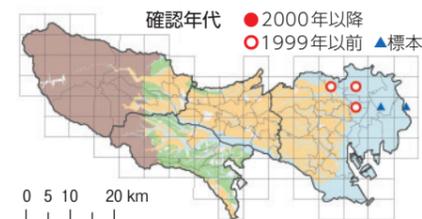
■**種の特性と生育状況**：本州（関東）、四国、九州に分布する多年草。高さ80～120cm。全体無毛。葉は細い。花は白色。果実は平滑で長さ3.5～4mm、分果の隆条は太く鋭く隆起する。花期は8～9月。低地の河川敷の湿地に生育する。区部では過去の記録があるが、90年代にすでに絶滅の可能性が指摘されており、現在は絶滅したと考えられる。

■**生存を脅かす要因**：河川開発、湿地開発。

■**特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 79, 270



千葉県 1993年10月20日

ムカゴニンジン

Sium ninsi

被子植物
セリ科

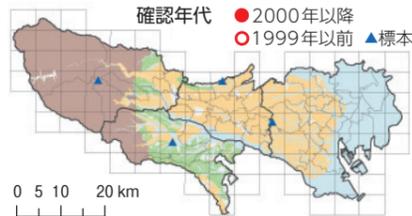
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。高さ30～80cm。葉は細い。上部の葉は3小葉。根元や葉腋にむかごができる。花は白色、萼片はごく小さい。果実は卵球形、径2mm。花期は8～9月。各地の貧栄養な湿地に生育する。都内本土部では、台地の湧水性の池沼や段丘崖沿いの湿地、丘陵の谷戸などに自生していたが、区部や北多摩では絶滅、南多摩や西多摩でも現状が不明である。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 28, 243, 270



長野県 1987年8月29日

ヌマゼリ(サワゼリ)

Sium suave var. nipponicum

被子植物
セリ科

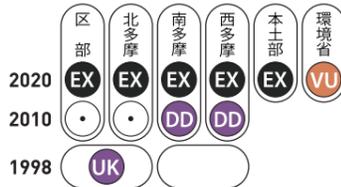
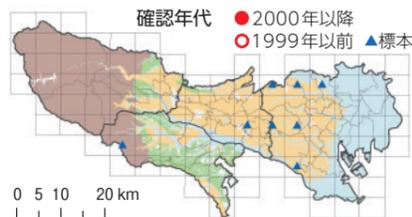
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。高さ60～100cm。全体無毛。多くの枝を出す。葉は複葉で小葉は7～11個あり、幅は狭い。花序は小型、花は白色。果実は倒卵形。花期は7～9月。水湿な草地や湧水地、池沼の水辺などに生育する。都内の本土部各地に過去の記録があるが、90年代にすでに現状不明とされており、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 17, 25, 28, 79



栃木県 1995年9月27日

ヒロハヌマゼリ

Sium suave var. ovatum

被子植物
セリ科

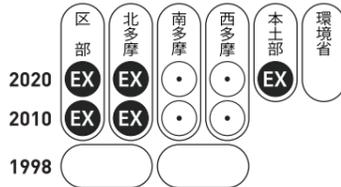
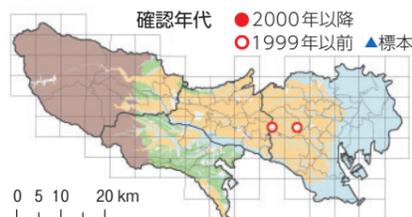
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国に分布する多年草。高さ60～100cm。全体無毛。多くの枝を出す。葉は複葉で小葉は7～11個あり、ヌマゼリと異なり葉は卵形、基部はときに心形になる。花序は小型、花は白色。花期は7～9月。ヌマゼリ同様、湧水湿地、池沼や流水辺の草地などに生育する。区部と北多摩に過去の記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 270, 290



東京大学総合研究博物館所蔵
杉並区 1879年10月5日

ミヤマウイキョウ

Tilingia tachiroei

被子植物
セリ科

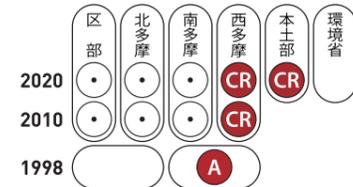
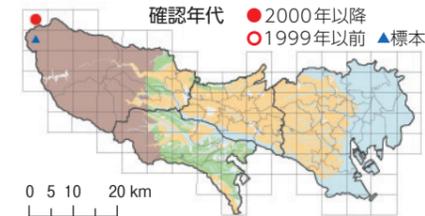
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）、四国に分布する多年草。高さ10～30cm。葉は羽状に細裂し、裂片は糸状。花期は7～9月。茎頂か、分枝した先端に小型の複散形花序をつける。花は小さく、白色の5弁花で、花弁は内側に曲がる。亜高山帯の崩壊地や草地、岩場に生育する。都内では西多摩の高標高の石灰岩地に稀に生育する

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、シカの食害、基質・基物の減少及び消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化や生育地の破壊及びシカの食圧が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 205



山梨県 2022年7月30日

植物

藻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

淡水魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

文献一覧

- 赤沢時之（1965）剣山の特殊特産植物. 上村登 編. 南四国の自然：86-90. 六月社.
- 昭島市植物分布調査会（1997）あきしまの植物. 昭島市教育委員会. 244pp.
- 秋山忍・宮崎卓（2019）自然教育園の種子植物. 自然教育園報告. 51：161-178. 国立科学博物館附属自然教育園.
- あきる野市環境委員会自然環境調査部会（2013）あきる野市自然環境調査報告書（平成21～23年度）. あきる野市. 146pp.
- あきる野市自然環境調査部会（2014）平成25年度あきる野市自然環境調査報告書. 144pp.
- あきる野市自然環境調査部会（2015）平成26年度あきる野市自然環境調査報告書. 199pp.
- あきる野市自然環境調査部会（2016）平成27年度あきる野市自然環境調査報告書. 217pp.
- あきる野市自然環境調査部会（2017）平成28年度あきる野市自然環境調査報告書. 318pp.
- あきる野市自然環境調査部会（2018）平成29年度あきる野市自然環境調査報告書. 290pp.
- あきる野市自然環境調査部会（2019）平成30年度自然環境調査部会植物班事業報告書. 88pp.
- 畔上能力（1989）多摩丘陵の植物. 日本の生物, 3（11）: 24-29. 文一総合出版.
- 畔上能力（1993）多摩市植物目録. 多摩市叢書（8）多摩市の自然（地学・植物目録・動物）: 151-231. 多摩市.
- 畔上能力（1994）稲城市の植物. 稲城市史資料編1 自然：1-108. 稲城市.
- 畔上能力（1994）立川市植物目録 1993. 立川の自然調査報告書：11-36. 立川市教育委員会.
- 畔上能力（2001）八王子城跡の植物. 八王子城－みる・きく・あらく－: 42-45. 鑑籃社.
- 畔上能力（2010）稲城市の特徴的な植物について. 稲城市文化財研究紀要, 9：4-14. 稲城市教育委員会.
- 畔上能力・菱山忠三郎・吉山寛（1974）東京都南多摩地区植物目録. 文化財の保護, 7：34-72. 東京都教育委員会.
- 畔上直樹（1993）ムカゴツブリ、御岳山に産す. 東京都の自然, 19：44-45. 東京都高尾自然科学博物館.
- 新井二郎（1988）八王子で新たに見つかったスマレ. 東京都の自然, 14：21. 東京都高尾自然科学博物館.
- 新井二郎（2006）高尾・奥多摩植物手帖. JTB パブリッシング. 191pp.
- 新井二郎（2014）八王子のスマレ. 新八王子市史 自然編：235-245. 八王子市.
- 新井二郎・森広信子（1992）高尾山の植物（3）－高尾山植物目録補遺－. 東京都の自然, 18：28-30. 東京都高尾自然科学博物館.
- 新井二郎・森広信子（1995）高尾山の植物（5）－高尾山植物目録補遺－. 東京都の自然, 21：23-24. 東京都高尾自然科学博物館.
- 飯島高子（1981）天祖山・立岩の植物. 東京都の自然, 8：13-17. 東京都高尾自然科学博物館.
- 飯泉優（1961）北多摩植物誌. 私家版. 260pp.
- 飯泉優（1969）天祖山の植物. 私家版. 34pp.
- 飯泉優（1973）“武州御岳山”産高等植物目録. 青梅市植物調査中間報告資料. 2pp.
- 飯泉優・曾根伸典（1982）青梅市の植物. 青梅市立郷土博物館 編. 青梅市文化財調査報告書 9 青梅市の自然Ⅱ〔動物・植物編1〕：3-98. 青梅市教育委員会.
- 石井英美・崎尾均・吉山寛ほか（2000）山溪ハンディ図鑑3 木に咲く花 離弁花1. 山と溪谷社. 720pp.

- 石橋正行（1999）I 植物編. 武蔵村山市史編さん委員会 編. 武蔵村山市史資料編 自然－植物・キノコ・動物－：1-121. 武蔵村山市.

- （一社）地域パートナーシップ支援センター（2019）大田区自然観察路「川と干潟のみち」の生物・植物についての区民協働調査実施報告書. 34pp.

- 伊藤晴康（2019）水草再生のこれまで、これから. NPO 法人生態工房 編. 第3回井の頭池かいぼり報告会資料集：15-20. 井の頭恩賜公園 100 年実行委員会.

- 伊藤洋 編（1998）埼玉県植物誌 1998 年版. 埼玉県教育委員会. 833pp.

- 伊藤優（2010）水生植物カワツルモ属（カワツルモ科）の分類・系統進化. 小石川植物園後援会ニュースレター, 39：1-5.

- 猪狩貴史（2010）カエデ識別ハンドブック. 文一総合出版. 80pp.

- 茨城県生活環境部環境政策課 編（2013）茨城における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012 年改訂版（茨城県版レッドデータブック）. 263pp.

- 岩槻邦男（1992）日本の野生植物シダ. 平凡社. 311pp.

- 上村登（1944）土佐の植物. 共立出版. 253pp.

- 上原敬二（1941）武蔵野の樹木. 田村剛・本田正次 編. 武蔵野：243-283. 科学主義工業社.

- 薄葉満（1986）トウゴクヘラオモダカについて. 水草研究会会報, 25：16-19.

- 内野秀重（2002）小山田端自然公園の保護上重要な植物. 小山 カタクリと共に歩んで：146-147. 多摩丘陵の自然を守る市民の会.

- 内野秀重（2003）イゲサ科. 財千葉県史料研究財団 編. 千葉県植物誌 千葉県の自然誌別編4：704-709. 千葉県.

- 内野秀重（2008）長池公園の植物. NPO フェージョン長池. 32pp.

- 内野秀重（2011）町田市の水生植物. かたかご, 38：5-7. 鶴川自然友の会.

- 内野秀重（2013）八王子市で発見された新植物ハチオウジアザミについて. 八王子市史研究, 3：91-103. 八王子市.

- 内野秀重（2018）世田谷悲恋伝説の花サギソウ. 緑と水のひろば, 92：14-15.（公財）東京都公園協会.

- 内野秀重（2018）町田の自然と希少植物について. かたかご, 44：6-7. 鶴川自然友の会.

- 内野秀重・小林健人（2013）長池公園の植物－改訂版－季節の観察ガイドと植物目録. NPO フェージョン長池. 32pp.

- ト澤美久・杉野正雄・管野不二子（1998）東村山市の植物. 東村山市史編さん委員会 編. 東村山市史3 資料編自然：151-279. 東村山市.

- 江戸川区郷土資料室自然文化財保存委員会（1972）江戸川の自然文化 江戸川文化叢書第一集：30-50.

- NPO 法人えどがわエコセンター（2015）平成27年度水辺環境調査報告書（1）江戸川・旧江戸川・東なぎさ【植物・鳥類】. 65pp.

- NPO 法人えどがわエコセンター（2020）水辺環境調査報告書（1）. 70pp.

- NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団（2021）改訂新版（第2刷）フィールドで使える 図説 植物検索ハンドブック. さきたま出版会. 527pp.

- NPO 法人まちだ結の里植物班（2015）町田市奈良ばい谷戸の植物調査報告書. 53pp.

- 海老原淳（2016）日本産シダ植物標準図鑑1. 学研. 475pp.

- 海老原淳（2017）日本産シダ植物標準図鑑2. 学研. 507pp.

- 海老原淳・松本定・岡武利（2019）自然教育園産シダ植物の再評価～山手線内のシダ植物相との比較から～. 自然教育園報告. 51：179-190. 国立科学博物館附属自然教育園.

- 青梅市史編さん委員会 編（1995）青梅市史 下巻. 青梅市. 1234pp.

- 大川ち津る（1976）刈寄山の植物. 私家版. 8pp.

- 大田区（2012）大田区自然観察路「池のみち」等の生物・植物調査報告書. 35pp.

- 大塚孝一（2004）信州のシダ. ほおずき書籍. 194pp.

- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編（2015）改訂新版日本の野生植物1. 平凡社. 666pp.

- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編（2016）改定新版日本の野生植物2. 平凡社. 640pp.

- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編（2016）改定新版日本の野生植物3. 平凡社. 604pp.

- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編（2017）改定新版日本の野生植物4. 平凡社. 608pp.

- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 編（2017）改訂新版日本の野生植物5. 平凡社. 760pp.

- 大場達之（1997）湾岸のフロラと植生. 沼田真 編. 東京湾の生物誌：230-257. 築地書館.

- 大場秀章（1954）深大寺のシダ類. 野草, 30：29-32. 野外植物研究会.

- 大場秀章（1964）下総西部の植物にふれて（4）. 野草, 30（281）: 79-81. 野外植物研究会.

- 大場秀章（1965）純、深大寺のシダ類. 野草, 31（286）: 79-81. 野外植物研究会.

- 大場秀章（2010）大滝先生と水元の生物. 企画展「大滝末男の遺したもの」展資料：70-87.（公財）東京都公園協会.

- 大場秀章・川崎哲也・田中英明・木原浩（2007）新日本の桜. 山と溪谷社. 263pp.

- 大原隆明・芹沢俊介・若林三千男（2004）多摩丘陵で見出されたサクラ属の1新種. 植物研究雑誌, 79：343-349.

- 岡薫高・渡辺安之（1976）多摩の野鳥と野草. 武蔵野郷土史刊行会. 239pp.

- 奥山春季（1965）東京から姿を消して30年～稀品ムカコサイシンの分布～. 植物採集ニュース, 24：9.

- 奥山春季（1974）採集・検索日本植物ハンドブック. 八坂書房. 783pp.

- 奥山春季 編（1991）奥山春季植物採集記録抄. 奥山春季植物採集記録抄刊行会. 142pp.

- 小崎昭則・北川淑子 編（1994）多摩丘陵のシダ植物－横浜市緑区・旭区を中心に－. 多摩丘陵植物調査会. 131pp.

- 小野幹雄（1991）多摩川水系東京都域内の絶滅危惧植物の現況に関する調査研究. 財とうきゅう環境浄化財団（学術）研究助成, 137：1-21.

- 小俣軍平（2013）八王子とその周辺のヤブムグラについて. 八王子市市史研究, 3：104-112. 八王子市.

- 勝木俊雄（2011）本州のトウヒ類観察ガイド. 森林総合研究所多摩森林科学園. 14pp.

- 勝木俊雄・大中みちる・別所康次・岩本宏次郎・石井幸夫・島田和則（2010）森林総合研究所多摩森林科学園の野生植物. 森林総合研究所研究報告, 9（4）: 207-225.

- 葛飾区環境部環境課（2013）葛飾区生きものガイドブック 自然と生物多様性. 葛飾区. 199pp.

- 葛飾区郷土と天文の博物館（1999）水元の動植物目録 特別展小合溜井－水元公園の自然と文化－：39-44.

- 勝野武彦・葉山嘉一・大澤啓志・黒田貴綱（2010）多摩川河川敷及び流域緑地における草地管理と草地性小動物の生息規定要因の關係把握. 研究助成・学術研究, 38（284）. 財とうきゅう環境浄化財団. 48pp.

- 勝山輝男（1992）イセオオスゲとハガクレスゲの分布. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 21：73-80. 神奈川県生命の星・地球博物館.

- 勝山輝男（2005）日本のスゲ. 文一総合出版. 392pp.

- 勝山輝男（2015）神奈川県のパンケイソウ属. 神奈川県植物調査会ニュース, 79：923-924. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

- 勝山輝男・村川博實（2021）高尾山に咲く花. 有隣堂. 256pp.

- 勝山輝男・支賀千賀子・小久保恭子（2011）伊豆諸島青ヶ島の維管束植物. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 40：7-34. 神奈川県生命の星・地球博物館.

- 勝山輝男・高橋秀男・木場秀久・田中徳久（1997）フォッサマグナ要素の植物 富士・箱根・伊豆に特有な植物たち ミュージアムブックレット5. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 69pp.

- 加藤雅啓・海老原淳 編（2011）日本の固有植物. 国立科学博物館叢書 11. 東海大学出版. 503pp.

- 門田裕一（2013）企画展「日本のアザミの秘密」図録. 国立科学博物館. 15pp.

- 角野康郎（1994）日本水草図鑑. 文一総合出版. 179pp.

- 角野康郎（2014）ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版. 328pp.

- 角野康郎・田中純子（2015）シャクジイタスキモ（タスキモ科）の再検討. J. Jpn. Bot., 90：399–403.

- 神奈川県植物誌調査会 編（2001）神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 1584pp.

- 神奈川県植物誌調査会 編（2018）神奈川県植物誌 2018（下）. 神奈川県植物調査会. 817pp.

- 神奈川県植物誌調査会 編（2018）神奈川県植物誌 2018（上）. 神奈川県植物調査会. 902pp.

- 環境省自然環境局国立公園課（2018）秩父多摩甲斐国立公園指定植物リスト（案）. 平成29年度秩父多摩甲斐国立公園における指定植物選定業務報告書 資料1.

- 北区（2007）北区植物ガイドブック. 159pp.

- 北区環境保全課・株緑生研究所（1988）北区の植物. 自生植物のフィールドガイド. 東京都北区. 256pp.

- 北畠華・百原新・上松未来・市原通夫・上原浩一（2008）絶滅危惧植物ツツイトモ再生・保全の研究. 水利科学, 52（1）16-25.

- 木村なほ（1980）サギソウの観察と栽培. グリーンブックス, 63. ニューサイエンス社. 100pp.

- 清瀬の自然を守る会（2010）清瀬の植物－清瀬の植物調査報告－. 清瀬市. 102pp.

- 草野俊助（1923）自然的環境－植物. 南葛飾郡誌：103-165. 東京府南葛飾郡小松川町南葛飾郡役所.

- 楠瀬雄三・村上健太郎・岡浩平・押田佳子・瀬戸口喜祥・木村賢史（2015）東京都葛西海浜公園の消波堤によって形成された海浜における海岸植物相の形成過程. 景観生態学, 20（2）: 101-115.

- 国立植物ガイドブック制作委員会（1990）国立市産野生高等植物目録. 植物ガイドブック－くにたち緑の交響樂－. 国立市文化財調査報告書. 29. 国立市. 217pp.

- 倉田悟（1953）相州のナガバノイタチシダ？と奥多摩のタニイヌワラビ？. 野草, 19（7：169）：2-4. 野外植物研究会.

- 倉田悟（1957）奥多摩のオニヒカゲワラビ. 野草, 23（6：216）：3-4. 野外植物研究会.

- 倉田悟（1957）奥武蔵植物雑記（10）. 野草, 23（7：285）：3-5. 野外植物研究会.

- 倉田悟（1958）千葉県産イノデ類の種類とその分布. 千葉県植物誌：223-228. 千葉県生物学会.

- 倉田悟（1961）シダ類ノート（24）. 北陸の植物, 10（3）：66-70.

- 倉田悟（1965）奥武蔵のナカミシシラン. 野草, 31（285）：32-34. 野外植物研究会.

植物

藻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

淡水魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

115. 倉田悟（1975）シダを訪ねて。自然科学と博物館，42（3）：45-47。科学博物館後援会。

116. 倉田悟（1976）緑の葉が涼しい羊歯。主婦の友。主婦の友社（倉田悟。1978. シダ賛歌。地球社。276pp. に収録）。

117. 倉田悟・中池敏之 編（1979）日本のシダ植物図鑑 1。東京大学出版会。628pp.

118. 倉田悟・中池敏之 編（1983）日本のシダ植物図鑑 3。東京大学出版会。728pp.

119. 倉田悟・中池敏之 編（1985）日本のシダ植物図鑑 4。東京大学出版会。850pp.

120. 倉田悟・中池敏之 編（1987）日本のシダ植物図鑑 5。東京大学出版会。816pp.

121. 倉田悟・中池敏之 編（1990）日本のシダ植物図鑑 6。東京大学出版会。881pp.

122. 倉田悟・中池敏之 編（1994）日本のシダ植物図鑑 7。東京大学出版会。409pp.

123. 栗山究（2011）カタクリ〜雑木林の春を告げる花〜。清瀬市。5pp.

124. 黒沢高秀・大橋広好（2000）「絶滅危惧 IA 類ムサシタイゲキ」はセンダイタイゲキと区別できないーセンダイタイゲキの分類と分布の再検討ー。植物研究雑誌，75：104-110.

125.（公財）東京市町村自治調査会。（2000）多摩鎮守の森を訪ねて。（公財）東京市町村自治調査会。184pp.

126. 高知県・高知県牧野記念財団 編（2009）高知県植物誌。高知県立牧野植物園植物研究課。844pp.

127. 江東区総務部広報秘書室（1984）江東区の野草。江東区。159pp.

128. 江東区総務部広報秘書室（1986）続 江東区の野草。江東区。207pp.

129. 江東区総務部広報秘書室（1991）続続 江東区の野草。江東区。175pp.

130. 国分寺市環境部環境計画課（2015）平成 27 年度 国分寺市動植物調査報告書。102pp.

131. 小林一男（1985）奥多摩産アズマツリガネツツジの変異。東京都の自然，11：12-19。東京都高尾自然科学博物館。

132. 小林一男（1986）雲取山・長沢背稜の高等植物。鈴木和雄 編。奥多摩の植物：6-7。奥多摩植物研究会。

133. 小林一男（1996）ウラジロヨウラク（ツツジ科）の形態変異。東京都高尾自然科学博物館研究報告，17：25-32.

134. 小林健人（2014）八王子のシダ。八王子市市史編集委員会 編。新八王子市史 自然編：251-265。八王子市。

135. 小林健人（2022）由木の植物目録：1-99。NPO フェージョン長池。

136. 埼玉県環境部自然環境課 編（2011）埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編。埼玉県。432pp.

137. 財自然環境研究センター（2012）平成 23 年度 シカ生息実態等調査報告書。

138. 財千葉県史料研究財団 編（2003）千葉県の自然誌，別編 4。千葉県植物誌県史シリーズ 51。千葉県。1181pp.

139. 酒井忠壽（1936）井の頭附近の草。野草，2（5）：29。野外植物研究会。

140. 指村菜穂子・須田大樹・岩田豊太郎（2011）埼玉県におけるカバノキ属 9 種の分布と地形・地質との関係。埼玉県立自然の博物館研究報告，5：43-52.

141. 佐竹義輔・中村浩 編（1974）牧野富太郎植物記 8 植物採集。あかね書房。212pp.

142. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 編（1981）日本の野生植物Ⅲ 草本 合弁花類。平凡社。496pp.

143. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫 編（1982）日本の野生植物Ⅱ 草本 離弁花類。平凡社。604pp.

144. 佐竹義輔・亙理俊次・原寛・富成忠夫 編（1989）日本の野生植物木本Ⅰ。平凡社。321pp.

145. 佐藤潤平（1986）武蔵野植物誌。科学書院。1122pp.

146. 佐藤達夫（1939）武蔵國元八王子城山及其の附近羊歯植物目録。野草，5（2）：1-4。野外植物研究会。

147. 佐藤達夫（1956）武蔵国加治丘陵植物仮目録。50pp.

148. 佐藤千芳・前田哲也・内野明德（2004）日本産フトイ属（カヤツリグサ科）の 1 新種。植物研究雑誌，79（1）：23-28.

149. 澤田佳宏・中西弘樹・押田佳子・服部保（2007）日本の海岸植物チェックリスト。人と自然，17：85-101。兵庫県立人と自然の博物館。

150. 設楽拓人・末次健司・福永裕一（2017）東京都新産の従属栄養性ラン科植物エンシュウムヨウラン。神奈川自然誌資料，38：9-11. 神奈川県立生命の星地球博物館。

151. 石神井公園野鳥と自然の会（2019）石神井の四季 30 年。石神井公園の動植物資料編：3-33.

152. 植生研究グループ飯泉ゼミ 編（1989）松原の植物－草本たちの自然史－。織水社。246pp.

153. 植物研究会（1986）奥多摩植物雑記 1。東京都の自然，12：5-9. 東京都高尾自然科学博物館。

154. 植物研究会（1990）奥多摩植物雑記 5。東京都の自然，16：14-15. 東京都高尾自然科学博物館。

155. 白子川源流・水辺の会（2014）白子川源流通信 第 40 号。7pp.

156. 白子川流域環境協議会（2018）白子川散策マップ。

157. 白岩卓巳（2000）絶滅危惧植物水生シダは生きる：95-138。私家版。

158. 森林立地懇話会 編（1972）日本森林立地図。農林出版。

159. 杉並区（2006）杉並の注目動植物 レッドデータブックの実現に向けて。杉並区環境清掃部環境課。56pp.

160. 杉並区環境部環境課 編（2015）杉並区自然環境調査報告書（第 6 次）。426pp.

161. 杉並区環境部環境課 編（2020）杉並区自然環境調査報告書（第 7 次）。227pp.

162. すげの会（2018）日本産スゲ属植物分布図集。766pp.

163. 鈴木和雄（1974）奥多摩のスマレ。東京都の自然，2：9-14。東京都高尾自然科学博物館。

164. 鈴木和雄（1978）奥多摩のスマレ補遺。東京都の自然，6：16。東京都高尾自然科学博物館。

165. 鈴木和雄（1983）東京都のキイチゴ類。東京都の自然，9：1-5. 東京都高尾自然科学博物館。

166. 鈴木和雄（1983）御前山の植物。東京都の自然，9：13-21。東京都高尾自然科学博物館。

167. 鈴木和雄（1984）東京都のノギク。東京都の自然，10：2-10。東京都高尾自然科学博物館。

168. 鈴木和雄（1984）奥多摩植物目録。東京都高尾自然科学博物館研究報告，12：1-48.

169. 鈴木和雄（1985）サツキヒナノウスツボの開花パターン。東京都の自然，11：23-24。東京都高尾自然科学博物館。

170. 鈴木和雄（1986）奥多摩植物目録。鈴木和雄 編。奥多摩の植物：22-27。奥多摩植物研究会。

171. 鈴木和雄（1986）東京都のトウヒレン類。東京都の自然，12：1-4。東京都高尾自然科学博物館。

172. 鈴木和雄 編（1978）鷹ノ巣山の植物を調べる会。東京都の自然，6：17-20。東京都高尾自然科学博物館。

173. 鈴木和雄 編（1986）奥多摩の植物。奥多摩植物研究会。28pp.

174. 鈴木晴美・吉川正人・星野義延（2014）多摩川扇状地の農業水路における水生植物の分布。植生学会誌，31：95-103.

175. 鈴木由告（1987）カタクリの生態と分布。採集と飼育，49（3）：104.

176. 須田大樹（2018）関東地方におけるナラガシワの分布とその生育立地。埼玉県立自然の博物館研究報告，12：17-24.

177. 須田孫七（2001）周辺三池のトンボと水生植物。武蔵野市生物生息状況調査報告書：24-41。武蔵野市。

178. 成城みつ池を育てる会（2017）2016 年 成城みつ池緑地活動報告書 Vol.15。142pp.

179. 生物学御研究所 編（1989）皇居の植物。保育社。546pp.

180. 芹沢俊介（1971）高尾山およびその周辺のスマレ。東京都高尾自然科学博物館館報，3：55-64.

181. 芹沢俊介（1974）東京都のシダ。文化財の保護，7：13-33。東京都教育委員会。

182. 芹沢俊介（1983）本州産ホソバコケシノブ属の 1 新種。植物研究雑誌，58（2）：62-64.

183. 浅間山自然保護会編集委員会（2019）府中浅間山四季の花々。浅間山自然保護会。56pp.

184. 仙仁径（2014）バルテノン多摩収蔵植物標本①岩ノ入池の植物。バルテノン多摩 博物館部門研究紀要，12：57-64。（公財）多摩市文化振興財団。

185. 高田順・川野迎英昭（1996）シュロソウ・アオヤギソウ類の分布と変異。植物研究雑誌，71：11-28.

186. 高橋秀男（1971）フォッサ・マグナ要素の植物。神奈川県立博物館調査報告書，2：1-63.

187. 高橋保平（1936）奥多摩の採集。野草，2（7）：13-15。野外植物研究会。

188. 田川基二（1949）キノデ類の検索表。植物分類地理，14（1）：15-17.

189. 田川基二（1959）原色日本羊歯植物図鑑。保育社。270pp.

190. 立岩の四季と植物編集委員会・奥多摩工業㈱（1983）立岩の四季と植物。奥多摩工業㈱。17pp.

191. 田中法生・伊藤優・永田翔（2014）皇居の水生維管束植物。国立科学博物館専報，49：45-48.

192. 谷晋・伴野英雄・山上明（2010）神奈川県丹沢における県絶滅危惧種シウリザクラの衰退について。東海大学総合教育センター紀要，30：129.

193. 玉川上水花マップネットワーク・高槻成紀（2019）玉川上水花マップ 2017～2019・春。ちむくい。27pp.

194. 多摩丘陵植物調査会 編（1999）都立長沼公園とその隣接地の植物目録。164pp.

195. 多摩市史編集委員会 編（1993）多摩市叢書（8）多摩市の自然（地学・植物目録・動物）。多摩市。294pp.

196. 多摩市文化振興財団 編（2004）多摩市の植物目録。バルテノン多摩資料叢書 1。84pp.

197. 田村剛・本田正次（1941）武蔵野。科学主義工業社。529pp.

198. 田村道夫（1953）フジセンニンソウ。植物分類・地理，15（2）：60.

199. 丹沢大山総合調査団（2007）丹沢大山総合調査学術報告書。丹沢大山動植物目録。財平岡環境科学研究所。472pp.

200. 千葉県レッドデータブック改訂委員会 編（2009）千葉県の保護上重要な野生植物 千葉県レッドデータブック植物・菌類編。千葉県。486pp.

201. 千代田区環境安全部環境・温暖化対策課（2012）千代田区生物多様性に関する基礎調査報告書。千代田区。109pp.

202. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会 編（2013）鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書。明治神宮社務所。510pp.

203. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査委員会 編（2021）鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書 第 2 報（2021）。明治神宮社務所。318pp.

204. 土屋守（1973）東京・奥多摩のコイワザクラ。植物採集ニュース，68.

205. 土屋守（1984）奥多摩の石灰岩地植物。東京都の自然，10：16-23。東京都高尾自然科学博物館。

206. 土屋守（1986）奥多摩の石灰岩性植物とその保護について。鈴木和雄 編。奥多摩の植物：9-10。奥多摩植物研究会。

207. 帝国女子医学薬学専門学校校友会（1931）東京西南部植物目録。80pp.

208. 寺崎留吉 図・奥山春季 編（1979）寺崎日本植物図譜 第 2 版。平凡社。1200pp.

209. 東京腊葉会（2016）西多摩のシダ植物目録。腊葉，24：11.

210. 東京電力㈱・東電設計㈱（1984）自然公園内環境調査 秩父多摩国立公園。164pp.

211. 東京都環境局自然環境部（2013）レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版。653pp.

212. 東京都北多摩南部建設事務所（2020）野川河床整備工事（北その 1）その 2 生きもの救出作業。東京都。

213. 東京都水道局・㈱静環検査センター（2018）村山上貯水池堤体強化に伴う環境モニタリング調査委託（平成 29 年度分）報告書。東京都。328pp.

214. 東京都水道局・㈱パスコ（2016）村山上貯水池環境影響評価委託（平成 27 年度分）報告書。東京都。459pp.

215. 東京都西部公園事務所（2017）井の頭池の環境の変遷（景観・社会・水文・生物等）。井の頭恩賜公園学 井の頭恩賜公園開園 100 周年記念：52-61。（公財）東京都公園協会。

216. 東京都西部公園緑地事務所・㈱セルコ（2019）野川公園生物多様性保全利用計画策定業務委託報告書。東京都。158pp.

217. 東京都高尾自然科学博物館 編（1976）川苔山植物目録。24pp.

218. 東京都高尾自然科学博物館 編（1980）鷹巣山植物目録。29pp.

219. 東京都高尾自然科学博物館 編（1989）高尾山植物目録。30pp.

220. 東京都高尾自然科学博物館 編（1995）小下沢流域の植物。18pp.

221. 東京都東部公園緑地事務所・㈱地域開発コンサルタント（2010）平成 21 年度水元公園希少植物回復調査委託報告書（概要版）。東京都東部公園緑地事務所。237pp.

222. 東京都東部公園緑地事務所事業推進課（2018）石神井公園三宝寺池沼沢植物群落保存活用計画。65pp.

223. 東京府土木部 編（1937）武蔵野の植物。東京都緑地計画調査彙報，9。東京府。126pp.

224. 東京薬科大学植物研究部 編（1967）狭山丘陵の植物。東京薬科大学。71pp.

225. 東馬加奈・東馬哲雄（2016）日本産オオバウマノスズクサ群の分類学史およびオオバウマノスズクサとアリマウマノスズクサの混同について。日本植物分類学会会報，16（2）：131-151.

226. 渡嘉敷裕（1958）思方植物雑記（7）。野草，24：4-6。野外植物研究会。

227. 渡嘉敷裕（1982）地史から見た奥多摩の植物。多摩のあゆみ，27：54-61。（公財）たましん地域文化財団。

228. 渡嘉敷裕（1993）八王子城山及びその付近（旧思方村）の主な植物（2）。東京都の自然，19：26-33。東京都高尾自然科学博物館。

229. 渡嘉敷裕（1995）八王子城山及びその付近（旧思方村）の主な植物（4）。東京都の自然，21：15-22。東京都高尾自然科学博物館。

230. 渡嘉敷裕（2016）西多摩のシダ植物。腊葉，2：1-18。東京腊葉会。

231. 中池敏之（1982）新日本植物誌シダ篇。至文堂。808pp.

232. 長野県植物誌編纂委員会 編（1997）長野県植物誌。信濃毎日新聞社。1735pp.

233. 22 世紀の森づくり・神代（2021）都市森の丘・神代植物目録 Vol. 4（2016～2020 年）。171pp.

234. 認定 NPO 法人生態工房 編（2015）かいぼり報告会資料集 よみがえる!! 井の頭池!。井の頭恩賜公園 100 年実行委員会 水と緑部会。32pp.

植物

藻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

淡水魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

藻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

淡水魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

235. 認定 NPO 法人生態工房 編（2019）第3回井の頭池かいほり報告会資料集。井の頭恩賜公園100年実行委員会。44pp。

236. 認定 NPO 法人生態工房 編（2020）KAIBORI NEWS No.25. 東京都西部公園緑地事務所。2pp。

237. 沼田真・風呂田利夫（1997）東京湾の生物史（東京湾シリーズ）。築地書館。411pp。

238. 練馬区環境まちづくり事業本部環境部みどり推進課 編（2012）練馬区自然環境調査報告書。387pp。

239. 野村圭佑（2002）江戸の自然誌『武江産物誌』を読む。どうぶつ社。385pp。

240. 則行雅臣・奥田重俊（2014）ホンゴウソウ（ホンゴウソウ科）の東京都本土部における新産地及び栃木県における再発見。J. Jpn. Bot., 89 : 355–359.

241. 萩原信介・倉俣武男・藤本沙由美・阿部代始子・近田文弘（2002）自然教育園の種子植物。自然教育園報告, 34 : 1-83. 国立科学博物館附属自然教育園。

242. 八王子市市史編集委員会 編（2014）新八王子市史 自然編。八王子市。646pp。

243. 八王子市市史編集専門部会自然部会 編（2016）新八王子市史自然調査報告書 八王子市動植物目録。八王子市市史編さん室。562pp。

244. 八王子自然友の会 編（2017）多摩の自然 No.97 –特集・東京都のフロラ調査–。32pp。

245. 羽村市内動植物所在確認調査会 編（2008）新版はむらの植物ガイド。羽村市教育委員会。88pp。

246. 林弥栄・小山芳太郎・小林義雄・井上浅五郎・峯尾林太郎・飯田重良（1965）浅川実験林内天然林の生態学的研究。林業試験場研究報告, 177 : 1-86.

247. 林弥栄・小山芳太郎・小林義雄・大河原利江・峯尾林太郎・飯田重良（1966）高尾山天然林の生態ならびにフロラの研究。林業試験場研究報告, 196 : 1-167. 森林総合研究所。

248. 橋本保（1967）日本のスマレ。誠文堂新光社。88pp。

249. 播本正常（1973）日野の植物。日野の自然を守る会。227pp。

250. 東久留米市（2017）東久留米市生き物調査委託報告書。262pp。

251. 東村山市史編さん委員会（1998）東村山市の植物。東村山市史3資料編 自然。東村山市。471pp。

252. 東大和市史編さん委員会（1996）狭山丘陵と生きものたち 東大和市史資料編5。東大和市。243pp。

253. 菱山忠三郎（1977）陣馬山の植物。東京都の自然, 5 : 1-41. 東京都高尾自然科学博物館。

254. 菱山忠三郎（1981）多摩の草木記。武蔵野郷土史刊行会。341pp。

255. 菱山忠三郎（1987）多摩の草木カワラノギク。多摩のあゆみ, 49 : 76-77. 多摩中央信用金庫。

256. 菱山忠三郎（1988）ザ・高尾 I 花と木の随想。のんびる社。188pp。

257. 菱山忠三郎（1989）東京周辺花の旅。けやき出版。227pp。

258. 菱山忠三郎（1990）高尾山花と木の図鑑。主婦の友社。231pp。

259. 菱山忠三郎（1993）夏の山野草ポケット図鑑。主婦の友社。464pp。

260. 菱山忠三郎（1993）春の山野草ポケット図鑑。主婦の友社。424pp。

261. 菱山忠三郎（1993）春の樹木ポケット図鑑。主婦の友社。424pp。

262. 菱山忠三郎・菱山久世（1986）イラスト野草図誌。有峰書店新社。233pp。

263. 日野市環境情報センター 編（2008）日野市高等植物目録2007。日野市環境情報センター年報2006, 2 : 116-136.

264. 日野植物研究グループ（2019）日野の水辺 多摩川・浅川・用水路の植物。111pp。

265. 日野の自然を守る会植物研究グループ（2016）次世代へ残したい日野市重要自然地域の植物相。103pp。

266. 日野の自然を守る会 編（1985）新・日野の植物ガイドブック。日野市。235pp。

267. 檜山庫三（1942）野外植物記。野草, 4 : 3-5. 野外植物研究会。

268. 檜山庫三（1949）野外植物新知見。野草, 15 : 6. 野外植物研究会。

269. 檜山庫三（1953）武蔵野植物記。内田老鶴圃。192pp。

270. 檜山庫三（1965）武蔵野の植物。井上書店。290pp。

271. 廣井敏男（1979）植物の種の保護。科学, 49（10）: 647-651. 岩波書店。

272. 深谷拓実（2019）大田区内植物目録2019年度版。私家版。30pp。

273. 福田達男（1987）東京のカタクリとその保護。採集と飼育, 49（3）: 110-114.

274. 藤井伸二（2018）寄主植物を用いたマメダオシ（ヒルガオ科）の生育環境の推定。植物地理・分類研究, 66（2）: 177-184.

275. 藤井伸二・牧雅之（2017）マダイオウと雑種ノダイオウの混乱。長野県植物研究会誌, 50 : 31-35.

276. 藤沢正平（1983）ギフチョウとカンアオイ。ギフチョウ研究会。423pp。

277. 布施静香（2012）ショウジョウバカマ属（シュロソウ科）。戸部博・田村実 編。新しい植物分類学 I : 195-204. 講談社。

278. 府中市（2020）新府中市史 自然分野報告書 府中の自然環境。93pp。

279. 府中市立郷土館（1981）府中市自然調査報告–第12次調査–。府中市教育委員会。102pp。

280. 府中市立郷土館（1984）府中市自然調査報告–第13次調査–。府中市教育委員会。86pp。

281. 星寛治・勝山輝男（1992）三浦半島産ムカゴサイシンについて。神奈川県自然誌資料, 13 : 89-92. 神奈川県立生命の星・地球博物館。

282. 星野順子（2007）多摩川中流のかつての田園地域における希少植物の生育確認調査。研究助成・一般研究, 28（166）. (財)とうきゅう環境浄化財団。18pp。

283. 星野卓二・正木智美（2002）岡山県スゲ属植物図譜。山陽新聞社。229pp。

284. 星野卓二・正木智美（2003）岡山県カヤツリグサ科植物図譜。山陽新聞社。232pp。

285. 堀清鷹（2017）東京都稲城市でハチジョウベニシダを発見。日本シダの会会報, 4 : 27.

286. 本田正次（1988）植物学のおもしろさ。朝日新聞社。273pp。

287. 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆（1962）浅川流域の植物。南多摩文化財総合調査報告第3分冊 東京都文化財調査報告書, 12 : 497-529. 東京都教育委員会。

288. 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆・飯泉優（1961）多摩丘陵植物調査報告。南多摩文化財総合調査報告第1分冊 東京都文化財調査報告書, 10 : 25-50. 東京都教育委員会。

289. 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆・飯泉優（1965）北多摩南部地域の植物。北多摩文化財総合調査報告第1分冊 東京都文化財調査報告書, 15 : 23-43. 東京都教育委員会。

290. 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆・飯泉優（1966）北多摩北部地区の植物。北多摩文化財総合調査報告第2分冊 東京都文化財調査報告書, 18 : 221-247. 東京都教育委員会。

291. 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆・飯泉優（1967）西多摩北東部地区の植物。西多摩文化財総合調査報告第1分冊 東京都文化財調査報告書, 19 : 1-24. 東京都教育委員会。

292. 本田正次・九里聰雄・鈴木重隆・飯泉優（1968）奥多摩地区の植物。西多摩文化財総合調査報告第2分冊 東京都文化財調査報告書, 20 : 205-229. 東京都教育委員会。

293. 本田正次・矢野佐・飯泉優（1972）豊島・板橋・練馬3区の植物。北西区部文化財総合調査報告第1分冊 東京都文化財調査報告書, 25 : 1-26. 東京都教育委員会。

294. 本田正次・矢野佐・小松崎一雄（1970）葛西地区の植物。北東低地帯文化財総合調査報告第1分冊 東京都文化財調査報告書, 23 : 1-24. 東京都教育委員会。

295. 本田正次・矢野佐・小松崎一雄（1971）荒川流域の植物。北東低地帯文化財総合調査報告第2分冊 東京都文化財総合調査報告書, 24 : 197-216. 東京都教育委員会。

296. 本田義昭（2019）シソ・エゴマからセトエゴマへ。東京図書出版。96pp。

297. 前原勘次郎（1931）南肥植物誌。私家版。86pp。

298. 牧野富太郎（2004）牧野富太郎自叙伝。講談社。272pp。

299. 牧野晩成（1936）関戸付近採集記。野草, 2（12）: 5-6. 野外植物研究会。

300. 牧野晩成（1986）東京西郊野外植物の観察。出版科学総合研究所。219pp。

301. 町田の自然編集委員会（1978）町田の自然 この子らのために。町田市。369pp。

302. 松野祐二（2020）大田区にもモエジマシダ。日本シダの会会報, 4（36）: 42-43.

303. 三島らすな・GARDINER Tim・倉本宣（2019）葛西臨海公園の護岸におけるウラギク（*Aster tripolium* L.）の分布規定要因の検討。日本緑化学会誌, 5（1）: 196-199.

304. 水内裕・鈴木一弘（2018）計画・調査 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落 保存活用計画の策定。都市公園, 221 : 66-69.

305. 瑞穂自然科学同好会・瑞穂町郷土資料館（2006）瑞穂の動植物 瑞穂町郷土資料館叢書4。瑞穂町教育委員会。154pp。

306. みずもと自然観察クラブ（1991）葛飾の野草 : 1-148. 東京都葛飾区。

307. みずもと自然観察クラブ（1995）水元野草目録。17pp。

308. 御手洗望（2019）青梅市で再発見されたヒメザゼンソウ。青梅市文化財ニュース,381. 青梅市文化財保護指導員連絡協議会・青梅市郷土博物館。2pp。

309. 御手洗望（2021）青梅市および周辺地域における水田地帯の植物について。青梅市文化財保護指導員連絡協議会活動報告書, 37 : 37-52. 青梅市郷土博物館。

310. 三菱地所（2020）皇居外苑濠元来の生きものの保全、復元に取り組む「濠プロジェクト」。2020。7。31 プレスリリース。

311. 宮崎卓（1992）ナチクジャク 40年目の再発見。多摩丘陵の植物, 5 : 2-3. 多摩丘陵植物調査会。

312. 宮崎卓（2022）東京都で採集したシダ植物の目録–町田市編–。日本シダの会会報, 4（40）: 17-31.

313. 宮本みどり（1973）日原・小川谷の高等植物。秩父自然科学博物館研究報告, 17 : 53-66.

314. 武蔵高等学校 編（1926）Florula Musashinoensis。107pp。

315. むさしの自然史研究会・武蔵野生物生息状況調査会（2001）武蔵野市生物生息状況調査報告書 平成12年度 : 24-41. 武蔵野市。

316. 武蔵村山市史編さん委員会 編（1999）武蔵村山市史資料編 自然–植物・キノコ・動物–。武蔵村山市。334pp。

317. 村上司郎（2011）日本の浜辺を歩く。（株）インツールシステム。408pp。

318. 村上哲明・酒井絵理佳・米岡克啓（2021）DNA 情報を活用したシダ植物の配偶体フロラの調査 ～日本でも、まだまだ新産種は見つかる～。植物科学最前線, 12 : 159-168.（公社）日本植物学会。

319. 邑田仁（2018）日本産テンナンショウ属図鑑。北隆館。360pp。

320. 安原修次（1994）奥多摩讃歌。ほおずき書房。191pp。

321. 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳・永田芳男（2015）絶滅危惧植物図鑑 レッドデータプランツ 増補改訂新版。山と溪谷社。784pp。

322. 山岡文彦（1982）多摩丘陵と相模原台地の自然。青磁社。119pp。

323. 山口純一（2016）多摩川河川敷（東京都、神奈川県）におけるヤナギ属植物の分布。人と自然, 27 : 149-162. 兵庫県立人と自然の博物館。

324. 山本大二郎（1982）奥多摩の花。講談社。229pp。

325. 吉川正人（2014）多摩川流域の都市における保全上重要な植物群落の評価。研究助成・学術研究, 43 : 314.（公財）とうきゅう環境浄化財団。

326. 吉澤健・中村武久・榊田信彌・端山重男（1985）東京農業大学奥多摩演習林のフロラに関する研究。東京農大農学集報, 29（4）: 300-316.

327. 吉山寛（1961）八王子植物誌。私家版。97pp。

328. 吉山寛（1985）東京都のヤナギ類。東京都の自然, 11 : 9. 東京都高尾自然科学博物館。

329. 吉山寛（1986）奥多摩の松柏類。鈴木和雄 編。奥多摩の植物 : 11-12. 奥多摩植物研究会。

330. 吉山寛（2019）ヤナギハンドブック。文一総合出版。176pp。

331. 吉山寛・飯田紀園・菱山忠三郎（1967）多摩丘陵の池に産する水湿生植物。私家版。22pp。

332. 吉山寛・鈴木和雄（1980）東京都のカバノキ類。東京都の自然, 7 : 12-19. 東京都高尾自然科学博物館。

333. 興猶久恵・内田泰三・荒瀬輝夫・早坂大亮（2013）絶滅危惧種コギシギシの瘦果形態とならびに発芽特性。日本緑化学会誌, 39 : 20-55.

334. 渡辺洋一（2018）ツツジ・シヤクナゲハンドブック。文一総合出版。108pp。

335. Hori, K., Ebihara, A. and Murakami, N. (2018) Revised Classification of the Species within the *Dryopteris varia* Complex (Dryopteridaceae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot., 69(2): 77-108.

336. Hori, K., Ebihara, A. and Murakami, N. (2020) Origin of the apogamous Japanese fern *Dryopteris yakusilvicola* (Dryopteridaceae). TAXON, 70 (1) : 16-26.

337. Hori, K., Watanabe, M., Ebihara, A., Yamazumi, I., Takamiya, M. and Murakami, N. (2019) Genome Constitution of the *Dryopteris atrata* Complex (Dryopteridaceae). Cytologia, 84 (2) : 135-141.

338. Hori, K., Zhou, X.-L., Shao, W., Yan, Y.-H., Ebihara, A., Wang, R.-X., Ishikawa, H., Watano, Y. and Murakami, N. (2018) Hybridization of the *Dryopteris erythrosora* complex (Dryopteridaceae, Polypodiidae) in Japan. Hikobia, 17 (4) : 299-313.

339. JiYoon, K. and Nishihiro, J. (2020) Responses of lake macrophyte species and functional traits to climate and land use changes. Science of The Total Environment Vol. 736, 20 September 2020, 139628.

340. Kadota, Y. (2012) Taxonomic studies of *Cirsium* (Asteraceae) in Japan 23. A New Species from Hachioji, Tokyo Prefecture, Central Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., ser. B38 (1) : 1-10.

341. Kameyama, K., Toyama, M. and Ohara, M. (2005) Hybrid origins and F1 dominance in the free-floating, sterile bladderwort, *Utricularia australis* f. australis (Lentibulariaceae). Amer J Bot., 92 (3) : 469-476.

342. Kurata S. (1964) On the Japanese fern belong to the *Polystichum polyplepharum* group. Science report of The Yokosuka City Museum, 10: 17-41.

343. Liang, Y.-S. and Wang, J.-C. (2014) A systematic study of *Bonnaya* section *Bonnaya* (Linderniaceae). CSIRO PUBLISHING Australian Systematic Botany, pp. 180–198.

344. Ohashi, H. and Yonekura, K. (2006) Additions and corrections in Salicaceae of Japan 2. J. Jpn. Bot., 81: 75-90.

345. Suetsugu, K., Shimaoka, C., Fukunaga, H. and Sawa, S. (2018) The taxonomic identity of three varieties of *Lecanorchis nigricans* (Vanillaeae, Vanilloideae, Orchidaceae) in Japan. phytokeys, 92, 21657.

植物

藻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

淡水魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

藻類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

淡水魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

346. Wang P. (2013) *Microlepia pseudostrigosa* Makino. In: Flora of China Illustrations Lycopodiaceae through Pteridaceae Vol. 2-3 (eds. Wu, Z., Raven, H. P. & Hong, D.), 211. Science Press & Missouri Botanical Garden Press, Beijing & St. Louis.
347. Wu, S.-G., Jianying, X., Lu, S.-G., Faguo, W., Xing, F.-W., Dong, S.-Y., Hai, He, Zhang, L.-B., Barrington, D. S. and Christenhusz, M. J. M. (2013) *Dryopteris*. In: Wu, Z. Y., P. H. Raven & D. Y. Hong (eds.), Flora of China 2-3: (Pteridophytes), pp. 541-571. Science Press, Beijing & Missouri Botanical Garden, St. Louis.
348. Youxing L. and Masuyama S. (2013) *Ceratopteris*. In: Flora of China Vol. 2-3 (eds. Wu, Z., Raven, H. P. & Hong, D.), 180-181. Science Press & Missouri Botanical Garden Press, Beijing & St. Louis.
349. Yuehong Y., Xiping Q. and Serizawa S. (2013) *Microlepia*. In: Flora of China Vol. 2-3 (eds. Wu, Z., Raven, H. P. & Hong, D.), 158-168. Science Press & Missouri Botanical Garden Press, Beijing & St. Louis.
350. Zhang L. and Barrington D. S. (2013) *Polystichum*. In: Flora of China Vol. 2-3 (eds. Wu, Z., Raven, H. P. & Hong, D.), 629-713. Science Press & Missouri Botanical Garden Press, Beijing & St. Louis.
351. ウィキペディアフリー百科事典 (-2013) コシダ.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/コシダ>
最終更新 2013年11月16日, 2021年3月26日閲覧.
352. ウィキペディアフリー百科事典 (-2020) ウラジロ.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/ウラジロ>
最終更新 2020年1月16日, 2021年3月13日閲覧.
353. ウィキペディアフリー百科事典 (-2021) 東京湾.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/東京湾>
最終更新 2021年1月1日, 2021年5月20日閲覧.
354. ウィキペディアフリー百科事典 (-2021) 東京湾.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/東京湾>
最終更新 2021年10月3日, 2021年10月17日閲覧.
355. NPO 法人野生動物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所 (2007-2021) 日本のレッドデータ検索システム.
<http://jpnrd.com/> 2021年9月19日閲覧.
356. 大分県生活環境部生活環境課 (2001-2011) 2001年版レッドデータブックおおいだ アイアスカイノデ.
<https://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/01/sd066.html>
2021年3月21日閲覧.
357. Ohtake, M. (-2021) 四季の山野草 ノアズキ.
https://www.ootk.net/cgi/shikihtml/shiki_2178.htm
2021年4月26日閲覧.
358. 環境省自然環境局 生物多様性センター. 公開種メッシュ一覧. 環境省生物情報収集・提供システムいきものログ, RDB・RL.
<https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/> 2022年5月15日閲覧.
359. 北区生活環境部環境課 (2015) 北区植物目録. 北区生物総目録 (平成23年度調査).
<https://www.city.kita.tokyo.jp/kankyo/jutaku/kankyo/mokuroku.html> 2022年7月5日閲覧.
360. 高知県林業振興・環境部自然共生課 (2020) ~高知県の絶滅のおそれのある野生植物~ 高知県レッドリスト (植物編) 2020年改訂版. 51pp.
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2020032500321.html>
2021年3月21日, 2022年4月20日閲覧.
361. 国土交通省 (2007-) 河川水辺の国勢調査 河川環境データベース システム 関東地方.
http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_83_index.html
2021年12月2日閲覧.
362. 国立科学博物館 (2007-2018) 国立科学博物館標本・資料統合データベース.
<http://db.kahaku.go.jp/webmuseum/> 2022年6月30日閲覧.
363. こんどうそうすけ (2008-2018) ガーデニング花図鑑 マツノハママンネンサの育て方.
<https://sodatekata.net/flowers/page/1779.html>
2021年9月3日閲覧.
364. 産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報基盤センター (2015) 日本シームレス地質図.
<https://gbank.gsj.jp/seamless/>
2021年7月22日-2021年10月9日閲覧.
365. 東京都港湾局. 平成20~令和元年海の森公園植物調査リスト. 東京都港湾局 HP, 観光レジャー, 海の森公園, 植栽樹種.
<https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/> 2022年7月5日閲覧.
366. 東京都植物研究会 (2015-2020) 東京都植物誌デジタル版 Flora of Tokyo.
<http://tmun.jp/tokyoflora/>
2021年10月17日-2022年7月7日閲覧.
367. 徳島県危機管理環境部グリーン社会推進課. 徳島県版レッドリスト (改訂版).
https://www.pref.tokushima.lg.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/ 2021年3月21日閲覧.
368. 福島県生活環境部自然保護課 (2021) ふくしまレッドリスト (2020年版) について. 福島県ホームページ.
<https://www.pref.fukushima.lg.jp> 2021年11月1日閲覧.
369. 宮崎県環境森林部自然環境課 (2020) 宮崎県版レッドリスト及びレッドデータブックについて.
<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/kurashi/shizen/page00193.html> 2021年3月21日閲覧.
370. 山口県環境生活部自然保護課 (2018-2019) 山口県レッドリスト 2018. 植物 (維管束植物, 分類群順).
<https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/rdb/site/> 2021年3月21日閲覧.
371. 米倉浩司・梶田忠 (2003-2021) 植物学名-インデックス YList.
<http://ylist.info/index.html> 2021年8月7日閲覧.
372. Wikipedia, l'enciclopedia libera (-2021) *Rubus idaeus*.
https://en.wikipedia.org/wiki/Rubus_idaeus
最終更新 2021年7月1日, 2021年9月5日閲覧.

写真提供者一覧 (植物)

畔上能力、新井二郎、石黒久美、内野秀重、海老原淳、大森威宏、岡武利、奥田重俊、勝山輝男、加藤将、金光浩伸 (いであ株式会社)、狩山俊吾、北橋健一郎、木村研一、黒木昭三、高栄博、越章夫、小林健人、酒井藤夫、仙仁径、高榮博、鷹野正次、田畑伊織、常木静河、中武禎典、中西由美子、成島忠之、箱根ゆみ子、長谷川順一、菱山忠三郎、深澤いぶき、福本茂、藤井良造、堀清鷹、松井雅之、松山龍太、御手洗望、三瀬章裕、宮崎卓、谷城勝弘、山崎厚、山ノ内崇志、山本克美、吉川正人、神奈川県植物誌調査会、国立科学博物館、東京大学総合研究博物館、東京都自然保護指導員、東京都立大学牧野標本館、特定非営利活動法人 NPO birth、認定 NPO 法人 生態工房、株式会社愛植物設計事務所